

あなたの意識です　その後

vol.2

あなたの意識ですという冊子云々のことをUTAブックさんのホームページで見ました。當時を思い出します。先生から名前を示されて、毎日毎日録音してそして、それを文字起こしして、先生にメールして、一方、先生はCD作成して、それを封筒に入れて住所を書いて、大宝の自宅から坂を上がり下りして郵便局へ行かれた、雨の日もあつただろうし寒い日もあつた、暑い日もあつた、そういうことを思い出しました。

あなたは仇や疎かにしていませんか。いただいた当時は嬉しくても、今は家のどこかの隅にひっそりとしているかもしれません。何だこんなものと軽くあしらった方もいるかもしれません。

あなたの意識ではありませんかという冊子もあります。

どうぞ、自分の学びのあり方をしっかりと検証してみてください。

何を自分は学んできたのか、今、その結果は出ているのか、どんなことも本当に喜びで受け取れる自分に成長しているのか、自分と自分の中で学んでいきましよう。

誰も何も救ってはくれません。けれど、確かに本物の喜びと幸せの自分に蘇っていく道筋は示されています。その道筋を心で受け取り、心で実行し、そして本当の自分に帰っていきましよう。

二〇一〇年四月十六日（金）

*****さん

*****さん、心を語ってみてください。

心は敏感だから、私は色々なものを感じます。まだまだ不安定です。自分の中に感じたものを信じていく、その通りにやっつけていこうとしています。しかし、私は、母の温もりを、まだまだ自分の中にしっかりと広げていないような気がします。だから、自分の中を信じられないんです。感じたものを信じていこうとしたら、私は、またあの苦しい世界に戻っていくのではないか、そんな恐怖があります。

田池留吉、アルバートを思い、瞑想をしたときに、そこに感じるの凄^{すび}い、凄^{すび}まじい私のエネルギーです。はい、今、宇宙に心を向けなさいと伝わってきた

ます。宇宙を思うことが喜びなんて、まだまだ私には信じられません。宇宙は凄^{すび}まじいです。私の宇宙は凄^{すび}まじい。その中で私は凄^{すび}まじいエネルギーを蓄^{たくわ}えてきました。そんな私が、今、宇宙に思いを向けようとしたとき、ああ、もうそう思うだけで、とても恐怖を感じます。

田池留吉、アルバート、お母さん、私は今、自分の心を語っています。はい、どうしようもない愚かな私の中に、今ほんの少しだけ優しい思いを感じています。今世私は、その優しい思いに少し触れ、どうにかやってこれました。そうでなければ、私はどうなっていたか分かりません。

私は、田池留吉の世界、アルバートの世界に、もっともっと自分の心を向けていきたいんです。

しかし、一方でそれを躊躇^{ちゅうちよ}している私があります。ああだから、その一歩がなかなか踏み出せない、今、私は、そんな状態です。

*****さん、田池留吉です。どうぞ、お母さん

を思い、瞑想を続けていってください。ゼロ歳のあなたを思う瞑想です。焦らずにたゆまずにゼロ歳のあなたを思い、日々その瞑想を続けていってください。

あなたの中の優しさが分かってきます。お母さんがあなたを生んでくれたとき、あなたの心はどうでしたでしょうか。ただただお母さんに委ねていたはずです。お母さんの胸に抱かれていたときのあなたの思いを、しっかりと心に思い出していってください。そこから始めていってください。

焦らずともいいんです。ゆっくりとただあなたは、そのあなたを心の中に広げていくんです。お母さんの温もりです。

お母さんの温もりをあなたはまだ自分の中にしっかりと広げていないと語りました。そうであるならば、まずお母さんの温もりです。お母さんの温もりを、しっかりと自分の心に感じていくような瞑想を続けていってください。

欲で学びを続けていくことは、あなたを苦しみの

方向に向けていくだけです。そうではなく、お母さんの温もりの中に存在していた、今も存在している、確かに私はお母さんの温もりに包まれている、それが自分の中ではつきりと感じられるまで、ゼロ歳の時の瞑想を続けていってください。お母さんの温もりが心にとしっかりと感じられたならば、そうですね、あなたが言っていたように、宇宙に心を向けていけばいいのです。

あなたの中の宇宙は待っています。凄まじい宇宙、たくさん、たくさん待っていますよ。

だから、今世の時間、できるだけそのたくさん宇宙に心を向けていけるようになってください。そのため、あなたは今世の肉を持ち、この学びに繋がったと言えるでしょう。

あなたがなぜ肉を持ち、そこにいるのか。それは、あなたが心にお母さんの温もりを広げ、そのたくさん宇宙にあなたが感じた優しい思い、温もりを伝えていこうとしているからです。

どうぞ、そのことを素直に受け取って、あなたは

あなたの学びを続けていってください。あなたを救うのはあなたです。あなたを優しいあなたに目覚めさせるのはあなたです。どうぞ、そのことを忘れずに日々、お母さんに向ける瞑想を続けていってください。

***さん、あなたの心をしっかりと田池留吉に向けていってください。

異語。

十年前結婚したばかりの頃に、田池先生からの意識とメッセージを打ち出したお手紙と田池先生からのメッセージをCDに録音したものを送っていただきました。

田池先生からのメッセージに懐かしさや嬉しさ、ホッとするような気持ちと反面に、心を見ることから逃げ出した気持ちでいっぱいでした。

ゼロ歳の瞑想と言われても、母親への許せない気

持ちが大きい私は全く向けられませんでした。また、宇宙やUFO、アマテラスと言われても、自分が狂ってしまうのではないかと恐怖心でいっぱいでした。そして、新しい結婚生活でそれらを忘れたいと思っていたことを思い出しました。

あれから十年たって、今回改めて田池先生からのメッセージを読み、聞きました。

そこには、私の気持ちがストレートに書かれてあり、私が幼いころから疑問に感じていた、「なんで私は生まれてきたの？」という質問への答えがありました。

十年前の私には、そのことと真向かいになることができませんでした。

今も少しでも油断をすると、自身から逃げ出した気持ちに振り回されます。

あれから私の不安定さは全く変わらないと感じます。でも同時に、その不安定さが私をここまで支え

てぎてくれたことも感じます。

あせ
焦らずにゼロ歳の瞑想を続けていきたいと思
います。



娘さんがお小遣いで
母の日にプレゼントしてくれたお花

113

*****さん

二〇一〇年三月二十五日

*****さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、田池留吉に対する思いを見つめてきました。母に対する思いと同じです。母に背^{そむ}いてきた思いと同じ心を田池留吉に使ってきました。母に背^{そむ}いてきました。母に背^{そむ}いてきたエネルギーは凄^{すご}いです。私は、そのエネルギーを今世、自分の肉体細胞を通して感じてきました。肉体細胞に思いを向けるとき、私の凄^{すご}まじいエネルギーを感じています。感じてきました。本当に申し訳ない思いでいっぱいです。こんな優しい、優しい肉体細胞に、私は、凄^{すご}まじいエネルギーをぶつけてきました。私の体が不自由なのは、当たり前でした。そんな私が、今、お母さんに心に向けること、田池留吉を思うこと、そして宇宙を思う時間をいただいています。心の中に宇宙を思う私があります。宇宙に凄^{すご}まじいエネルギーを流してきた私を思うとき、こんなに今世幸せでいいのかと思います。私の中には、本当に凄^{すご}まじいエネルギー

を蓄^{たくわ}えてきた私がたくさんあって、それを、今、見させていただいています。

今世の私は、大変幸せだと思えます。何が整っているかと言えば、取り立てて何もありません。私の中には凄^{すさ}まじいエネルギーがあって、それを見させてくれる周りがある、私は、そう、そうやって自分を見つめていける時間が一番幸せな時間だ、この頃特に思います。

私は、自分を見捨ててきました。見限^{はな}ってきました。自分を冷たく、冷たく突き放^{はな}してきました。己の偉い私でした。自分に冷たかった。己が偉いということは、自分に冷たかったということです。宇宙を思うとき、そんな私をたくさん感じます。私の中の宇宙は、本当に待^{まち}っていてくれました。心の中の安らぎを待^{まち}っていました。母に思いを向けることを待^{まち}っていました。田池留吉の思いをしつかりと心を感じて、この肉を終えていきたいと思えます。瞑想をする時間、自分を見つめる時間、大切にしていこうと思えます。

ああしかし、私は、まだ肉、肉の思いで生きている部分もかなりあります。それをしつかりと心で見つめていきたいと思えます。瞑想をする私、肉で生活をする私、そのギャップを少しでも縮^{ちぢ}めていけたら、私は、より一層幸せに近づいていくでしょう。本当の自分を信じて、その自分に近づいていく時間を、これから過^{すご}ごしていこうと思えます。



(CDの田池先生の肉声)***さん、田池です。どうぞ、心をしつかりと向けてください。お母さんに使^{つか}ってきた思いは凄^{すさ}まじいです。他力の中を生き抜^ぬいてきたあなたです。そのエネルギーを心に感じなさい。あなたの肉体細胞は、それを伝えてくれました。あなたは、ようやくですが、そのことに気付^{きづ}いてきたのです。しつかりと心に向けてください。優しいあなたを待^{まち}っていました。

私、田池留吉の思いを受けていってください。田池留吉を思い、宇宙を思い、これからの時間を過^{すご}ごしていってください。すべてがその方向に進んでい

くことを、私は、心から願っています。

肉、肉で生きてきたあなたの中に、あなたもひとつの変革を起こしていただく。心をしっかりと見つめ、優しい、優しい自分で受け止めて、優しい、優しい自分を感じてみてください。

宇宙を思えることは幸せです。本当に幸せです。今、ここにそうしてあなたが肉体を持っているからこそ、宇宙を思えるのです。その幸せな時間を少しでも長く感じていくようにしてください。あなたの中で待っているたくさんの意識達です。これからの転生に繋いでいただきます。

田池先生の音声付きメッセージは、生涯私の心の修正を促し、迷ったならばいつでも原点に戻ればよい、という厳しくも温かい遺言です。

母の反省で、鉛筆が折れるくらい



書きなぐった苦しい思いの数々、ノートの1ページすべてに「死にさらせ、くそばあ」の文字で埋め尽くし、それでも足りずに叫びたおした凄いエネルギー。ふと我に返って、初めて母にこんな思いを出していたことに気付かされたとき、辛かったよね、感謝のない、ありがとのない自分に御免なさい、と思えた。恨みと憎しみのエネルギーを武器に母に体当たりしていた私を、嫌うでもなく育ててくれたことを思うと心が張り裂けそうになる。それから母

を思う瞑想が好きになってきた。母のエネルギーはいつでもゆったりと、どんなにぶつけても、ゆったりと優しく包み込んでくれるように穏やかで、私の知らなかった世界、安らぎの場所になっていた。

丁度、そんな時期にCDをいただいた。当然のことだけど一言ひとことが全て私を出してきた思いそのものだと考えた。肉体細胞は早くから私の凄ま

二〇一〇年六月十四日(月)

***さん

***さん、心を語ってみてください。

心の中のエネルギー、他力のエネルギーを私はまだ自分の中で感じていません。私にもあの凄まじいエネルギーがあるのか、一度、現象の中で私も感じてみたい。本当に心の底から、田池くそつたれ、田池死ねと叫んでみたい。今その衝動に駆られます。ああ私の中が、そう叫んでいるのだと思います。私の中の意識がみんなそう叫んでいるのだと思います。

母に齒向ってきたエネルギーを、心を見る中で感じています。どうしようもないエネルギーです。私は、このエネルギーを周りに発散させながら今も生

じいエネルギーを見せてくれていた。どうして私になるのか、私だけになるのか、最初はこんな思いから始まった勉強も、今は歪んだ肉体を見れば見るほど愛おしいと思える。私には必要だった。どんなに病んでいても捉え方ひとつで思いが変わる体験を何度もさせてもらった。肉体細胞に思いを向けると母の思いが伝わってくる。肉体細胞は宇宙、心を広げてください、あなたはもつともつと広いエネルギーですと伝わってくる。間違い続けてきた宇宙が少しだけ変わりつつあることを感じるたびに喜びが大きくなってくる。

肉ばかりで生きてきた歴史が長い分、肉のややこしさ、癖はこれからも心揺れる材料をもらうでしょう。逃げないで見ていこうと思う。

母の温もりを心で感じられる今、私はとても幸せ者。田池留吉の遺言を心からありがとうの思いで広げて、ただひたすらに宇宙を思い進んでいきます。

活をしているんですね。

これが宇宙に流れていくエネルギーなんですね。真つ黒なヘド口のようなエネルギーを、私は、日々刻々と流しているんですね。その回収を私は、自分の中でしていかなければならないんですね。

そんな私を今、心にかけています。はて、しかし、どうすればいいのかとなると、私はまだまだ自分をはっきりと知らないから、その術が実感として湧いてこないんです。それが私の現状です。

それでも、私は、やはり、自分を見るために、この肉をいただいたことを、心のどこかで知っています。その自分に素直に生きていきたいと、今、心にかけています。

もう少し、お母さんの反省を続け、ゼロ歳の私を思い、瞑想を続けてまいります。はい、何気ない一言、何気ない態度、その中に私の他力のエネルギーがしっかりと詰まっていることを、これから感じていくだろうと思います。

***さん、田池留吉です。はい、そうですね。瞑想を続けていってください。ご自分の生活のリズムの中で心を見て、ゼロ歳のあなたを思い、瞑想を続けていく時間、そんな時間を大切にしていってください。

たくさんのエネルギーを詰め込んできました。すべて母に齒向うエネルギー、温もりに齒向ってきたエネルギーです。田池くそくらえとあなたの中が叫んでいるのは当たり前です。どうぞ、しっかりとその思いを受け止めていってください。

それには、まず、何をおいても母の温もりです。お母さんの温もりを、あなたの中で思い出し、蘇らせていくこと、それが一番の近道なんです。そうしなければ、あなたの中のエネルギーであなた自身が振り回され、心を狂わせ続けていくでしょう。それでは、これまでのあなたの転生と変わりありません。今世、あなたは、その自分を少しでも違う方向に変えていこう、正しい方向に変えていこうと生まれてきました。その思いを心のどこかに感じているとあ

なには語りました。

そうです。その思いを、もっと、もっと、自分の中で見ていってください。

その思いに心を向け、自分に素直に優しく生きるとはどういうことか、自分に素直に優しく生きるこ
とが、本当の幸せ、喜びに繋がっていく道だ、そのように思えるまで、瞑想を続けていってください。

たくさんの間違いを繰り返してきたあなたです。しかし、今、その間違いに少しづつ気付きかけるチャンス^{みずか}を、あなたは用意しました。そのチャンスを自ら放棄^{ほうき}することなく、まっすぐにあなた自身を見ていってください。

自分のエネルギーを感じ、受け止めていく時間、喜びの時間、そんな時間をたくさん持つていってください。

五月十五日のUTAブックさんの連絡事項で、冊子「あなたの意識です」発行から……」の原稿募集を見た時、最初は私とは関係ないと思っていました。

翌日十六日の連絡事項で「CDを送っていたいた方」と塩川さんの「2008」のメッセージを読んだら、CDつて私にも送っていただいたあれの事なのかな?と思いました。

引き出しに閉まっていた田池先生から送っていただいたCDと、紙に打ち出していただいた私へのメッセージを久しぶりに出してみました。

二〇一〇年六月の日付がありましたのでこれの事だと思いました。

送っていただいた当時は全員にそれぞれ作って送ってくださるなんて大変な作業だと思っていました。塩川さんのホームページの作業秘話を読んで、ますますその思いが強くなりました。

タイトル文字と可愛い^{かわい}絵柄を印刷したラベル付きのCDで、手間がかかっているなあと思いました。

封筒の文字が滲^{にじ}んでいて、梅雨の頃だったので雨

に濡れたようです。田池先生の肉声は私の下の名前の漢字を読み違えておられたり。

頂いたメッセージは私にとつては宝物です。

音声はパソコンや携帯に保存して、いつも聞かせてもらっています。

メッセージもいつでも読めるようにテキストファイルにして保存しています。

すごく優しく
て本物の力強さ
を感じるような
メッセージ。い
つもいつもそこ
に帰っていき
うと思ひ、聞かせ
ていただいでい
ます。



田池先生から送っていただいた CD と文章

115

二〇一〇年七月十二日（月）

（CDのメッセージ）***さん、田池留吉です。
はい、もうすべて、あなたにお伝えしています。私
が何を伝えようとしてきたのか、あなたに、どのよ
うになつていただきたいのか、あなたの心に、私は
すべてを伝えていきます。これからは、あなたがあな
たを見て、あなたがあなたを導いていくだけです。

私は、田池留吉という肉を持ち、真実の方向を指
し示してきました。どうぞ、その思いに素直になつ
て、心を見つめていってください。お母さんの思い
を心に感じておられると思います。ゼロ歳のあなた
は、ただただ、すべてを委ねていました。そのあ
なたに戻り、心に感じたものをしっかりと見つけて
いってください。心の中を見つめていくとき、田池
留吉という世界は、どれだけ大きな広い力強い世
界なのか、あなたはきっと知っていかれるでしょう。

田池留吉の世界、田池留吉の宇宙を心に真正面からとらえていけるようなあなたに蘇よみがえってください。

私達は、いつまでも待っています。あなたの心の中で待っています。

◇

***さん、チャネラーとしてのあなたの思いを語ってください。

はい、私は、***です。はい、私は、何も分かっておりませんでした。今、チャネラーとしての、と言われました。本当に私は、何も分かっていなかった。皆さんに申し訳ないと思っています。

私は、皆さんに間違ってきたものを流してきた。真っ黒なものを流してきた、今、そのような反省をしております。

私の中に、色々なものを感じ、そして、それを言葉にしてみました。でも私が、何も分かっていなかったというのは、そういうことは、誰でも出来るんです。それを私は、誇ってきました。私の根本は肉で

ございました。

肉を根本として、私は、そうすることが素晴らしいとして誇ってきた者でございます。

お母さん、私は何も分かっていなかったんです。心に、感じるものがあるから、それを言葉に発してしまふ。そうやって、周りの人達に、色々な思いを出させてしまいました。

私をたてまつ奉る心、崇あがめる心、絶すがる心、頼る心、そういうエネルギーを、私は、また自分を誇るエネルギーとして、さらに大きく、大きくしていきました。そこには、本当に間違った意識の世界を広げていった、私は、それを感じています。

異語。

***さん、心の中の温もりを信じていってください。私は、今あなたにそのメッセージを送ります。自分の中を見つめていくこと、自分の中の温もりや優しさを信じていくこと、そのために、あなた

は心が敏感な肉を選んできました。間違つて使つてきたのはあなただけではありません。間違いに気付かれたなら、どうぞ、心を、しっかりとお母さんに、そしてタイケトメキチに向けていくこと、ただそれだけでございます。肉のあなたは、それをするために生まれてきました。

永く学びをさせていただいたのは本物の自分にただ会いたいの思いだったのですね。それにも気が付くことなくずっと生きてきた過去世達と今ほとんどに家族の中で学んでいます。

いろいろな事がありました。しかし田池先生の教えてくださったことはしっかりと心に残っています。先生と出会つてまもなく先生が私に「あんたは傲慢じゆうまんやで、その傲慢なのは死んでも直らないで」と言われました。その時は軽くとらえています。今、もうその通りです。まったく死んでも変わらないと思ひながら生活の中で出てくる思いがすべて傲慢です。でももう肉ではどうしようもないことです。それが

わかつて嬉しいです。自分の思いを隠さなくていいんですからね。学び始めのころはチャネラーはちゃんとしないと闇のチャネラーだと自分を縛つてきた時期がありました。苦しかった。認めてもらいたい。そんな思いでただただ意識をまっすぐに受けることが大切なことだと思つていた。何という肉を高めることに一生懸命な私があつたのでした。今はもう他人からなんの思いも感じないので。とても気持ちの良い日を過ごせています。子供やきれいな花や犬や猫からふーつと柔らかい温かいのが流れてくると私はきついのか出てないなあと思ひながらそんな自分が愛いとしいなと思えるのです。

学びを続けてきて自分にどんなことがあつてもこれだこれだと押ししてくれる意識たちが中から応援してくれているのを感じます。瞑想して田池留吉から塩川香世さんから流れてくる優しい波動に出会へ、心に向けていけることが嬉しいありがとうございますと思つています。こんなに汚れて恨うらみんで憎にくんで戦つて生きてきた私を許して待つてくれている田池

留吉の愛の中へ帰っていきこう、帰っていきます。お母さんありがとうございます。素直に意地を張らないでやっていきこう。私はそれがなかなか出来ないから、ともにともに嬉しいことなんだよと自分に伝えていきますね。

こんな機会をいただきありがとうございます。

116

****さん

二〇一〇年六月四日（金）

****さん、心を語ってみてください。

はい、私はまだまだ肉の私をしっかり握にぎっていますが、この学びに集えたことを喜んでいきます。今はまだその段階です。

しかし、母の思いを感じ、私が母に向けてきた思いを確認して、自分のエネルギーを確認して、自分の歩いてきた自分を振り返ってというこの時間、私の中では、とても大切な時間です。

心で私は私を感じていきたいと思いました。どんな私でもいいんです。私は、自分のエネルギーを確認し、そのエネルギーがずっと、ずっと間違った方向を向いてきたことを確認していきたいんです。

今もまだ、肉の私を私だと思っている、そんな基盤から語っています。

それでも私は、こんな世界が自分のこのひとつの肉を通して感じられるなんて、本当に私の過去からすれば、ありがたい、ただただその感想を持っています。

母に使ってきた凄まじいエネルギー、今世の母を通して確認させていただいています。何がどうではありませんでした。私は、自分を殺してきたんですね。見限ってきたんですね。自分を殺し、見限り、他力のエネルギーに走ってきた私を、じっと見つめ

ていきたいと思えます。

奥が深い私の中です。意識の世界は奥が深いです。私が語っているのは、入口、ほんの入り口です。お母さんに思いを向けてまいります。ゼロ歳の私を思い出し、ゼロ歳の私に戻り、心を語っていきたいと思えます。

お母さんに抱かれて安らいでいたあの頃の私を思い、私の苦しかった過去に思いを馳^はせていきたいと思えます。そして、これからの私にも、もちろん思いを向けていきます。たくさん私の私とともにこれらの時間を持つことが嬉しいと、今、伝わってきます。

狂い間違ってきた私があったからこそ、これから私が変わっていくのだと、今、そのように感じています。

***さん、田池留吉です。そうです。どうぞ、あなたは、あなたの中で、自分のエネルギーを確認していただけます。その時間を今世のあなたは、自

分に用意しました。そのことを喜んでいってください。

喜びがすべてです。今世のお母さんも、あなたにそのことを伝えてくれていてはまずです。喜んで自分を見つめていきなさい、そうやって、あなたを生んでくれた母の思い、それは、たった一人の母の思いではありません。あなたの中のたくさん母の意識、その意識はすべて、自分を見つめていくために今があるんですよ、そうやって伝えていくんですよ。

瞑想を続け、そんな母の意識に触れていく時間を持つていってください。そして、あなたが語られたように、あなたの来世、あなたの未来にも心を感じる時間にもしていってください。あなたの来世も、あなたに語っているはずですよ。ともに心を見させてくださいと、今、私達はあなたの中に存在していますと、そのように語っているはずですよ。

どうぞ、過去のあなた、未来のあなた、そして今のあなた、心をひとつにして、田池留吉、アルバートを思い、母を思い、瞑想を続けていってください。

ただその時間を、ゆったりとした時間を持つようにしていただくさい。すべてはあなたの心次第です。私達はあなたの中で待ち続けています。

セミナーへのきっかけ、「出版記念」のセミナーへ出席した十七年前、本を読み、友人に誘われて琵琶湖のホテルへ行きました。

子供の頃、小学生の時、風邪をひき休んでいた時、階段から落ちるように暗い所へ行く夢を見ました。どンドン地下へ地下へ行くのです！大人になっても度々この夢のことを思い出すようになりましたので、本を読んだり、人に聞いたり、死後のことが誰も解明してもらえず、心の中に残っていました。

このセミナーへ出席したら、長年疑問に思っていた答えがわかるかもしれないと思い、出掛けた次第です。

先生の講話を度々聞かせてもらい、死後の自分、そして本当に奇跡としか思えません。

また、この手紙を送っていただき、一層心を見て母を思い、瞑想の時間を持って来世にも繋げたく思っています。ひとつにして歩いていけるあなたであってください。

117

二〇一〇年六月十六日（水）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

他力の反省が進みません。お母さんに使ってきた心を振り返っています。しかし、私の中に母を呪ってきた、殺してきたそんな凄^{すこ}いエネルギーがあるのか、私はまだ自分の心をしっかり知らないから、そんなことが信じられないです。

私も母親です。私が使ってきた心は、私の子供もそのようにして、私に向けてエネルギーを出しているのでしょうか。親子の縁を組むということはそういうことなんでしょうか。そういうところが、私にはまだよく分かりません。

ただ自分の心が苦しいか、そうでないか、そう尋ねられたとき、はい、私の心は苦しいですと出てきます。

なぜ自分の心が苦しいのか、はい、私の心の中の思いを吐き出していないからです。心の中をしっかりと語っていないからです。自分を押し隠したまま、閉じ込めたまま、私は今存在しているからです。そのように私は、私に答えてきます。その自分の思いに素直になっていきなさい、そういうことですね。はい、私は私に問いかけ、私は私に答えていく、こうやって、私は、自分の中で学びをしていけばいいと思います。

お母さん、私をこの世に出してくれて、今、語りせていただいています。お母さんも苦しかったけれ

ど、私も苦しいと私はお母さんに向かって叫びたい。お母さんは苦しいと叫んでいます。私ももっと苦しいと叫びたい。ともに叫びたい。そしてともに帰りたい。そんな思いが心の中から出てきます。みんな、みんな苦しかったんだ。だから、今このようにして、生活をしているんだ。生活をする中で、私は小さな喜びとか幸せに心を向けてきたけれど、私の本当の思いは、もっと大きな喜びと幸せを、本当の喜びと幸せを心に描きたかったんだ。

小さかった。それが私だった。そう自分にはっきりと言える私になりたかった。

自分を語っていくと、そんな思いが出てきます。自分に素直になるってこういうことなんですね。お母さん、心を語ってまいります。お母さんに使ってきた心を見つめ、私の他力のエネルギーを感じていきます。幸せにしてください、幸せになりたい、そんな思いをずっと、ずっと広げてきた私を振り返ってみます。

お母さん、心の中にお母さんを呼ぶことが苦し

かったです。

お母さんと呼んでも、私の思いが叶うはずがない、
そうやって自分を諦めていた私を感じます。申し訳
ざいませぬ。心の中の苦しい思い、暗い思い、重
い思い、しっかりと見つめてまいります。

***さん、田池留吉です。はい、あなたの中
のあなた、自分で自分を語っていくようにしてくだ
さい。どんなあなたでもいいんです。ただ自分を語っ
ていくんです。瞑想の中で自分を語っていくなさい。

異語を通して、自分を語っていくんです。心を開
いていきなさい。もっと、もっと心を開いていきな
さい。あなたの中にある思い、暗い思い、その中か
ら飛び出したい、飛び出したい、解き放してくれ、
そんなあなたを感じてみてください。優しいあな
たを広げて、どうぞ、優しいあなたで自分の思いを
受け止めてください。お母さんはそれを待っています。
お母さんから生まれ、心を見つめていきたいと
自分に誓ってきた思い、その思いの中にあるあなた

の優しさ、温もり、これからどんどん知っていくの
です。心をお母さんに向け、ゼロ歳のあなたを思い
出し、そのゼロ歳のあなたの目を通し、今のあなた
を見つめてみてください。

ゼロ歳のあなたは、素直にただただ委ねていまし
た。母の胸に抱かれて安らいでいました。そんなあ
なたの心を思い出し、その心をずっと苦しい自分に
向けてみてください。

瞑想を楽しみながら、続けてみてください。

田池先生からCDを送っていただきました。「U
TAの輪の中とともに学ぼう」のホームページにC
D作成に当たった経緯が書かれてあつて感謝の気
持ちで胸が熱くなりました。

CDは、私の中では一番の宝物になっています。

田池先生とは、一度、セミナーの現象の時間に言葉
を交わしただけだったのでCDが届いた時は本当に
驚きました。

その頃は、まったく何も感じず、異語も出ない状

況でしたが、CDを聞くと涙が止まらなく嬉しかったのを覚えています。CDをいただいてからもセミナーに参加するものの鈍感な状態が長く続きました。

先生が出席された最後のセミナーの時に、私は真剣に学びをしてこなかった自分に申し訳なく思い、一から学び始めたいと思えた時に先生からいただいたCDは私にとって一番の教材になりました。

毎日、先生の異語に合わせて口を動かすようにする、メッセージを何度も何度も読み返し瞑想を続けていました。

パソコンの前に座ってホームページをゆっくりと見ることも出来なかつた私ですが、だんだんとパソコンの前に座れる時間も長くなっていきまし
た。ホームページを読むこと、U
TAブックさんがパソコンに上げ
てくださっている教材を活用させ
ていただき、瞑想をするのも毎日
の日課になっていました。



それまで苦手だった瞑想が少しずつ楽しくなり、自然に異語も出てくるようになり、セミナーでの現象では、自分の凄まじいエネルギーが吹き上げる体験を徐々にするようになっていました。

今でも瞑想をしていると、メッセージに書かれてあるフレーズがふつと感じてくることもあり、自分の心を見ていくための指針になっています。

メッセージに書かれてある言葉に、「私は私に問いかけ、私は私に答えていく」ということも初めはよくわからなかつたのですが、正しい瞑想を心掛けていけると、今までは外に向けて求めてきたけれどもすべて自分の中に答えがあることも信じられるようになってきた自分が嬉しかったです。

以前CDを聞いていた自分とは違つて、今では、先生の異語に私
の中が答えるように素直に反応し
異語を発してきます。田池留吉に
思いを向けると、私の中がお母さ

ん、お母さんと叫びたくなる、優しい温もりに包まれているのを感じます。私の中からありがたいの思いがこみ上げてきます。

自分の中の凄まじいエネルギーを優しい思いで受け止め、お母さんの温もりで包み込むことが、これからも私の課題です。ゼロ歳の私の目を通し、母を思う瞑想を続けていきます。また、学びをしている母とともに苦しかったね、ともに帰ろうと一緒に叫びたい、叫べる日が来るのが楽しみです。

今回、自分の学びを振り返る機会をいただきありがとうございます。私の生活は、肉の生活に流されてしまっているのが現状ですが、田池留吉、お母さん、宇宙に思いを向ければ何とも言えない嬉しさも感じます。本当の自分が待っていることを信じて自分に素直に、これからも田池先生からいただいたCDを大切に、私の肉は、楽しんで正しい瞑想を続けていきます。

二〇一〇年一月三十日

***さん、心を語ってみてください。

苦しい、苦しい、苦しい、心の中の苦しさは、生半可なものではありません。私は、この苦しさを、ずっと、ずっと、アマテラスの思いで閉じ込めてきました。アマテラスです。私の中のアマテラスの勢い、アマテラスのエネルギーが、まだまだずっと、ずっと盛んに、盛んに燃えだぎっている。私の中のアマテラス、その思いは、凄いエネルギーで、私の中を押さえにかかっています。その苦しみが、今、私のこの肉体細胞を通して、語っているんです。

ああしかし、私は、その思いに素直になれないんです。

優しい思いなど向けられない。なぜ、なぜ、こんなに苦しいのか。なぜ、私の心はこんなに苦しいの

か。アマテラスよ、私の中で鎮まりなさい。そのように、私は、アマテラスを上から押さえつけようとしています。

アマテラスのエネルギーは、収まるどころか、ますます燃え盛る炎のように、私には感じられる。

アマテラスのどこが悪い。どこが悪いんだ、田池。田池留吉、お前、アマテラスを愚弄する気か。私の中のアマテラスは偉いんだぞ。アマテラスこそ素晴らしい、素晴らしい。私は、そうやって、田池留吉に歯向かっている意識でございます。

***さん、田池留吉です。どうぞ、どうぞ、田池留吉を呼んでください。あなたの心の中で、私を呼べますか。お母さんの思いを、あなたの中で広げていきますか。

あなたの中は、それどころではないでしょう。しかし、私はあなたに、言います。私の方に心を向けてください。

私の方に心を向けるために、あなたは、その肉体

を、お母さんからいただいたのです。そして、私の肉と出会ったのです。そのことを、私は、あなたに、今、しっかりとお伝えしたいと思います。

田池留吉に心を向けることなどできないと、あなたの心は返ってきます。しかし、私は、いつも、いつも、あなたに、私のほうに心を向けなさい、あなたの中の温もりを信じていきなさいと、そのようにお伝えするだけです。

私、田池留吉は、あなたの中の温もりの波動、優しい母の温もり、そのように私は伝えます。私が伝えることはこれだけです。

***さん、私の方に心を向ける、その事を、ただひたすら、やっていってください。あなたの中のアマテラスは、ますます燃え盛っていくでしょう。私に心を向けない限り、あなたの中のアマテラス、あなたの中で、苦しみ喘ぎ続けていくでしょう。

この十年間は激動の十年でした。激動の時間だったけれど、実のところ自分の中身はほとんど変わっ

ていないのではないか？……というのが感想です。

肉の上では、自分の正義感や価値観をもうどうでもいと思えたり、崩れたりすることもあったけれどそれはあくまでも肉の範疇です。

肉を高め、肉で奮励努力する生き方は疲れるので年齢のせいもあって小さくなりましたし、どうでもいいことにエネルギーを投じるような滑稽なことばかりやってきた……との自覚はあるけれど、意識の根幹では未だ激しく田池留吉に歯向かい、戦いを挑んでいます。一見激しさは影を潜めていても、ありがとうなんてどこにもない。世の中は自分の為にあつて当たり前。撒き散らす思いはいつも不平不満不服だらけ。辺り構わず宣戦布告し攻撃、殺戮。自分の中心に田池留吉は無く、未だそこには慣れ親しんだアマテラスがどんと居座る状態です。というか疲弊しきつて居座り続けるしかできない感じですよ。

素晴らしい自分を必死で保とうとすることは限界に近づいていている。そのシグナルがこちらへ来てから大きくなっている。肉体細胞には頻繁に炎症、



痛みという形で送られるし、仕事や人間関係でもそう。それらに最近漸く漸く耳を傾けられる状態になつてきたのかな……と。

今また「肉か意識か」の岐路に立っている自覚があります。肉優先の選択に揺れている自分がありました。丁度今回この企画で十年前の意識の記録を改めてじっくり読むことができ良かったです。

険しい棘の道だけれど田池留吉、学び一本の心意気でまいります。

119

あなたの心を語ってみてください。

怖い、怖い、怖い。怖い、怖い、怖い。私は、怖くて、怖くて仕方がありません。何に怯えているのか。ああ私を見つめる目があるんです。怖いです。

私はいつも、いつもその目に怯えて生きてきました。私は暗い、暗い真つ暗な中で、その目を見つめながら、自分を小さく、小さく抱えたまま、うずくまつて息をひそめて生きてきました。

そんな私の心を解きほぐしていきましようという思いが、今、伝わってきます。お母さん、お母さんって呼んでごらんさい、そんな優しい思いが流れてきます。

ああ、私の中にお母さんって、素直に、ただただお母さんって呼べる思いがあるんですね。ああ今、その思いに従って、お母さんと呼んでみます。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん。ああお母さん、ああお母さん、ああお母さん。はいお母さんって何度も呼んでみたかった。ああ私は呼んでみたかった。お母さんって呼んでみたかった。ああお母さんから思いが返ってきます。お母さんが伝えてくれている。

「あなたが怯えているその目、あなたが怯えているその心、あなた自身なんです。あなたはあなたを

知らずにとずっと、ずっと存在してきました。だから、私はあなたに伝えました。私を呼んでごらんなさい。私を呼んでいたあなたを思い出してごらんなさい。」

私はあなたに伝えたいはず。何度も、何度も伝えてきたはず。あなたは、しかし、私の思いなご心に入れることはなかった。ただただ怖い、怖いとあなたの中に逃げ込んでいっただけです。それが母にはとても辛かったです。しかし、あなたは素直にお母さんと呼んでくれた。私はあなたに伝えます。「お母さんって、ただただお母さんと呼んでいきなや。」

***さん、田池留吉です。あなたがお母さんと呼ばば、お母さんが応えてくれるでしょう。

その意識の世界をあなたの中でしっかりと信じていくためには、あなたはまず自分の生まれてきた意味、そこに存在している意味を心で感じていかなければなりません。

あなたは学びを通して、何を自分に伝えることが

できますか。何も伝えることはできませんね。今の状態ではそうでしょう。ただ怖い、怖いと自分の殻からに閉じ籠こもっているあなたでは、あなたは自分に何も伝えることができませぬ。怖がっているあなたがあなたであることを、あなたは拒否しています。違ちがうんです。そんなあなたが優しく抱きしめてあげる、そんなあなたがあなたの心の中にある、それが本当のあなたです。優しく、優しく、受け止め、抱きしめてあげられるあなた、そんなあなたを私は本当に心で知っていたきたいんです。

田池留吉を思い瞑想をする。お母さんを思い瞑想をする。あなたは日々続けていますか。あなたの中でそのことを日々やっていけば、今頃は、あなたの中でお母さん、ありがとうございます。私は生まれてきて本当に幸せですとなっているんです。しかし、あなたはまだまだそういう状態ではありません。ただあなたはお母さんと素直に呼べる自分に少し出会いました。そうです、お母さんと素直に呼んで、あなたはあなたの心の中をじっくりと見つめていって

ください。そのお手伝いを私は少しあなたにさせて
いただきたいと思います。

これから、あなたの中に届く田池留吉の世界、田
池留吉の思いをあなたの心はどれだけ感じていただ
けるか分かりませんが、あなたと共に歩んでいるた
くさんのあなたを心にしっかりと受け止めてあげら
れるようなあなたに、一日でも早くなっていただけ
たい、そう私は伝えていきます。

^{あせ}焦ることはありません。欲でははいけません。
ただひたすらに、あなたはあなたを抱きしめていく、
あなたはあなたに本当の優しさ、本当の温もりを伝
えていける、そんなあなたであることを信じていけ
る、そんな時間を、あなたの中で、少しずつ持つて
いただきたい、私はそのようにお伝えします。

己偉い自分、肉の自分を守りたいが為、だから出
てくる不安、恐怖感、寂しさ苦しさを、何とか取り
除きたいと、他力信仰の延長線上に二十年間、ずつ
と学びをしてきました。そして九年前に私も自分の

意識のCDとコピーを送っていただきました。

先日塩川さんのホームページを読み、当時CD
を受けとった時のあの感動、そして母の思いに涙が
止まらなかったその裏に、八十歳を越えた田池先生
のご苦勞、自分のお勉強とは言っても塩川さんのご
苦勞を思い、申し訳ない思いで一杯になりました。

あれから九年間。母の温もりは？ 田池留吉は？
自分を見つめる目に怯^{おび}えていますかと自分に問うて
みると、やはりこうでなければならぬとの自分の
肉の基準で、自分の心をしぼり、不安、恐怖感をつ
のらせてしまう私がいいます。心解^とき放^{はな}つどころか、
^{ますます}益々心小さくしていく。肉形の世界は、不安、恐怖
苦しさがあのみ。先生から温かく伝えていただい
ていますのに、何も自分に伝えていない冷たい自分、
他力のエネルギーでがんじがらめにしてきた自分を
思っています。

「もういい加減素直になろう、素直になりたい」と
心の中で叫びます。「帰りたい、もう苦しみはやめ
にしよう」と苦しんでいる沢山の意識達に心向けら



れた時、向けてくれてありがとうと返ってきて、ああ、そうだった、外には苦しみを救うものなど何もない。自分の心を救うのは、自分にしか出来なかったのだと思え、ごめんなさいと共に、嬉しい思いも感じさせてもらいます。

待つてくれている田池留吉、母なる宇宙、ただただその信を強くしていくのみと肝に銘じ、原点に戻ってやってまいります。

120

***さん、いかがお過ごしでしょうか。

私は、***でございます。アマテラスの心を抱えながら、私は、ずっと転生をしてきたことを感じていきます。母の肉を通して、私の間違いを見させていただいています。私達と繋がりがあある***さんご夫妻、その他の人達、そう、私達は、同じでした。同じ苦しみを抱えた意識だったのです。アマテラスにひれ伏してきた意識、アマテラスを神として奉ってきた意識、その意識が、転生を重ね、今世、このように、日本の国で、肉体を持ち、そして、学びに集えたのですね。はい、私の心の中にも、そのように感じられる。でも、私は、そこから、もう一歩が踏み出せない。やはり、アマテラスにひれ伏す自分があります。アマテラスは、素晴らしきものとして崇め奉る自分の心があります。アマテラスは美しい、そんな思いを、心に抱えています。



二〇一〇年九月二十六日(日)

***さん、心を語ってみてください。

はい、お母さん、心の中にアマテラスを抱えて私は生きてきたことを、本当に間違ってきたことを、お母さん、あなたに伝えたいです。アマテラスの心を心として、ずっと生き続けてきた私の過去でした。母に向けて思いを語るとき、そんな私の中に、母は、いつも、いつも優しく語りかけてくれたなあと、そんなことを感じながら瞑想をしています。

アマテラス、アマテラスと私は、アマテラスのほうに心を向けてきました。アマテラスこそ素晴らしいと、その世界を私の中で広げていくことこそが、私の幸せ喜びだと、そんな私をずっと、ずっと経てきました。長い、長い時間の中で、お母さん、あなたは私に伝えてくれていたんです。

「あなたの中の優しさ、温もり。その優しい、優し

いあなた、温もりのあなたを信じていきなさいと。アマテラスに心を向けてきたあなたは間違っているですよ。アマテラスに心を向けてきたあなたを、もっと、もっと見つめていかなければなりません。アマテラスの心をもっと、もっと知っていかなければなりません。」

そうやって私に、いつも、いつも伝えてくれました。

私は、自分に冷たかったです。自分の中のたくさんの私が伝えてくれました。「心を見てくれ。思いを向けてくれ。思いを向けてくれ」そうやって私にいつも伝えてくれました。そんな思い、そんな声を私は、ずっと遠ざけてきたんですね。冷たい私を感じています。今、瞑想をする中で、そんな冷たい私を感じています。

***さん、田池留吉です。はい、瞑想を続けていく中で、あなたはあなたにどんどん伝えていくでしょう。きっとお母さんの温もりを心に蘇よみがえらせ、

本来のあなたの姿に戻っていかれると思います。それを私達はただただ待っています。

どうぞ、ゼロ歳のあなたを思い、お母さんの瞑想を続けていってください。たくさんのあなたとともに喜び、喜び、そんな時間を過ごしていけるようなあなたになってください。

私は田池留吉です。あなたの中で、いつも伝えてくる波動、エネルギー、喜びのエネルギーです。どうぞ、私を信じ、瞑想を続けていってください。

心の中に、田池留吉、アルバート、そう素直に呼び、温かな優しい温もりの世界を、もっと、もっと心に広げ、あなた自身を包んでいってくださいることを、私達は待ち望んでいます。

二〇〇九年の一月に「あなたの意識では……」が載りました。私の意識はいつもアマテラス一色、またか、そんなこと分かっているよと、その時私は、私の中のアマテラスの思いの根深さを真剣に捉えよ

うとはしませんでした。

翌年九月に田池先生から「私の意識」のプリントと田池留吉のメッセージのCDが送られてきました。思いがけない贈物に嬉しくて嬉しくてものすごく興奮したことを覚えています。早速、先生にお礼の電話を入れ、それから何回もプリントを読み、CDを毎日、毎日聞いて瞑想していました。相変わらず、アマテラスの意識でしたが、田池留吉のメッセージを心に入れて、よくし、これからだと思いを続けようと思ったものでした。

その後、私の生活環境は大きく変化しました。それに伴い、否が応でも私の持っているものが出てきました。次から次と炙り出されていくという感じでした。この思いにどう対処していけばいいのか。そんな時、今から一年半ほど前のことです。ふと、いつの間にか忘れていた田池先生から送られた「私の意識」を思い出しました。再び、プリントを読み、

CDを聞きました。ええ！私のアマテラスは今もあの時も全く変わっていないと愕然がくぜんとしました。愕然ごうぜんとすること自体が己偉し、傲慢あかしの証です。

でも、田池留吉は、私の中でずっとずっとずっと前から待っていてくれました。こんな私を信じて待っていてくれたんです。そう心で感じた時、本当に嬉しかったです。田池留吉の異語が心地良くて、温かくて、嬉しくて。

そうだ、この思いをただただ信じていこう。私の中の田池留吉を日々の瞑想の中で確認していこうと思いました。

学んでいる、学んできたつもり、いいえ、全く何も学んできませんでした。気力、体力の衰えおとろを痛切に感じながらもここで頓挫とんざしたくない、諦めるわけあきらにはいきません。私の中で、田池留吉が待っています。



す。お母さんが、本当の私が待っています。今、私は、あの時の心で感じた思いを信じて、私の中から出てくる思いだけを信じていこうと思っています。

今回のUTAブックさんの企画で、改めて私の心の確認をする機会を得ました。ありがとうございました。

121

二〇一〇年六月一日（火）

***さん、心を語ってみてください。

お母さん、申し訳ございません。己高い私を許してください。私はあなたから生まれてきました。心を見つめなさいと優しい思いで生まれてきました。

それなのに私は、己を表すことに必死になって生きてきました。過去からの私が私に教えてくれていました。私はこの学びに集え、自分を見つめ、自分のエネルギーを感じてきました。

それでもなおかつ、この心の中に他力のエネルギーをまだしっかりと蓄えています。

しかし、私は、その蓄えてきたエネルギーが私の中で段々緩んで、解き放つていこう、ああ、自分たちは本当は母なる宇宙へ帰りたかったんだ、優しい母のもとへ帰りたかったんだ、そんな思いを聞かせていただいています。凄まじいエネルギーです。凄まじいエネルギーですけれど、私は、その凄まじいエネルギーの中に、その声を微かながらも聞いています。それが、とても嬉しいのです。瞑想をして、お母さんを思い、田池留吉を思い、その私の思いを感じる時、私はたまらなく嬉しいのです。

お母さん、私は生まれてきてよかったです。苦ししい人生でした。何も自分の思い通りにはいきませんでした。肉に喜びと幸せ、安らぎ、そんなことを求

めてきた私が愚かだったんですね。あなたに言われてきました。

お母さん、あなたは、私にずっと、ずっと、言ってくれていました。そんな愚かな私をこれからも見ていきます。

私は私から逃げることなく、自分と真向かいになり自分を見つめていきます。この心を信じていきます。お母さん、ありがとう。私を産んでくれてありがとう。己高い私があなたから生まれるということが、凄いいことだったんですね。そんなこと、私は、今世初めて知りました。まだまだほんの序の口です。しっかりと自分の心を見つめ、私が私に真実を伝えていきたいと、ただただ今はそう思います。

***さん、田池留吉です。どうぞ、自分の心を見つめながら、自分のエネルギーを感じながら、あなたの人生を全うしてください。心の中に、田池留吉、アルバート、優しい母の温もりが息づいていることを信じ、その意識の世界を感じながら、瞑想

を続けていってください。あなたの心は広がっていいでしょう。

優しい母のもとに帰る意識だった、そんな思いが心に広がり、何はなくても幸せだった、そう私は、幸せでしたと、あなたの心の中に響いてくる日を私達は楽しみに待っています。

そうなんです。私達は、はじめから幸せでした。幸せも喜びも温もりも、安らぎも、全部自分でした。そんな自分を捨て去り、忘れ去り、他力のエネルギーに走り、その中で己を表すこと、己を高めること、己を一番にすること、そのことを目標にずっと生きてきたあなたの過去からの人生、そのすべてが間違ってきたと、あなたの中で思い始めること、それが今世のあなたの肉を持つてする仕事です。

一步を踏み出していこうとするあなたに、私達は、温かいエールを送ります。

どうぞ、しっかりと自分を見つめ、自分に優しくなっていてください。自分に優しくなっていけば、おの自ずと、その波動はこの宇宙に流れていきます。

何もなくても、優しさが温もりが流れていくんです。

そうやって私達は宇宙を変えていける、私達はそのことを伝えています。どうぞ、田池留吉、アルバートの世界、その宇宙に心を向けられるあなたに蘇よみがえってってください。心を向けるということは、凄まじいエネルギーのあなたを感じていくことになります。しかし、その凄まじいエネルギーの中に、溢あふれるほどの喜び、限らない優しさ、温もり、永遠に続く自分というものが感じられて、ただただ喜びが広がっていくでしょう。

あなたもその道を一步、一步歩んでいただけるところを、私達は楽しみに待っています。

この学びをさせていただいて、三十年が過ぎました。最初田池先生にお会いできたことが喜びでした。一年もしないうち、欲で靈道を求めた結果、狂いまました。狂いに狂ったから、苦しかったから、さまざまよってさまよってきたから、今があります。

学びに集えたことがどれだけ喜び幸せか、かみしめていきます。

三十年学ばせていただいたことに感謝しかありません。本当にありがとうございます。

122

二〇一〇年三月二十六日（金）

****さん

****さん、心を語ってみてください。

何度も何度も言われました。心を見なさい。心を見なさい。お母さんに向けて自分も心を語るんですよ。凄まじいエネルギーを心で感じていきなさい。そうやって、私はたくさんの方のチャンスを与えていただきました。環境から、周りの人達から私の作っ

てきた世界、自分の培ってきたエネルギーを感じさせていただきました。

それでも私は、自分に冷たいことを感じます。己が高く高くそびえ立っています。自分に冷たいんです。少しはそれが崩れていったかと思うと、またまた違う方向から私の中に出てきます。己の偉さが、あちらこちらから出てきます。それを私に教えてくれる現象があるんです。

私は、それを何度も繰り返してきました。今世だけでも、もう何度も繰り返してきました。自分の心癖を直していくこと、他力の心癖を止めていく難しさを感じています。

私は、母にいただいたこの肉をどのようにして、自分のために活かしていったらいいのか、ああ、私は頭を使ってしまいます。

心がこんなに苦しいのに、私は私に冷たいんですね。心の底から自分を抱きしめてやれない、抱き止めてやれない、そんな私を今感じています。

それでも田池留吉は、私に伝えてくれています。

優しい思いで私に伝えてくれます。ああそれと思うとき、お母さんごめんなさい、私は本当に愚かなんですね、そういう思いもチラチラと出てきますが、しかし、やはり他力のエネルギーに、その思いが押し潰つぶされていくような気がします。

ああ、こんな凄いエネルギーを自分の中に蓄たくわえてきたんだ。自分を思えば思うほど、その凄まじいエネルギーを感じるばかりです。

私は田池留吉です。***さん、あなたには何度も何度もお伝えしてきました。私の肉を通して、そしてもちろん私の意識の世界から、あなたに伝えてきました。私は、これが最後だと思えます。あなたにメッセージを送る最後です。よく心で聞いてください。私の思いをしっかりと聞いてください。

あなたは、今世、お母さんにその肉をいただいたのです。あなたが願ひ出たことです。あなたの自分を見つめていきたいという思い、その思いから、自

分に肉をくださいと、お母さんに願ひ出ました。その思いに帰ってください。その思いが基本なんです。あなたの思いをそこへ戻してください。そうでなければ、あなたの今世の時間、まだまだ苦しみが続いていくでしょう。表面的には、少し和やわらいできたと感じているかもしれませんが、しかし、あなたの中は、まだまだ凄いエネルギーが渦うずまっています。おそらく、それは、これからの転生の中で、あなた自身が気付いていくことですが、私、田池留吉と出会った今世、あなたの中をしっかりと見つめてほしいのです。私は、その思いで、このメッセージをお伝えします。

どうぞ、田池留吉のほうに心をしっかりと向けてください。あなたがその肉を終えるまで、私のほうに心をきちんと向ける、そのことがまずできる、それをあなたの目標としていってください。

田池留吉の世界、アルバートの世界、あなたにも感じていっていただきたいです。ああしかし、あなたの中には、まだまだ凄いエネルギーが渦まいてい

るんです。他力のエネルギーです。母の温もりによって、そのエネルギーを包んでいくことを、まずやってください。

そうしないと、田池留吉の世界、アルバートの世界を感じることは不可能です。心の中にアルバートの世界を広げていきたいと、欲の心が見え隠れしています。あなたの今の状態では、アルバートは呼べない、宇宙は呼べない、私は、そのように伝えます。厳しいかもしれませんが、宇宙を呼ぶということは凄（すこ）いことなんです。ある程度の心の準備ができていなければなりません。宇宙に心を向ける、簡単に皆さんはそうおっしゃいますが、宇宙に心に向けていこうとする思いは、自分の中を本当に必死で見つめていきたいと心の底から願う思いから出てくる思いです。欲の思いでは、宇宙とは通じ合うことはありません。宇宙、そう、あなたが作ってきた宇宙。凄（すこ）まじいエネルギーの中に飲み込まれていく、そういう繰り返しはもう止めてください。私のメッセージを素直に受けていってください。

私のほうにしっかりと心を合わせていけるあなたになってください。

前に教えて頂いた事。他力のエネルギーが大変強い事、いつも頭を使って判断をしている事。その通りでした。今は鈍感な私でしたが少し敏感になっていると思う。

前に先生から頂いたメッセージで「お母さんに心を見たいから産んでくださいと頼んだ」、このことを言われましたが、自分ではお願いし生まれてきたことを心で理解できませんでした。だから何事にも真剣に向かおうと出来なかったかもしれない。今思うと意識を馬鹿にし肉を前面に出してきたんです。私は先生からの言葉も自分の心の中に入れられず、聳（そび）え立ってから蹴（け）散（ち）らしてきました。

意識が本当の世界と言われても肉しか信じられない私にとっては大変難しかった。だから私の学びは一步も二歩も遅れています。チャンスも一杯頂きました。なのに肉しか信じられない、己偉い私は田池

先生からのメッセージもしっかりと受け止め、心の中に入れて向き合いませんでした。

今も意識より己を前に出し聳え立っています。何も変わっていません。(しかし今は、少し心から教えてもらうことが伝わるようになってきました。)

以前にセミナーがあり各部屋で夜、母の反省をする時間がありました。真剣に反省をしようと思えば必ず出来るという学びの友の話を思い一生懸命に母を思い反省をしました。すると聳えた私の中から、「何でも当たり前だった」そして「母は私を神の子と信じていてくれていた」と私の目から涙が飛び出たんです。その後私の思いが変わったんです。何もなくてもよかったですと心に響き、毎日の生活が軽く何をしてても嬉しさの中で過ぎていきました。こんな私でも確かな経験がありました。意識の世界からのプレゼントだと思いました。この学びはすごい本物だと、肉で人に対してほんの少し責める思いを出したとき、それは吹き飛ばすすごいエネルギーになることも気付かせていただきました。意識の世界

は真実。

人との関わりで自分の腹立ちの思い、わかっただしい思いをノートに書いてみました。書いた次の日相手がガラッと変わっておられました。これも又意識の世界の真実。

これ程意識の世界のことを肉にも教えてもらっているのに、どうして真剣に真摯しんしに取り組めないのだろうか。他力のエネルギーに負けている。他力のエネルギーは私そのもの。

私は他力がすごい。小さい頃より何も苦しい事、辛い事がなかったのに、兎とに角かく、手を合わせ今以上の幸せを下さいと願って祈ってきました。強欲じょうよく、私わたしの。他力信仰は強欲から始まった。先生はよく仰おっしゃっておられました。欲と神は合いませんと。全く私そのものでした。私は欲深、この心見ずして学びが出来たはずがない。この心をもって心を見れるはずがない。こんな冷たい私が瞑想、反省。今から思うとちゃんちゃらおかしい。今も同じ。しかし肉では何年も学ばせて頂いたから知識は十分あります。

だから信じたいと思います。しかしすぐに他力のエネルギーがサツと己の中に入ってくる。

心も見てきました。けど己偉い思いで見えてきました。だから何も変わることはできませんでした。

しかしこんな私にとメッセージを下さっていませんでした。

「もつと心を広げて自分を見つめてください」

「優しい思いで、自分を見つめてください」

「ゆったりと自分を見つめてください」と。

こんな宝物を頂いていました。

こんな私を何度も何度も繰り返し付き合ってください。田池先生、塩川香世さん申し訳ありませんでした。すみません。ありがとうございます。お母さんの波動を確かなものに、田池留吉を思う瞑想を、死ぬまでやっていきます。

嬉しいです。やってみます。他力のエネルギーの強い私。一つ一つ丁寧に負けず頑張らなくては。(心はまた引いています。哀かなしいです。一緒にですね。

そうです。お母さんとの約束を果たさなくては。

心を見ます。

UTAブツクさんありがとうございます。こんな機会を下さって。



田池先生と陽子さん

二〇一一年二月五日（土）

****さん

****さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、己一番の思いをしっかりと見つめてきました。はい、見つめてきました。まだまだどんどん出てきます。己一番、我こそ一番、我は神なり、この思いを私はしっかりと見つめてきました。

しかし、心の底からごんごん湧き出てくる思いは、やはり、己一番です。我は神なりという思いをまだまだしっかりと私は握にぎっています。

それを私は、自分の中で知っていかなければなりません。

それが私のこれからの転生です。私は、これからの転生において、この我一番、我は神なりの思いを

見つめていく、そのような計画を立てています。

凄すこい、そして厳しい転生です。私が二五〇年後に心を繋つないでいくためには、なくてはならない転生なんです。

それを私は、まだしっかりと心で感じていません。心で感じていくということを、私は恐れています。

ああ、まだまだ自分に甘いんです。

私は出来ている、私は分かってきた、感じてきた。

私は、田池留吉、アルバートと呼んで、私の中で心が広がっていく。温かい温もりが広がっていく。私は何だか小さな世界の中に留まって、そこで満足しているような、そんな自分を感じています。

「いいえ、まだまだ己が偉いですよ。己が一番ですよ。そんなあなたをしっかりと見つめてください。」

私の中からそんな声が聞こえてきます。

私の思いです。この思いをしっかりと見つめていきます。

田池留吉、アルバート、お母さん、私は自分をしっかりと見つめていきます。

田池留吉です。***さん、私は田池留吉です。

あなたが語った通りです。あなたの中には、まだ己一番、我は神なり、その思いがしっかりと根付いています。

心を、どうぞ、田池留吉、アルバートに向け、あなたの中を見つめていってください。

心の管理をしっかりとしていってください。

あなたは、自分の中でできている、私は温もり、広がりを感じてきている、そんなあなたがあって、そのあなたがこのままでいくと、とんでもない方向に行ってしまう、そんな危険性がまだまだ充分にあります。

しかしながら、あなたは変わりました。あなたが今世学びに集った頃に比べれば、本当に変わりました。あなたのご姉妹も変わりました。

しかし、私達が指し示す方向に、しっかりと心の針を向けて、合わせていくためには、あなたは自分で語られたように、これからの転生の時間が必要

となってきます。それほどこの学びは難しいのです。

あなたの中でしっかりとご自分を見つめていく、その思いが整ってきていると思います。

どうぞ、焦らず、たゆまず、自分と対話していただく。

死後の自分と対話していくことにより、あなたの転生は変わってきます。

はい、どうぞ、私、田池留吉、アルバートの方に心をしっかりと向け、己を表すことなく、しっかりとご自分の道を歩いていってください。

CDをいただいてから十年目の感想

(二〇二〇年六月十二日)

当時の学びの友との挨拶は、「CDをもらった？」が密かな合言葉で、なかなかもらえないでいたことが、何か遅れているというような感覚でいたことは否めません。しっかりとやっているとのアピールで、田池先生に何かにつけてメールして、「私をお忘れ

じゃありませんか」との焦燥感がありました。そんな愚かな思いでいたことを思い出します。

そしていただいた念願のCDでしたが、その内容は、当時の私にはとても受け入れがたいものでした。田池先生の異語にありつたけの罵声（ばせい）をあびせ、認めるもんか、認められるものかと、闘（む）いを挑（む）んできたことを思い出します。先生の声を聞けば、異語を聞けば、喚（わめ）き、唸（うな）り、まさに闇出しさながらの時間になりました。

聞けば聞くほど腹が立つ。私は、分かった。出来た。お母さんの温もりだって感じて、なのに、これは何だ、これは私の意識ではないと、頭は納得しようとするのだけど、心は苦しみを訴えて……、けど不思議なことに、その中でも嬉しくて異語が止めどもなく出てきて涙する時もあるのです。その感じが忘れられなくて、また呻（うめ）き、田池死にさらせを繰り返しながら、死後の自分と語ることで来世が変わる

ならと死後の自分と語ってききましたが、ある日ふつと、それらは欲、すべてが欲と、「分かった。出来た。感じてきた」が、私の最大の難点、十年経（た）った今もその思いを知らず知らずに出して、とごく最近まで思っていました。それが己が偉いということだとうやく知りました。

月に何度かという割合でしたが、今現在までCDを聞きながらの瞑想は続けていました。それは負けたくないという思いが多分に強かったからだと思えますが、ある時期からCDを聞いての瞑想が変わり始め、そこでは私は出てくるすべての思いを異語で田池留吉の異語にぶつけていきます。欲もあります。苦しくなるときもあります。でもそこでは素直になっただけ、そんな自分を感じます。嬉しいとか、喜びとか、言葉にすればそういうことなのかもしれないが、もうとにかく嬉しいのです。そして、また日常に戻れば、ご多分にもれず、肉、肉、肉に戻ります。本当に、「それほどこの学びは難しいので

す。」肉から意識への転回は難しいと、その通りでした。

でもそこで過去と同じ轍^{つち}を踏むわけにはいかない
と、私の中から応援エールが届きました。それが先生
の異語です。波動です。言葉を読むのではなく、
同封されて届いたメッセージに目を向ければ、それ
だけで、温かい思いが流れてくる。それが「分かった。
出来た。温もりを感じた」その思いかもしれません。
ですが、その思いをようやく受け入れていけること
を知った心には、ただただその思いは温かく、あり
がたく、その思いを信じてやっていくだけです。

心を見ていけば見ていくほど何も分かっている
自分を発見します。一歩も前に進んでいない厳しい
現実も知りました。それでも生まれてくることを
喜んでいるのはなぜか。それが私をまた駆^かり立てて
いくのでしょうか。文中にもありました。「あなたの
中でしっかりとご自分を見つめていく、その思いが



整ってきていると思います。どうぞ、焦らず、たゆまず、自分と対話していつてください。はい、どうぞ、私、田池留吉、アルバートのほうに心をしっかりと向け、己を表すことなく、しっかりとご自分の道を歩いていつてください。」肉を離すその時までただひたすら田池留吉、アルバートに向け瞑想を。

生まれてきた意味も約束も忘れ果てた愚かな肉にできるたった一つのこと、闇黒の宇宙とともに、田池留吉、アルバートとともに次元移行をしていくことが信じられるような、そんな私をずっとずっとずつと心に待ち続けてくれた意識の流れ、そういうことを思い浮かべての瞑想をしていく、瞑想、瞑想、瞑想。ありがとうございます。

124

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、間違ってきました。間違ってきました。たくさんの間違いを繰り返してきました。己を表す心一色でした。本当に申し訳ございません。私は、この肉体を持って、お母さんの温もりを心に広げ、自分に本当のことを伝えたかった。それなのに、私は肉をもつたびに、己というものを表し続けてきました。そして、自分を地獄に突き落としてきました。間違ってきたことを、今世この肉、肉の環境、すべてが伝えています。

「あなた間違っています。気付いてください。気付いてください。」

優しい私が私にそう伝えてくれている。しかし、そんな声など、私は耳も貸さずにと今まで生き続けてきたように思います。

今世の僅かな時間、私の歴史からすれば、ほんの僅かな時間の中でも、私は、己偉い心、己を表す心、そのエネルギーを宇宙に垂れ流してきました。心から、心から申し訳ないと、今、思います。はい、申

し訳ございません。お母さん、申し訳ございません。

***さん、田池留吉です。どうぞ、心が敏感なあなたです。その敏感な心を自分のために、本当に自分のために活用していただくさい。あなたの心は泣き叫んでいる。喚き散らしている。苦しみ喘いでいる。そのことをどうぞ、もっと、自分の心で知っていただくさい。あなたはあなたに優しくなっていくのです。お母さんの温もりを心にひろげられるあなたです。もっと、もっと、心でお母さんの世界を知っていきなさい。田池留吉のほうに心を向け、しっかりと瞑想をしていくんです。

己を表す心、己を誇る心、己偉い心、すべて、すべてブラック、闇のエネルギーを宇宙に垂れ流してきました。そのことに、どうぞ、少しずつでも気付いていただくさい。いいえ、あなたはもう気付きかけていると思います。その素直なあなた、本当に幼子の目で、あなたを振り返ってください。

どんどんどんどん異語で自分と会話してください

い。その時間を持つてください。今世のあなたの時間を大切にしてください。これからの転生、今のあなたの心を繋いでいけるようなそんな転生であってください。私たちはそのようにお伝えします。



***さん、自分の心の中に溜め込んできた己の偉いあなたを、今、どのように思っていますか。

田池留吉、田池留吉、寂しいから田池留吉を求めてきた。寂しいから田池留吉を求めてきた。悔しいけれど、田池留吉、そうやって呼ぶ私の心に、寂しかった、寂しかった、悔しいけれど寂しかった、そんな思いが渦巻いています。

私は、己を誇ってきました。自分の霊道を誇ってきました。自分は、心に感じるすごいやつだ、そういうふうな、自分を誇ってきました。確かに、心に、ピンピン響きます。その響く自分を誇ってきた、私は、今、そのように感じています。

異語。

私は、あなたの娘さんに心を向けさせていただけ
ました。とても、素直な方だと思いました。しっか
りと、あなた方が夫婦の姿を見て、そして、セミナー
会場で、自分の目や耳を通して得たものを、自分の
これから先に、おそらく、彼女は、役立てていける
と思います。

娘さんに、思いを向けてごらん下さい。あなたの
心が敏感ならば、自分の娘という枠を外して、意識
と意識の中で、思いを向けていってください。

素直な彼女の思いが、伝わってくると思います。

学び始めた頃、今まで当然のようにしてきた己を
表すことが苦しいことだったんだとチャネリングに
出て初めて気付きました。驚きと同時に、心が軽く
なっってうれしかったことを思い出します。

しかしながら心癖はそんなに簡単に変わるわけも
なく、学びをしながらでも己を表し、己を誇り続け

てきました。

チャネリング、波動の勉強、あなたの意識です、
あなたの意識ではありませんかと出される意識はす
べて同じでした。己偉い心、己を表す、己一番のオ
ンパレードでした。

それでも一向に思いは変わらず知らず知らずのう
ちにその思いを流し続けてきました。いろんな現象
が気付くとばかりに起こってきました。

そんな中、先生から自分の意識、メッセージ、C
Dが送られてきました。

一言一言の文字が自分の心に響いてきました、素
直に心に入ってきました。

今まで出されてきた意識がすべて集約されていま
した。

次の文言がすぐく心に響きました。

「あなた間違っています。気付いてください。気付
いてください。」

優しい私が私にそう伝えてくれている。しかし、そんな声など、私は耳も貸さずにとずっと今まで生き続けてきたように思います。

十年経^たつて、己……うくんやはりその思いはどしつとあります。

でも日々一日の終わりに瞑想をするとき、ああ今日も己、己を流し続けてきたなあつて、もうやめていこうつて自分で自分を包んでいく自分と向かい合うことが、とても大切なことなんだと感じます。

己、己は出てくるけど垂れ流^たし放置はもうやめていく、その思いを認めて受け入れていきます。

自分は肉ではなくエネルギー、そのことが瞑想を通して感じていけることが今の自分にとって必要なことでした。

先生から頂いた手紙とCDは僕の大切な宝物です。今も手紙とCDの音声は常に手元に置き見て聞き続けています。



沖永良部島に行くときに鹿児島から乗ったプロペラ機で、桜島上空から撮影

己偉い自分にとって本当に貴重です。
この宝物を無駄にしたくありません。

意識の転回には程遠く今もまだまだわかっていないと思いますが、先生に言われたことを素直に実行してこの道を歩んでいくだけです。

長い心の歴史の中でやっと真実に巡り合えたことを無駄にせず、ほんまに肉は愚かやけど、目を閉じれば伝わってくる温かく、優しい思いが自分なんだと信じて日々瞑想していきます。

UTAブックさん、このような機会を頂き本当にありがとうございます。

125

***さん、母親の反省が進んでいないようで

すね。手順を飛ばしては、この学びはできません。
お母さんに対して、どんな思いを広げてきたか、あなた自身が瞑想をする中で、しっかりと確認して
いってください。

あなたの思いを語ってみてください。

肉の喜びと幸せを求めてきた人生でした。ああでも、私の心の中で、何だか、それが違っているように感じます。今世の私は、それを感じます。

心が苦しくなりません。心が寂しくなりません。

お母さんの反省をしなさいと言われ続けてきました。ああでも、私は、母の反省ができないんです。母に思いを向ければ、私の中は、たちまち崩れていってしまいうなエネルギーを感じるからです。

ああ、こうやって語っている時、母に対して、どれだけの凄まじいエネルギーを流し続けてきたか、今、私は、心を感じます。

ああ、このエネルギーを、周りに流し続けていたんです。主人も子供もみんな、みんな、蹴散らし

てきました。

私は、それを認めることができなかった。なぜならば、私は、己が、とても偉いからです。

偉いくせに、とても小心なんです。そんな矛盾を、今、心に感じています。

異語。

***さん、時間を見つけては、瞑想をすることを続けていってください。

心の中にブラックの塊かたまりがあるでしょう。あなたは、それを早く吐き出したいと思っています。

しかし、あなたが語ったように、あなたの中がまだ整っていないのです。

ブラックの思いを吐き出しても、それをどのよう
に自分の中で受け入れていくか、そのところで、あなた自身、迷っているし、自信がないのです。

だから、あなたは今、宙ぶらりんです。

肉の喜びと幸せを求めることに、限界を感じてい

ます。だからといって、真実の方向に、心を向けていこうとするはつきりとした思いが、まだまだ希薄きはくです。

いいえ、もっと言うならば、あなたは、肉の喜びと幸せを求めることに、限界を感じているけれども、やはり、あなたがつかんでいるのは、肉の喜びと幸せ、肉の自分を基盤にした諸々です。

あなたは、その基盤から、自分を解とき放はなつことを拒こほんでいると言いうほうが、今の時点では正確でしょう。

その方向を変えていくのは、あなたです。

あなたが、お母さんに向けてきた思いを振り返ってみるとか、そして、生活の中で、最初は、時間は短くてもいい、ふうっと自分を思ってみる、そんな時間を作っていくとか、そういう肉の努力を、まずなさってください。

中は、待っています。もしかすると、見切り発車して出てくるかもしれません。そうならないうちに、肉のあなたが、まず、母を思う瞑想を習慣にしてください。

意識を出してもらうために応募して十年がたった今、忘れかけていた自分の文を読んで啞然あぜんとしました。何も変わっていない。全て完全に今の私に当てはまるし「その通りです」と納得いきます。私は十年間何をしてきたのか？おそらく応募した時はこれをヒントとして真剣に勉強していこうという決心はなかったということだと思えます。

文を読んで想いを向けてみます。

クソタイケクソタイケ。己が偉くて何が悪い？己が偉いからこそ私は生き延びた。己が偉いからこそ周りの役に立った……。

ああでも私は確かにそんな自分に限界を感じています。肉の幸せに必死にしがみつき周りが崩れないように全身で押さえている感覚です。目をつぶれば自分の中で悲鳴を上げている沢山の自分が聞こえます。今の肉の生活は幸せです。信じられないくらい幸せ、だからそれを失うのが怖いのです。得る物

より失う物の方が大事だと勘違いしているのでしょうか。でもメッセージを読めばなんとも言えない優しさも感じます。待つてもらっている、こんな私の事を待つてもらっている。

肩の力を抜いて、気持ちよく日々母に想いを向けるような人間になりたい……。十年前の自分へのメッセージを読んで、そういう気持ちが今湧わいてきます。

126

***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。私は、感じている、できている。私は、これだけやってきた。その思いが非常に強いんです。だって、心で感じるんですもの。私を感じているものは素晴らしいでしょう、そのような思いが、私の中にあります。今、正直に自分の中をさらけ出

してみても、ああなんて、私はすごいんだなああって感じます。すごい心を使ってきたんだなああって……。

でも、今、自分の心をすっと言えて、とても嬉しいです。

異語。

***さん、まずはあなたの他力の心を見ていってください。あなたが感じている向け先、そうあなたは心で感じていらっしやるかもしれません。でも、あなたの心の向け先、その先に、他力のエネルギーがたくさん残っています。他力に向けてきたあなたの心を、どうぞ見ていってください。タイケトメキチ、アルバートと、他力のエネルギーは合いません。

そのことをあなたにお伝えしたいと思います。厳しいですけども、これが、私からのメッセージでございます。どうぞ、他力の思い、他力のエネルギーを、もっともって見ていってください。そして、お

母さんを、ただただ素直に、お母さんを思っています。教えてください。

「私の心はいつも苦しくて堪らないのは、どうしてですか。本当の私とはどんな私ですか。人間はなぜ存在するのですか。私は一体何者ですか。何が本当なんですか。」

これらの沢山の疑問に答えてくださる田池留吉氏の講話と現象は、セミナーの回数を重ねるたびに納得、歓喜歓喜でした。

けれど十年前は、まだまだ己の凄まじいエネルギーを軽くあしらい、道しるべを軽く軽く捉える傲慢な心が鎮座しておりました。

あれから十年の月日が経つのですね。今の私は、「間違ってきました。お母さんごめんなさい。ごめんなさいありがとう。うれしいうれしいうれしいです」と、喜びの懺悔を知るようにまで歩みを進められることができました。

「間違い続けてきた道を確認して、軌道修正の道で

す。軌道修正の道にとりかかってください」と、呼びかけてくれる今を喜びで喜びで歩みを進めて参ります。

学びのお世話くださる皆様、ありがとうございます。



愛犬のランとぬいぐるみの豚さん

いつもパートナーにして過ごしている豚さんを、自由自在に操って遊び相手しています。部屋を移動する時は口に加えて移動して、お昼寝の時はランと並べて同じ姿勢で寝て、外を眺める時はこのように隣に座らせて並んで眺めています。

127

***さん、あなたの心を語ってみてください。

忙しい毎日です。私の心は、まだまだ肉の中にあ
りますが、それでも、日々瞑想を続けています。た
くさんの気付きがあります。私の周りから、たくさ
んの気付きを受け取ります。あとは、それを、自分
の中で、どのように伝えていくかです。自分の思い
を素直に聞いて、ああそうだ、これは私の思いだっ
た、そんな素直な私が、どれだけ自分を救っていく
のか、私は、今、そう思います。

素直が一番でした。どれだけ自分をそびえ立たそ
うとも、素直な自分でなければ、私は、何も変わら
ないことを感じます。

自分をそびえ立たせることが、私の喜びではあり
ませんでした。私の幸せになることなどなかったん
です。それよりも、自分に素直になって、どんな自
分でも、受け止めていける優しい私を信じていくこ

とができる、これが私の喜びでした。

とは言っても、まだまだ肉がとても強いです。肉の繋がりつなりを、やはり私は、自分の中心に置いていきます。自分と自分の中で、ただ自分の思いを見ていく、その厳しさというか、真まっ直すぐな一直線な思いには、まだまだなれません。どこかに、私を引っ張る私があります。それが肉の思いだと感じています。

異語。

***さん、焦あせらずにゆっくりでいいんです。どうぞ、瞑想を続けていってください。瞑想の中で、あなたは、あなたを思い、あなたを生んでくれたお母さんを思い、そして、これから転生をしていくあなたを思ってください。

本当の自分に帰りたい、そう叫んできたあなたの心を、これから、色々な場面を感じていくだらう転生が待っています。今のあなたの環境から、自分の心を見て、心の中に作ってきた間違った思いを見つ

め、そして、それらの思いとともに、あなたの転生を思ってみてください。

異語。

私は、今世、ひとつの肉体を持ちました。そして、これからも肉体を持ち、私は私の中を見つめてまいります。心の中の真実の世界へ、私は私自身を導いていきます。

「たくさんの過去とともに、未来へ歩いていく私を思ってください。

未来の私を思う時、今の時間、本当に自分のために生きていこう、あなたの心に、そうあなたが語ってくるはずです。

私達は、待っています。今のあなたが未来の私達、過去のあなたが未来の私達、ともに歩いていくことを待っています。」

十年前にいただいたメッセージを読み返しまし

た。内容云々というより、もうその思いが、やさしさか、田池先生との時間が、メッセージを受け伝えてくれた塩川さんの思いが、全部がうれしくて異語が出てきます。説明はできないけれど、思いがどんなあふれ出てきます。何も変わってないとか、相変わらずだとか、素直に受け取れなかった自分とか、メッセージを生かしてこれなかった自分とか、そんな思いもいっぱい出てくれるけれど、私はただそれらの思いを抱きしめています。子供の成長を見守る母の思いも出てきます。そうだね、そうだね、本当に素直じゃなかったね。その思いがただただやさしいです。田池留吉の思いがただただやさしいです。私がこの十年間ほったらかしにしてきたメッセージでも、思いは、田池留吉の思いは色あせずに生きていた。しっかりと生きていた。私が素直に受け取れないことも、反発することも、何もかもわかっている、それでも伝え続けてくれていた、その計り知れないやさしさを今感じています。狂いそうなほどうれしいです。二五〇年後、二五〇年後、また必ず会

いにいくことを約束します。私はまた母の思いで、二五〇年に至る、間違つて生きてきた自分の思いを抱きしめます。田池留吉を忘れ去つて生きてきた自分をしっかりと抱きしめます。

これが私の幸せでした。「肉の豊かさ＝本当の幸せ」だと根深く信じ込んで今もまだ肉で忙しくしているこの私にとって、十年前のメッセージは、心に刺さるもの、しっかりと今の自分を、自分が歩んでいくべき道をもう選択しなければならぬその時なんだ、もう二度とこないかもしれないくらい、大事な時なんだ。そう感じました。嬉しかったです。素晴らしい機会をありがとうございました。

128

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

自分の中で学びを、まだまだしっかりと、とらえ

ていないけれど、私もまた、今の時間を自分に与えていることを感じます。

どんなに時間がかかってもいい、しっかりと自分を見つめて、そして、歩んでいきたい、今、そのように思います。

貴重な私の時間、今、心を語りなさいと言われて、そう感じます。貴重な時間でした。たくさん時間を経てきたことを感じます。

その中の自分、たくさん自分の今、私は、たくさん自分をみつめながら、この時間を過ごしているんですね。

少し心に響いてきました。

異語。

***さん、そうです。あなたもあなたに肉体を用意して、時間を用意しました。そして、学びに繋がりました。

学ぶ材料は、あなたの周りにたくさんあると思

ます。そして、意識の流れを文字にした本、それを繰り返し読み、そして、また瞑想をして、自分を振り返り、そういう時間に可能な限り使ってください。

自分を大切にするといいことは、そういうことです。あなた自身も、自分はなぜ生まれてきたのか、いつも、いつも、そのことを自分に問いかけながら、瞑想を続けていってください。

異語。

***さん、あなたの中にも、他力のエネルギーがたくさん詰まっています。どうぞ、誰その意識、そういうことは関係がありません。あなたの参考にしていってください。

みんなあなたの心、みんなあなたの世界、そのように、自分で感じる事ができれば、あなたも、自分の中を、もう少し、語る事ができると思います。自分の中を語っていくのは、自分です。他力のエネ

ルギー、他力の思いを、どうぞ、しっかりと見ていってください。

今回十年前に出していたいただいた意識に出会うことができ本当にありがとうございました。突然のメールにほんとはびっくりすると同時に心の底から嬉しさがこみ上げ涙が止まらなくなりました。十年前に出していたいただいた意識は私の中では遠い昔の記憶の中に葬り去られていました。それだけに十年前の意識に出会った時はながーい間彷徨い続けた自分を抱き締めることができました。その当時の自分はまだスタートラインにも立つてもない状態でしたので、出された意識に深く頷いた記憶が蘇よみがえってきました。今回の企画は意識の世界からのプレゼントを二度いただいた感じですよ。

何度も何度も読み返すうちに自分を語る事が出来なかった自分は今はどうなのかと自分に問うてみました。まだまだ真っ黒な私を出し切れてませんが、今は異語で自分を語れるようになったことに

気づきました。

メールをいただいた時、前の人の意識をみて、自分の意識だと間違い納得しながら読んでました。自分の意識も誰その意識もみんな同じ、みんな自分なんだと改めて思い十年前に出されたみんなの意識を読むのが楽しみです。

私の中には他力のエネルギー、他力の思いはまだまだいっぱい詰まっています、これが最後のメッセージでした。これからもしっかりと見ていきたい。ありがとうございます。



***さん、あなたの思いを語ってみてください。

この学びに繋がり嬉しく思っています。心を見て、瞑想をして、自分の間違いに自分で気付いていくことを教えていただきました。

私も、真つ暗な中で苦しみ喘いでいる意識として、今、このように、肉体を通してこの学びを知り、そして、自分の肉体をそちらの方向に使えることを、嬉しく思っています。

ああ間違っていました。心の中の凄まじいエネルギーを感じます。私は、このエネルギーの中に自分を押し込めてきました。自分を見失ってきました。今、そのように感じています。

異語。

***さん、はい、あなたもかつては、たくさ

んの人を導いてきたことがございます。心を間違った方向に使ってきました。そのような過去世もたくさんあると思います。

そんなあなたが、今世、お母さんから肉体をいただき、この学びに繋がって、自分の間違いに気付いていく計画を立てました。

どうぞ、素晴らしい自分だと掲げる思い、そんな自分の思いをもっと見ていってください。

心の中の暗闇、もっと、もっと見ていってください。お母さんの思いを心に感じ、そして、大きな間違いを繰り返してきた過去の時間を振り返り、今世、そして、これからの転生へと、自分を繋いでいってください。淡々と、その道を歩いていってください。

今、あなたが語ったように、この学びに繋がったことは、大きな喜びです。すべて、ご自分が計画されてきたことですけれども、その計画を可能な限り活用していってください。

それがあなたに対する優しさ、そう、自分に対する優しさです。

お母さんの温もりを心に感じれば、自分の計画が頓挫とんざすることはない、絶対にないことを、あなた自身が証明していただく。

十年ひと昔というけれど、あつという間の十年間でした。母から肉体をいただき、この学びに繋がりました。

自分の間違いに自分で気づいていくことを教えていただいたのに、私はその指し示す道を歩いてきたのだからかと振り返っています。

「私達は、肉ではありません。本当の姿は意識です」と何度も何度も伝えてもらってきたのに、それを信じるのができなかつたです。

素晴らしい自分、そびえたちの自分の思いをどれだけ見てきたのか、甘い甘い薄っぺらな見方しかしこなかつたように思います。

どこまでいっても肉、肉、肉でした。意識の転回は最大の課題です。お母さんの温もりを心に感じ、自分の計画が頓挫することなく歩いていきます。こ

の肉がある間に……何も変わらない私ですが、あれだけ闘いを挑いどんできた夫に対し、愛いとおしい思いが出てきます。

愛へ帰る道を信じて歩いていきます。UTAブツクさんありがとうございます。

130

***さん、なぜ、あなたは申し込みをするのを恐れてきたのでしょうか。

自分の間違いを見出せない私があります。何が間違ってきたのか、私は、まだよく分かりません。心の中を見ることをあまりしていません。

母親の反省は、少しずつやっています。しかし、それも、まだほんの僅ちひかです。自分の中にどんな思いがあつて、それが、なぜ間違っているのか、それを自分の前に示された時、私は、それに反発するだ

ろつと思えます。

何も間違っていない。正しく生きてきた。この自分の世界を崩していくことを恐れています。

私の中が矛盾むじゆんしているのを感じます。崩すのを恐れながら、それでもこうして申し込みをしました。心を語りたくないと思い、心を語っていきたくない思いが、同居しています。そんな自分を、今、感じています。

異語。

***さん、学びの時間が少ないあなたです。しかし、やれるところからやっていってください。

あなたの中にも、他力の世界がしっかりと、根を下ろしています。

他力の世界に心を向けてきたその思いが、あなたをがんじがらめにしている、このことが、あなたには分かりますか。

固かたまった感じですか。固い、固い殻からの中に、あなた

がいることを感じます。

心を語りなさい、あなたにそのように伝えました。しかしあなたは答えました。自分の心を語りたくない。今はまだ語りたくない、そのように、あなたの心は返してきました。

さて、何から始めればいいのか。

まずは、しっかりと本を読んでください。お母さんに生なまんでいただいで、せつかくこの学びに繋つながったあなたです。

自分の中にも、本当のことを自分に伝えていこうとする思いがあることを信じて、しっかりと本を読み、ひたすらに、使ってきた心を思い出して、書き出していってください。まずは、そこから始めてみてください。

奥さんに対して出してきた思いを見ていくことは、容易たやすいことでしょう。

そこから母の反省、他力の反省へ進んでいく、それも一手かもしれません。

最近のコロナ騒動でセミナーも地域の勉強会も中止になって、気の緩みゆるみがちな時にこのような課題をいただきありがとうございます。

忘れていましたので、懐かしくもあり、身の引き締まる思いで読み返しました。

確かに十年前の自分は鎧兜よろいのかぶとを纏まとってガチガチに固めて中身の無い自分を隠していましたので、田池先生に見破られ崩されることを恐れていました。

思いを向けて感じたこととは、……自分は十年という長い年月を振り返ってみて、時間をかけ、お金をかけて、果たして、それに見合うだけ真剣に学びをしてきただろうか、瞑想して微かな思いを感じられる程度で、学びをしている思いでいましたが、まだまだ真剣さが足りないことに気づかせていただきました。反省しきりです。

自分の肉の時間はあまりないと思いますが、瞑想して感じた微かな思いを信じて、田池先生の言われるようにお母さんに産んでいただいてこの学びに繋いでいただいたのですから、諦めあきらずに肉の時間の終

わるまで真摯しんしに真剣に学んでまいります。

131

***さん、念力パワーについて、語ってみてください。

私は、***です。己の偉い心に成り果てた自分の意識の世界を、念力パワーを求めてきた心の世界を、身を以って感じ、本当に肉というものは、ただの操り人形だということを、認めざるを得ません。中の命令に従って、肉は動いていく。それを、私自身は、体験してきました。原点を忘れた私の心の世界です。なぜ、母から生まれてきたのか、なぜ、この肉体をいただいたのか、何度も自分に問いました。あまりにも苦しかったからです。なぜ、私は、生まれてきたのか、なぜ、母は、私に肉体をくれたのか、己の偉い心で問いました。苦しみの淵ふちに沈んでい

た自分の心です。本当は、私は私に優しくしたかった。優しく、どこまでも優しく、自分自身を受け入れたかった。その思いが、母に届いて、私に肉体をくれたのですね。念力パワーでガチガチの時は、そういうことすら、全く、全く、思いもありませんでした。周りが冷たい仕打ちをする。私は、いつも、責任せきにんてんか転嫁の中で、苦しみ続けてきました。己偉い心の中では、本当の優しさとか、温もりだとか、そういうものは、全く響いてこない意識の世界を、はつきりと自分の中に感じています。

異語。

***さん、お母さんの温もりしかないことを、心でしっかりと知っていただくさい。念力パワーなど必要ありません。お母さんの温もりを心に感じられるあなたであるからです。お母さんの温もりを蹴け散ちらして、念力パ



ワーでは幸せにはなりません。本当の喜びは分かりません。

もう十二分に知識では、分かっておられると思います。あとは、いつ、それを自分の中で、そうだと
思い、素直にそのほうへ、心を向けていかれるか
けです。素直さ、一番大切なものです。素直という
ことが、どれだけ大切なことなのか、苦しい中でも、
ひたすらに母を思う瞑想です。

ブラックのエネルギーに引っ張られながらも、いえ、そうではない、そのエネルギーと決別する思
いは、本当の優しさ、本当の温もりを心で感じな
ければ分らないでしょう。

喜びが吹き上がってきます。愚かな
自分に出会い、それを修正していける
今がうれしいです。当時念力パワーを
素晴らしいと思い、自分の肉体がその
エネルギーで動かされているとも知ら
ずに、己を誇る心そのままに生きてい

た自分の間違いに気づけてうれいしいです。母の反省を真剣にすることにより、母の温もりで闇を包んでいけることを体験し、それを実践してきました。以前より田池先生は、「肉体はあなたではありません。本当のあなたは意識です、愛です、一つです」と言っておられました。今まさにそのことが、心の中で感じ、自分が愛だと信じていけることがうれいしいです。肉体を本物とする基準から、意識を本物とする基準へ、意識の転回をはか図り、この信を来世につなぐことによつて、来世アルバートと共に、次元移行をします。

地球に降り立った私の意識

母なる宇宙に心向けると、大きく広がり、私は愛という思いになった。アルバートと共に、私は自己確立の道を歩む。

田池留吉がさし示した道を、私は確実に歩む。私と共に愛の道を歩む者と共に手を携たずさえて、肉体生命

の終わるまで、そして未来へと続く道を歩む。

ありがとう、生まれてきてくれて、田池留吉に対する感謝と共に、私に肉体をくれた母が生まれたこと、そしてその母を生んでくれた人達、そして今生生まれてきた私にありがとうの思いでいっぱいだった。

道を間違え真つ黒にした人類の軌跡きせきが、生んでくれた人、生んでくれた人をたどった時、肉を持つためにこの地球に降り立った私の意識につながり、真つ黒が一瞬にして光に変わり、すべてが愛の中で行われていたのだなあと思った。

132

***さん、あなたは、どの程度、これまでセミナーに集ってこられましたか。そして、今、どの程度、この学びについて、田池留吉について、学んでおられますか。あなたに思いを向けた時、他力のエネルギーにびっしりと包まれていることを、感じ

ます。

どうぞ、その他力のエネルギーを、あなた自身、今、感じていってください。

異語。

母親など、私には必要なかった。母親など、私には必要なかったという思いを抱えて、私は、今世もまた生まれてきた。なのに、私は、この学びに繋がりました。母親の温もりを自分の中に思い起こす学びに繋がりました。

他力のエネルギーの中で苦しんできた私です。

何を求めても、その中では、全く幸せではありませんでした。

他力の神々に、どれだけ思いを向けても、私は地獄の奥底で苦しみ喘ぎ続けてきました。だから、今世、この学びに繋がらなかったのです。

他力のエネルギーは、すごいです。今、自分の中をこのように語ることが不思議なくらい、私は、そ

のエネルギーに押し潰されているような私を感じます。真つ黒な、真つ黒な世界にある私を感じます。

それでもなお、このように肉体をいただき、田池留吉という肉を知り、学びを知った私がいいます。そのことを、あなた自身知ってくださいと、今、語りせていただいております。

異語。

***さん、どうぞでしょうか。あなたの意識の世界、今、心でほんの少し感じられたと思います。どうぞ、母親の反省を進めていってください。

どんなにしても、生まれてきたかったあなたの思いに行き着くまで、あなたを生んでくださったお母さんに対して使った思いを、瞑想を通し、心に思い起こしてください。それしかありません。

今世を逃すことは、あなたにとって、とても厳しいでしょう。

それほど、あなたは、今世、生まれてきたかったし、

他力の中にある自分に、少しでも安らぎをという思いが強いと、私は、感じさせていただきました。

あなた自身の学びです。あなた自身のこれからの行く末を思い、どうぞ、素直になって、とにかく、母親の反省をして、田池留吉を思う瞑想をしていただきます。

あなたの現実、今、あなた自身が語られたように、他力の中にどっぷりです。その現実を、肉を通して、今、知ったあなたは、どのようにこれからの時間を過ごしていくか、それはあなたの選択です。

何はさておき、あなたの中の思いの必死さを感じてください。そうすれば、速やかに、すべきことはされると思います。

何も分かっていなかった。言葉を知っているだけでした。

田池留吉を思うと瞬時に、「なんだそりゃ」と返される。波風を立てないでくれとじっと固まっている中を感じた。

田池留吉を思えるようになると、決めるまでに、何年もかかった。

思うことが苦しかった。本当に、苦しかった。こうやっていけばいいのかなと自分の中で思えるようになるまでに二年かかった。

田池留吉を他力の神にしていることを認めていこうと思えるまでも何年もかかっている。

肉の中にいる自分を、今やっと感じた。間違ってきたことが分かりました。

肉を離すその時まで、「田池留吉を思ってください」と伝わってきたことをしていきます。

133

***さん、心を語ってみてください。

はい、心の中の思い、どんどんエネルギーとして感じられます。何をどう語っていいのかわかりませ

ん。ただただ私は、凄まじいエネルギーを蓄えてきたことを心に感じ、それが異語となって飛び出てきます。

心の中をじっくりと掘り下げるとは、まだまだ難しいです。

今は、まだまだ表面的なところで、自分のエネルギーに飲み込まれそうな私自身を感じています。ああ、これが、私はずっと培ってきた他力のエネルギーなんだ、そう思います。そのエネルギーに今まで飲み込まれてきたんだなあ、そんな感じがします。心の中を見るということを知らなかった私は、いつも、いつもそのエネルギーを自分で追い求め、そして、結局は、そのエネルギーの中に自分を沈めていった、そのような繰り返しですが、私の過去だった、そんな感じがします。

私は、心を感じる場合がございます。心に色々なものを感じます。心が、敏感なのだと思えます。本当に自分をしっかりと見つめていかなければ、私の今世もまた、自分を自分で狂わせていってしまうだ

ろう、そう思います。

だから、今世こそ、このようにして、ようやく学びに集えたのですね。

もう、学びの終わりの頃になって、私は、ようやく集えたのですね。でも、その時間に関係がないと思います。ようやく知ったこの学びを通して、私自身を見つめていくこと、自分の中の狂った意識に母の温もりを伝えていくこと、私には、そうすることが、自分が一番望んできたことだった、今、語りせていただいて、そのように心に響いてきます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に、田池留吉を呼ぶ時に、私の中は、何とも言えない感じを感ずります。向きたい思いと向きたくない思いとが、交錯する中

で、私の中は、荒れ狂っていることを感じます。

はい、……田池留吉、心をあなたに向けていきたい、今、自分の中で、その思いを感じました。

向きたくない思いもあるけれど、向きたいという思いを強く感じている私がございます。自分を真っ暗な中から救い出したい、その必死な思いを信じて、田池留吉に素直に心を向けていけるようにやってみます。

異語。

***さん、あなたの事情がどのようなものか、私には分かりませんが、できるならば、セミナー会場に集えるならば、可能な限り集ってきてください。あなたにとって、セミナー会場で瞑想をする機会を得ることが、大切なことだと感じます。

少ないチャンスだけれど、その少ない時間を、出来る限り、あなた自身のために使っていただくさい。セミナー会場で、真剣に、母を思い、田池留吉

を思い、そして、あなた自身が広げてきた他力の世界を知っていくこと、あなたの心で知っていくこと、それが、これからのあなたにとって、大きな足がかりとなるのではないのでしょうか。

自分の苦しい心をどうかしてくださいとか、そういうのではなくて、真剣に自分と向き合うということを学んでいく、そのような機会を、一回でも多く持っていたきたい、あなたを感じ、私は、そのように思いました。

UTAブックさんから十年前のメッセージをメールでいただいたのは、私がもう一度学びの原点に戻ろうとお母さんの反省を始めた三日目のことでした。コロナ禍で自分の肉の世界がどんどん崩れていく中で、私は学びに肉の安泰あんたいを求めていた、他力そのものだったと痛感し、学びに集ってきた十二年間、私は何も自分に伝えていない、何一つ学んでいない現実がありました。メールをいただいて、反省の機会をこうして与えてもらえること、素直に嬉しいと

思いました。ありがとうございます。

「私は（***）の意識です。欲、欲、欲いっぱいで学んできました。苦しい私を何とかしてくれ、田池留吉、私を幸せにしてくれと他力そのままに年月を重ねてまいりました。私は学びに集ってからも滅茶苦茶なエネルギーをまき散らしてきました。どこまでも偉かったです。我こそ素晴らしいと己一番の世界を崩すことなく私は集ってまいりました。自分なりに心を見て瞑想反省してきたつもりです。しかし心を全く見ていなかった、他力の世界と真向かいになってこなかった、他力すっぱりの中で学んできた、はい、私は今、自分をそのように感じます。

無心になってお母さんの反省を1から始めました。新鮮でした。母の優しさが溢れてきました。母にも



散々、無茶苦茶なエネルギーをまき散らしてきました。しかし、世界でたった一人、母だけがどうしようもない私を受け入れ続けてくれた。"どんなあなたでも私はあなたを愛しています。信じて待ち続けています" 反省の中で母の思いとともに肉体を懇願してきた自分の思いに触れました。"お母さん、生んでくださるだけでいいんです、肉をいただけるだけでいいんです、自分を救っていきたいんです、お母さん、どうか肉を" 真つ暗闇の中で必死に叫んでいた。

田池留吉に出逢っても、その約束を全部踏みつけて裏切ってきた自分の冷たさ、愚かさ、ああ本当にどうしようもない、救いようもない卑劣な自分を感じました。自分の何が素晴らしいと思ってきたのか、本当に馬鹿げていました。

私の中に生きている無数の意識に真

実を伝えていくことが私の生きる道でした。修正で
きる時間をいただいている今、かけがえのない貴重
な時間。こんな私にも託してくれている無数の自分
を感じます。私は一人じゃなかった。たくさんの中
間といつものにもあった。田池留吉、申し訳ござい
ません。骨の髄^{ずい}まで染^しみ込んだ他力の世界、暗黒の
宇宙に心を向けていきます。私の中に生きている無
数の意識のためにこの肉を使っていきたい、今、私
はようやくそのような思いでいます。」

134

***さん、あなたは、セミナーに参加されて、
どれだけ自分のエネルギーを、その肉体を通して感
じてきましたか。現象の時間に参加されてどうでし
たでしょうか。

学びは古くても、その体験^{たけん}があまりないのではな
いでしょうか。

古くから学んでいる人達は、セミナー会場で、思
う存分自分のエネルギーを出すという機会に恵まれ
てきました。言ってみれば、それが学びの時間の長
い人達の幸せな点だったのです。

肉の事情があると思います。来たくても、セミナー
参加が思うようにはできなかったということもある
でしょう。

しかし、そこで感じた人ならば分かります。みん
な、必死なんです。一生懸命なんです。自分と真向
かいになることは難しいと分かりつつ、セミナーの
現象の時間を大切に学んでこられたと思います。

そのような二泊三日のセミナーが、数にしてみれ
ば、三百回以上開催されてきたことは、あなたもご
存知だと思えます。それでも、現実はこのコーナー
でも、お分かりのように、なかなかです。

この現実を踏まえて、さて、あなたの学びに対す
る姿勢はということでしょう。

しかし、だからといって、あなたは、あなたの学
びを捨てることはできません。あなたが、そこに、今、

肉体を持っている以上、そして、この学びを肉で知った以上、あなたは、この学びをしていかなければならないのです。

なぜならば、あなたも、自分を変えるために、自分に本当のことを伝えたいために、今世、生まれてきたからです。そして、学びに繋がっているのです。そこところを、もう一度、自分に問い直していただきます。本当に自分が生まれ変わりたいならば、真剣に自分を見つめていくことができるはずだと思います。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中を覗くことを、私はしておりません。表面だけをなぞった反省と瞑想です。

母親に使った心も、自分では見ているつもりですが、なかなかお母さん、ありがとうと言えるほど、深くは見ておりません。肉の母に対する思い、色々出てきます。もちろん、その中で、お母さんありがとうという思いも出てきます。だけど、私は、心の底の、底の、底のほうから、生まれてきてよかった、お母さん、ありがとう、そんな自分とまだ出会っておりません。すべては、他力のエネルギーに自分を任せてきたからです。他力のエネルギーの分厚さを感じているものの、そのすごさを、まだまだ自分で掘り下げていないことを感じます。

田池留吉を見ることができません。田池留吉は、真っ直ぐ私を見てくれます。だけど、私は、田池留吉を見ることができない。これが私の現状です。こうやって語れることを、今、ふっと、嬉しいなあと思います。こんなにしてまで、私は、私を語りたかったんだ、そんな私を、私が押さえ込んできた中に、深く、押し込めてきた、今、私は、それを感じ、少し、自分にすまないという思いを感じます。

田池留吉、自分で心を見ていく以外にないことを、今、確認しております。

十年前の意識を振り返り、現状を検証するチャンスをいただきありがとうございます。

十年前、既に長い時間学びに触れていたにも拘らず上辺だけの反省、瞑想に終始し肉主体の生活に明け暮れていました。

それから十年の今日までいろんなことがあり、幾度と無く心を真剣に見ることを促されてきました。もう事ここに至っては学びに真剣に取り組んでいくほか自分に本当のことを伝える術がないと確信しています。

最近やつと瞑想を日々の習慣に取り込んでいくようになってきました。とは言え自分の中に押し



込められたエネルギーを解放し抱きしめることは出来てはおりません。

残された時間、肉のことは程々にして、心を見る作業をコツコツと積み重ねていきたいと思えます。

135

***さん、そうですね、あなたはとても敏感です。しかし、端的に言えば、あなたはあなたに冷たいんです。素直になっていってください。敏感な中を、もっと優しく見つめていってください。

では、あなたのその敏感な意識の世界に思いを向けてみましょう。

異語。

私は、***の意識でございます。心の中に培ってきた他力の神々に対する思いは、とても、

すごいものがございます。

田池留吉、何する者ぞ。なぜ、今、私は、田池留吉の前にこのようにして、心を語らねばならないのだ。こんなに苦しいではないか。田池留吉の目を見て瞑想することなどしてはならぬ。真つ暗な、真つ暗な世界を、お前は、まだまだ知らない。心を向けるな、田池留吉に心を向けるな、向けるでない。お前を破滅はめつさせてやるぞ。

今、私の中の他力のエネルギーの思いを聞かせていただきました。心に向けるな、心に向けるな、そのように語っていました。私は、どうすればいいのでしょうか。

このように私に伝えてくる意識達がございます。恐怖でございました。狂うのではないか、そんな恐怖を抱えながら、それでも、私は、自分の中のエネルギーが、自然に出ていってしまいます。田池留吉の姿を見ると、目を見ると、自分の中からエネルギーが飛び出していく、そんな体験を、セミナー会場で

させていただいています。

私は私に冷たい。そのところが私には、よく分かりません。このようにエネルギーを感じているけれども、今ひとつ、そこから踏み出せないのは、そういうことだったのでしょうか。

異語。

***さん、あなたの現実を、しっかりと心で知ってください。

破滅させてやるぞと脅おどしてくるのもあなた自身です。あなたなんです。あなたがあなたに伝えている思い、その思いを心に感じて、あなたは、恐怖する思いが広がっていると思います。

そうではありません。確かに、あなたの中は狂っています。それは、あなたの中が、母の温もりを忘れ去った状態だからです。お母さんの温もりを思い出す、お母さんの温もりにも少しでも触れていけば、その恐怖の思いは、たちどころに小さくなり、そし

て、消えていきます。

自分に自分が優しくなるということは、頭では理解できません。自分に優しくしようとしても、頭、つまり肉ではできないのです。

今、狂い続けてきたあなたの過去すべてが、一斉に、声を上げていると思ってください。

それを承知で、あなたは、この学びに繋がりました。学びに繋がりが、セミナー会場にあればどうなるのか、あなたは、分かっていたはずです。他力のエネルギーはすごいけれど、そのエネルギーがあればこそ、自分を真実の道へ繋ぐことができるのです。そのところを、あなた自身、しっかりと、お勉強なさってください。

難しいことは要りません。お母さんに使ってきた思いを、繰り返し確認し、そして、母を思う瞑想をする、ただそれだけです。

その作業は、地道な作業でしょう。肉では、こんなことをして、いったいどうなるのかと思うかもできません。しかし、その作業を重ねていけば、必ず、

自分の中から、悲痛なる叫びが聞こえてきます。それは、脅しなどというそんな低次元のものではなく、そんなものをはるかに超えた心の叫びです。そこに行き着くまで、お母さんの反省を繰り返し、狂った自分の意識に思いを向けていってください。

自分の心の叫びを聞く、これこそ自分に優しいということなのです。

「あなたの意識です」十年前、後の思いの投稿メールを頂いたその晩は眠らせてくれませんでした。長年学んでこそ言える「あなたの意識です」の内容は、まさに私にとっては「天変地異」でした。学びと出会ってから、自分を取り巻く環境は段々よくなってきて、もうセミナー参加が楽しみ、そして、毎日お風呂で二〇分くらい、「愛と死の真実」をアイポッドで聴いていたところ、突然、涙、涙の洪水、号泣したことを覚えています。

一方で同じ頃、学びの流れで、すでに「あなたの意識です」にメールを送信してしまっていた。すぐ

にそのメールの返信を止めたい思いに駆^かられたが、連絡先が分からない。その送信の動機が、口封じ、反発の思いだった。母親の温もりを知っていない状態なのに、あまりにも無知で、無鉄砲で、軽率でした。

一週間後くらいに返信されてきた自分の「意識」は、目をふさぎなくなるような結果で、手を震^{ふる}わせながら、瞬時にパソコンを閉じ、自分の間、完全に封印、見ることができなかつた。それから、お母さんの反省をしなさいと、脅^{おど}してくるので母の反省を続ける。宇宙に向ける瞑想はしないようにとあったので、瞑想1〜瞑想3のCDを聴きながら日々瞑想。自分が敏感であると自覚し始めた頃で、家に向かうため、自転車に乗りかけたところ地面が上下に揺れてきて、なにこれ？と、必死にハンドルしがみつきなから、家にたどり着く。もう、恐怖の中から、すぐに田池先生の琵琶湖セミナーのDVDを流しながら、何かせねばと、台所の棚の掃除にかかる。すると、何年も前にこぼしたであろうコーヒーの固まりがあり、それをひたすらに拭^ふいて、拭いて、最後

のシミが取れたとき、気持ちがスーッとよくなって、私にかえった。ほっとした気分になりました。三十分以上はかかった感覚だった。恐怖でした。狂^{くる}っている自分がいた。

そして十年後の今、「あなたの意識です」のメッセージがどんなに優しく、丁寧に導いてくれていた事、改めて思い知らされました。最近の私は、日々の「UTAの輪の中とともに学ぼう」で配信されてくるメッセージ、学びの友からのメール等々に、「心はひとつ」だと、うれし涙、涙です。瞑想が楽しくなってきました。本当にやっと、やっとの思いで漕^こぎつけた感があり、波動とひとつに溶^とけ込んでいる幸せを感じて



東京国際フォーラム

います。

最後に、U T Aブック様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。三十年の足跡の資料等々、本当にありがとうございます。

136

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私の心は行き詰っています。学びをして、心が敏感になって、自分のエネルギーを心で感じることは感じられけど、それから先、私は、どん詰まりです。どうにもこうにも、八方塞の今の状態です。

ここをどう切り抜ければいいのか、ここからどう脱出すればいいのか、私は、よく分かりません。頭を動かしていると言われれば、それまでです。

しかし、それよりも自分の中の思い、エネルギー、その厚い壁が、本当に私を小さな、小さな世界に閉

じ込めている、それが、もう窮屈きゆうくつで、窮屈で仕方ありません。

どれだけエネルギーを感じようとも、どれだけ、田池ばかりうと歯向かっていっても、私のこの心の中に、すっきりとした青空が広がってこない。

開けた世界が見えてこない。今、私は、そんな状態です。

異語。

***さん、あなたは、自分の思いを、今、語りました。

要するに、あなたは、母親の反省ができていないんです。母親の温もりを感じていない。それに尽きます。

お母さんの温もり、本当にお母さんの温もりを感じてごらん下さい。そんなものは、もうたちどころに消えてなくなります。

あなたが今世、肉を持ったのは、お母さんの反省

をするためです。お母さんの温もりをその心に、しっかりと思い起こすためです。

そのために、肉を持ったのです。それ以外は、どうでもいいことなんです。しかし、あなたは、そのどうでもいいことを、まだまだ、しっかりと握にぎっています。

肉の幸せを求めながら、ということですが、まさにその通りです。

肉の幸せを求めながら、この学びは、一切できません。

心を静かに、そして、もっと自分に真摯しんしに向き合ってください。

お母さんの反省が進んでいないこと、すなわち、アマテラスがあなたの中に、しっかりと鎮座ちんざしていることをお伝えします。

十年前を思い起こし、形ばかりの母親の反省、正しい瞑想、全く何もしていなかったと愕然がくぜんとしていきます。

当時「かんぼう」から発行された「意識の流れ」や「ありがとう」の本を読み返し、夫婦でセミナーに出席して、それで勉強した気になっていました。「頭で理解した事をあなたの心でわかる」というメッセージを頂いていたのに、「心でわかる」ということが全くわかっていなかった。

「母親の温もり」とは肉の優しさと思い込んで、優しくするように努めていた、でも、それは自分ではなく周りの人に対してという事。心は外に向いていた。だから結局は無駄骨だった。

今の自分を見た時、意識の転回という点からは殆ど何も進んでいない。相変わらず肉肉の生活、でもこの勉強に対する姿勢は、少しずつ変わっているのを感じる。

意識的に母親の反省、正しい瞑想を毎日行う。瞬間田池留吉に思いを向ける、心を内に向ける、愛の文字を見る。

それを続けていると、時折フツと心に響く事がある。

相手と激しく言い争った後しばらくして、この現象は僕に必要な事、相手は教材、という思いが自然に上がってくる。

自分を良く見せようと押さえる事が少なくなった分、一瞬出る怒りは以前にも増したところもあるが、自分は正しい、出来ているという思いは、僅かずつではあるが小さくなっていると感じる。

少しでも前に進みたいと気張っても仕方ない、「あせらず、たゆまず、たんたん」とを大事にしている毎日である。

でも、「何のために生まれてきたかがわかれば命がけで向き合うでしょう」という点が欠如けつじょしている今、諸刃もろはの剣さきでもある。

一生懸命努力して目標を達成する人生を生きてきたこの身にとつては、非常に難しい学びではあるが、「何のために生まれてきたのか」が心でわかれば、一瞬にして氷解するのだろうと思います。

塩川さんの現象や瞑想の強力なサポートを受けながら、ようやく本気で学びを続けていけると思える

昨今です。
自分を見つめなおす、このような機会を頂きまして、ありがとうございます。



一番好きな写真、僕の亡くなった父と次女と孫娘の温かい光景です。(10年前)

***さん、あなたのこの学びに対する思いを語ってみてください。

学びに出会ったことを、本当にありがたいものだと思います。他力のエネルギーを蓄たくわえてきて私には、学びは、とても難しいですが、でも、この学びに出会えなかったら、私は、どうなっていたか分かりません。見当がつかないです。

肉の喜びと幸せ、そのことばかりに心に向けてきた転生でございました。今世も、その延長線上にある自分ですが、少なくとも、私の今の時間、自分の心を見るということ、そして、お母さんを思う瞑想をすること、田池留吉を思う瞑想をすること、それを伝えていただきました。

学びを振り返り、他力のエネルギーの中で、私は狂い続けてきた自分を感じています。今世もまた、その中にあった自分でした。どれだけ学びに集って

も、私の中は、依然いぜんとして他力のエネルギーを蓄えた状態のままが、ずっと続きました。今、この時期になって、自分の中が、何かしらそういうことが、はつきりと感じられるようになってきました。他力の心のままの私でした。たくさんものを心に詰め込んできた私です。幸せを感じるため、喜びを感じるため、何かに頼たのってきた私です。

自分の中からひとつ、ひとつ、離していくこと、解とき放はなしていくこと、つかんできたものを離していくこと、それを、私は、これからの時間をかけて、自分なりに学んでいきたいと思っています。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉……、田池留吉に心向ける時、ああ、本当に、私は、何も分かっていなかったんだなあ、心にそう、響いてきます。

心が何かを感じても、それを自分の修正に活用しなければ、何もならないことを、私は、今、しみじみと感じています。

他力のエネルギーを求める心の底に、寂しい思いがしっかりとありました。

寂しい、寂しい私を、しっかりと見つめてまいります。何も求めず、ただ、自分を見つめていくこと、心の寂しさ、寂しさの中にあつた私自身を、しっかりと見つめていこうと、今、思っています。

ありがとうございます。

田池先生からのプレゼント、十年前の私からのメッセージ、確かに受け取りました。

他力と言われてもあの時は本当に何もわかっていませんでした。

それでもメッセージの中で、「ひ



とつひとつ離れていくことを自分なりに学んでいきます」と言っている自分がそこにいてくれて嬉しかったです。

十年経^たっても自分なりだからまだまだ浅いところにはいますが、今振り返れば、ともがいたからこそままでこられた。特にここ半年はほぼ毎朝、友との瞑想の時間をいただき、水平の同心円上にある自分を感じています。

今度は十年後の私へ、「二五〇年後の出会いを目指して、ただひたすらまっすぐに歩いていきます。ともと共に、喜びながら」とメッセージを贈ります。

がんばれ!! 私。

***さん、あなたの心を語ってみてください。心の苦しさを奥に押し込んで、私は、自分を偽って生きてまいりました。そのことがとても苦しいです。自分の中の苦しみと真向かいになれない自分を感じるとき、それが私には一番辛いことです。

反省をして、瞑想を続けてきましたが、自分の中に、もう一歩足を踏み込めない私自身を、今、感じています。

この学びは、確かに自分に色々な気付きを与えてくれました。

セミナーに集い、自分のエネルギーを感じさせていただいた時もございました。しかし、私は、やはり、この肉、肉の生活、肉の家族、肉としての自分の思いを、どうしても心から離すことができません。苦しいのです。どれだけ自分のエネルギーを感じようが、反省と瞑想を繰り返しても、自分の本当に思う通りに歩めないということが、何とも歯

がゆい今を感じます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

***の意識でございます。田池留吉、心の底から田池留吉に出会いたかった。本当の私、お母さんの温もりに出会いたかった。私も、今、感じます。どれだけ肉にまみれて、どれだけ心を落としても、私は私に出会いたい。だから、今世、このように生まれてきました。

学びを知ったけれど、学んでいく環境は厳しく、学びを遠くに感じたことも、度々ありました。しかし、私は、どうしても、この学びから離れることはできません。心の中の苦しさが突き上がってくるからです。誤魔化しても、押し込めても、心の中のエネルギーは突き上がってきます。

田池留吉、ああ、もっと、もっと、自分を軽く解き放はなしていきたいです。エネルギーのすごさを感じます。ああ、私は、温もりに帰りたかった思いを、今、感じさせていただいています。

異語。

***さん、あなたの中の思いを聞いて、どうでしょうか。

人には、それぞれの歩み方があると思います。あなたには、もちろん、肉の生活があるから、この学び一筋には……という今のあなたの現実があると思います。それでも、あなたの中の思いを、どうぞ、しっかりと、心で確認していただくさい。

あなたも、また強い決意を持って、この世に生まれ出てこられたことを、私は感じます。そして、これからの転生の中で、自分の計画があることもあなたの意識は、言ってきていると思います。

焦あせらずに、一歩、一歩、地道な作業かもしれませ

んが、反省と瞑想を繰り返していただくさい。中の必死な思い、どうぞ、心にしっかりと受けていただくさい。

異語。

お母さん、申し訳ございません。こんな私に肉体をいただいたことを、今、少しずつですが、嬉しく思える自分があります。

学びにもう一歩足を踏み出せないのは、肉をつかんでいるからだ、自分で思っています。私の今の思いは、とても必死なことを、今、感じます。肉をつかんでいる思いが苦しいと私に伝えてきます。

しかし、私は、この肉の生活を放棄ほうきするわけにはいきません。

この中で、私自身を見つめる、エネルギーを感じていく、私は、苦しみながらも迷いながらも、必死で自分を見つめていこうとしています。

この学びしかないという思いが、私の中には、しっ

かりとあります。

生活の安泰、金を稼ぐこと、家族の喜びと幸せ、自分の欲を満たすこと、どれもこれも、本当はどうでもいいようなことですが、私は、その中において、自分に計画してきた道筋を歩いてまいります。

そびえ立ってきた自分を見つめ、そのエネルギーのすごさを見つめ、これからもやっていくと思いません。心を、田池留吉に向けること、本当の自分に向けること、それを自分の中で確認するために、私は、この申し込みをさせていただきました。肉の私がつもっているよりも、中は、必死だし、真剣だし、真面目だと思えます。

お母さん、この学びに繋がって、自分を少しでも見つめることができる今を、喜んでいきます。

母の温もりによって、私が今、ここにあることを、心の底から感じられる日がくるまで、自分を見つめてまいります。

苦しみは今でも相変わらず自分の中から訴えて

くる。仕事をしていた時は、仕事に障らない様に酒や仕事や娯楽などで苦しみを抑え込んで日常を過ごし、帰宅後と週末に反省の時間で苦しみを反省文に書き出して肉の平静を保つ努力をしてはいたけど、書き出すだけだった。お母さんの温もりもしっかりと分かっていないから、一番大事な反転の作業はできず、心をそのまま放置してきた。一方で僕は、肉の思いを広げる自由を奪われたくなかった。この学びをすれば「自分の肉の思いを広げる事ができなくなる。心の自由を奪われる」と思った。表面では「この学びを最優先している」と思っていたけど、自分の中では、唯一自由にできる世界⇨肉の思いの世界を奪われない様に、この学びに抵抗していた。反省と瞑想を形だけやっても、自分の心と真正面から向き合って、それを変えていく事は避けていた。肉の思いの中では、僕は全てを支配する神であって、その支配を奪われる事は絶対に嫌で、必死で抵抗してきた。学びをしているつもりだったけど、何一つ心を見ず、自分を変えようとせず、肉の思いを頑なに

守っていただけだった。最初は苦しい事にも気づかず、肉を最優先する事を当然の事としてやっていた。学んでいくうちに苦しみを強く感じる様になった。肉の繁栄と喜びを追い求めて、自分が生まれた時から抱え持ってきた苦しさを省みない時間を積み重ねてきたけど、中の苦しみは限界に達して、夜に寝ている時



の苦しみが自分だとは思えなかった。自分とはこの肉で、この肉にとってマインスである苦しみは敵だと思い、戦う思いさえ出していた。

今も苦しみを忌み嫌う思いを引きずっている。退職して社会的な顔を整える必要がなくなると、夜寝ている時に苦しい自分の思いがどんどん訴えてきて、その思いと向き合わざるを得なくなかった。最初はそれが苦痛だった。肉で何とか苦しみを消し去ろうとしたけどできなかった。

夜中に訳も分からず苦しくて眠れない夜を過ごしたりする事が多くなった。それでも仕事をしていた時は、肉の形を整える事が最優先で、心の中の苦しみに思いを向ける事は避けて、力づくで肉を整えた。学びでは、自分の苦しみと向き合う事を教えてもらったけど、僕は自分の苦しみから逃げ回って、苦しみを無視し、消し去ろうとする思いを使ってきた。自分の中の苦しみを「訳の分からない災厄」として忌み嫌い、その苦しみと戦う思いを出していた。そ

時間の余裕ができて、妻と毎日瞑想の時間を持つ中で、お母さんの温もりと田池留吉に思いを向けて、どんな下らない自分も全て受け入れられていたと思えるようになった。今まで否定して切り捨ててきた苦しい自分を、少しずつ受け入れる優しい思いを出していける様になってきた。苦しい思いを優しい思いで受け入れて、苦しみが一瞬でお母さんと叫んで喜びに変わって消えていく事もあった。今まで戦っ

て消し去ろうとしてきた苦しみに「一緒に帰ろうね」と思いを向ける事が少しづつできるようになった。これを受けて自己供養を進めていこうと今は思っている。

139

***さん、あなたの心を語ってみてください。

他力のエネルギーがとても強いです。他力をやってきました。他力の中に沈んでいる私を感じます。

他力に沈んできた私が、このようにして、真実の道に繋がる学びを知ったことを喜んでいきます。しかし、喜ぶといっても、私には、まだまだ難しいです。今、自分の心を語る時、本当に私は、他力の中に沈んできた私だったなあと、しみじみそう感じます。

他力一色でした。そのエネルギーの強さ、そのエネルギーの凄まじさ、今、私は、日常の中で感じて

います。

この中から、私は、今の肉体をいただきました。母親に使ってきた心を感じる時、それは、一も二もなく、温もりに歯向かってきた私の凄まじいエネルギーを感じるだけです。

自分を見つめていこうとする思いと、自分に反逆していく思いとが、交錯している、そんな中に私は存在しています。

***さん、田池留吉……と心で呼ぶことができますか。

異語。

田池留吉、心で呼ぶことができません。肉は、心を向けよう、向けようとしています。しかし、私の中は、とても、苦しいです。田池留吉に心を向けると、とても苦しい自分を感じ、もう心を向けたくない、向けたくない、目を逸らす私があります。

自分の暗闇の世界を心に感じる事が、とても恐怖です。あまりにもすごいエネルギーで、何とも言葉が出てきません。本当に、今、心に感じている私の世界からすれば、私がやってきたつもりも反省も瞑想も、ほんの微々たるものだった、そう感じます。自分を殆ど知らないと書いてもいいような世界を、私は、心に感じています。

「これがあなたの世界ですよ。それでもまだほんの一部なんです。この奥には、もっと、もっと、暗黒の世界が広がっているんですよ」。そのように、田池留吉が伝えてくれているような気がします。

異語。

***さん、あなたに限らず、現状は、大変厳しいと思います。意識の世界は、そう簡単に変わっていくはずはないんです。しかし、そのことを、今世、肉体を持って知ったということだけでも、大きな成果ではないでしょうか。あなたは、そのように

思えますか。

あなたの中にも、底知れぬ他力のエネルギーが渦巻いていて、やはり、この学びも、田池留吉も、本当に甘くとらえているような気がします。心の中に培ってきた世界を殆ど知らない、そんなあなたの現実を、これからの転生の中で知っていただく。

い。どんなに厳しくて険しい道のりでも、あなたは、あなたを捨てることはできません。見限ることもできません。いずれ、あなたは、あなたをしつかりと受け止めていく時がやって来ます。あなたの中で、他力の世界が音を立てて崩れていく時を、喜びで迎えていってください。そうなるかどうかは、あなた次第です。どうぞ、今世の時間を大切になさってください。

学びに繋がっていても変わっていないと感じてます。自分の闇を救っていく手立てを伝えてもらってもやってない。十年前は体も健康だったので、肉体

細胞に感謝する事もなくすべてを牛耳^{ぎゅうじ}ってきた。今、現在日常生活に支障^{ししょう}を感じ肉^{にく}体細胞からの促^{うなが}しをうけています。先生から伝えていただいた私の意識、今までに何度か思い出していましたが、受けとめる事をしてこなかったな。肉を優先している自分を感^かじています。後、僅^{わず}かな肉の時間を田池留吉に心^{こころ}を向けて学んでいきます。

140

***さん、あなたの心を語ってみてください。

苦しい年月を過ごしてきました。心を見る事ができませんでした。ただただ自分の苦しみの中に、私は溺^{おぼ}れていただけです。

どんなにそびえ立っていたことか、自分の意識の世界を感じた時、私は、自分のそびえ立ちを認めざるを得ません。

田池留吉に悉く反発してきました。いいえ、他力の思いで縋^{すが}つてきたのです。そして、それが叶^{かな}わないと分かった時、この心から出る思いは、憎^{にく}しみ、呪^{のろ}いの思いしかありませんでした。

全く他力の心そのまま、私は、この学びに集^あっておりまして。

異語。

***さん、お母さんと心に呼んでみてください。

異語。

お母さん、心の中に母親を蹴^け散^ちらす思いを感じてきました。どうしても、私が上でした。どんなに言われても、私が母の上を行っておりまして。

心から、お母さんを思い、母にありがとうの思いを向けることをしてきませんでした。

今、お母さんと呼んでみて、本当に真^まつ黒^{くろ}な私だっ

たことを感じます。

しかし、私にもゼロ歳の頃があったのです。その私の心を、これから思い出してまいります。

母との繋がりを、自分の中で心から喜べるような私になっていきたい、今、母を思い、そう感じました。

***さん、田池です。自分を大切になさって
いってください。

これからの時間、どうぞ、自分をしっかりと見つめていってください。

私はこのメッセージを軽く受け止めて、真摯しんしに言われたことを実践し
てきませんでした。

それだけ己がえらく尊そびえ立っている
たと今ようやくよく分かります。

本当の自分からのメッセージを馬鹿あしげにして足蹴あしげにして……己えらいままの人生を過ごしてしまいました。



砂浜に作られたイルカさん

何を学んでいたのでしょうか？何も学んでいなかった……。

今回のUTAブックさんの企画を通して……もう一度自分を振り返るチャンス、もう一度学びをやり直すチャンスをいただきました。十年前頂いた自分へのメッセージをしっかりと心の中に収めて……これからの残された日々を生きていきます。嬉しい、ありがとう……の思いで今世の肉体を置いていけるように。

甘い、甘い、甘い……この学びの掘とらえ方が全く分かっていなかった……今それをひしひしと感じます。

自分を大切に、自分をしっかりと見つめていきます。ありがとうございます。

心からお母さんありがとう……と言
える自分に帰ります。

****さん、心を語ってみてください。

****でございます。私も、今世だけでも、数々の体験をさせていただきました。肉での体験を通して、自分のエネルギーを知る、そのような道筋みちすじを歩いてまいりました。これからも、そうです。私には、これからの転生が待っています。そうです、なお厳しい転生が待っているけれども、心を感じた嬉しさ、喜び、この思いを膨らませて、私もやってみいります。お母さん、ありがとうございます。

****さん、今、あなたは、心で語られたように、そう、あなたの意識は、そのことをすでに知っています。厳しい転生も待っているけれども、大きな喜びも待っていることを、知っています。どうぞ、心を繋いでいってください。

出会いを待っています。二五〇年後を待っています。

す。心を繋いでいくあなたにとって、私達は、喜びを伝えます。

****さん、UFOに思いを向けてみましょう。そう、UFOに思いを向けてみてください。

異語。

はい、UFO、UFO、UFO、嬉しいですよ。UFO達、今、嬉しいですよ。嬉しい思い、懐かしい思い、暗い思い、寂しい思い、そう色々な思いをUFO達が伝えてくれる。この思いを心に感じながら、ともに、ともに学んでまいります。心からありがとうございます。UFO達よ、ありがとうございます。

二〇〇九年十一月、二〇一一年一月に頂きました。あれから十年程経って、振り返ってみると様々なことを体験させていただきました。私にとっては、貴重な嬉しい体験でしたが、主人との別れは、悲しくもあり、有難うの思いばかりで、主人の存在が私に

とつていかに大切だったかよく分らせていただきました。

あなたの意識ではありませんかを読ませていただいて、本当に素直に喜びました。今世の私のシナリオは、とても厳しいとそれまで、思っていました。が、決してそうではなく、至れり尽くせりの人生だと強く確信しました。本当に真実を若い時から知りたいたと求めてきましたので、田池留吉氏に出会うことは、私にとって、必然でした。だから、本当に命を懸けて、必死で、お母さんに肉をくださいとお願ひして生まれさせていただきました。田池留吉の意識にすべてを託していけば、心を苦しめることもなく、心配することもなくスムーズに物事が運ぶことを学びました。日々田池留吉を思い、瞑想し、本当の自分の導きに委ねていけば、心の中から喜びとありがたうの思いが溢れてきます。

二〇〇三年、二〇〇六年の波動の勉強の体験、あなたの意識ではありませんか私の宝です。今世本当に生まれてこれて、田池留吉の意識に出会えて、

最高に幸せな人生です。日々、一人の生き方ができても幸せです。自分と語れることで、私は一人ではないことを知りました。意識の流れに委ねていきます。それが、私の喜びです。

本当に全てに有難うです。

142

***さん、今のあなたの状況を、どのように感じていますか。

学んできたつもりでした。でも私の心の中から出てくる思いは、すさまじい思いです。どんなに心を見よう、お母さんに、田池留吉に心を向けようとしても、このすさまじいエネルギーが上を行っている、覆いかぶさっていくような私の心の世界だと、感じています。

今の私の状況は、とても苦しいです。でも、苦し

いからと行って、この学びから離れていくわけには
いきません。

なぜならば、私は、自分の心を見るために生まれ
てきた、それは、はっきりと感じるからです。苦し
いけれどもやっていくしかありません。今、私は、
そのように思っています。

***さん、どうぞ、心を田池留吉に向けてみ
ましょう。

異語。

田池留吉、田池留吉、お母さん、間違ってきた自
分の思いが心に感じられます。
苦しいけれど嬉しい、苦しいけ
れど嬉しい、間違ってきた自分
が嬉しい、今、そのように思い
ます。お母さん、私は、この自
分の心を見てまいります。この



中で、自分の心を見てまいります。

***さん、あなたの娘さんに、どうぞ、心を
向けてみてください。

異語。

お母さん、私は、あなたから生まれてきて、そして、
この学びに集わせていただきました。私は、ここか
ら学んでまいります。お母さん、私は、心を見るた
めに生まれてきました。お母さんから生まれてきま
した。お母さんやお父さんの思いを、心に感じます。
ああでも、それは、私の勉強でございます。心を見
てまいります。これからの私の
人生、肉の時間の中で、心を見
てまいります。

異語。

今もこの時の心の状態を覚えています。

私は自分の中から苦しい心が出てきてもそれを優しい思いで包んであげられることを知りませんでした。

自分で自分の心を包んであげられる、こっただよと心の針の向け先を変えていこうと出来ることを知らないままずっと学びをしてきました。

十年たった今、苦しいと叫んでいる自分を包んであげられるのはお母さんの温もりしかないんだと思います。

お母さんの反省、お母さんの温もりを知る、感じられることが本当に大切なんだとやっと思えるようになりました。

今まで田池先生にお母さんの温もりを知るということが大切なんだと何度教えられていても軽く軽く捉えていました。

お母さんの温もり本当に大切に大切なんだと思います。

143

***さん、あなたの中のアマテラスに心を向けてみてください。

心の中に作ってきたアマテラスの世界、はい、凄まじいエネルギーを感じます。私は、その中でそびえ立ってきました。アマテラスとともに己を見よ、私は、アマテラスの下にそびえ立ってきました。

今、思いを語る時、アマテラスの心は、とても冷たいことを感じます。

ああ、それは、私でした。アマテラスそのものでした。私の心は、とても冷たかった。アマテラスの冷たさは、私でした。今、そのことを感じます。

私の中のアマテラス、まだまだ苦しいです。そして、心をアマテラスに向けてみなさい、そう伝わった時、私は、自分の冷たさを感じました。

心の中のアマテラスは、苦しみ喘いでいます。心を向けると、その苦しみが伝わってきます。私は、

その苦しみに対して、とても冷たい自分を感じています。私の中のアマテラスに優しい思いを向けることを、まだできません。心の中には、たくさんの救ってくださいという私を感じます。すべてアマテラスを神としてきた狂った意識達です。心の中を覗けば覗くほど、私は、後ずさりするような私を感じています。冷たい自分を感じます。

異語。

***さん、あなたの中に嬉しい思いが伝わってくるようになりました。アマテラスに向けると嬉しい思いが伝わってくるようになりました。

確かに、そうですね。アマテラスも、本当の自分に帰りたいと、あなたに必死に訴えています。そうではありませんが、あなた自身の心の中には、まだまだアマテラスを拒否する思いがたくさん、たくさんあるのです。

それが冷たい波動となって、アマテラスに流れて

いきます。

嬉しいと感じる思いは、確かにあるでしょうが、それ以上にあなたの冷たさを感じます。

どうぞ、心をしっかりとアマテラスに向けてみてください。心の中に培ってきたアマテラスの世界は、すごいエネルギーです。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、心に向けてることを、私はまだまだはつきりとしていない。これが私の現状です。

心を向けることをしようとしています。しかし、私の中は、まだまだです。

私は、自分にこのことを伝えたかった。

そんなに簡単に、田池留吉のほうに心を向けるこ

とはできないことを、自分に伝えたかったです。それが、私の今回の申し込み理由です。

私は、私に、今の私を伝えたい、その思いから、私は、申し込みをさせていただきました。

しっかりと心を見てまいります。厳しい現実を、今、明らかにした以上、私は、自分をしっかりと見ていきます。

私は、二五〇年後に心を繋いでいけるかどうかの大事な時期、大事な今世、今、そのように感じさせていただきました。はい、これが、私の今の偽らざる思いです。

自分の意識がホームページに載せられたとき、消されないうちにと思っすぐ印刷して、他にも参考にならせて頂くと思う方のものを何枚か印刷させていただきますました。

今も時々読んでいます。本は読んだあと本棚にしまい込んだままになっていました。

このメールをいただいて、本を出してきて、まず自分の印刷したものを、いつも通りに読みました。次に、本の自分のところ、「心の中に作ってきたアマテラスの世界、はい、凄まじいエネルギーを感じます」。ここまで読むと涙が溢れてきて次が読めなくなりました。

これが、この本から流れてくる波動なんですね。嬉しい嬉しい……、田池留吉。お母さん、ありがとう。間違ってきました。申し訳ありませんと、溢れる涙とともに懺悔の思いが出てきました。嬉しい思い、哀しい思い、悔しい思い、色んな思いが出てきました。

この意識を出された当時は、アマテラスに向けると確かに嬉しい思いもありましたが、「早く分かって、早く消えて」という思いもありました。それが、アマテラスを拒否する思いでした。

「アマテラスとともに己を見よと、アマテラスの下にそびえ立つてきました」。これは、舅と同居し

ていた頃の心を、ずっと引きずっている心でした。

十年後の今

体力気力がガタツと落ちて、物忘れも多くなり、頭の回転も鈍にぶくなって、根気こんきがなくなりました。年齢を重ねるごとに、肉体細胞に不具合がひとつずつ増えてきます。愚劣で自分勝手に冷たい心が、「間違っているよ」と、人を通し、肉体細胞を通して教えてくれています。今世だけでも、自分が流してきた、真つ黒で凄すじいエネルギーが、何倍も何百倍も、それ以上に返ってきているんだと思っています。

周りの人達から冷たい言動行動を見聞きしたとき、心は大揺れ、小揺れに揺れます。自分以外は全部鏡と教えていただいて「ああ、自分の姿を見せてもらっているんや。私はこんな冷たい心を出してきただ」と思うと、十年前よりも早く、その揺れがおさまります。

昔、田池先生に「厳しい環境を選んできている」

と言われたことがありました。どんなに厳しい環境でも生まれてきたかった。厳しい環境も自分で計画してきたこと。誰にも文句は言えないし、変わってもらうこともできません。

自分が帰りたい田池留吉の意識の世界、「あなたは私、私はあなた、ひとつ」。上も下も、男、女、区別差別も無い、何も無いひとつの世界、大好きな世界。そんな元いたところへ帰れるのは今世の自分次第。優しくて厳しい世界。

今アマテラスを思うと、まだ苦しいですが、「一緒にいてくれたから今日まで頑張つてくれたんや。いつも一緒にいてくれてありがとう」と、そんな思いも出てきて、アマテラスが愛いとおしく感じます。

苦しい時、哀かなしい時、悔くやしい時、寂しい時、等々、そんなときは、やっと出会えた喜び、初めて田池先生にお会いできた喜び、その時の出来事が、今日まで私を支えてきてくれました。あの日のことは忘れられません。いつもふうーっと思いを向けると嬉し

くなって、心が落ち着きます。

ともに帰る、ともに帰れる、帰りたい。どうしても、二五〇年後に繋いでいきたい。残り少ない肉の時間の中で、今更焦つても仕方ありません。毎日、ホームページで呼び掛けられていることを、その日に出されたことをしていくだけ。

二五〇後に繋いでいける道を、これからも中の意識達とともに帰る道を歩いていきます。これは意識の転回をしなければ、歩いていけない道かもしれないが、その道に一步でも近づけるように心見えます。ありがとうございます。

144

***さん、あなたの心を語ってみてください。

***でございます。私の中に響いてくるもの

があります。苦しい、苦しい、助けろ、何とかしてくれ、何とかしろ、お前はなぜ私達に心を向けないのか、そんな声というか思いが、私の中に響いてきます。

心に向けることを恐怖してきました。それが冷たいと、私は伝えられました。でも、恐怖が先に立つて、どうしても心が向けられなかった。私は、それが自分だと思えなかったからです。苦しい、助けくれ、何とかしてくれ、心の中にざわついている思いが、全部自分だったなんて、私は、到底信じられませんでした。

異語。

***さん、お母さんに向けて心を見てみてください。お母さんの温もりを、心でしっかりと感じられるあなたになってみてください。

それまでは、あなたの中に苦しみが続きます。お母さんの温もりを、あなたの中で感じてくると、同

じものを感じても、その思いを受け入れていこう、自然にそう思えるのです。なぜならば、あなた自身が温もりだからです。温もりのあなたを感じたならば、あなたの中でざわつている自分を、ただただ受け止めて抱きしめてやりたい、そんな思いが出てきます。

それが、いわゆる、自己供養です。あなたがあなたを包み込んでいく、そのために、あなたは生まれませんでした。もうご存知ですね。どうぞそれを、あなたの中で実践していただくさい。

異語。

どうして良いかわからなかった。

ずっとずっと探していた。

どうしたら、この苦しい思いが楽になるのか？

この思いは何？なんで、こんなに苦しいのか？

どうしたら楽になれるのか？

自分と思えなかったから、外に外に解決策を求め、

ますます苦しくなっていく。

この苦しみは、私ではない。外から来るものが私を苦しめている。

だから、恐くてしようがなかった。

何もかもが恐くてしかたなかった。

自己供養……意識の流れの本を読んだとき、探していた事が見つかったと思いました。

セミナー会場で振り向くとタイケ先生がいました。

「こんな他力の私はタイケ先生に近づいてはいけません」と行きたいのに止める私がいきました。

タイケトメキチと思うことも恐かった。

自分の中の闇を感じたくない。何か凄いものが出てきそうで怖い。

今、振り返るとそんな思いが出てきました。

十年経って、自己供養が進んでいないと実感しています。

思いを見ようとする恐怖で蓋をしてしまう。

しかし、十年前と違うのは恐怖だと冷静に自分を受け入れ、恐くないよと自分に言ってやれるようになったと思います。

今は、ふっとタイケトメキチと思いを向けると嬉しいです。



旅行に行ったときに、自分の思い通りにならなくて、一人機嫌が悪く母親にしがみついている写真です。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

はい、母の反省を通し、他力の反省を通し、心を見てきたつもりです。

ああしかし、私も、つものの上にもつものが重なって、自分の中は、あまり変わっていないことを感じます。

たくさんの方省をし、たくさんの方省を出し、心も本当に色々と感じてきました。今も心に響いてくるものがあります。

それでも、私の根本は肉です。肉の思い、肉を基盤とする思いが、これほど強く自分を縛ってきた、そう感じます。

だからこそ、私は、今世の環境を選び、あちらからも、こちらからも、凄まじいエネルギーを感じてきた。このことは、もう私に、痛いほど響いてきます。

なぜ敏感な肉を持ってきたのか。

自分が培^{つちか}ってきた意識の世界のすごさを、愚かな肉を通して、何としても知っていききたい私の思いがあったからです。

この自分が培ってきた世界を転回していく難しさを感じています。

本当に、そうでした。

少し感じている、自分はやってきた、できている、我を認めよと、そんなちっぽけな中で、やってきた自分を振り返っています。

そんな愚かなことを繰り返^くり返しやってきても、私は、それでも嬉しいと感じるんです。

だからこそ、私も、本当の自分を知っていかうとする思いが強いんだ、そのことを感じ、それが嬉しいと心に響いてきます。

何度転生するかわかりませんが、今世を大切にしていこう、今、そう思っています。

異語。

冊子「あなたの意識です」の問いかけをありがとうございます。

私の中で埋もれてしまつて忘れ去られていました。

何度も何度も読み返しました。

何度読み返しても、一言一句、「はいその通りです」としか出てきません。

私の心の中は、何も、何ひとつも変わっていない。肉、肉、肉……その肉の思いさえも何も、何ひとつも分かっていない。

でも、それが私だったんだと、はい、私は今そのように思っています。

素晴らしい、美しい、正しい、一番、そんな影の自分にしがみついて、この己を大きく大きく表し、私は本当の自分を自ら^{みずか}で捨て去って生き続けてきた私です。

自らを裏切り続けてきた私です。

「お前なんか大嫌いじゃ」と、「私の前からとつとと消え失せろ」と、宇宙の彼方^{かなた}に葬^うり去った私です。それでもそれでもそんな私の中から、ただただ、

ただただ、優しい優しい思いを感じます。

ただただ待つてくれている。ただただ信じて待つてくれている。

そこには何も無い。

ただただ許して許して愛して愛して、信じて信じてただただ待つてくれている、その思いしかありませんでした。

私の全てが間違っていたことを、私の何もかもすべてが間違っていることを、そのことを心で確認し、本当の道を生きていく、それが私に与えられた唯一の道でした。
愛でした。

こんなどうしようもない自分でも、最低の自分でも、それでも信じて、それでも待ち続けてもらって、その愛に支えられて、その愛の中で生かされている私に、ただただありがとうのこの思いを、この思いだけを伝えていきたい。

はい、私は今そのように思っております。

UTAブックさん、ありがとうございました。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中に、何かを感じるけれど、私には、まだまだよく分かりません。しかし、心を見ていると、お母さんの反省をしてくると、私は、本当に己の偉さを心で感じます。

母に反発ばかりしてきました。なぜだか分からなかったです。なぜ、こんなに母に反発するのか、私は分からなかったけれど、ああしかし、私は、このエネルギーを止めることはできませんでした。

私は、母など、自分の中では本当に小さなものだと思ってきました。

確かに、小さい時から母に育ててもらって、色々母の思いを受けてきたけれど、私は、そんなことには、ほとんど思いを向けることをしてきませんでした。

しかし、ふつと、そういう当たり前のことを思っ

た時、母という存在が、何か少し、私の中で違って感じられるようになったのです。

そうした時、何だか自分が本当に偉かったんだなあ、ふうっとそう思いました。

***さん、日々、母を思う瞑想を続けてください。ふとしたことから、あなたの心の中に何か響いてくるでしょう。

そして、そういうものを少しずつ感じるようになったなら、お母さんを思い、田池留吉を思ってください。心の中から、どんどん苦しいあなたが出てくると思います。

そのあなたに、今、あなたが少し、感じられた優しさで、そのあなたを思ってみてください。そのようにして、少しずつでもいいですから、毎日の時間の中で、繰り返してやってください。

ホームページにあるように、今は、



次元移行へと思いを向けていこうとする時期に来ています。

どうぞ、焦らずに、ゆったりと、母を思い、田池留吉を思う瞑想をしてってください。そして、できるならば、UTA会に集ってください。

家でできることと、セミナー会場で体験できることの違いを、あなた自身体験なさってください。

思いを向けること、向けられる今があることがどれだけ幸せなことなのか。

何も分らずに、全てを捨てて生きてきた自分を思いません。

何も分かっていたいなかった。間違ってきた。ただただ間違ってきたーということが響いてきます。

だけど、それは後悔ではなく、とても嬉しかった。ただ嬉しいなーと間違ってきたことが、間違ってきたと思えることがとても嬉しくて嬉しく

て。

苦しくて、暗くて、怒りの中に落とし込めてきた自分、怒り恨み呪いすべて間違ひ。何もかも間違ひでした。

けれど、思いを向けることが出来る。そんな時間が今あることが何よりも幸せなことでした。

苦しい自分に思いを向けることは喜びでした。

お母さんの温もりの中で異語で語れること、ただ嬉しひ。ありがとうだけでした。

間違ひてきた自分とともに思いを向けていくことは喜びでした。

ありがとうございました。

147

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

この学びについて、私は、色々と考えています。考えても分からないことだけれど、私は、自分の思いを見つめる中で、色々と考えてることがあります。まずは、素直でなかったこと、己が偉かったこと、そして、母の温もりをまだよく知らないこと、そんなことについて、私は今、色々振り返っています。

心を語りなさいでした。

そうですね、心の中に他力のエネルギーがしっかりと詰まっています。心を語りなさいと言われて、はい、私の心の中には、他力のエネルギーがしっかりと詰まっています、これが私の答えです。

「はい」か「いいえ」か、この学びについて、「白」か「黒」か、そう一直線に尋ねられました。

心を語りなさいということはそういうことでした。だから、私は、答えます。私の中には、他力のエネルギーが詰まっています。これが私の答えです。もちろん、私の中には真っ黒です。

それでも、今、このように語らせていただける時を得て、私は、嬉しいと思います。ただ素直に嬉し

いと思います。

「はい」か「いいえ」か、真^まっ直^すぐに、私に向かつて私が答えていける優しさが嬉しいです。「いいえ」その答えでもよかった。

ただ、私が私に答えていく優しさ、これを私は、ずっと求めてきたような気がします。

異語。

***さん、どうぞ、ただただ、お母さんを思い、あなたを思って、そして、今世、田池留吉に出会い、学びに出会ったことを喜んでみてください。喜びが基本です。喜んでいけばいいだけです。

学びに出会ったこと、真実の世界があることを肉を通して知ったこと、それが、どういふことなのか、あなたのこれからの転生の中で、おそらくあなたに伝えてくるでしょう。

意識の世界は永遠です。いつ、どこで、何に気付いていくか、そして、その気付きをそれからの自分

に、どのように活^いかしていくか、すべては自分次第です。

これが具体的な回答なんです。目に見えない意識の世界、心で感じる世界、その中で、ただ自分を見つめていく道、あなたの中の真実の世界を信じ、そこから溢^{あふ}れるほどの優しさと温もりがあったことを信じ、その本当の自分を、ひたすら信じていく道、それが意識の世界です。

その本当のあなたと出会うためには、あなたの中の他力のエネルギーを、真剣に自分で見つめていかなければなりません。

そして、その術^{すべ}を、あなたは、もうすでに肉で知っています。

あとはただ実践あるのみです。どうぞ、ご自分を信じてみてください。

学びの年月、決して無駄ではなかったことを喜べるように、あなたを大切にしてみてください。

このような意識をもらっていたことをすっかり忘

れていました。

文面を読んでも、はつきりとは思いつけぬ。思い出せないくらい忘れ去っていて、申し訳なさでいっぱいです。

心を見ていたつもりでした。少しは学びが進んでいたと思っていました。まったく実践ができてないことに打ちのめされています。いまだに、他力のエネルギーに雁字搦めにされている自分を感じます。

とにかく実践以外にない。この意識をもらってから、まずは、己偉い私を何とかしたい。これが苦しみの元凶だから。

どうして実践できないのか、真剣に自分に問うてみました。

私は正しい、こんなに面倒を見ている私に感謝しろ！ 理不尽なことばかり言う相手に、認めさせたい思いが、どんどん出てくる。私はこんなことにならわっていたのかと。認めてもらうことがそれほど喜びと、思っている自分に驚き、馬鹿々々しさに憑き物がハタと落ちた感じがしました。肉では自己主張しないことに、気を配りました。

相手は自分の鏡だということが実感でき、実践の手掛かりがつかめて嬉しいです。

148

***さん、どうぞ、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

田池留吉、本当にありがとうございます。出会いをどれだけ楽しみにしてきたことか。己が間違っていました。苦しい、苦しい、苦しい中を、私も心を繋いできました。母に肉体を持たせてくださいと望みました。願い出しました。その思いが心に響いてきます。どれだけ真つ黒で苦しんできたことか。私の過去はみんなそうでした。母に対して使ってきた心は凄まじい。

夫に対して使ってきた心は凄まじい。周りの者をすべて、なぎ倒してきました。それでも、私は、今、

異語。

自分の中を語る時、喜びを感じます。これだけ凄まじいエネルギーを流してきたのに、私の中は喜びなんです。もっと、もっと、凄まじいエネルギーを語ってくださいと、私の中は言ってきます。そう、瞑想をして、私の中を語ってまいります。

夫に使ってきた心、母に使ってきた心、周りに使ってきた心、すべて、私でございました。

田池留吉、心をさらけ出すことは喜びでございました。どれだけ凄まじいエネルギーであっても、自分の中は喜びでした。心が小さくなっていくこともございます。それは、確かにございます。これだけ学んでいるのに、なぜ私の中は、まだまだ真っ黒が出てくるのか、どうして私の中は、喜びが大きくなるのか、いいえ、そんなことはございませんでした。

真っ黒が喜びなんです。真っ黒が喜び、本当に心で感じます。ありがとうございます。本当にありがとうございます。

***さん、どうぞ、あなた自身をしつかりと見ていってください。心の中の宇宙にあなたの思いを向けていってください。

はい、私はあなたの意識を感じ、とても嬉しいです。間違ってきたことを、本当に喜んでいるあなたを感じます。心の中に、田池留吉、アルバートを感じる仲間だと、私は認識しております。

どうぞ、心を語ってください。もっと、心を語ってください。

私達は、仲間でございます。宇宙に点在する UFO 達に思いを向けていってください。どうぞ、二五〇年後に繋いでいく道を、一歩、一歩、あなたも歩み出していってください。

私は、本当に、そういう仲間を待っています。心の中で通じ合う仲間を待ち続けている私の意識がございませう。田池留吉、アルバートを心より呼び合える仲間を、私は、待っています。

残念ながら、そういう仲間は、今ひとつでござい
ます。

これが、私の今の正直な感想なんです。ですが、
二五〇年後に心を繋いでいくこと、それを、あなた
も、あなた自身の至上命令として、これから、どん
どん自分を語っていきましょう。

田池留吉、アルバート、私達は、そのもとにひと
つです。

私は本当に嬉しいのです。肉の私はまだまだ悪
戦苦闘です。長い間に作り上げた真つ黒はなかなか
しぶとい己であります。日々自分の心を見つめなが
らぼーっとしているのです。くそ又か。ぶっ殺すぞ
……怒りまくっている自分がさげびます。ごめんね、
すごいね、だからみんな素直になれないんやね、自
分との対話……闇も闇なら私も私……同類項です。
でも、私の方が強いと思う。今世の生き様を言えば
言葉なんか出てこないです。どんどん自分が小さく
なる、情けないやら、悔しいやら、くそしか出てこ

ない……だから又踏ん張ります、又踏ん張って踏ん
張ります、私しか出来ないから、綺麗ごとじゃない
よ、どろどろだよ！こんな世界で肉の私は踏ん張っ
て頑張ります。自分の為に宇宙の為に身を粉にして
歩きます。肉にエールを送っています、頑張れ、頑
張れ肉よ。私は肉を愛しています、信じています。恐
れないで、嫌わないでありのままでもいいんだよ、優
しいあなたを信じています、私はこうして頭を打っ
ている肉の私を愛し
ています、待ってい
るよと……ありがと
うね……。



****さん、あなたの心を語ってみてください。

****です。心を閉ざしてきた私は、心の中を暴かれるのがとても恐いです。何を語ればいいのか分かりません。母にも父にも言えない思いがたくさん、たくさん詰まっています。心を語りたくない。心を閉ざして私は、ずっと、ずっと存在してきたからです。

今、あなたの心を語ってみてくださいと、お母さんの思いが伝わってきます。ああ、お母さん、お母さん、申し訳ございません。苦しい、苦しいから、あなたを邪険にしてきました。寂しいから心を閉ざしてきました。寂しい思いを、しっかりと心に抱えたまま、私は存在してきました。

この思いを分かってくれ、分かってくれと、あなたにぶつけてきたけれど、あなたは何も分かってくれなかった。だから、あなたを恨んできました。恨

んで憎んできた私の思いは、どうすることもできませんでした。母を恨んできました。母を憎んできた。苦しいのは私だ。ああ、私の心が苦しい。お前の苦しみなど、私の苦しみに比べれば、なんていうこともない。私の苦しみを、お前、もっと分かってくれ。もっと私に心を向けてくれ。私は寂しいじゃないか。私は寂しい。私は苦しい。私の思いを分かってくれ。そんな思いを、あなたにぶつけてきました。

****さん、どうぞ、しっかりと心を向けて、あなたの心を書き出してみてください。本を読まれましたか。心を見てみてください。あなたの苦しみは、あなたでしかどうすることもできません。あなたの心の中の苦しみをどんな方法でもいいんです、あなたの外に出してってください。ただし、肉のお母さんやお父さんや、周りの人達にあなたの思いをぶつけるということではありません。

あなたの中で、あなたの思いを見ていくのです。その方法は、そうですね、ノートに書き出してみる

とか、パソコンに打ち込むとか、異語で吐き出すとか、そういうことです。

あなたのエネルギーを肉の人達にぶつけても、返ってくるものは闇でございます。周りの人達も、肉は闇だからです。ただ、あなたのお父さんやお母さんは、この学びをなさっています。それぞれに心を見つめながら、あなたに思いを向けていると思います。けれども、所詮しよせん、肉は闇でございます。その闇をあなた自身が、自分の中に受け止めて、そして、しっかりと受け止めながら、ともに帰ろうと、温もりに帰ろうとするには、あなた自身、まだまだ勉強する時間が足りないと思います。

だから、今は、しっかりとあなた自身の心を見ていってください。あなたの中であなただの心を見ていってください。そして、少し自分の中で、心の広がりというか、心のゆと



りを感じた時、感情を伴わずに、こんな思いが出てきたってお父さんやお母さんと、語ってください。もちろん、異語でいいんです。そうやって、どうぞ、ご家族で、この学びを進めていってください。

苦しいのは、闇に向かって思いを出しているからだ。正義や権力をかざして己れ偉しとやっている人と同じく、愛憎あいぞうの渦うずの中に窮屈きゆうくつにはまっている肉の自分。

その窮屈さは、十年前も同じ。

ともに帰ろう、温もりに帰ろうと日々、心を見る教材に出会えて、千載一遇せんざいいつぐうのチャンスに出会えて、そして心を見る環境にあることが今の自分と違うことです。

本当の自分は、意識の自分は「ありがとう」しかありません。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、心を見ても、見ても、見尽くせないほどの闇を蓄たくわえてきました。ブラックのパワーを蓄えてきました。それが私でした。なかなか認めることができませんでした。己の偉さを感じます。

今、私は、自分を振り返る時間が許されています。そして、私は、自分を振り返っています。

己の偉い私でした。どうしても、どうしても、この心の中から出てくる思いは、田池留吉くそったれの思いです。

どれだけ私は、自分を見つめても、その思いが出てきます。田池留吉に思いを向けるとき、即座に出てくる思いは、それでした。そんな私が母に肉をいただき、この学びに集えました。

自分の心を見なさい。自分の心を見つめていきなさい。自分のエネルギーを感じていきなさい。母の

思いは、そんな思いだったのです。しかし、私は、その母の思いに沿そわずに生きてきました。自分ではしっかりと生きてきたと思ってきましたが、自分のエネルギーに突き動かされていたに過ぎなかったのですね。

アマテラスのエネルギーでした。アマテラスのエネルギーのままに、私は、この人生を歩いてきました。己が一番、一番とそびえ立った思いで、ずっと、周りを支配してきました。こんな凄すばましいエネルギーを蓄えてきた私でした。

今世の私は、しかし、過去からの私に比べると、遥はるかに、遥かに、幸せです。中は同じです。

中は、真っ黒で苦しい私ですが、しかし、そんな苦しい私を、今、いくらでも見つめようと思えば、見つめられるからです。

自分を感じていけるからです。こんなことは、私の転生の中で、ただの一度もありませんでした。ただただ自分のエネルギーに突き動かされてきた、そんな私でした。

今、自分を語るとき、本当に凄まじいエネルギーの中を生き抜いてきたと感じています。

***さん、心をしっかりと見つめていってください。見つめていくんです。心を田池留吉、そして、アルバート、そしてお母さんに向けて、あなた自身を、しっかりと見つめていってください。

しっかりと見つめても、あなたが語ったように、今の時間だけでは、見ても、見ても切りがないほど、あなたの中に、凄まじいエネルギーを蓄えてきました。蓄えてきたのはあなた自身です。本当のことを知らずに、他力の神々を求めて、求めて、求め続けてきたあなたの結果です。

だから、今、そのあなたを見つめられる時間を大切にしていってください。

時間は、まだまだあると思います。しっかりと自分を見つめていってください。できる限り瞑想をして、自分の心を見ていくことです。

欲の心が出てきたら、またそこから、自分を見つ

めていき、己の偉い思いが出てきたなら、またそこから、自分を見つめていってください。

いつも、いつも、自分を支えてくれたお母さんに思いを向け、優しい、優しい思いで、自分を見つめていってください。

二十歳の頃から人生とは、愛とはいつも自分に問いかけていました。本当の愛とはなにか。兄夫婦が美男女で微笑ましいカップルで可愛い子供に恵まれて理想の結婚でした。でも結婚には私の求めたものはなかった。求めることが間違いだと気付くのに随分ずいぶんと時間がかかりました。

肉が全てと生きてきて、そこでしか全ての判断が出来なかった。自分の欲を満たすために他力のはしごをしてきたこと、他力をすればするほど本当の自分を裏切ってきたこと本当に自分を粗末そまつにしてみました。やっとのことで出会わせて頂いた真実の世界。

過去から引きずってきた教祖の心癖、相手の気持ちを考えずに支配のエネルギーを膨らませてしま

た。私は正しい、間違っているのは貴方。

勉強からずれているのも構わず沢山出させてくれました。

苦しい自分が間違っている。何回聞いたかわかりません。

崖がけつぶちにたたされて教祖の過去世がやっと教えてくれました。母の拝おがむ姿を見て苦しくて何時も責め立ててきました。

自分の心の叫びでした。お母さんこんな大闇の私を受けいれてくれ、勉強に繋つなげて頂き本当にありがとうございます。

主人には面と向かって言えませんが、じゃじゃ馬のどうしようもない私の相手をして頂きありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

151

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心を見ることが難しい。日常生活の中で心を見ることが難しい。けれど、私は、この心を見る字びをやっつていこうと思いました。自分の中は、自分で救っていかねければどうにもならないことを感じるからです。

どんなに何を言われても、私が私に伝えることができなければ、何も始まらない。私は、そのように今、感じています。

日常生活の中では、たくさんエネルギーを流し、またたくさんエネルギーを受け、そうやって、私は、その中で自分を見失いそうになるときもあります。それがこれまでの私でした。ああ、私は、やはりとても己が偉いんです。心の中で、己偉い自分を確認することを、これからやっていきます。自分が思っているよりも、もっと、もっと、己偉い私があるんです。私のエネルギーは、そんな生半なまはんか可なものではありません。だからこそ、今世、こつやっつて、肉をいただいたんですね。そのことを軽く受け止め

てきました。

心の貧しさを感じます。私は、自分の中を、もっとしっかりと見ていきます。そびえ立つ意識の中では、自分を見る事ができない。自分の中の貧しさ、苦しき、哀れさ、そういうものから、目を逸らして、逸らしてきた私がありました。そんなことではどうすることもできませんでした。

そんな苦しくて暗くて哀れでどうしようもない自分にこそ、しっかりと目を向け、心を向け、そんな自分を受け止めていかなければならない。私は、今、そのように思っています。逃げてきました。自分から逃げてきた。私は、本当に自分を裏切ってきた。そんな思いが、心から出てきます。

異語。

***さん、時間を見つけては、瞑想を続けていってください。

今その肉がある間、そして、年齢が若い間、体力

も気力もある間です。

もちろんその間には、肉を維持するために色々なことをしていかなければなりません。しかし、自分がなぜ生まれてきたのかというところに立ち返ってみれば、やはり、体力、気力のある間に、自分の心を見て、自分のエネルギーを知って、そうしていくことが、何をおいても一番大切なことだと心に響いてくるはずですよ。

肉を持ちながら学びをする難しさは、百も承知です。しかし、その難しいことをやろうと、今世あなたも望んで生まれてきたのです。そして、この学びに集ったのです。そのところに重点を置いて、自分が必要なべきこと、するべきこと、しっかりとなさってください。

体力と気力のある間、あなたからすれば、年齢的にはまだ若いと思っておられますが、学びを本当にしていく時間というのは、限られています。

そのタイミングというか、旬しゅんというものが、それぞれにあると思います。それを逸いすれば、やはり自

分の計画してきた、予定してきた通りにはいかないでしょう。肉を持って学ぶ難しさです。

ですが、基本的には、どんなことも喜びで受け止めていける時間なんです。

計画通りに進まなくても、進んでも、すべては喜びです。そんな中にいる私達でした。

喜びが基本です。喜んで、喜んで、今という時を大切になさってください。

驚きました。今、自分が感じていることがそのまま書かれていました。

聳^{そび}え立つ己偉い自分、貧しくて始めて暗い自分から目をそむけてい
ては何も始まらない、自分のエネルギーをどんどんストレートに出して確認しよう、それが喜び、だからこそ生きているんだ。今しかないと感じています。今こそ全て、このタイ

ミングだと感じています。

十年前にはストレートには響いてこなかったのが、今はストレートに響いてきて、一層嬉しいです。いつも本当に、ありがとうございます。



***さん、あなたの思いを語ってみてください。

己がとても偉かったです。私も誰にも負けたくない思いを持ってきました。そんな自分を認めたくなかったです。私は、けがれのない美しい自分だけを信じていきたかったです。

でも、もうそう言ったられない時を感じています。みんな、二五〇年後へ、そして次元移行へ向かっていくそんな学びの時期、私も、自分の中が、本当にそう望んでいることを、もっと、もっと自分の中で感じていきたい、そんな思いでいっぱいです。

確かに学びは続けてきました。しかし、私の根本は、本当に、肉、肉でした。田池留吉をバカにしました。田池留吉、田池留吉と呼びながら、慕^{した}いながら、心の底にあるのは、下に見る思いでした。

そんな私を、今、心を感じています。

***さん、どうぞ、自分の現実を、もっと真正面から見つめてください。あなたも、過去世、来世、その意識達が待っていることを、あなたに伝えたいと思います。

その思いに、ただただ素直になっていってください。瞑想をする時間を、しっかりと持ってください。言葉ではなく、波動の世界です。あなたの心でそれを感じていってください。

私の現実、田池留吉のメッセージも感じる温もりを素通りでした。自分という岩盤を崩すことができなかつた。田池留吉にも、家族に対しても、微動^{びどう}だにしない冷たい自分を感じ続けてきました。そんな自分しか信じられなくて、本当に肉しか信じてなかつた。意識の世界という、お母さんの温もりを感じた心の世界その奥を辿^{たど}るのが怖かつた。十年前の自分よりも闇の深さ、肉の愚かさを目の当^またりにして、その現実があること、そんな自分を感じている今があることに、安堵^{あんど}しています。

肉があるから生まれてきて良かった、そこから異語を通して意識の世界を肉を持って知ることができて、良かった、と思えて心が軽くなりました。ただアルバートと呼べる今を大事にしていきたい、肉の自分は信じられない、素直に呼べる自分を信じていきます。

田池先生からいただいたCDを聞いた私の思いです。

同じ間違いを繰り返してきた、何度も何度も、お母さんの温もりを捨てたことを、伝えられそんなはずはない、お母さんが産んだ私だから、どんなに冷たい自分でも許されているはずだと、自分が作った他力の世界に閉じこもってグルグル回っていました。そんな自分を素直にさらけ出して、そのブラックのエネルギーをどんどん感じていきなさいと、背中を押してもらい、しっかりと田池留吉を思いなさい



いと伝えてもらいました。この十年、闇を出し続けて、闇を切り捨ててきた結果を身に受けました。

伝えていただいた異語の世界から、あこれが私の現実だと、思えることができました。そして私はひとりじゃない、過去も未来もつながっているんだと、今世軌道修正きどうしゆせいの時間が、私には残されているんだと感じています。

153

***さん、心を語ってみてください。

はい、凄まじいすまじエネルギーを蓄たくわえてきました。はい、もう、本当にすごいです。セミナー会場で、私は、そのエネルギーを出してまいりました。そして、そのエネルギーに、自分なりに思いを向けてきました。

優しい思いを向けてきたつもりです。しかし、私は、まだまだです。

まだまだ己が強いです。己という思いがとても強いです。

田池留吉に思いを向けるとき、優しいなあ、嬉しいなあ、お母さんありがとう、その思いも感じる一方で、まだまだ田池留吉に歯向かうエネルギーが心の底から湧いて出てきます。そんな私の今です。

それでも、今、私は、私を語るとき、とても嬉しんです。心が、どんどんどん自由に解とけていくような、そんな気がします。

肉の中で、私は、小さく、小さく生きてきたこれまでの転生でした。

そして、今世、肉をいただき、またしても、私は、心を小さくして生きてきました。そんな小さな世界の中で、周りの者を支配してきました。そんな小さな世界の中で、私は、己一番をやってきたんです。本当に愚かな私でした。

今、母に思いを向け、私は私を語るこの時間が、

とても嬉しいです。瞑想をする時間を楽しんでいきます。これからも、私は、自分の中で瞑想をやってまいります。田池留吉、お母さん、ありがとうございます。

***さん、そうです。心の中で、あなたは、あなたを見つめていくだけです。意識と意識の語り合い、あなたの中で進めていってください。肉はもういいではないですか。肉のことはもう程ほどでいいです。あなたは、充分にその肉を動かしてこられました。心ももちろん、それにつれて、色々な心を使ってきました。そのエネルギーは、心の中で、感じられると思います。もう止やめていきましよう。

あなたの中を、あなたが見ていけば、あなたは、自分を幸せにしていける、そんなパワーがあなたの中に溢あふれている、それを信じて、信じてやっていってください。周りはみんなそのことを示してくれています。すべてはあなたの勉強です。あなたの教材

です。喜んで受けていきましよう。

何がどうなっても喜びなんです。喜びしか存在しないことを、あなたに伝えます。

今は、異語で自分と自分の世界を見ています。

苦しい、苦しいエネルギー。でもそれを包む温かいエネルギー。田池留吉、お母さん、ありがとう、で終わる瞑想。

十年前は思いを語ることが大切だと思っていました。でも、今は自分の波動、エネルギーを感じられることがとても嬉しいです。

154

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心を見ることをやっていない私には、心を語れと言われても、何を語ればいいのか分かりません。自

分の中を見つめる、自分のエネルギーを感じていく、そういう学びに、私は、なぜかしら、今世繋がりました。自分の中が望んできたことだと言われれば、そのような気がします。しかし、私は、肉です。肉の私の生活が何より大切です。そんな中で、心を見ることが、とても難しい。難しいというよりも、地道な作業のような気がします。心を見て、私は幸せになれるのだろうか、心を見てどうなるのだろうか、そんな思いが先行していきます。ですが、あなたの意識ですのところを読むと、それは本当に納得するんです。まるで、自分の中が語っているような、そんな気がしてなりません。

***さん、お母さんに対して、これはどうなとも同じですが、凄まじい心を使ってきたのです。半端な思いではありません。どうぞ、あなたも、あなたのお母さんに対して出してきた思いを、しっかりと見ていってください。そうです、すごいエネルギーを流してきたはずですよ。

自分を偽らいつわないでください。この意味が、今は、よく分からなくても、お母さんに使ってきた思いを見ていくこと、お母さんにどんな思いで接してきたか、その都度の心を、まずは見ていってください。

私達は、今の肉体を半端はんぱな思いで持ってきたのではないことを、あなた自身の心で感じていってほしいのです。

あなたは、何をするために生まれてきたのですか。

あなたの人生って、いったい何なのでしょう。

もう少し、しっかりと、自分を見つめていってください。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心を向けることを拒否している私があります。

お前は、汚くない。お前の心を



見るな、見るな。そうやって、私の中を遮さかる私自身を感じます。

自分の幸せのために、すべてを求めてきたこの心の中のエネルギー、他力のエネルギー、他力の神々に絶すがつてきた、他力の神々に頼つてきた、そんな私を、まだまだ私は、しっかりと心に隠しています。

自分が苦しいことすら分かりません。

なぜなのか。何も分からない状態です。他力の中にすっぽり、そう、その通りです。この中から抜け出すのには、まず、私が行動を起こさなければならぬのです。田池留吉は、そのように伝えてくれて

いるような気がします。田池留吉の目を見ると、そういうふうになわってきます。

あなたは、あなたの心を見つめていきなさい。あなたを見つめていくんです。あなたの中を、ただただ見つめていきなさい。そのように伝わってきます。

思い出すのは、あのメッセージを頂いた頃、学びがちつとも楽しくなくて何度セミナーに行ってもわからない、心、タイケトメキチに向かない。感じたと思える喜びも自己満足、勝手な解釈の自作自演。まさしく、なにもわからない状態だった。

十年前、肉の知識だけで学びにしがみついていた私が、岩盤に向ける瞑想が始まってから、やっと自分が他力の中にすっぽり、どっぶりなことに少し気付けたことで、学びに喜びが湧いてきた。やっと、やっとただこの喜びをいっぱい膨らませたい。

155

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は***でございます。自分の間違いに心で気付くことが、とても嬉しい。今、私は、そのよう

に思っています。

色々な心を使ってきた。すべては肉を土台にした思いでございます。肉を土台にしてきたから、私はいつも戦ってきました。戦って、戦って、戦い抜いてきた。そして、その先にあるものを求めてきた。それこそが、私の喜び、幸せだと思ってきたその心は、すべて土台が違っているから、間違っていたんだ、今、それを、少しずつですが、自分の中で、ああそうだったと気付く時がございます。

ひとつ気付いて、また後戻りをして、そういう私ですが、心で感じたものを信じていけばいい、田池先生の言葉を信じて、私は、一歩ずつやってまいります。

***さん、心を田池留吉に向けてみましょう。

異語。

田池留吉、お母さん、ありがとうございます。ああ、

そして、申し訳ございません。
ありがとうございます、申し訳ない、そ
の思いばかりでございます。

一步、一步、心を見てまい
ります。私を包んでまいりま
す。己偉い私が出たら、また
お母さんに思いを向けていきます。そうやって、私
は、自分の時間を過ぎてまいります。ありがと
ございました。

私はこのメッセージをもらった十年前、どんな
日々を送っていたのだろうと思いました。振り返る
機会をいただきました。

周りで、老・病・死の現象が続き、それを肉でつ
かみ、自分が頑張れば、自分が一生懸命学んで当た
れば、事態は好転することを願っていました。学び
の動機が間違ったままでした。肉で頑張りました。
「目の前に起こってくることは全部私の勉強」と肉
の力を抜くことはありませんでした。そんな頑張り



は虚しく、自分の中から闇が
噴出し、自分も疲れ果て、形
があちらこちらから崩れてい
きました。本当に、私の何か
が大きく間違っていると感じ
始めた頃にこのメッセージを

いただきました。自分が間違っていたと気づくこと
がうれしいと素直に感じ始めていた頃だったと思
います。でも、癖が強いから行きつ戻りつの日々で
した。

今回、改めて、その頃の時系列を文字に起こして
見ていったとき、私は、本当に自分が可哀そうでな
りませんでした。それからその頃の自分が、とても
愛おしくなりました。こんなことは初めてでした。
私の肉体細胞にもとても辛い思いをさせてきた、よ
く今まで元気でいてくれたと思います。私は、自分
がどうすることもできないことにエネルギーをつぎ
込んでいったんですね。それが、肉基盤の幸せを求
めてきた結果だったんですね。学びながら学んでい

なかった時代。病^やんでいる人、老いた人、死んでいく人に出してきた思いが、今も走馬灯^{そうまどう}のように思い出され、自分を責め続けてきました。でも、ありがとうございます。こんな機会を与えていただき、今の時代が愛だったと振り返ることができそうです。自分の外にばかり心を向けてきたんです。今、自分と自分のなかで学ぶ、かけがえのない時間をいただいています。一日一日を大切に生きていきたいです。

156

***さん、瞑想を続けていますか。あなたは、自分の心を語ることを、どのように思っていますか。

***です。自分を崩せない。肝心^{かんじん}なところで自分を崩せない。瞑想を続けていても、私は、自分の中で、何か、踏み止まっている自分を感じます。

私の心を語ることを拒否している私があります。

心を語るな。語るでない。そんなに自分の心を深く見ていくことは、お前は、しなくていい。私がお前を導いてやる。もっと幸せになる方法をお前に教えてやる。そのような心の声が、私の中にあると思います。

心を語ることを拒否してきました。今一步、心の奥深くに進んでいけない私を感じ、私は、そう、恐怖も感じているのかもしれませんが。

自分を崩していくことの恐怖です。己が偉い、己がそびえ立って、私を崩していけないことを感じています。

***さん、どうぞ、お母さんに向けて、しっかりと心を見てみてください。瞑想をして、あなた自身が崩れるといっても、あなたがなくなっていくのではありません。もっと、もっと、優しいあなた、そこから顔を出していくのです。本当の安らぎと本当の幸せ、お母さんの温もりを心に広げて

いってください。

この学びは形ではありません。形を整えることではありません。自分の中の素直な思い、本当に自分自身が見つめ抱きしめてやりたい思いを、自分の中で確認する学びでございます。

自分に正直に、自分に真摯しんしに、自分に素直になっ
ていくこと、それは、あなた自身がしていかなければなりません。どうぞ、お母さんの反省をしてみてください。お母さんの反省が第一でございます。

***さん、田池留吉を思ってください。

異語。

田池留吉、心の中を暴かれたくない。心の中を見られたくない。そんな自分を感じます。まだまだ取り繕つくろっている自分を感じます。

苦しい自分、どうしようもない自分、醜みにくい自分、そんな自分が少し出てくると、私は、それを抑おさえよ

うとする。自然にそのように心がいつてしまいます。

私は、自分の中を、もっと、もっと見つめていきたいと思つていますが、もう一方で、私は、そんな私を受け入れられない何か厳しさというか、そういうものを感じます。これは、私自身が、今伝えられたように、お母さんの反省を地道にしていかなければならないのですね。

瞑想をする時間を持つてみます。もっと、真剣に自分を見てみます。苦しい中を生まれてきた私だと思ひます。私は、私を解とき放はなつたために生まれてきた。今、田池留吉に心に向け、そのように心に響いてまいります。

……十年前、私への心の中のメッセージを頂いたとき、出てきた思いは「まだ、こんな状態なの？」でした。

他力の梯子はしを経て、やっとこの学びと出会った時「私が捜してきた真実だ！」と確信、この道一筋に学んできたつもりでいました。

しかし「あなたの意識ではありませんか」の私へのメッセージは、思い当たることばかりでした。

セミナーでの、ワンポイントアドバイスの時、田池先生から「あなた、この場所がシツクリせんやろ？」と問い掛けられました。

ズバリその通りだと思いました。

私の心癖は、大勢の人前が恥ずかしくて、セミナー会場は逃げ帰りたい思いが出る場所ではありませんでした。

更に、敏感にもなれず、異語も出ないのは、自宅学習が足りないせい……現象の場は、心を小さくして居心地が悪いばかりでした。

その内、心に響いてくる時がきつとあると信じてのセミナー参加です。他力ドップリだったのでした。

苦しみながら、人と比較し、落ち込み、頭をクルクル回しながらの十年だったように思います。



それでも、学びの友に勇気をもたらしながら、肉は暗くもならず楽しく、故郷へ帰るような気持ちで参加させてもらってきました。

「そんなに自分の心を深く見ていくことは、お前は、しなくていい。私がお前を導いてやろう。もつと幸せになる方法をお前に教えてやろう」の心の声は、肉の思いの強い私への「真実は外にはありません」という警告でした。

「心の声は、私と一緒に愛へ帰りがついているのではないか」フツと思つた時、私の一番近くに仲間を得たようで、縛り付けてきた私の心が安心感で、緩ゆるんでいくように思いました。

日々の生活の中で、ともに学んでいる夫や娘に対して、瞬時に出てくる、怒りや不平不満は「それは自分自身ですよ」と、私に教えてくれます。学びの仲間としての、最悪なこの親子関係、この組み合わせが最高だっ

たのだと、やっと最近になって思えるようになりました。

自分の間違いに、一つ気が付いていくことは、苦しい胸の痞えが一つ下りていく感覚で楽になり、嬉しくなります。

でも、本物の喜びとは程遠い、肉的なこんなものではない、次元の違うものだと思います。

私は、まだまだこれからです、それでも十年前の私に比べると、自分を責める思いが薄くなり、少しだけ自分に優しくなれた気がしています。「今まで的人生は、何故あんなに辛くて悲しかったんだろう」と振り返って思いました。

苦しい中から生まれてきました。

お母さんの反省を、繰り返し、繰り返しやっていきます。

今世、自分と約束してきた所までは、絶対に辿り着き、来世へと繋いでいきます。

ありがとうございます。

157

***さん、心を語ってみてください。

心の中を語れと言う。苦しい。苦しい心の中を語れと言う。私は、この学びについて、不信感を抱いて過ぎてきたこともありました。

しかし、今、心を語れという優しい思いに触れています。

私も、本当に心を見て、自分の中を変えていきたい。

お母さん、ありがとうございます、素直に心の底から言える私に生まれ変わりたい。

そんな思いを感じます。

不信感を募らせてきた私は、本当に愚か者でした。心の中に、本当の安らぎを、本当の幸せ、温もりを求め、私があるのに、不信感を抱いて、田池留吉の学びに集っていました。

肉を本物とする思いが私の前に立ち塞がっています。

あなたは、それを私に、何度も、何度も伝えてくれました。

そのたびに、私は、心から反発する思いを向けてきました。

そんなことは分かっている。だけど、私は、今これが現実なんだ。私にどうしろと言っただ。

この思いが即座に出てくるのが分かりました。

これが、私の学びに対する不信感です。それならば、私はこの学びを止めればいいとも思うけれども、止めずに、止められずにきました。

そんなウジウジした私を感じ、私自身を情けないと思い、こんな私が嫌でした。そうではありませんでした。どんな私でも、受け入れていかなければならなかったのです。私が私を見捨てたら、本当に、私は、地獄の奥底の底の底から浮き上がってくるなどできない、今、その厳しい現実を感じています。心の中を、しっかりと見つめていきます。どんな苦しい私でも、しっかりと受け止めていきます。この今の現実の中で、私を受け止めていきます。

私は、地獄の奥底の底の底から、やっとこの肉をいただいたのです。

今度、帰るとき、その奥底の底の底の少し上のところまで、私は、帰っていききたい。今、そのことを、自分の中で思っています。

心を見つめ、お母さんに思いを向け、自分を語り、そんな時間を過ごしていこうと思います。

***さん、自分を縛らずに、自分を閉じ込めずに、小さくせずに、ありのままに自分を見つめていけばいいんです。本当は簡単な学びなんです。あなたの中で、くそつたれ、ウジウジしている思いが出てくれば、そんな自分に優しい思いを向けていく、そうやって、あなたの中で、ただただ思いを見つめていくだけです。

あなたが選んできた肉の環境です。あなたがその中で、心を見つめていけると思ったから、その環境を選んだのです。そのあなたを信じていってください。あなたの中に、優しいあなた、温もりのあなた

があります。

そして、真実の道を歩いていこうとするあなたも、もちろんあります。

そのあなたを信じていってください。

環境をガラリと変える、それは、あなたの中から、本当にその思いが突き上がってきたときです。あなたの中で、その時に、決断をしてください。あなたが決めていくんです。誰が決めるものでもありません。あなたがあなたの中を見て、これだと思ったならば、その思いに従っていけばいいと思います。その後のことは、おの自ずと整っていきます。あなたの中で、心を見る道筋みちすじができていくんです。

どんな環境でも喜びです。あなたの中で喜びを広げていってください。

しっかりと心を見ていく、瞑想をしていく、それをやっていってください。



***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。お母さんに使ってきた心を、私も振り返っています。

心が板ばさみだと、私は言われました。そうです、私は、どっちつかずなんです。ああ、とても、そのところに欲を感じます。

ふたつの方向を追っている。この学びも、そして、肉の生活も、そういうような私の欲を感じます。

ああとても苦しいです。お母さんの反省を、ひとつ、ひとつ、やっていこうとしている。でもその心の奥底は、その欲の思いでございます。

異語。

***さん、はい、そうですね。欲では、本当にあなたが望んできた学びは出来かねます。どうぞ、心をしっかり見ていってください。

あなたは、この学びを通して、自分の何を知りたかったのでしょうか。自分を本当に変えていきたかったのでしょうか。自分を救いたかったのでしょうか。

うか。どうなんでしょうか。それとも、あなたは、肉のあなたの人生を今世もまた……、その方向に心を向けていこうとなさっていますか。

ふたつにひとつの学びだと、私は、お伝えしました。そうです、生活は生活として、やっていかなければなりません。でも心は、ひとつなんです。タイケトメキチ、アルバートの方向に、あなたの心を向けること、そのみでございます。肉の生活は、後からついてきます。

あなたが、それをどの程度、自分の中でとらえていくか、そのことを、あなた自身、選択していただくさい。

十年前に出された意識二つを改めて確認させていただく機会を持たせていただきました。月日は経^たても、これらの意識は私にとって今も全く



当てはまりません。それだけ、この二つの意識は私の根本、核心を突いた意識だということです。

私は今、少しは自分のことを自分で突き放してというか、客観的にというか捉^{とら}えられるようになりました。十年前はそうではありませんでした。だから、この二つの意識は自分の意識であると分かっている、表面上でしか捉えていなかったことが分かります。この意識を出していた時も含めて、長い間肉を取るか意識（この学び）を取るかとももの凄^{すこ}く悩んできました。しかし、今、本当はそうではな

かった、その奥には、肉も意識も両方取りたいと欲一杯の自分がいると心底思います。

前々からある方から、「肉の思いがもの凄く強い**君だから」と事ある度に言われてきました。その都度、内心反発してききましたが、この言葉が、今もずっと心に残ってい

ます。そして今、自分は肉だと思っていると少しずつ心から自覚が出来てきました。そんな中、この二つの意識を改めて読み返す機会をいただき、タイケトメキチに思いを向けながらこの意識に思いを向けると、ありのままの自分をさらけ出して包んでいくというかこの意識をよしよししていけばいいんだなと思います。ありのままの自分さえ分かっていますんでした。

私の最大の課題は仕事だと思っています。今は、十年前と同じ職場環境にあります。でも、前と違い四面楚歌しめんそかにも近い状況です。肉でいう心が折れてもおかしくないです。色々な苦しい思いが出てきます。もしかしたら独り相撲ひとずもうを取っているのかも知れませんが、けれども、この思いを、タイケトメキチに思いを向けることで消し去ろうとするのではなく、まずはこういう思いが自分にあるんだとただありのままに受け止め、そして見つめていけばいいんだなどよやく少しは思えるようになりました。本当に鈍いにぶ歩み方ですが、一つ一つやっていこうと思います。

***さん、心を語ってみてください。

はい、心を小さく、小さくしてきました。ある時はそうです。そして、ある時は、自分を大きく、大きく誇ってきました。この両極端きょくたんで、私は、ずっと苦しんできました。過去からの転生の中で、私は、両極端をやってきました。今、それを感じます。

心を語るな、語るな、語ってはならない、そんな思いと、語りたい、語りたい、もっと、もっと、心を語りたい、そんな思いと、これもまた両極端です。

そして、私は、今、まだ自分の中に母の温もりを確立していないことを感じています。心が、まだまだ揺れます。色々なことを目にし、耳にする中で、私の中にはっきりとした中心棒がないから、私の心は、揺れて定まらない、そんな自分を感じています。でも、私は、こうやって、心を見る、そして瞑想をする、心を語る、自分のエネルギーを感じる、こ

んな学びに集えたことを喜んでいきます。

田池留吉に対して、たくさんのエネルギーを使ってきました。歯向かうエネルギー、とても厳しい波動を流してきました。これが、私が宇宙に流してきたエネルギーですね。周りの人達に流してきたエネルギーですね。

そして、私自身に流してきたものなんですね。

申し訳ございません。今、自分を語りながら、自分のエネルギーを感じています。本当に荒い厳しい真つ黒なエネルギーでした。その波動の中で、よくここまで来たことだと、不思議でなりません。

はい、ありがとうございます。どんな自分でもよかった。お母さん、ありがとうございます。ただただありがとうございます。ありがとうございます。

真つ黒な私が、ありがとうございます、こんな嬉しい、嬉しい思いを感じさせていたいています。

心を見つめていくことは喜びです。心を見ることは喜びです。はい、今なら分かります。心を見ることが喜びですね。瞑想をすることが喜びですね。

宇宙に思いを向けることが喜びですね。どんどんどんどん、私の中を語ることが喜びなんですね。ありがとうございます。

中心棒をしっかりと確立していきます。はい、どちらに転ぶこともなく、ただただ私の中に中心棒を確立してまいります。

***さん、どうぞ、しっかりと自分の中を見つめていってください。田池留吉の意識は、あなたにそのように伝えていると思います。

心を見つめていくこと、ただそれだけです。瞑想をすること、ただそれだけです。それだけに、これからのあなたの時間を使っていってください。

確かに、色々なことがあり、あなたの中は、ざわついているかもしれせん。しかし、今、静かに目を閉じて、田池留吉、お母さんと呼べるあなたを感じられたと思います。

そのようなあなたがあるからこそ、色々な思いがまた、喜びへと変わっていくんです。その瞑想をす

る喜びを、しっかりと心に感じ、あなた自身を心に感じていってください。

あなたは、まだまだ変わっていきけると思います。優しい、優しいあなたがあなたを待っている、そのことを信じて、瞑想を続けていってください。

異語で、あなたを語っていってください。あなたとあなたの中で、心をどんどん自由に解き放はなしていってください。私達は待っています。

十年前の意識……を振り返る機会をいただいてありがとうございます。

正直なところ、えっ、どんなだったか？ と思いました。

添付いただいた自分へのメッセージを読んで、変わっていない自分であると思いました。この十年間の自分の心の向け先を思うと、肉優先、肉の生き方で過ぎたと感じます。

十年前に心が帰りました、十年前の思いが心よみがえりました。

今の自分の意識、今の私は何を語るのだろうと勇気を出して申し込みをしたのに、これを半忘れるとは何ぞや！ ほぼ時効とは何ぞや！

波動の勉強は何度も聞いておりましたが、自分の意識は遠い存在になっていました。

今、十年前に戻る時間は意識の世界からのメッセージ……その通りだと思えます。

メッセージを開けました。そうこれでした。

そして、十年前の意識を読ませていただき、どこまで頑固がんこで強情きやうじやうで己が偉いのかと思うばかりです。

大切なメッセージを軽くぞんざいに扱っておりました。申し訳ございません、どんなにこの学びに触れたかったことか、どんなに望んで生まれてきたことか。

もう若くない年齢になって、死に向かって刻々ときときと今世の時間が削けずられていく。

ほんとに肉のことは程々に、自分が望んだ大切な出会いをチャンスをこれから残された時間大事に大

切にと思います。

十年前の意識をふり返る時間を与えていただき感謝です。

心に届くものがありました。

なんて恵まれた中に存在していたのか。

申し訳ない思いとともに、今も学びに繋がっているのはどんなに真実に出会いたかったか、どんなに今世にかけていたか、思い起こしながらこれからの大切な時を使わせていただきたいと思います。

こんな機会をいただき本当にありがとうございます。

159

***さん、心を語ってみてください。

己の偉い私を、真正面からとらえずに、しっかりと見ずに、今まで過ごしてきました。やっと、私は、自分の己の偉さを、自分の中で認めていけるようになりました。

はい、私は、己がとても偉かったです。己ほど偉い者はない、そうやってそびえ立ってきました。それが今世の私でした。いいえ、過去からの私でした。過去から、私は、ずっと、母を見下げ、温かい、温かい思いを蹴散らしてきました。

そんなもので私は生きていけないと、自分の中に己を素晴らしく引き立てるパワーを求めてきたんです。宇宙のパワーを求めてきました。

己の偉さはそこにあります。パワーを求めてきました。宇宙のパワーです。私は、宇宙のパワーを求めてきました。

そして、己の偉さを助長してきました。そんな私を、今、心に感じています。今、ようやく、その私と真向かいになっていこうと思えるようになります。

お母さん、ごめんなさい。こんな私でした。今、自分を語っています。こんな私でした。こんな私が、母に肉をいただいた。本当にありがとございます。その喜びを、今、感じています。

異語。

***さん、そうですね。あなたも、今世、色々な現象があったと思います。すべては、そのことに気付いていくためです。しかし、なかなか自分と真向かいになることはできませんでした。

恐怖心があったからです。

自分を崩していくことに恐怖してきました。

そんなあなたです。しかし、自分の心をしっかりととらえ、真正面から見つめる喜びを、少しずつ広げていっていると思います。



どうぞ、お母さんに向けて、反省瞑想を続けていってください。

反省瞑想です。瞑想の中で反省をしていくんです。ただただ、優しく、優しく、何の思いもなく、ただただ受け入れてくれた母の思いを、しっかりと心に蘇よみがえらせていってください。そうやって、あなたの今世の時間を過ごしていってください。

そして、あなたも次の転生に心を繋いでいける、そんなあなたになっていってください。私達は待っています。私達は、あなたの心の中で、いつまでも待っています。

意識を受けてもらうための申し込み欄に自分の名前を入れようとして、この名前をお母さんが付けてくれたのだ、お母さんにしてもらったことなのだと思つた時、ふっと温かいものを感じました。とて

も嬉しかったです。

意識を受けてもらい、メッセージも頂きました。

そのメッセージは今の私へのメッセージでもある
と思っっています。

その頃はお母さんのぬくもりがどれ程大切で重要
なことか、わかっていませんでした。

今もまだまだですが、本当に素直になつてただだ
だ母を思い、田池留吉を思つて淡々と瞑想を続けて
いくだけなのだ、また、確認させて頂きました。
ありがとうございます。

160

さん、あなたは、で講師をされ
ていたそうですが、その時の思いを振り返っておら
れますか。あなたは、あなたの心を見ておられますか。

私は、***でございます。己偉い私の心はそ

のままです。講師なんて、チヨロイものなんですよ。
全部、頭で理解して、言葉をスラスラ口から言えれ
ば、あの世界では、講師という肩書きがつくんです。
私の頭で理解した世界でした。

私は、心を見ておりません。私の心の中のアマテ
ラスは、そんなどころではございませんでした。私
が***で求めてきたアマテラスの世界どころで
は、ございませんでした。私は、いい気になつてい
たんです。みんなから、ちやほやされるのが好きです。
己を表すのが好きです。***さん、あなたは立
派ね、そう思われるのが、何よりも私の幸せでした。

あなたの心の中に、色々な思いが詰まっていると
思います。綺麗よそおに装かたまりついても、あなたの心の中は、
ヘド口のような塊かたまりがいまだに、たくさん詰
まっています。そのことを、あなたは、どのように感
じておられますか。

見たくない、見たくない、見たくない。私の心は、

そのように叫んでいます。田池留吉に反発する心は、その思いからです。私は、ああそう、なぜこんなに反発するのか、自分でも不思議だったんです。反発するのになぜ、セミナーに参加するのか。参加しても、自分のエネルギーを、むごたらしいエネルギーを、自分に見せているだけなのに。なのに、なぜ、セミナーに参加してきたのか。そのところが、私には、よく分からなかった。

あなたは、このままで、肉を終えていっていいのでしょうか。肉の喜び、肉の幸せ、それを、あなたは、まだまだ心で追い求められています。心の中の寂しさ、苦しさ、そして、すさまじい思い、何ひとつ、あなたの中で、解決されていないのではないのでしょうか。

十年前、コレを読んだ時の私は「あなたの心の中はヘドロのような塊がいまだにたくさんたくさん詰まっている」というところで「見たくない、そんな

汚い私は見たくない」と閉じてしまったのを覚えています。汚い、真つ黒の自分を認めるのはイヤ。そんな思いで、また開けてみようという思いになれない私でした。

「セミナーに参加していたら私の願いは叶うだろうと。幸せにしてください。幸せにしてください」と、他力信仰をやっていた、そのままの心で動機の修正もできていない、母親の反省もできていない。

「何もわかってなかったー」というのが素直な思いです。先生の言われてた「正しい手順を踏んで学ぶ」ということを無視して我流で学んでいるつもりでした。

次々と現象をもらい、苦しい大変な中で、何をしていたんだろうと思う。

「箸はしを持つたび思え田池留吉」と講話の中で言われていたのを、今は、その通り、それ位何度も何度も自分の中で繰り返し繰り返し、田池留吉、私の中の田池留吉を思うことの大切さを噛み締めています。

この機会をいただき、ありがとうございました。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

他力のエネルギーを心に蓄^{たくわ}えて、ずっと転生を続けてきた私の中で、「母の思いを思い出してください」「そんなチャンスを、今世の私は得ました。

私なりに、やってきたと思っています。いいえ、これからも、それしか私がすべきことはないと感じています。

母を思う時、母を思い瞑想する時に、心の中に作ってきた他力の世界のすごさを少しずつ、感じ始めてきて、今は、本当にすごいエネルギーを溜め込んでいるんだなあと、私は、感じています。

まだまだ、その他力のエネルギーが私の中で、大きく広がっています。

そんな現実の中で、こうやって、自分を語らせていただくことが、とても嬉しいです。

自分を閉ざして生きてきた、他力のエネルギーに

自分を任せてきた、その心を、今、少しでも語らせていただきました。

私の心の中に、優しさが伝わってきます。お母さん……、お母さん……、反省と瞑想を続けてまいります。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、田池留吉と心の中で呼んでみると、私の世界を感じます。はい、すごいです。真っ黒な、真っ黒な中に私はいます。

田池留吉に対して、大きな、大きなエネルギーを向けていることを感じます。それでも私は、あなたに出会いたかったですね。

あなたに、まだしっかりと出会えていないけれど、田池留吉の世界を、心で知れたかったんだあ、そんな思いが感じられます。

異語。

***さん、田池留吉からのメッセージを聞いてください。

***さん、私は、田池留吉です。どうぞ、どうぞ、あなたの心を私に向ける瞑想を続けていってください。

ゆっくりでいいんです。心を私に向けて、あなたがこれまでしてきた他力の世界、その世界に心を向けてみてください。

しっかりとそこで使った心を、あなたの中で受け止めていってください。

あなたの中に、確かにある温もりを信じて、信じて、これからの時を過ごしていってください。

虚構きよこうの世界に生き続けてきた、ちっぼけな蟻ありのよ
うな転生てんせいでした。

千載一遇せんざいいつぐうのチャンスを得ました。私の中に真実がありました。

ちっぼけな蟻ではなかった。

意識の転回、愛の覚醒かくせい、人生唯一の真の目的の
遂行すいこうという難題がありました。

試行錯誤しながら、私なりに読み解といてきました。
田池留吉、アルバート、この一点を探し当てることでした。

私はゼロ歳。

ゼロ歳の目は、母なる宇宙を見えています。



昭和42年8月10日

温もりの中にある自分を信じています。

私は、意識、波動、エネルギー。

肉でない自分の中に、戻っていきける。

私は愛です。

私の中にすべてがあります。

田池留吉、アルバート、愛、母なる宇宙、次元移

行……。

私は、愛から出て、愛に帰る存在。一点だけを見つめて存在していきます。

162

私は、***でございます。長く学ばせていただいた者でございます。

申し訳ございません。私は、真つ暗でございました。

今、母を看ながら、私は、自分の学びの時間を振り返っています。

はい、心を振り返るといっことをしています。

私は、私の心を見ませんでした。見てきたつもりでした。ああ、それは、まさしく、つもりでした。私は、己を知りませんでした。

自分の苦しい心を知りませんでした。長い時間、それは、自分の転生の時間からすれば、ほんの短い時間ですが、その時間の中で、私がやってきたことは、己を表すことばかりでございました。

そのことに、ようやく気が付きかけてきたところです。ただ、そのほんの少しの気が付きが、とても嬉しいです。心をしっかりと見てまいります。しっかりと見てまいります。

十年前、この意識をいただいた時、恥ずかしいと思いました。

「私は心を見ませんでした。見てきたつもりでした。自分の苦しい心を知りませんでした」と伝えていただいた時、初めそれが自分にとってどんなに大切なことかも分からず、ただ苦しい思いでいつしか、直し込んでいました。

十年経った今、その意識を再び読み返しています。田池留吉（田池先生）が伝えてくれた一番大切なことを、私は素直にハイと受け止め、真剣に心を見るという作業ができていませんでした。

自分の中の苦しみを自分のこととして本当に学んできたのかと自分に問うた時、それは肉的反省であつたように思います。自分の苦しい心にしつかりと目を向けてきませんでした。

苦しい心に出会った時、私はいつもその苦しい自分が間違っている自分と自分に厳しく向けてきました。そうしてずーっと間違っている自分を捨て去ってきただけに思います。それは間違っている自分が嫌でした。己が高くとても冷たく厳しい思いでした。自分の心癖は、そう簡単に修正できるものではありません。私はきつと過去からこんな心を使い続け、苦しい転生を繰り返してきたのだと思います。

やっと田池留吉の肉に出会うことができた私は肉の喜びもひとしおですが、それにも増して私の中の意識たちの喜びが如何ばかりか計り知れないと思

ます。そう思うと肉は本当に愚かです。

今も苦しみの中で生きている私自身にともに生きていきたい、ともにお母さんの温もりに帰ってきたいと心から思います。何度、自分を裏切ってしまったのかと悲しくなってしまう。ごめんなさいと謝あやまってすむことではありませんが、そんな愚かな肉とともに今世を歩んでいます。お母さん、私を産んでくださってありがとうございます。残り少ない肉の時間を精一杯喜びで生きてまいります。

163

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。つまらない肉を掲かかげてきた自分を感じます。下らない肉でした。でも、その肉がとても大切だということを、私は、日々の生活の中で感じています。日ごろすごいエネルギーを使っ

ています。生活の中でずっと使っ思いは、すごいです。私は、これだけすごいエネルギーを蓄えてきた。それを実感する毎日です。でも、この肉体、形が、今、私にあるから、そのエネルギーをもろに感じられることが、嬉しくなってきました。以前は、それがとても苦しくて、自分の心を見ることが嫌でした。己を立派にしたかった。自分が認められることならば、心を向けるけれども、自分を認めないものに対しては、徹底的に歯向かってきました。

私は、素晴らしい、素晴らしいと、そう認められなかったのです。ああ、でも、自分の中を見ていくと、とてもそんなことは言えない。それがようやく、ようやく、私の心の中に響いてまいりました。

異語。

***さん、どんどん心を見ていってください。そして、あなたの来世に思いを向けてみてください。

異語。

今世、学びに繋がった私、よかったと思っています。ひとつ、ふたつの転生を重ね、必ず心繋いでいくことを、私自身に、約束しました。心を見てまいります。お母さん、待っていてください。心を見てまいります。愚かでございました。優しい私を信じて、ただただ心を見てまいります。

十年前の意識を久しぶりに読み返してみての感想は「びっくりするほど今の私そのものだ」です。十年前も今もまったく変わっていません。ですが受け止め方が変わったことを感じます。

十年前にこのメッセージを読んだ時はまず自分の意識の部分を読んでみてテンション低めに「あー、ホントそう。そんな感じ……」と、気付き始めた自分の欠点を公衆の面前で指摘されたような恥ずかしさが先に出ました。そしてメッセージの部分で

「へえ、私の転生は二回なのかあ」と確認。「必ず心を繋いでいくことを、私自身に、約束しました」の箇所うつつむで俯うつむき気味きみだった顔がようやく上がったことを覚えていきます（おそらくちよつとドヤ顔だったと思います）。

そして十年後。読み返してみて思うのは「ホントそう！ そんな感じ！」という前向きな実感。同じ日本語ですが受け止め方が全然違う。十年前と変わっていない自分自身に対し、溢あふれんばかりの愛情が感じられるのです。

以前の私だったら絶対に「十年前と変わってないってどういうこと？ ヤバイよ、マズイよ、ダメだろ、それ」と、焦あせりと否定の思いで自分を責めまくっていたと思います。ですが違いました。つくづくしみじみ「そうそう、ホントそう。ああ、でも嬉しい。意識の私はちゃんと私を理解してくれている」日本語にするとそんな感じでしょうか。愚かな自分を愛いとおしくて抱いだきしめるような感覚。喜びとともに何とも言えない安心感が突き上がってくるのが感じ

られるのです。

……と、嬉しい思いで読み進めた自分の意識ですが、後半のメッセージで一転。十年前はドヤ顔だった「必ず心を繋いでいくことを、私自身に、約束しました」の箇所うつつむで逆に今の自分自身に「ヤバイよ、マズイよ、ダメだろ、今のままじゃ」という厳しいジャッジがくだされました。整い過ぎている肉の環境に甘んじている自分。肉基準の勘違いを膨らませてきてしまった自分。セミナーが無い今だからこそ浮かび上がってきたこれらの思いを真剣に見つめ直さないと、二五〇年後の転生も、アルバートとの出会いも、次元移行も無いですよ、という厳しい現実が伝わってくるのが感じられるのです。

十年前と今とでは環境がまったく変わりました。ある意味、十年前に喉のどから手が出るほど欲しがっていた環境を、今の私は手に入れました。ですが出てくる思いは同じ。同じです。同じでした。この気付きは絶望きぼうと驚嘆きょうたんが入り混じるような不思議な感覚でした。

あるものが出る。自分の中にあるもの、あつたものが出る。ただそれだけ。それだけでした。出た後をどうするか。出してダメという勉強ではない……。出した後、出た後をどうするか。相手を責め裁き被害者面をし続けるのか、それとも愛に帰ろうと、愛に帰れるんだよと、田池留吉、アルバートの波動に誘い、ともに学びを進めていくのか。頑固で愚かで肉の思いの強い私はまだまだ自分を正当化し、己偉く被害者面をし続けようとしてしまいます。

ですがそこで登場するのが毎日の塩川さんからの力強いメッセー
ジです。本当に毎朝、毎朝、本当にありがたいです。
こんだけ言われても染み渡らない自分の岩盤のぶ厚
さ頑丈さに呆れ返りながら、それでもやっていこう



1歳の頃の自分（松島にて）

学んでいこうと思えるのは十年前
来世に思いを向けた後に出た意識、
「今世、学びに繋がった私、よかつ
たと思っっています」この思いがある
からだと思います。塩川さんという
核からの力強いメッセーと力強い
自分の中からの思いに先導され後押
しされ、どうしようもない勘違いヤ
ローの自分が命懸けで生きている、
軌道修正をしようとしている今なん
だとあらためて思えました。

今回この機会が無かったら出会え
なかつた思い、気付けなかつた心の
変化だつたと思います。U T A ブツ
クさん、貴重な企画を本当にありが
とうございました。

***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。暗い、暗い、真っ黒な心の世界の中で、少しだけ、ほんの少しだけ明るさを見出しています。

私は、間違っていました。お母さん、間違っていました。優しいお母さんだった。なのに、私は、お母さんを見下し、足蹴あしげにしてみました。この心をあなたは、この心を見ていきなさい、お母さんにそう言われました。

そのことを少しだけ感じさせていただきました。瞑想をする中で、私は、そのことを、少しだけ感じさせていただきました。

でも日常の中に戻ると、私は、また真っ黒な私を感じ、私は落ち込みます。その繰り返しです。でも、いいんです。今、少しずつ、少しずつ、幸せを感じています。肉のことを整えたかった。恵まれた環境

にしたかった。私は、その肉の環境を整えたかった思いが、とても強かったです。

でも、私には、私の心を見るために、すべてが必要だった。あの夫も、子供もすべてが必要でした。

そして、私のこの肉、肉が、本当に今あることが、とても不思議です。

不思議なくらい、不思議なくらい、嬉しいですよ。肉がある私を思う時、とても嬉しい、ありがとございます。

十年前の私がこんなに素直な喜びの思いを伝えていたこと、ちよつと不思議でした。

何故なら、私は自分がいつもいつも暗く苦しい中にいることを感じるばかりで、とても喜んでいとは思えないからです。

私は自分の感情や思いを言葉にすることがとても苦手です。ふと浮かんだ思いを、頭の中で、これは正しいのだろうか、間違っているのではないだろうか

かと頭で考えてしまつて、その時の自分の素直な思
いをそのまま受け止めることができせん。自分の
ありのままの思いを見なさいと言われているのに、
いつも頭で考えてしまうので自分の素直な思いが分
からなくなつてしまいます。

でも十年前に出していただいた意識はとても素直
で嬉しそうで、読んでいてもすうつと心の中に入っ
てきます。

このように心をそのまま出していけばいいのだ
なあと思いました。

そうすれば、少しずつでも心が軽くなつていくの
だと感じています。

ただ、今の私はなかなか心を見ることができない
と思いつながらも、苦しい自分を感じた時に、ふと、
苦しかったね、しんどかったね、と自分に言ってい
る私がいいます。

お母さんの温もり優しさの中に存在していること

を感じているのでしょうか。

そんな時は心が軽く感じられ嬉しくなります。

165

***さん、心を語つてみてください。

私は、***です。どんどんどんどん、心に感
じる世界があります。でも私は、その一方で、自分
の心に、とても大きなブラックを感じ、その中に自
分がどんどんどんどん落ちていくような、不安、恐
怖があります。

心に感じる不安と恐怖、それを今、どのようにす
ればいいのか、私は分かりません。お母さんの反省、
そう、お母さんの反省ですよ。お母さんに、どん
な心を使ってきたか見つけていく、その方法しかな
いんですよ。

異語。

そうですね。* *さん、あなたを生んでくださったお母さんを、まず思ってみてください。お母さんに、どんな心を使ってこられましたか。どうぞ、自分の中で、素直に、素直に、広げていってください。

異語。

ああ、私にはふさわしくない母親だと思ってきました。私は、あんな母親から生まれたくはなかった。私にはふさわしくない、そう、私にはふさわしくない母親でした。私は、あんな母親大嫌いでした。とても、とても、嫌いでした。みずぼらしく汚くて、ああ、私は、嫌い、嫌い、そんな思いが出てくるんです。私の中から出てくるんです。なぜでしょうか。肉の私は、そんなこと思っていないと思います。でも、私の中から、どんどん出てきます。これは、私の過去からの思いでしょうか。

こういう思いも、すべて、受け入れていける心を作っていけばいいですね。

異語。

* * * *さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん……、はい、お母さん……。はい、お母さん……。
私は、お母さん、幸せになりました。幸せになりました。本当は幸せになりました。だから、私は、パワーを求めてきました。お母さん、私は、幸せになりました。ただただ幸せになりました。私の思いを聞いてくれるところを探しました……。

このメッセージのホームページを印刷していたので、初心に帰ろうと思った時に見返していました。

あの頃は、そうなのかなあ……何を求めたんだろう？と、思うだけでした。

今は、「本当の幸せがわからず、方法がわからず、外にパワーを求めた自分に、虚^{むな}しかったね、しんどかったね、間違ってたよ。ごめんなさい」と、伝えられることがうれしいです。でも、母の反省も薄っぺらいし、欲でなく、ただ田池留吉を思うことの難しさも感じるし、まだまだ、基準が肉の幸せにあるのも感じています。



166

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***でございます。長く学ばせていただいた者として、今、ここに語ることを、私は躊躇^{ちゆうちゆう}しておりません。なぜならば、私は、自分の心を見るということをおざなりにしてきた、そう感じるからです。

今、私は、自分の心を語るチャンスを得ています。しかし、私の心の中を語るには、自分自身まだしっかりととした準備ができていないことを感じます。

頭を回して、私は、言葉尻をとらえてきました。自分の心癖でしょうね。私は、自分の職業柄、そのような字び方というか、本の読み方にしても、ホームページの見方にしても、そのような癖が出てしまっています。

言葉をとらえる、そうした時、私は、頭が、クル、クルと動くんです。

これはいったいどういう意味なのか、そういうところ、私は自分の心が止まってしまいます。自分の心の中のすさまじいエネルギーに心を向けることを、私は、まだしていません。

異語。

***さん、あなたは、その肉の皮が分厚いものだと思っておられます。そうでしょう、あなた自身そうだと思います。しかし、肉の皮は、本来は薄いものなのです。真剣に、本当に自分を苦しみから脱出させる、苦しみから自分を解き放はなそう、そうやって、心に感じる事ができたなら、肉の皮を突き破って、あなた自身が飛び出てきます。いくらでも、あなた自身が飛び出てきます。それは、たまらなく嬉しい叫びとして、あなたの中から出てきます。その体験をされた人、それは、この学びのとらえ方が違ってくると思います。

知識は、充分あると思います。あとは、素直になっ

て、そう、素直になるといふことがどういうことなのか、瞑想をする時間の中で、感じていってください。

私のメッセージの中で、「私は、頭を回して、言葉ことばを捉えてきました。自分の心癖です」と言っています。「言葉を捉えるとき、頭がくるくる動いて、これはどういう意味なのか、そういうところで、自分の心が止まってしまいます。自分の心の中のすさまじいエネルギーに心を向けることを、私は、まだしていません。」

でも、この学びの中で、「あなたの心の中の苦しい心を見て、その苦しい心を開放していくんですよ」という言葉を、私は何度も何度も聞いてきました。

私は、人に負けたくない思い、人から兎とや角かく言かわられたくない思い、人から言われた事に反発する思い、自分の嫌な事をされた時に仕返したい復讐ふくしゅうの思い等々、色んな苦しい心を一杯出してきたことを思い出します。こんな苦しい心をそのままにして、その

心を押さえつけて人前に出さないようにし、人と争わないようにしてきました。

でもそれでは、益々苦しくなるだけでした。

続けて、メッセージは、「あなたは、その肉の皮が分厚いものだと思っておられます。しかし、肉の皮は、本来は薄いものなのです。真剣に、本当に自分を苦しみから解き放そう、そうやって、心に感じることが出来たなら、肉の殻を突き破って、あなた自身が飛び出てきます。それは、たまたまなく嬉しい叫びとして、あなたの中から出てきます」と言ってくれました。

でも、苦しい心を解き放そうとしても、自分ではなかなかそれが出来ませんでした。

人に負けたくない、人に言われたくない、人からされたくない思いを一杯心に詰めて、心はもう苦しみで満杯でした。

この心をどうすれば解放されるのか。

もともと人に負けるような自分だから、人から言われたりされたりするような自分だから、それは仕

方ないと受け入れていくのか（これでは、余計苦しくなるだけ）、それとも、自分は肉と思つて頑張っているから、肉の自分を握っているから、受け入れられないのか。やっぱり、肉の自分を護っているから、受け入れられないのだろう。

私が肉の自分を護っている限り、絶対そんな自分を受け入れられないと思う。頭をくるくる回して肉の自分を護っている限り、自分の心は肉から解放されないと思う。母の温もりを心に感じない限り、心は解放されないと思う。

もう、私の肉の時間も、肉の体力も、残り少ないと思うから、あらゆる雑念、物事を捨て去って、ただただこの学びに専念したいと思う。

田池留吉の意識に向けて瞑想をし、更にゼロ歳の自分を思いお母さんを心と呼んで瞑想をして、何度も何度もそれを真剣にして、母の温もりを心に感じられるようになって、そして初めて、自分のすさまじいエネルギーを心に感じられ、そして、それを反転して愛に変えられると思う。

いや、元々すべては愛でした。そして、それに気づいていけば、私達はただ喜びだけなのでした。

まずは、母の温もりを心に感じられるようになることが肝心かんじんだと思います。ただただ田池留吉、アルバートに心がびったり向くように、二五〇年後の次元移行の時にみんなと集えるように、頑張ってください。



167

***さん、他力の反省を進めていますか。

私は、***でございます。はい、他力の反省、難しいですね。心に溜め込んできたエネルギーを、自分の中で見ていく、お母さんの温もりに照らしながら、自分の中を見ていく、すべてが他力だから、それは、とても、難しい作業です。ああ、でも私は、今、自分の時間の中で、それをやっています。私の中に、必ず、本当の優しさ、本当の温もりがあった、そのことに出会いたい、そういう自分を信じていこうと思っています。他力の心を積み上げてきたのは、私自身です。本当の自分を忘れたから、私は、ずっと幸せではありませんでした。ようやく、それがほんの少しですが、自分の心に響いてくるまじりになりました。

間違ってきた道を歩いてきたのは、私。誰のせいでもありませんでした。そう、私が選んできた道で

した。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

お母さん、お母さん。お母さんってなかなか呼べなかった。あまりにも私は、偉すぎました。お母さんって、素直に呼べなかった。でも今、田池留吉の目を見つめながら、お母さんって呼んでいる私を感じます。嬉しいです。田池留吉に対して、歯向かってきた。いいえ、まだまだこのエネルギーが中にあるけれど、今は、それも、この私に気付かせるためのものであった、それを感じています。田池留吉、お母さん、瞑想を続けてまいります。

この十年余りを振り返る機会をいただきました。ありがとうございます。

しかし、他力の反省は本当にむつかしいというの

が実感です。

肉を守りたい、守らなければという思いをなかなか離せない、供養できない。

比較競争の中にどっぶり、己偉い自分で右往左往している。こんな中で何年もすぎてきました。戦って恨んで呪って肉を守る。それしか生きていくには仕方がないと、田池留吉に歯向かってきた思いを守ろうと必死。それが、頑固だったと思います。

そんな中でも、今自分を信じていこうの思いが、私の中で嬉しい思い、喜びで伝わってくる。すべて許されている中で自分が少し心が広がっていく私を喜んでいこう、そんな自分を何があっても信じていこうと思っています。

168

***さん、心を語ってください。

私は、***でございます。田池先生のお膝元で、私は、古くから学ばせていただいた者でございます。しかし、私の意識は、遅々^{ちぢ}として進んでおりません。今もあの当時と同じところで、足踏み状態でございます。私は、そのことを感じます。

他力信仰とこの学びは全く違う、頭では分かっておりますが、私の中では、他力信仰の延長だとらえてきたように感じています。

肉の喜びと幸せを、学びをやっていけば、私の中に感じられる、その思いが、とても強いです。

異語。

***さん、お母さんの反省を、一から始めてください。あなた自身が語られたように、あなたの意識の世界は、足踏み状態です。この学びは、進化しています。しかし、あなたの意識の世界は、何かひとところに留^{とど}まって、淀^{よど}んでいるような感じがし

ます。

あなた自身も、そのことを心に感じておられると思いますが、どうぞ、お母さんの反省から始めてください。

年数は長いですが、学びの流れ、今の流れに程遠いところにあることを、私は、あなたにお伝えします。

このことを聞いて、さて、あなたは、どのような思いを、心に広げられるでしょうか。そこから始められてもいいかと思えます。どうぞ、あなたの中から出てくる思いを、しっかりと自分で見つめてください。

私は何も分からず、心を真剣に見る事なく唯集っていただけの一昔前、あの意識を出して頂きました。さすがに落ち込みました。本当に己偉い心でした。あの文言が、私の心に間違いありません。あれから数年何の進展もなく過ごしていました。唯私が四十歳の時亡くなった母の事は、いつも思っていま

した。私を産むこと自体本当に悩み苦しんだと思います。その中でとにかく私をこの世に出して頂いたという事実が大きく出てきました。私に対してではなく、家族の中での母の言動が嫌で、私は結婚を理由に大阪に逃げてきました。四十歳過ぎてから末っ子の私を生んだので、年齢は重ねていきました。足腰が悪く昼間は一人でベットに横たわっていたので、毎朝電話をしていました。そんな時でも感謝の思いはありませんでした。私の我がままを許してくれていた優しい母、そんな甘い甘い反省でした。でも大阪へ逃げてきたお陰で田池先生に出会わせて頂きました。

本当の自分の愛に出会う事、どんな状況になろうが田池留吉を、心に思う事を学んだのです。あの大変な時に、とにかく私を産んでくれたその事が何よりも嬉しいと今、心より思っています。コロナのお陰で肉を離す事だと頭では思っています。肉肉肉の生活では難しいです。死に向かって一日一日と過ぎ去っていく毎日、自分の勉強不足が心に大きくなっ

ています。頭の勉強ではなく田池留吉にすべてを委ねる心、自分の愛を本当に信じる心を、思える私になつていきます。改めて自分を顧みる事が出来て嬉しかったです。有難うございました。

169

***さん、お母さんの温もりを心に感じていますか。

お母さんの温もりですか、まだはっきりと感じているとは言い難い^{がた}です。お母さんを思えば、嬉しいという時もあります。ああでも、私の中には、母を思う瞑想をして、自分の中の闇が出てくることを恐怖する思いが、まだまだたくさんあります。母の温もりで包んでいくことは、頭では分かっています。しかし、私は、その自分の凄まじいエネルギーに飲み込まれていきそうで、しっかりと自分と向き合うことができません。

母の温もりを心を感じていないからだと思います。

そうなんです、私は、お母さんの温もりを、心にしっかりと感じていません。狂ってきた自分を思い、自分の中のエネルギー、どうしようもないほど荒れ狂っている自分を、私は、しっかりと抱きしめてやれない、そんな私です。

異語。

***さん、どうぞ、田池留吉を思い、母を思う瞑想、どんなにあなたの中が遮さへぎったとしても、それを、継続していってください。

それしかないのです。自分自身をしっかりと見つめていけるのは、あなただけです。今、肉を持っているあなたが、あなたを見つめるということをしなれば、真つ暗な意識の底に沈んでいるあなたを、救い出すことはできません。

日常の中で、まずは喜んでいきましょう。どんな些細ささいなことも、喜べるあなたであってください。

幸い、あなたは、ご夫婦でこの学びをされていきます。互いに互いのエネルギーを感じ、苦しい時も多々あると思いますが、それでも、今、この学びに繋つながり、田池留吉、そしてお母さんを思う瞑想を、それぞれがやっていけることを、喜んでいってください。

ご夫婦で、異語を通して、思いを交かわしておられますか。

どうぞ、互いに異語を通して、心をさらけ出していってください。

異語は、正直です。異語を通して、真つ黒な思いを吐き出すけれども、その中に秘めた優しさ、その中に秘めた思い、どうぞ、あなたの中で感じていってください。

十年の間に三つの死が肉と意識を実証してくれました。

田池先生から送っていたいただいたDVDも十年前にいただいたものでした。毎日聞いていた時期もあり

ました、間を空けて聞いた時期もありました。

それはあなたの意識ですと殆ど同じ内容でした。
そして同じように温かい。

改めて聞くと胸に温もりが迫ってきました。

毎日聞いていた頃には気がつかなかった。

異語の力強さと温かさ優しさ。

十年経った今、やっと心に届いた気がします。

その温もりが私を導いてくれます。

これからもずっとずっと。



170

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

私は、***と言います。はい、すさまじい思いを、心に広げてきた私自身のエネルギー、とてもとても、すごい、すごい、すごい、すごい。その中から、私は、なかなか抜け出すことはありませんでした。

こんな私をどのようにしていけばいいのか、心に響いてくるエネルギーはあるけれど、それをどのようにしていけばいいのか、私は、なかなか、そこから抜け出すことができない自分に、情けない思いやら、色々な思いを感じてきました。

ああ、でも、私は、今、自分が、いとおいしいと少しずつ思えるような私がございます。

私は、真っ黒だからよかったんですね。どうしようもなかったから、よかったんですね。今、そう心

に響いてきております。

今の私の肉体があるから、真つ黒な私を心ゆくまで感じられた今世が、とても、嬉しいです。

心を落としてきた過去からの私が、喜んでいる、そう感じられます。

今は、ああ、私は、これでよかったんだ、よかったんだ、そう思える私があることが、とても幸せです。

ありがとうございます。ありがとうございます。

UTAブックさんからのメールで十年前の私に出会った気がしました。

私は凄まじいエネルギーと共に生んでいただきました。

自分の凄まじさを知るために出やすい環境を整えて生まれてきました。

その通り、私の中は暴れまくった人生でした。

必至だったと思います。やっとのこと学びに出会いました。

初めてお会いした時、田池先生は「自分を許して

いくのですよ」と言われました。

涙が止まりませんでした。こんな自分が大嫌いだったからです。

こうあらねばと自分の汚い部分を押し込めてきました。

隠さず誤魔化さなくてよいセミナーの闇出しは水を得た魚のようでした。

出せば出すほど解放感と共にどれ程許されてきたのか受け入れられてきたのかを知りました。

嬉しかったです。嬉しいですよ。

田池先生は初めてお会いした時から「自分を受け入れて温もりに返していく、これがあなたの人生ですよ」と伝えてくださっていたのに、お前さえいな

ければと現象に向かって散々戦ってきました。

戦かって虚しさむなと寂しさを味わってきたけれど、ふうっと思えば心が広がり落ち着きます。(まだ少し時間がかかりますが)

私の現実かたまりは荒れ狂っていますかたまりが苦しみの塊かたまりが帰りたい塊かたまりと知りました。

喜んで帰りますの塊かたまり。今、やっとお母さんの声が聞こえます。

「共に帰りましょう、待っています。」
はつきり聞こえます。

やっと、心に響きます、優しい優しい響きです。
これからです。ありがとうございます。

171

***さん、心を語ってください。

私の心の中に、いっぱい、いっぱい詰まっています。吐き出しても、吐き出しても、次から次へと出てくるこの思い、ああお母さんの反省が進んでいないことを感じます。

でも、私もひとつの家庭を持ちました。子供も授かりました。その家族の中で、私は、心を見ることを、細々ながらやっています。お母さんに、どれだ

けの思いを広げてきたか、私は、妻となり母となつて、やはりその見方が変わってきたと思います。

お母さん、私は、お母さんの思いを素直に受けることができませんでした。本当に、今、そう思います。心の中から、どんどんどん思いが出てくるけれども、私は、その思いをまだまだ自分の中で、優しく抱きとめていく、抱きしめていく、自分を解とき放はなしていくまでには至っていないことを感じます。

タイケトメキチ、申し訳ございません。心が敏感な私を、いつまでも待ってくれているあなたに対して申し訳ない、そう思います。

***さん、心をしっかりとタイケトメキチに向けていってください。日々の時間は、あっという間に過ぎていくと思いますが、そんな時でも、どうぞ、自分を見つめる、静かな時間を持つようにしてください。

あなたの心は、泣き叫んでいるのを感じます。それは、あなた自身しか受け止めることができない。

なぜならば、それはあなただからです。あなたがあなたを受け止める、それしか、あなたに残された道はございません。

お母さん、ありがとう。産んでくれてありがとう。私は生まれたかったです。タイケトメキチに出会いたかった。何度も何度も、自分との約束を果たすと生まれてきながら、闇に落ちてきたけれど、今世こそは失敗できない、だから、タイケトメキチに出会わせてくださいとお願いしました。その約束を果たしてくださってありがとう。

この思いがあがってきた時、びっくりしました。肉の私は、お母さんにあるがとうなんてこれっぼっちも思っていなかったからです。夫婦仲の悪い両親を見て、この学びをしているのに肉だけでも仲良くできないかとずっと、責めてきたからです。

でも、瞑想をすると、何度も何度もこの思いが上

がってきます。本当の自分はそう思っているんだと思いました。

コロナウイルスに思いを向けてくださいと言われたとき、本当にふっと思いを向けたら、とても温かった。びっくりしました。

私はとても敏感です。小さいころから敏感でした。学びの初めの頃、先生がよく言われたラジオ、壊れたラジオだとずっと思っていました。暗い意識はいっぱい感じる。思いを向けなくても同通する。でも、今まで、肉的に普通にこれたのは、肉の思いが強く、自分の受けているものは闇で、たとえ、私の恐れていることを伝えてきたとしても、本当かどうかはわからない。いつも、疑っていました。もちろん、恐怖はありました。これ以上、受けたくないと思うこともありました。

だから、自分が愛だと思えませんでした。闇はパンバン出るけれどなかなか受け入れられなかったです。

でも、肉でのいろんな体験、学びも進化し、瞑想する大切さ、また、セミナー、地域の勉強会、闇を出させてもらう場もあって、最初に書いたような思いが上がりつつくるようになりました。

意識をうけるって、カンニングしてるような感じ、いくら、中から教えてもらっても、それを自分のものにするには、毎日の実践、瞑想。

タイケトメキチからのメッセージをいくら受けても、それが本当にわかるには、毎日、毎日、素直に向き合っていくしかないんだなと実感しています。

以前、香世さんがタイケトメキチを感じるって、その感じているとき、自分というものはなくなつて、その瞬間、タイケトメキチとひとつになつて、その瞬間がそうなんだと。少し、文面が思い出せなくて、うまく伝えられないのですが、嬉しい意識をうけたら、瞑想で嬉しかったりすると、自分がいい人間に

なつたように錯覚さくかくしてしまいがち。肉は、どこまでいっても愚かだということがわかりませんでした。

過去世からずっとつづく心癖、アマテラス、清く正しく美しく、素晴らしい肉でないといけない、それに向かつてがんばる自分。

瞑想をして嬉しい。それは、そこで完結。肉に戻れば、愚かなのだから、子供が言うこと聞かなければ、腹が立つ、職場で偉そうにされればムカつく。肉は愚かだから当たり前だから、そのことについて自分を責めない。前は、いい人、いい娘、いい妻、そして、とても己が偉かった。もちろん、今も偉いんだけど、愚かな私だから、すぐムカつくんだと思うと前より、離れるようになり、楽になりました。どれだけ、自分で自分を縛っているのかと思うと、自分がかわいそうになりました。

学びには、旬しゅん、適時があるとメッセージで言われています。私も老いていく母を見て、感じます。

瞑想していないときは、全部、肉。肉の思いの強い私は、気が付けば、いい人、いい妻、いい母になるうとしています。肉で頑張ろうとしてしまいます。肉でできることは、瞑想する時間をつくること、何も考えずに素直にタイケトメキチを思うこと。軸じくを変えるとおがってきます。ほんとに軸じくを変える、その思いでやっていく。自分に言い聞かせています。

UTAブックさん、いつもありがとうございます。今回、書く機会をあたえていただいております。ありがとうございます。動画とか、いろんな企画で肉に向きがちな私を後押ししてくださっております。

172

***さん、ご主人との仲はどうでしょうか。

はい、***です。たくさんけんかの喧嘩をしてきました。すさまじいエネルギーで、ぶつかり合いました。己、己、己一番のエネルギーを、互いにぶつかり合いました。ああ、私達の心の中のすさまじさをお互いがお互いを見ているようなそんな場面を、何度も、何度もくぐ潜り抜けてきました。

□で言っは、もう追いつかない。どちらも、この身体ごとぶつかり合う、そのエネルギー、私達は、すさまじいエネルギーを蓄たくわえてきた、今、そのことを感じています。

ああですが、私は、私で自分の心を見ようとしています。たぶん、主人もそうだと思います。この学びに繋つながり、自分の心を見る学びに繋がり、私達は、互いにすさまじいエネルギーを出し合いながらも、そのように、肉では努力してまいりました。

ですが、他力のエネルギーはすさまじいです。肉の思いは、そのようですが、まだまだ私達はすさまじいエネルギーの中にあります。

***さん、あなた方はご家族で学んでいらつ
しゃいます。だから、その家族の中で、どんな学
びを進めていってください。お互いにお互いの心を
出し合って、そして、家族と言うよりも、ともに学
べる仲間として、親子、夫婦の垣根かきねを越えたそんな
学び方をしていってください。素晴らしい環境だと
思います。それが、一番幸せなことではないでしょ
うか。家族で学ぶことができる、これほど幸せなこ
とはないと、私は思います。

このメールがブックさんから届
いて、一ヶ月近くが経たちます。忘
れていた内容でした。どきつとし
ました。一番大事なことを抜きに
していることが浮き彫りだったか
らでした。肉の自分としてはこれ
が本当のことだと思って学んでい
るとそう思ってきました。希望的
観測だったことが、明白でした。



何をしていたんだ……、こんなに時間もお金もそし
て、何よりも心を向けてきたと思ってきたのに、そ
れなのに、真まつ白しろだと、空からつぽだと、そんな答えし
かなかつた。甘あまくて、甘あまくて、本当の自分を、愛を
どう思ってきたのか……。高く高く聳そびえ立つたまま
の自分、なんとも言えない自分、もう弁解の余地が
ない。そんな一ヶ月を過すぎしました。凄すさまじいエネ
ルギーの自分を教えて頂たまっていたこと、そして、何
より家族で学べる幸せ、その事を喜よろこべば良かったん
でした。学びに出会ったことを喜

ぶだけで良かったんです。学び
に出会ったことがどんなに凄すさまじいこ
となのか……。このことが本当に
そうだと思える現象がありました。
肉の自分が力を込めて学ぶんだ！
なんて、滑こつ稽けいでした。本当に滑稽こつけいで、
愚劣な自分だと分からず、だから
意識の転回ちんかいなど、遅ち々として進ま
なくて当たり前でした。ありがと

うございます。ブックさんが仰おつじやるとおり、田池先生の意識の世界からの贈り物でした。学んで何を得たかったのか、どこへ行きたかったのか、どうなりたかったのか。ただただ思うことだけで良かったのに。何も思わず、ただただ素直にお母さんと心を向けるだけで良かったのに。それが出来なくて苦しんできた複雑怪奇ふくざつかいきな自分には優しく語り続けていきます。もう、素直にお母さんと思おうねって。それだけで良かったし、それがどれほどのことなのか、もう答えはしっかりと心に出ているよって。嬉しいです。こんな企画を立ててくださったブックさんに感謝です。本当にありがとうございます。

***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。心を押し隠してま

いりました。心を押し隠してきた、その心が、ああ、とても苦しいと、私の中で訴えています。

お母さんに心を向けるんですよ、そんな優しい思いが伝わってきます。ありがとうございます。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、私は、自分の心を騙だましてきました。自分を騙してきました。お母さん、申し訳ございません。

***さん、どうぞ、心をお母さんに向ける瞑想をやっていただくさい。あなたの中から、お母さんが伝えてくれていたように、しっかりとお母さんのほうに心を向けて、優しいあなたを思い出してみてください。

異語。

タイケトメキチ、心の中に、温もりに齒向かう私を感じます。この心を、母は、私に素直に出しなさいと、今、伝えてくれています。すべてに齒向かう

てきた心を、あなた自身、しっかりと見つめていくために、私は、あなたに、肉体を与えました、そのように母が伝えてくれているような気がします。

異語。

自分の心を押し隠してきました。今もそうです。人と無用な摩擦まさつをさけるため、また、自分に確たる信念、ポリシーがあるわけでもなく、周囲に同調してきました。

そして反対に母が嫌いでした。わけもなく大嫌いでした。消えて無くなれと抹殺まっさつしてきました。最近まじは瞑想していると、わけもなく涙が出てきます。ゴメンナサイしか出てきません。

母を思えば宇宙大の広がりを感じられます。僕がどんなに悪態をつこうが、いつも温かく見守ってくれていると感じられます。すると余計ゴメンナサイの気持ちが強くなります。

常に優しく見守ってくれていたのです。やっと氣

づかされました。

母は僕に素直になれと、常に伝えてくれていたのです。それが分からず、一方的に抹殺し毛嫌いしてきました。やっとやっと最近気づきました。そんな母親に赤子のように優しく抱かれないとおもいます。母親の瞑想をさらに続けていきます。

174

***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

はい、私は、***でございます。パワーを求めてきた私の心の中に、苦しみが、まだまだたくさん残っています。母にも父にも嫁さんにも、私は、ありがとう、が言えない、こんな私に成り下がっていることを感じ、私は、自分自身、本当に情けないと思います。

この心の中に、途轍とてつもないほどの己偉い思いが潜ひそ

んでいる、それが、私を一瞬にして、私を変えてしまつ、そのようなエネルギーを、心に秘めています。

異語。

***さん、あなたは、確かに、心は敏感です。ああでも、学びに集つた時のあなたの心の状態、その心の状態を、まだまだあなたは、自分の中で、しっかりと確認しておりません。どうぞ、心を見てみてください。

あなたのエネルギーは、すさまじいです。すさまじいエネルギーを抱えながら、あなたは、そのエネルギーで自分をさらに、大きく、大きくしようとしてきた、それに、あなたは、まだ心の底から気付いていない。ああだから、あなたは、今どれだけ恵まれた状態であっても、それに対して、ありがとう、が言えないんです。

しっかりと心を見ていってください。

「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」に掲載された自分に関わるものについては、その存在すらすっかり忘れていました。自分の学びへの思いの低さを感じます。

今回、UTAブックさんからメールを頂き、久しぶりにそれを読みました。

確かにその内容は幾度も読み返した記憶があり、当該書籍の該当ページには付箋も挟まれていましたが、自分の記憶からその存在は消えていました。

今読み直してみても、その内容は自分にとって最も大切な内容であったことを感じます。十年前に読ませて頂き感じた自分の思いと、今読んでみて感じる自分の思いが違うことを感じます。

自分は自分の中で怒りと破壊のエネルギーを掴み続けてきました。十年前にはそれが本当の意味で自覚出来ていなかったと思います。今は自覚出来ているのかというと、ほんの少しですが以前とは違ってきています。

自分は事ある毎に出てくる自分の怒りと破壊の工

エネルギーを受け止めきれず、そんな自分を嫌い、持て余してきました。過去世においては自殺を繰り返してきたと感じてきた思いにも納得出来ません。

学びの中で問い直されている「岩盤」について自分の中では、「認めて欲しい」という思いがクローズアップされています。

自分を認めて欲しい。常に自分の心から外に向かつて発せられる思いは、自分が自分に向かつて発している思いでした。

自分の中の苦しむ自分の思いを、自分自身を受け止められずにきました。自分を受け止められない、受け止めたくない、自分を、宇宙を破壊、破壊したいと怒りのエネルギーを掴み、溜め込んできました。

自分の中の苦しんできた自分と手を繋いでいきたい。共に歩んでいきたいと思います。十年前には感じられなかった自分への思いを自分の中に感じます。自分を、宇宙を破壊、破壊しようとしてきた思いと手を繋ぎたいと、幼子の純真さを感じます。お



田池先生（長浜ロイヤルホテルにて）

母さん、田池先生、有難うと感じます。嬉しいです。十年前のことを思い出させてくださり、有難うございます。

この喜びの思いを直ぐに手放してしまおう自分です。日々自分の中から出てくる怒りと破壊のエネルギーに巻き込まれてしまおう自分です。その瞬間、出てきてくれる自分の思いと手を繋ぎ、反転を伝えられる、そんな自分を目指します。

十年前のことをすっかり忘れてしまっている自分です。その十年の歩みの遅さも感じずには居られません。あと何年肉があるのでしょうか。歩みの速度を上げていかねばと思います。

175

***さん、あなたは、自分の心を見てこられましたか。

はい、私は***です。自分なりに見てきたと思います。ああでも、私は、自分が正しいというところから、心を見てきたって、今、感じます。

特別にそういう意識がなくても、根本は正しい、そう根本にその思いがあったことを、今、感じます。

ああだから、私の心の中の苦しみは、いつまで経っても残っているのかなあって、今、思っています。

異語。

***さん、苦しい心を、全くなくすことなんてできません。なぜならば、私達は、今、肉を持っています。その肉を見て学ぶ時間、空間にいます。だから、苦しい心を全部なくそうなんて思わないでください。

ただ、あなたが語ったように、自分の正しさが根本にあって、そこから、心を見ていっても、やはり、

自分を正当化する思いによって、その心の奥底にある自分の間違いに気付いていけない、そういうことはあると思います。

今、語ったことは、理屈ではないんです。それを分かってほしいと思います。言葉でこの学びを理解することなんてできません。理屈ではないんです。ただ、あなたがあなたの心で感じることを、大切にしていけば、ああこういうことだったのか、それが心で自然と感じられます。

言葉にとらわれないでください。もうあなたも、この学びについての知識は、充分おありだと思えます。だから、どんどん瞑想をしていってください。ただし、どんどん瞑想をしていくといっても、欲をもって瞑想をしていくのではありません。そのころを、きちんと自分の心を見つめながらやってください。

あなたは、なぜ、瞑想をしようと思つたのでしょうか。瞑想をする基本は、喜びです。嬉しいなあ、ただ目を閉じて思うことが嬉しい、そういうあなたに

なっていってください。

何事につけても、自分は正しいと思う思いこみから、周りに自分に使い流し続けてたことを思いしました。

それはそれはもの凄いエネルギーです。今正しいについての、音声資料等々目に耳にする事が多くなり、この期間も今も怠けかまけてました。良い機会をいただき改めてポイントをおき見ていきます。

176

***さん、どうですか。アマテラスに心を向けてきたあなたを、見てこられましたか。

私は、***です。はい、アマテラスとともに生きてきた私の歴史、過去からの歴史、ずっと、ずっと、長い、長い歴史の中で、今世ようやく、アマテ

ラスが間違っている、アマテラスの思いも、とても苦しいものだった、お母さんの温もりを求めてきたそんな意識だったことを、学ばせていただきました。確かに、私もそのように感じてきました。でも、正直申しまして、私の中にまだまだアマテラスを神とする心が生きております。

アマテラスを、素晴らしい神として崇め奉ってきた私の過去世達の思いが生きています。私は、この私自身とともに、今世の時間、しっかりとこの心を見てまいります。

***さん、あなたは、間違っていました。間違ってきたんです。あなたは、あなた自身に冷たかったです。そのことを、心で感じていってください。日々、瞑想をする時間の中で、自分に思いを向けてください。アマテラスにひれ伏すあなたが、どれほど自分に冷たかったか、そして、アマテラスの心をあなたの心で感じてみてください。

優しい、優しい思いを、アマテラス自身も待って

いると思います。

いつも、ワンポイントは「アマテラスは待っています」でした。

当時、私はまだアマテラスという意識の全貌ぜんぼうがよく分かっていませんでした。

私の何を指してアマテラスというのか、円陣の中に出る度に田池先生からアマテラスと言われました。

その言葉に反発しか出てきませんでした。

「皆、アマテラスなのに、何故そんなに強調するんだ！クソー」

そんな思いばかりが出て、その程度の私でした。

ようやくアマテラスの実態が分かり始めたのは、「底の底」「クソー田池」「アマテラス」の現象が始まって、ようやく、少しずつアマテラスというものがどういうものか分かり始めてきました。

どの現象も行き着くところはアマテラス、アマテラスの心が炙り出あぶされていきました。

私の肉の思い全てがアマテラス。

そうです、田池留吉その通りでした、と思えるようになってきました。

生きる事はアマテラス、アマテラスのエネルギーで私は私を実感できていました。

私のアマテラスの心の中にはお母さんがいませんでした。

自分の力で生きている、自分の力で道を開いていくと、どこまでも自分、自分でした。

全身全霊で肉体を滅ぼす程の思いで、肉の思いを一〇〇パーセント、二〇〇パーセント使ってきました。

その私の心の中には、母はいませんでした。

お母さんがいなくても生きていける、お母さんなんかいらないと、母の不在の心はアマテラスを選び取っていました。

例えば、今世歩いてきた道だけでもはつきり、くつきり、アマテラスの心を見るように自分に仕向けていました。

神話の里、天照の地に生まれてきたこと。

人に頼ることなく自力で生きる事を諭す母の育て方、母の思いに沿うていけば母からほめられると、何事も不安でおびえながら生きてきました。

そんな私の心に、むくむくとアマテラスの心がよみがえり、頭をもたげてきました。

アマテラスのパワーが必要でした。

寂しさを埋める為にアマテラスが必要でした。

一番を目指し、戦う心を良しとし、崇められたい思いを培い……

その心の裏には、孤独、寂しさ、無常感がありました。

一方、転生の度に創造する思い美を求める思いを強く求めてきました。

「美の中にこそ神が宿る」と信じ、一心に追い求めました。

この道を究めれば私の心は満たされると。

しかし真実ではないから、それは叶わぬ事。

その上、美を求める心の根底には、醜いものを強

く切り捨てる心があった、汚いもの、卑しいもの、醜いものはみたくない、認めたくない、切り捨てたいという心が強くありました。

冷たい心、汚い心を奥に隠して、優しそうな姿、形を前面に出して生きてきました。

アマテラスの心は冷たい。

氷のように冷たい。

形の世界だけを追い求め、表面だけを繕ってきた心に愛はありませんでした。

偽物の自分にも、本当の自分にも、真実の愛を伝える事はできませんでした。

身も心もアマテラスが沁み込んでいる私は、死ぬまで、いやその先ずうっとアマテラスの反省が続きます。

限らない転生の中で、行き抜く為にアマテラスを選び取り、その為に悪戦苦闘、地獄の中を這いずり



回ってきた私。

今、その私は私が愛おしいです。

本当に愛おしいです。

そしてアマテラスに向けると母のように優しい思いを感じます。

むしろアマテラスの方が愚かな私を愛へ引導している様にも思えます。

書き終わり、今思えば、母の育て方が私の中のアマテラスを引き出していたと思え、何一つ不必要な事は無いんだなあと思いました。

177

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、**でございます。どうしても、私の思い

を通したい、何としてもこの思いを通したい、この心で生きてまいりました。私は、その心を、しっかりと見てきたつもりです。でもこの中から、まだまだどんどん出てきます。私の言うことを聞け、私の思い通りにみんなを動かしてやる、そんな思いが出てきます。申し訳ございません。これが、私の他方に繋がる心でございます。

異語。

* * *さん、ああでも、あなた自身を語った時、あなたの心の中にどうでしょうか、嬉しい思いが広がっているのではないのでしょうか。

自分の心を吐き出す時、その思いは、確かに間違っている、苦しい、汚い、そういうものかもしれません。でも、吐き出す時の、あなたの心、あなたの思いは、とても、優しいのですよ。お母さんが、そのことを教えてくれています。周りの人達が、そのことを教えてくれています。

心に詰め込むよりも、思いを、しっかりと見て吐き出す、周りにぶつけるのではなくて、自分の中で確認する、それを、私は、吐き出すと、表現しています。

その作業をすることが、自分自身を、さらに優しく、優しくしていくことだと、私は、感じています。あなたも、その思いを感じながら、どんどん自分の心を見ていってください。

自分の思い通りにならない。思っていることと、現実の違いが受け入れられないと、自分の今を受け入れられないと、どれ程の苦しさか思い知る体験をしました。

どうしても受け入れられない、どうしても、こんな自分を受け入れる事が出来ないならくと奈落の底に自分を打ちのめしたのです。

許せない、こんな自分を絶対に受け入れられない、許せないと。

何で、どうして、そんなはずないだろうと、私は

している、だから出来ているはず、なのにその結果
が出せない。

そんな自分を許せない、絶対にと、本当に自分を
殺しにかかったのです。

どうしようもなく、途方にくれたのです。

その時ふーっと、思いが出てきました。

「そんなに出来の悪い私が嫌いですか。」

「みっともない私が嫌いですか。」

「私をそんなに嫌いですか。」

と尋ねてきたのです。とても優しかったのです。

びつくりしました。

出来の悪い私というけれど、あなたなのです。自
分で自分に見切りをつけているのは、あなたです。

あなたはそれ程に己が偉いのでしょうか、できて
いるのでしょうか。

この時初めて、出来の悪い自分を認めることが出
来ないという思いが、どれほど己が偉いのかという
ところに、行き着いた。

許せなかった。出来が良い私が良くて、悪い私は

許せない。

それが己が偉いということなのだ、気付いたの
です。

肉に都合がいいものを取り入れ、そうでないもの
は、切り捨てていく、ようしゃ容赦なく断罪していく、人の
みならず、自分にだって容赦しなかった。

自分に冷たい自分がありました。

切り捨ててきた自分は、本当に優しかったのです。

「そんなに嫌いですか」と問うてくる思いは本当に
優しかったです。

ざんげ懺悔しかありませんでした。

本当に私は冷たかったことを知りました。

とことん嫌いの思いを自分にぶつけたのです。絶
対に嫌だ、許せないと。

返ってくる思いは本当に優しかったのです。

あまりの優しさに本当にびつくりしたのです。

私はその時、本当に己が偉かったということに気
付けたのです。

ありがとうしかありませんでした。

この思いを出せたことで、今の私があります。私にありがとうしかありません。

178

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***です。己を誇るということをし、はしてきたけれど、その自分のエネルギーを、私の中でまだまだ見ていっていません。

心を見ていくと、自分は素晴らしい者として転生を繰り返してきた、そんな過去世を感じています。ああでも、それは私の間、ブラックだったんですね。今、それを感じます。

***さん、どうぞ、心を真剣に見ていってください。心を中に、中に向けていってください。素晴らしい自分はいいけれど、みすぼらしい自分は受

け入れられない、そんなあなたの心はありませんか。お母さんは、どんなあなたでも受け入れてくれたはず。こういうことは、あなたは、頭では分かっておられると思います。母は私のすべてを受け入れてくれた。だから、私は、今世、生まれてきたのだ。そのように、あなたは、頭では分かっておられると思います。でもそれを、しっかりと心で感じられるあなたになってください。

母親の温もりを、感じておりますか。お母さんの優しさ、温もり、どうぞ、そのところを、もう一度、自分の中で思い起こしてください。

日々、肉ではどうすることもできない出来事が現象化する。

誰よりも素晴らしいと思ひ込むことでしか生きられなかった自分を、出会う方々によって崩壊させて頂いている。

肉対肉ではとてもできない。

頭を使っても無理。

私は正しい、私は素晴らしいと逆らってきたけれど、自分の波動が現象化しているだけだと、周りの方々によって示される。

肉体細胞からも、周りからもメッセージが届く。

「意識の転回を。次元移行を。」

179

***さん、あなたの心を語ってみてください。

何でも私の思い通りにしてきました。己一番の私を心に広げてまいりました。私は、そのことを、とても、今、申し訳なく思っています。主人を踏み台にして、私は、自分の思いを通してまいりました。主人の心をズタズタにしてきたと思います。同時に自分の心もズタズタにしてまいりました。それなのに、私は、このように自分の心を語る時間と空間を与えられています。とても嬉しいです、間違っ

た私、申し訳なく思います。

心をお母さんに、タイケトメキチに向けていきたいと思います。

異語。

***さん、ご主人とともに、異語で語り合ってください。あなた方の心の中を、異語で語り合ってください。日本語では、自分の心を正直に語ることはできないと思います。

異語で語るんです。異語で、互いに心を吐き出してみる。そうすると、あなた方が、夫婦となって本当によかったと、今以上に感じられると思います。それが意識の世界の仕組みです。夫婦として縁を持ったことを、心から喜び合える、そうやって、あなた方の今世の肉を終えていってください。

肉の幸福、肉の喜び、形を調しらえた中に幸福を求めてきた。間違い続け狂い続けてきました。

田池先生に出会い「生まれてきた目的」「本当の幸福とは」を伝えていただき、これだと思つて三十三年やつとやつと心に響いてきました。まだまだこれから、あせらず、たゆまず永遠に続く道、真摯しんしに学んでいきます。

180

***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。素晴らしい私を、どうしても崩すことができない。肝心かんじんなところを、私は握にぎっている、私は、そんな私を感じています。心では、間違ってきた自分を感じてきました。ああ、間違っているなあ、自分に冷たかったなあ、そんな自分を感じてきました。でも、私は、まだまだ肝心なところを自分は握っている、自分を崩していない自分を感じます。

そうですね。私は、やはり、自分を取り繕つくろっています。気高けだかき私を誇ほっていると思います。崩そうと肉は思うけれども、私の中は、まだまだ、崩れることを恐れています。そんな状態です。

異語。

***さん、沖縄には、この学びに繋つながった人達が、何人かいらっしゃいます。その人達と、どうぞ、連絡を取り合つて、その人達と学びを進めていってください。沖縄の地で、学びを続けていこうとすることは、とても大変なことだと思いますが、ああでも、あなた自身の心で感じていることを、自分に素直に、自分に真摯しんしに、ただただ進めていってください。そうした時、沖縄の人達に、学びの仲間という本当の連帯感が生まれてくると思います。

振り返ると、今世、セミナー会場で意識の転回てんかを促す田池先生との出会い、大切な出会いでした。当

時すでに「二五〇年後は今ここにあり」という主旨
だったと思います。私は田池留吉に意識を向けても、
なかなか肉の思いが固く、その頭を外してはずください
とか、心を内に向けてくださいとかアドバイスをい
ただいたことを思い出しました。本当にたくさんの
教材を用意していただき、実践の場を設けていただ
いたと思っています。心からありがとうございます。

時間は掛りましたが、たくさん学びの仲間に出
会い、今ここに私が存在することを嬉しく思います。
二五〇年後の来世はもう始まっているんだと思いま
した。

田池先生の来世がアルバート、アルバートの過去
世が田池先生だということに新鮮な驚きがあり、意
識の転回なくしては真実は語れないということが心
に響きました。新鮮な発見でした。とても嬉しく思
います。ありがとうございます。



自宅の庭の植物達

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***と言います。何を語ればいいのか、そう、私のこの中に、いっぱい詰まっているけれど、私は、やはり、自分の寂しい心をしっかりと見ていきたいと思えます。寂しいから、色々なものを求めてきました。たくさん求めてきました。その心は、自分にとって、あまりにも、かわいそうでなりません。寂しいから、何かで紛らわす、何かで誤魔化す、何かを求めて、それで癒してもらおう、そんな自分がたまらなく、かわいそうに感じています。この学びに繋がって、私は、寂しい心を、自分なりに見てきました。でも、その前に、寂しい心を、自分の中でしっかりと見る前に、私は、それを、やはり、何かで誤魔化そう、そういう心が動くことを感じます。私の肉の行動を振り返ると、確かに、そのような思いが働いて、それが、この肉を動かしてきたんだと、今、

感じています。

異語。

***さん、学びに繋がってどうでしょうか。本心に心の中から喜びが湧いてきていますか。あなたは、この学びに何か違うものを求めてはいないでしょうか。つまりは、あなたの動機は何でしょうか。学びで伝えられていることを、鵜呑みにするのはなく、まずあなた自身をしっかりと見つめてください。ありのままのあなたの思いを見つめてください。

それであれば、あなたは、自分自身をかわいそうだと思うその心が、せつかくあなたに出てきたのに、また、肉の中で埋没していきそうな、そんな気がしてなりません。学びを続けていくためには、あなた自身の心を、しっかりと見ることです。誰に聞いても分かりません。そう、分からないんです。あなた自身に聞くんです。そのことを忘れないでくだ

さい。

コピーをした紙と共に、いつもあの頃のことを思い出し、早十年、とても厳しい環境の中です。寂しくはなかったこの思いを感じています。

182

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。今の私の気持ちは、とても言葉では表せられないと思います。自分の中に何かがあるんです。この私の何かを吐き出してみたいけど、私は、やはりそれを恐れています。自分の心を見ることを、私も自分なりにやってきました。でも、私も肝心なところを、この肝心なところの扉を開けていない、そんな自分を感じています。

今、私は、自分の心を語りなさい、そういう促し

の中で、心の中の固い岩盤を割ろうとしているけれど、私の中の意識は、とても、とても、それを恐れています。

異語。

***さん、どうぞ、素直になってあなたの心を見ていってください。すごいエネルギーを蓄えてきたあなた自身を、感じていってください。

何も恐れることはありません。心の中の闇、ブラックは、みんな同じでございます。だから、あなたは生まれてきました。

異語。

***、我一番、我一番、私は一番、私は一番、田池留吉、お前の許で私は、今、心を見なさいと教えられました。ああでも、私は、田池留吉をととても、下に見ています。

田池留吉をこれほど下に見ていたのかと思うほど、私はそびえ立っています。すごいエネルギーです。ああだから、私は、今世、とても苦しかった。いいえ、今世だけではない。過去から、私はずっと苦しみの中を歩いてまいりました。そして、これらの転生もあります。私の転生は、とても厳しいものだと思います。

今、今、心を田池留吉に、お母さんに向けてということは、私にとって、かけがえのない優しさ、温もりだ、今、そのように感じています。

異語。

はい、**さん、奥さんに対して、どんな思いを広げてくれましたか。

異語。

ワンマンでございました。我に従えの思いを、ずっ

と、ずっと、その思いを流してきました。妻は、妻で、私は、一番よ、私は一番よ、そう言って、私に食いがつてきます。どれだけ、互いの中で、火花を散らしてきたことか。私達は、そのような戦いのエネルギーを流してきました。

金、金、金、金……。金で喧嘩けんかをしました。自分達の幸せのために、金、金、金。その金で喧嘩をする、そんな私達です。幸せになるはずはありませんでした。ずっと、そんな心でやってまいりました。

異語。***さん、ご主人の思いを、あなたは感じていましたね。あなたの苦しい心を、ここで語ってみてください。

私は、***でございます。もうたくさん、たくさん、たくさん、たくさん。私は、あなたの奴隷どれいではありません。私は私なんです。私を認めてください。私は、とても、とても、苦しい、苦しい思いを広げました。幸せになりたかった。幸せにしてほしかった。

た。そんな思いで、あなたについていったけれど、私のごとなど、あなたは……。そう優しい思いなど、私にかけることはなかった。私は、表面的な優しさなど、要らなかつた。あなたの心の底からの優しさを求めてきました。心の底からの優しさです。

ああ、これが私の他力の心です。あなたは、あなたの中で精一杯でした。私に心を向ける余裕などなかった。それが私には分かりませんでした。私は、もっと、もっと、もっと優しくして、私を愛してと私は求めてきました。苦しかったです。求めて、求めて、求めて得られるものは、寂しさ、空しさ、悔しさ、そして、相手を憎しみ呪う思いばかりです。他力の思いを膨らませてまいりました。

異語。

おふたりとも、自分達の苦しさを、心で感じておられると思います。学びに繋がって、それなりに学ばれてきたと思います。でも、心の底からは……、

どうでしょうか。しっかりと心を見ていってください。

田池留吉に、お母さんに心を向けていくこと、それだけでございます。外に思いを向けると、苦しみが膨らむばかりです。その苦しみを、どのようにして、自分の中で包んでいくか、自分をどのようにして変えていくか、それは、それぞれの心にかかっています。夫婦となって、互いに心を見させていただいている今、どれだけ苦しみ罵り合おうとも、幸せなはず。肉的な幸せではなく、自分達の心を見ろという幸せです。そのように思いませんか。そういうふうな方向で、どうぞ、これからの時間を過ごしていってください。これからの転生が待っています。心をしっかりと見て、そして、次の転生に繋いでいってください。

◇ 旦那さんからの原稿

「十年は一番」という諺がありますが、あなたのなかでは、この時出された「意識」という問いかけ

は、時効になっていないでしょうか。」

「十年前、名指しで出された意識は、田池先生からの、いえ、意識の世界からのプレゼントだ。」

時効になった方がどれだけ気が楽でしょうか。

そんなもの、時効なんかありません。

十年前、その頃は必死でした。今も必死です。

何も変わりなんかありません。あるはずがありません。

十年前に受けた意識、それを苦しみの中でおいてきてしまっただけです。

学びに出会う前と何ら変わりません。

私は、常に自分をおいてけぼりにしてきました。

苦しい自分は見たくないから、そんな弱い自分を認めたくないから。

そんな自分をおいてけぼりにしてきたのです。

「我一番、我一番、私は一番、私は一番、田池留吉、

お前の許で私は、今、心を見なさいと教えられました。ああでも、私は、田池留吉をととてもとでも、下に見ています。

田池留吉をこれほど下に見ていたのかと思うほど、私はそびえ立っています。すごいエネルギーです。ああだから、私は、今世、とても苦しかった。」

そうです、そうなんです。

そんな弱い自分は要らないのです。

常に強くなければ、私の人生なんてあっという間に雲散霧消うんさんむじょうとなってしまうです。

非情な輩やからが虎視眈眈こしたんたんと狙っているのです。

常に強くあらねば、Never Give-Up !!

貧しい自分は、刀一本で大砲や戦車に立ち向かっていかなければならないのです。

弱音は「死」を意味します。そこには「死」しか残されていないのです。

孤独なんです。男は孤独に生まれ孤独に死んでい

くのです。

誰も味方なんかいません。

「どれだけ、互いの中で、火花を散らしてきたことか。私達は、そのような戦いのエネルギーを流してきました。」

金、金、金、金……。金で喧嘩をしてきました。自分達の幸せのために、金、金、金。その金で喧嘩をする、そんな私達です。」

そうなんです。

金、金、金、常に金が私を苦しめてきました。

幼いころから、金がないことが私を苦しめてきました。

苦しみから抜け出すために、金が必要と考えたのです。

社会人になっても、どんなに仕事に恵まれても、お金はまだまだ足りませんでした。

家族を持ったらもつと金は必要になりました。

もつともつと、もつともつと、家族の為には金が必要だったのです。

そして、そんな家族は私の足かせとなつていききました。

もつと、もつとと頑張つても、家族との幸せはどんどんと遠くになつていったのです。

そんな家族は、当然私を蔑ろにします。

そんな時に、私は孤独に苛まれました。

周りに誰も味方なんかいないのです。

「夫婦となつて、互いに心を見させてください。今、どれだけ苦しみ罵り合おうとも、幸せなはずです。肉的な幸せではなく、自分達の心を見るという幸せです。そのように思えませんか。」

十年前にも、そう言っていたきましたが、すぐに忘れしました。

そんな幸せなど自分にはないと思ったからです。十年経た今、こうやって思い出させていただきましたが、何も変わっていません。

「肉的な幸せではなく、自分達の心を見るといっせです。そのように思いませんか。」

そう思えるようになればいいと思いました。

自分なりに心を見たつもりでした。そう、つもりだったのです。

誤魔化しは一切通用しないのが、この学びです。

それが田池留吉でした。

十年ぶりに「あなたの意識ではないですか？」と突き付けられて、かなり動揺しています。そう、誤魔化してきた自分を突き付けられたからです。



七一歳となった今、自分ではそんなに感じなくとも、体力・気力の衰えは間違いないと進んでいます。以前と比べると、否が応でも「死」を意識するようになってきました。

常に、肉、肉、中心でやってきました。

どんなに「意識です」と言われたことでしょう。

それでも、肉中心の岩盤はとも強固なのです。

岩盤を崩す気力・体力が残されているのか。

もう、そんな秒読みの段階に入りました。

「これからの転生が待っています。心をしっかりと

見て、そして、次の転生に繋いでいっ

てください。」

十年ぶりに「あなたの意識ではないですか？」を突き付けていただき、本当に感謝します。ありがとうございます。二〇二〇年六月九日

◇奥さんからの原稿

あれから十年。

書庫の中に積み込んだまま忘れ去っていました。

ありがとうございます。

存在は忘れ去っていたけれど、私の苦しい思いは、はい、しっかりと憶おぼえています。

十年前、夫とのふたりの意識を目にした時、「何も分かっていない、出来ていない。掲載されて恥はずかしい」と思ったのを憶えています。その思いで軽く逸そらし、全くこの通りです。と今の私ほど思う事も出来ていませんでした。

それぞれのかげがえのない意識からの問いかけすら、本当の意味も分からず、戦いのネタにしてきたようです。

正にその通りの私達です。ただ、肉ではこの後、事業を閉じ二人それぞれに職をもち、環境も変わり、

金、金行進曲から少し落ち着いてセミナーに集えていました。と思っていました。中はまだまだ。幸せになるには金が必要の思いは今もあります。

この年になつても未だ、せめてセミナー代は用意しなければとやり合った矢先のコロナ禍のセミナー中止。

ほっとしました。心が何か解かれていきました。ウェブさえあれば学べる。この時、誰だれ彼の差もなく平等な学びの空間に居るのだと嬉しくさえ思います。セミナーに向ける思いがひとつ解放されました。私の学びの三十年、学びすら、学びⅡセミナーⅡお金でぎゅうぎゅうに縛っていたのだと思うことが出来ました。

十年前の自分との意識のやり取りは今も私の中に存在し続け、「求めることが寂しいのだ」と、現象の度に内から響いて自己確立への指針となつてくれていることに驚いています。一向に進んでいない

なあとと思う反面、ともに存在していたことが力強く感じられ、嬉しくもあります。

その五年後のセミナーでワンポイントメッセージをいただきました。

「他力のエネルギーを心にしっかり見つめてください。他力はあなたを幸せにしてくれません。あなたの中の優しさ、温もりがあなたを幸せにするんです。どうぞ愛にめざめていきましょう。」

恥ずかしいと卑下する金、金の自分への冷たい思いは、今世「金だー!」「幸せになるんだー!」「愛を手に入れる!」と過去からの苦しい自分総出で相対の覚悟のもと生まれ、田池先生に出会えたのだとアメリカセミナーを振り返る機会をいただいたことではつきりと思い出せ、嬉しい自分で大きく包み込める気がしています。

そして冷たく厳しく突き放されたとしか感じられ

ず、仕舞い込んでいた田池留吉からのメッセージはただただ、優しく温かく力強く、私を励ましてくれていました。そんな風に思える今が嬉しくて幸せです。

本当の自分に会えるその時まで、真っ黒で冷たく愚かな自分と出会って出会って、閉口するまで出会い続けて、こんな風に喜びで受け止めながら、二五〇年三〇〇年後、待ち続けてくれているアルバイト、そして私と共に帰っていきける様、今をしっかりと学び、必ず繋いでいきます。

十年後の私はあれから少しは心の底から学んでくれたのでしょうか。

「アマテラスと共に帰る」「宇宙を思う」が心に温かく響いてこれるようになっていきます。

そしてまだまだこれから、心の底からの問いかけに応じられるよう、自分の中の反対勢力と共に学ん

でいきます。

十年前の意識の問いかけは生死をかけて二五〇年後に繋ぐメッセージのように思っています。

愛を求めるのではなく、愛である自分に帰っていきます。

田池先生、ありがとうございます。

コロナ禍にある二〇二〇年。

本当にこの機会をありがとうございます。どんな学びの形態であろうと変わろうと、私の学びはずっと繋がっています。

今世の学びの機会を丁寧につつてくださり、いつもありがとうございます。



琵琶湖グランドホテルの玄関にて。母が来てくれたセミナー。そして、田池先生と陽子さんの手の先には愛犬のペパリーがいます。

***さん、心を語ってみてください。

寂しい心がどんどん出てくるけれど、私は寂しがってはいられない。寂しい私は、暗い私なんだ、そつやって、寂しい私に心を向けることをしてきませんでした。

夫を亡くして寂しい……。

素直に自分の心を見てきませんでした。人には言います。涙も出ます。でも、私の心の中に、どれだけ夫に頼ってきたかを、その他力の思いを見ることがはしてきませんでした。

ただ、ただ寂しい、寂しいって、訴えてきただけです。夫に頼る心、それが他力の心です。その思いを、しっかりと見てきませんでした。

異語。

***さん、亡くなられたご主人はもういいのです。それよりもあなたは、あなたを見ていってください。

頼る心とおつしやられても、あなたの中には、もっとすさまじい他力のエネルギーが潜ひそんでいます。頼る思いとは、どのような思いでしょうか。それをどんどん見ていってください。もしかすると、あなたは、夫に頼りながら、自分の思い通りに、夫を動かしてやろうとしてきたのではありませんか。そのような思いを見ていってください。

他力のエネルギーはすさまじいです。あなたはご主人を思い……。

ああ、そんな暗い心で思ってみても仕方ありません。

それよりも、自分の心を、もっと掘り下げて見ていってください。

あなたには、これからの転生が待っています。どなたにも共通するところですが、心を繋つないでいくこと、今世、あなたが心で学んだことを、あなたの転

生に繋いでいくこと、それが自分の仕事です。どうぞ、そのところに集中して、時間を過ごしていただくさい。

心を見る時間は、そう、そんなに残されていない、これも皆さん共通するところでございます。

当時を振り返り、セミナーに参加していたから学んでいると、何も学んでなかった。心を見てなかった。田池先生の言ったことを実践していなかった。だから温もりが分からないか、闇まみれだと受け入れられなかった。闇と対面出来ることは喜びなのに、それを喜べないとやっていた。己偉い他力の心を見てこなかった。今、安心して闇が出せる。こんな心があった、こんな思いも出した、欲と無知とエゴの愚かな自分と出会っています。闇は苦しみではなく、間違ってきたことを教えてくれる喜び、喜びのエネルギーでした。そして先日、誤嚥性肺炎ごえんせいはいえんになり掛けて、一瞬、呼吸困難になり死ぬのかと思った。

ああ、私は中の自分に対し息の根を止める、首を

絞めまくり生殺しにした。中の人の叫び苦しい状態を、身体と心で体験、実感させてもらいました。

自分の冷酷れいこくな、惨たらしい、愚かさを教えてもらいました。号泣ごうき、懺悔ざんげです。

この肉あればこそ学べる。生んでくれた母親に感謝。心を向ける、思う事の大切さを伝えてくださった田池留吉に感謝、有難うしかありません。

地獄あえで喘ぐ私を、放置したまま私は、まだ死ねません。後、残り少ない肉の時間、真面目まじめに真摯しんしに心を見て、瞑想し自己供養して参ります。有難うございます。

184

***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。自分の中のすさまじいエネルギーを心で感じる喜びを、私も知るようになりま

した。すごいエネルギーです。でも、私は、嬉しいです。こんなすごいエネルギーを持った私を、生んでくださったお母さんがいました。今、心に感じています。

素直になるっていうことは、本当にすごいことなんです。私は、なかなかそれができませんでした。自分の心を見るということが、なかなかできなかった。素直でなかったからです。ああでも、本当に自分を、今世、何とかしたい、そうこの苦しい自分を、本当に優しい、優しい思いに変えていこうと思えばなら、素直になれます。何だってできます。

心を見なさいと言われて、なかなか心が見れなかったけれど、私は、やっぱり幸せな自分と出会いたかった。そう私自身と出会いたかった。そうなんです。私は、そのために生まれてきたんですね。まだまだ、まだまだです。私には、これからがあります。今世の時間を、自分にできるだけ自分に沿って生きていこうと思っています。

この学びに集えてよかった。私は、本当によかった

たと思っています。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてください。

アルバート、アルバート、アルバート、アルバート。ああアルバート、待っていてください。ああアルバート、待っていてください。必ず、あなたの許へ集います。心からあなたの許へ集います。心の中の私達とともに、集いたい、そのような思いが出てきます。転生を重ねていきます。でも私の向かう先は、二五〇年後だと思えます。心をしっかりと見つめてまいります。明るく、喜びで自分を見つめていきたい。アルバート、どれだけ汚れ切った私の心も、あなたに向けて、私は出してまいります。ありがとうございます。

十年前の私は、「どれだけ汚れ切った心も、あなたに向けて出していく」と宣言している。果たして私は、汚れ切った心を、本当に「出している」「出してきた」と言えるだろうか？十年を経ても尚、見たい所だけを見て、見たくない所は見ない、そんな私でなかつたらうか？

汚れ切った心を、安心して曝け出せる程の温もりを、私は自分の中に広げているか？残念ながら、「全然です」って即答です。

意識資料を改めて読んで、心に広がる思いは、「何をしてきたんだろう？何をやってきたんだろう？」

このまま死んでも、私は何も自分に伝えることが出来ない。

けれど、自分を責めて暗くなったところで、学びは進まない。こうやって己儼しを助長していくだけ。テレビCMで耳にしたフレーズ「深刻になるな、真



剣になれ」

私は私に言おう、「深刻になるな！真剣になれ！」自分を責め裁いたところで、また更に闇を深くするだけ。喜んで、愚かな自分と真剣に、真摯に向き合おう！それが私のするべき事。肉持った私に、唯一出来る事。

本当の自分、心の中の田池留吉、お母さん、あなたに向けて、私は喜びで私の心を、今度こそ本当に曝け出していきます。もう今までと同じような十年は無いでしょう。

死ぬ時に「何をしてきたんだろう？」なんて思わないように、決意を新たにします。十年前の自分の決意を、もう一度、この心に刻みます。

「心をしっかりで見つめて参ります。明るく、喜びで自分を見つめていきたい。田池留吉・アルバート、どれだけ汚れ切った私の心も、あなたに向けて、私は出して参ります！」

****さん、心を語ってみてください。

私は、ずっと、ずっと、教祖の思いを広げてきました。心の中に、教祖の思いが、数知れず残っています。私は自分の中で感じたものを人に伝える時、その波動で、この口を開いてきました。

だから、私の心がとても苦しいです。とても、とても、暗いです。心に感じていることがございます。でも、私の中を、私は見ていない。心の中に感じる暗さを、私自身は、まだまだはつきりと見ていない、そう感じています。

異語。

****さん、ご主人に対して、どのような心を使ってきましたか。

異語。

私を、ないがしろにしてきた主人に対して、優しい思いをかけることはできなかった、できませんでした。どうしても、私を、下に見ている主人に対して、私は、ああ私はそんな私でない、私を認めろと、そう主人に向かって、叫んできました。そのエネルギーを流してきました。言葉では、そんなことは言うてこなかった。でも、私の心の中から流れる思いは、そうでございました。苦しい思いを流してきました。お母さん、ごめんなさい。すべて、私の苦しさでございました。

私のこの身体も心も、疲れ切っていることを感じます。母に向けた今、そのことを感じます、心も身体も疲れ切っている。お母さん、私は、疲れています。少し、少し、私の中で、時間をゆっくりと取りたい、そんな、私があります。お母さん、申し訳ございません。

恥ずかしいが、十年前と何一つ変わっていないと

はつきり言えます。ごめんなさい。申し訳ないです。言葉に出るのは全て一句一句が教組の思いで言っています。上から伝える心です。己偉し、我一番です。すごいエネルギーを発しています。また出した。またやと次から次へとその繰り返しでした。申し訳ありません。その都度、心を痛めてきました。

お母さん！お母さん、お母さんを助けたかった私の力で！ずっとそう思ってきました。間違いだっただんです。ごめんなさい。ごめんなさい。主人にも使ってきました。しかし、主人どうこう、他人さんがどうこうじゃなく、私の心が外（肉）に向いていたのです。間違いは私でした。

そのことに気付くのが遅かった。申し訳ありませんでした。相手は鏡でした。私自身の闇の心です。今でも心はできてなく、心が肉とし意識が交錯する現状で、頭でしか学んでいないのが分かります。自分の中に心を向け、見ていく学びに転回していきま

す。
まだまだなんです。だから今年に入って、身体が

激痛激痛の信号を送ってくれました。（コロナの時でもありますが）またこれに責任転嫁せきにんてんかしました。「あなたの方向間違っていますよ」と肉体あればこそ気付けるチャンスを頂きました。しっかりと愛を具現してまいります。無心で肉体細胞に愛を伝えていきます。ありがとうね。あとわずかの人生、全部全部間違ってきたと心をしつかりと見ていきます。

186

***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。心を田池留吉に向けると、喜びも出てきますが、私の中には、まだまだ苦しみがたくさん、たくさん残っていることを感じます。自分の心を見てきたつもりでした。ああでも、私は、その見方が浅かったと、今、感じています。喜びを感じていた私の心の中に、苦しみが広がっ

185

ていく時、私は、心が落ち込むのをどうすることも
できません。心が落ち込むんです。私は、できてきた、
私は、ようやく、感じてきている、そのような思い
を持った時、私の心は、ストンと下に落ちていきま
す。それがとても、私の中で苦しみでした。そうで
した、はい、私は、できている、その思いが、私を
苦しみの底へ沈めていく、そのエネルギーでした。

申し訳ございません。申し訳ございません。

異語。

***さん、この学びは喜びだけでございます。
心が落ち込むのが、どれだけあなたの心が落ちて
いっても、そう、それを喜んでいくんです。

肉で考えると、難しいようですが、そうではあり
ません。

喜びが基本です。喜びしかありません。どんどん
どんどん心が落ちていった時、そう、その時こそ、
あなたの心を見ていってください。

そして、お母さんを思って、田池留吉を思って、
瞑想をするんです。自分がどれだけ苦しみの中を
歩いてきたかを感じると思います。

そこから、また一歩ずつ歩いていってください。
喜んでいけばいいんです。簡単なことです。どうぞ、
その一歩を進めてください。

このメッセージをいただいた時、頭でこの学びを
理解しようとしていた私にとってメッセージは心に
響いてこなかったです。

心を見ることは難しいと思い、どのようにして心
を見ていけばいいのか分からない。一方で早く喜び
を感じたい。アルバートの波動を感じたいといた
いと欲の思いが前面に出ている状態でした。

心が落ち込むということすら分からずに悶々とし
て心は晴れることはなかったです。ただ、私の心癖。
今でいうところの岩盤で感じてきている私は素晴ら
しい。私を見よ。私はできてきたという思いは瞬時
に出てきていました。

今、ワン、ツー、スリーの瞑想を通してやつと自分の中のエネルギーを少しですが感ずることができるところになってきました。異語とともに腹の底からエネルギーがつきあがつてきたり体が反応することがあります。もう頭でどうか考える間もなく苦ししいエネルギーが吹き出し、快感を感じることがありますが、反転して喜びのエネルギーに変わるとはほとんどないといつてもいいほどです。

やはり母の温もりが大切だと思つるので、母の目を見て瞑想をする回数を重ねていきたいと思つています。



(田池先生からいただいたメッセージ) ***さん、田池留吉です。どうぞ、お母さんに向けて瞑想を続けていってください。ゼロ歳のあなたを思い、あなたの肉体細胞に心を向けてください。ゼロ歳のあなたを思い、お母さんを思い、あなたの肉体細胞に思いを向けていくんです。その優しい思いであなただの肉体細胞を思ってください。

ゼロ歳のあなたは、今そこに存在しています。あなたの心の中にしっかりとあるんですよ。優しい優しいあなたに出会ってってください。

肉体細胞の思いもそう、あなたのその優しさを待っています。肉体細胞を責めることは愚かなことです。肉体細胞はただただ伝えていきます。優しい優しい思いを向けてください。肉体細胞の思いをどうぞあなたの心で聞いてってください。

***さん。あなたの心をしっかりと田池留吉に向けてください。

異語。

先生からメールで音声でメッセージをいただきました。初めてこのメッセージを聞いた時、中から「間違ってきました」という叫びを聞きました。

突然だったので驚いて先生に連絡すると、先生はやさしく「そんな心でいたら病気も治るよ」と言っ

てくださいました。嬉しかったです。

でも、それからはこの声をもう一度聞きたい、夢をもう一度と欲の思いが強くて響いてくることはなかったです。ただ、思うだけということの難しさを痛感していました。

肉体細胞に向けての思いはすさまじいものがあります。

以前セミナーの現象で、塩川さんから「肉体細胞は喜びだけを伝えていきます。あなたの心が苦しいのではありませんか？ 肉体細胞にしつかり思いを向けなさい」とメッセージをいただきました。

肉体細胞の思い？もう頭では到底分かりませんでした。しかし先生からいただいたメッセージを毎日聞いてきました。最近、肉体細胞を思うと心が広がっていき、ゆったりと本当にやすらいでいた頃を



思い出します。そんな時は肉体細胞を心から愛いといと思えることが本当に嬉しいです。すぐに感じたという思いが前面に出る心癖があるのただ感じられたことを素直に喜んでいこうと自分に伝えていきます。

そんな時、中から温かいエネルギーが返ってくるのがなんとも言えないくらい嬉しいです。自然とありがたいと言っている自分が幸せだと感じます。

当時いただいたメッセージは、これからもずっと私へのプレゼントだと思ひ瞑想を重ねていきたいと思っています。

***さん、あなたの心を聞かせてください。

己高し、己偉しの心で生きてきた私でございます。申し訳ございません。ああ、素直になれなかった自分の思いが、どこまでも正しく、どこまでも自分を主張してきました。私の心の苦しみを聞いてあげる事ができませんでした。今、それを感じます。心が苦しいのに、私は正しい、私は間違っていない、私は立派にやっている、みんなが悪い、周りが悪いんだ、私は正しい、そのように自分を、そびえ立たせてきました。私は間違っていない。

***さん、どうぞ、お母さんの反省をしてください。お母さんの反省、充分されたと思いますが、そうです、今度は、瞑想を通して、お母さんの反省をなさってください。目を閉じて、お母さんをお母想をしてください。田池留吉に心を向ける。

とをしていってください。他力のエネルギーが、あなたの中に感じられるはずですよ。どうぞ、その他力の思いとともに、お母さんに思いを向けていってください。嫌わずに、嫌がらずに、そう、ともに、ともにという思いを広げていってください。己偉し、高しの思いが間違っていることを、少し感じてもらいました。そうです、その思いでは、あなたの苦しい意識に伝えることはできません。優しい、優しいあなたを思い出していってください。

UTAブックさんの問いかけの「あなたの意識です」にはのっていないので、私は書かなくてよいと勝手に思っていた。

しかし、私にもメールがきて「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」にはちゃんとのっている、私はそのことをすっかり忘れていた。でも私の心をみる課題はいつもこの内容のことだった。

U T Aブックさんのメールがきてから、心が重く
なった。

私の意識を出していただいて、ちゃんともらつて
いながら、あまりにも、進歩のない自分の姿に愕然がくぜん
とした。

心が苦しい!! 心が重い!!

(どうしよう、人に聞きたい) これが私の心クセで、
いつも、人に聞き、人を入れ、道を間違つてドン底
に落ち込みを繰り返してきました。

メッセージを読み直し、田池留吉を思つて、お母
さんを思つて瞑想しました。

(私は瞑想が苦手、ちゃんと向かない。それが課題
です)

夕方になり、夕食の支度で台所に立った。

すると、突然、中から、「お母さんごめんなさい、
お母さんごめんなさい、お母さんごめんなさい」が
飛び出してきてワナワナ泣いた。

野菜を出して、洗って、湯がいても、「お母さん

ごめんなさい、お母さんごめんなさい、お母さんご
めんなさい」と泣きながらご飯の支度したくをして、時間
になり主人と夕食を普通に食べ、テレビをしばらく
見て、片付けに台所に立つと、また、「お母さんご
めんなさい、お母さんごめんなさい、お母さんごめ
んなさい」と何度も出てきて、ワナワナと泣きっぱ
なしだった。

この原稿を書く時は、全く十年無駄に過ごしてき
たと落ち込んでいましたが、その時、その時、中か
らこのように促うながしをもらい、信は固まっています。

今世を転換期に、決断と実行!

心を見てもいりません。

188

***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

他力の神々のエネルギーを、たくさん、たくさん蓄えてきた私の過去からの思い、今、それが間違ってきたことを感じ、私の中に、喜びを伝えてくれています。間違ってきたことが嬉しかった。間違い続けてきたから今がある、そう、私は感じています。お母さん、お母さん、お母さん、間違ってます。他力の神々に心を向けてきたのは、私の欲でございました。欲、欲、欲、欲しいの私、次から次へと他力の神々の中を渡り歩いてきました。そして、己こそ一番の神となってやろう、そんな思いを心に広げてきた者でございます。

他力の神々を心に求めてきた私ですが、私は、自分の中に、本当の喜びがあったことを、微かに感じさせていただきました。この微かな喜びを知ったこと、これは、私の心の歴史にとって、とても大きな第一歩だと、私は、思っています。嬉しいです。お母さん、ありがとうございます。他力の神々を求めてきた私の心、これからも見てまいります。他力の神々にひれ伏した私は、本当に暗闇の中を存在し続

けてまいりました。お母さん、今世生んでいただき、私は、微かな喜びを感じるようになりました。とても嬉しいです。

異語。

＊＊さん、よかったですね。学びに集えて、そして、ご主人やそのご兄弟の人達と学ぶことができ、幸せだと思います。それぞれの間で、色々な心を出されると思いますが、それも、あなた方の勉強でございます。どうぞ、ともに学んでいってください。心を素直に、有りのままに出し合って、学びを進めていってください。

＊＊＊さん、どうぞ、喜びを感じたあなたのその思いを、素直に広げていってください。ひとりの人の心に芽生えた喜び、それが、そこに繋がる人達に流れてまいります。どうぞ、自分の心をしっかりと見て、＊＊＊という思いを表すことなく、どうぞ、あなたの感じた喜びを、あなたに繋がった人達

に、伝えていってください。それは、あなたが、お母さんに、本当の自分に心を向けていく作業の中でできることです。己というものを前面に出したならば、それは、またブラックに変わってまいります。

「あなたの意識です」の冊子を手にして、私の意識を探していたところ連絡をいただき、嬉しかったです。

嬉しさがこみ上げてきて、胸が一杯になりました。

ただただ田池先生に感謝です。この学びに繋がってとても幸せです。

深い闇、数え切れないほどの神々を蓄えてきた私です。己を表してきました。色々な神々を渡り歩いてきましたけれど、この神も違うこちらの神も違うと渡り歩いてきました。田池先生に出会いこの学びがこれだと確信しました。今思うと、肉が私でなく意識が私ですと、なっとく、なっとく。この学びに出会ったのは、兄夫婦からの一冊の本を手にして「待っていました」とばかりに心は叫んでいました。

私は、びっくりしました。今だからわかります。中の私がつまっていたのだと。こんな私がこの学びに繋がったことは奇跡です。嬉しくて、嬉しくて、胸が張り裂けそうです。嬉しいです。ありがとうございます。

田池留吉、アルバート、母なる宇宙、かえっていきます。ありがとう。

189

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***と言います。心の中に溜め込んできたエネルギーを、自分の中で見ていくことは、とても大変な作業なんです。

私は、自分がどれほどそびえ立っているのか、その心の方が、とてもとても甘いと感じています。

私は、いまだに、肉の母親にありがとうなんて言

えません。お母さん、ありがとう、心の底からそのように、今の母親に言うことができたなら、どれだけ私の心は軽くなるでしょうか。

私は、それすらもできないんです。どんなに母親の反省をしても、私の心の基盤は肉なんですね。瞑想をしていると、心を感じるものがあります。でも、それが、目を開けて、母親と接するたびに、私の中からすさまじいエネルギーが飛び出してくるのです。心の底から、母に対してありがとうって言えば、そんな自分を夢見ています。

異語。

***さん、あなたが、つかんできた他力のエネルギーに心を向けてください。

異語。

私は、***の意識。

私こそ神、私は神、私は神。そのように、この者に伝えてきました。

私の中に、宇宙を支配する、宇宙に君臨するエネルギーを培ってきました。その思いがとても強いです。我こそ神なり、宇宙に君臨するものなり。その思いがとても強いです。

異語。

あなたの中のアマテラスはどうでしょうか。

アマテラスも、やはり、宇宙に君臨する神として、あなたの中に、あるのでしょうか。

はい、私は、アマテラスを神として祭ってきた。そう、宇宙を思う時、アマテラスのほうに心が向きます。アマテラスの宇宙、アマテラスの宇宙、それが私の宇宙。そして、私は、そのアマテラスを利用して、もっともっと大きな宇宙を、心の中に作ろうとしておりました。

異語。

***さん、あなたの宇宙、心の中にある宇宙、その心の奥の奥は、どうでしょうか。冷たくて寂しくて暗くて、そう、とても暗い、とても寂しい、冷たい。

あなたの心で感じていってください。そして、あなたから、あなたの宇宙へ、お母さんの温もりを伝えていってください。

このメッセージをいただいてから十年、時が経つのは早いなと思いました。改めて読み返しズバリ言ってくれていたこのメッセージを私は軽く受け取って、いや受け流していたと思いました。

特に、このコロナの影響でセミナーもなく自分一人の学びになり、自己確立ができていなければ全く前に進んでいけないと再確認しました。

だから母の温もりが大切なんだと、私の中に必要

なんだと。しかし、私はそれがまだまだできていませんでした。自分の心の見方が甘かった甘かったと反省です。

これなくしてアマテラスも宇宙も。

でも、ここで奮起ふんき。焦らず弛まずたゆ、自分との約束を果たすために、素直になつて学んでいこうと思つています。



***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は***と言います。ずば抜けて己が偉い。私は立派、そびえ立ちもいところでございます。

この肉のどこが素晴らしいのか。私は、私の中から、訴えています。しかし、私の思いを、あなたは、無視するんです。無視してきました。肉の私を素晴らしいと言って、あなたは聞かないんです。私は、それよりも、私のほうに思いを向けてくださいと、あなたに訴えてきました。あなたは、そんな私を、振り切って、あなたは、あなたを表していきました。

心の中に響いてくる思い、***さん、どうですか。あなたの心の中に響いてくる思いですよ、これは。その思いを、あなた自身、受け止めてあげてください。立派な頭は要らないです。立派な言葉、

たくさん言葉は要らない。ただただ、これが私だと、あなた自身が、受け止めて、包んであげられる優しさ、本当の優しさ、それは、言葉ではありません。私は、あなたに、そのようにお伝えしたいです。あなたの心の中から伝わってくる、あなた自身に、どうぞ、心を向けてください。懺悔は、頭ではできません。

「あんたやない！」

初めてのセミナーに参加したときに先生からかけられた言葉でした。

瞬間、怒りで硬直じょうちくしていた。はらわたが煮えくり返って、「絶対に私を認めさせてみせる」と思っていた。

あの時からずっと、私は心を閉ざしたままでした。二十余年前の自分に心を向けました。

田池留吉という道標みちしるべに、逆らって、逆らって、ただひたすら頭脳で学びを理解する道を突き進んできました。けれど、どうしても、「己が偉い」ということがわからなかった。

田池留吉の思い、本当の自分の思いを素直に受け入れることができない自分、それこそが「己偉い」自分だったと、やっと、やっと……、ありがとうございます。



***さん、では、ご希望通り、あなたの中のアマテラスを語ってみてください。

アマテラスのエネルギーを心に蓄たくわえながら、私は、生き続けてきました。

我を見よ、我を見よ、我を認めろ、私は素晴らしい、そのように、私の心の中は言っています。

この心を私は、見えました。そびえ立ってきた私の中を、私は、見えました。

しかし、まだまだだと、今、感じています。自分の中に優しさが足りないたことを感じています。優しい思いでアマテラスを見てきたかなあと、今、振り返ると、優しさが欠かけていました。

反省も、瞑想も自分なりに進めてきたつもりです。しかし、私は、アマテラスを自分の中に、しっかりと持ったまま、アマテラスのエネルギーに、自分を任せたまま、今までのことを感じます。

異語。

アマテラスのパワーがあったからこそ、私は、ここまでやってこることができた。アマテラス、あなたは、私にパワーをくれた。私に喜びもくれた。幸せもくれた。そう、私は、思っていました。

それが、ちっぽけな世界だったとは、まだまだ、思えません。

田池留吉に対して、激しく抵抗する思いは、私の中のアマテラスを、私は、まだまだ素晴らしいと思っているからです。

異語。

***さん、あなたの現実です。それでも、あなたは、自分のエネルギーを見続けていくしかありません。

アマテラスとともに、歩いてまいりましょう。あ

なたの現実を知りました。自分の冷たさを感じました。

アマテラスだけではありません。

あなたの中にある数え切れない意識達は、ただただ、温もりを待っています。

ともに歩いていってください。

田池留吉に心を合わせる、ただ合わせる、そうできるまで、あなたの心を見ていってください。

「おばあちゃんやな、おばあちゃんやろ。」

「肉はただのおばあちゃん。」
でいられない！

つつい余計なことをしては聳え立つ。自慢する。目立ちたがる。

バカみたい!!!

****さん、心を語ってみてください。

私は、****と言います。たくさんの間違いを繰り返し、厭あきもせずによってきました。心の中に、大きな、大きなブラックの世界を広げてきた。今世も、私は、せっかく真実の方向へ自分を向けていこうとする学びに繋つながったけれども、己の欲心のために、その道を曲げてきた私でございました。

真まっ直すぐに一直線に進めなくて、私は、今までやってきました。だから、苦しくて当たり前、そう当たり前だったんです。真実を知らずにきた私の心の中には、ただ、苦しさが広がっていった、それが、どうしても自分では納得できませんでした。私の求めてきた道が間違ってきたからです。

欲という思いを、しっかりと見てきませんでした。すべてが欲に繋がっていた。何かを求めてきたけれども、私のその何かを求めてきたその先にある思いは、

欲の心でございました。今、そのことを感じさせていただいています。

欲心を持たなければ……、違いました。欲心も何も要いらなかつた。何も要らなかつた。ただただ素直になればよかつた。そうすれば、自おのずと、自分の中に、真実の世界が広がっていくんだ、今、私は、微かすかながらそのように感じています。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、幾度自分を裏切ってきたとか。何度、自分を裏切っても、性しよ懲ちやうりもなく、私は、今世もまた自分を裏切っていくとうとしました。そんな自分を感じ、今、とても申し訳なく思っています。心で感じることに、それが一番でございました。いいえ、それしかありませんでした。頭では納得していません。心で理解するということを、私は、甘く、甘く、

とらえておりました。心でしか分からない学びでございました。私は、そのことを、今、痛感しています。心で感じていくことがすべて、今、田池留吉に心を向けさせていただき、そのように感じます。

ただただ、何もない自分の世界に、心を向けることが、どれだけ幸せだったか。私は、自分の中で、その幸せな時を思い出してまいります。お母さん、申し訳ございません。

この度、メッセージを送っていたいただきありがとうございます。ございました。とてもうれしかったです。

当時この本を手に取り読んだ時のことを思い出しました。田池先生のもとで学んでいるし、清く正しい自分が間違ってきたなんて。そんな思い出でした。

欲の思いは頭では分かります、心で感じる事が分からなかったです。そして自分を裏切り続けたことも心では分からなかったです。そんな思い出でした。

から何度か読み直しましたが、その後本はお蔵入りとなりました。

今回、送られてきた自分のメッセージを何度も何度も読み返していくうちに、涙がとめどなく出てくるのです。お粗末そまつな自分を感じ、申し訳ないと思いました。

そして、こんなお粗末な自分でも帰っておいでと待っていてくれていた自分を感じ、うれしかったです。

十年、今は過去より無知とエゴと欲の思いで自分を裏切り続けてきたことがようやく感じられるようになりました。今世も、この学びに集いながら、私は第一の危機にかかわってきました。田池留吉より自分の都合のいい人を心に入れ込んだのでした。そして結果精神的に不安定になり、周りの人に迷惑を掛けるはめとなりました。大罪を犯おかしてきたことが、無知と欲とエゴそのものでした。それでも馬鹿な私

は正しい学びをしていると、譲ることなくこれまで
きました。

最近、自分は正しい、素晴らしい、間違いないと
の思いが、どれだけ苦しかったか、そして苦しめて
きたことか、日々の生活をする中において感じさせ
てもらっています。正しいことは何もなかった、素
晴らしい自分を掲^{かか}げて、愚かであろうしようもない自
分を感じられることが幸せだと思います。

「田池留吉を信じていますか」の問いかけに、まだ
まだですと出てきます。間違っていましたか、真実
の道を伝えて頂き、幸せです。

今回この企画ありがとうございます。

192

***さん、心を語ってみてください。

***でございます。お母さん、自分の心を閉
ざして生きてきた私にとって、お母さんの思いを感
じることはありませんでした。心を閉ざしてきた私
は、とても暗かったです。お母さんの思いを、素直
に受け入れることはなかった。だから、他力のエネ
ルギーを求めてきました。それが、過去からの私で
ございました。今世もまた、同じようなことを繰^く
返してきました。

この学びに集い、本当のことを聞かされながらも、
私は、過去からの自分を、その通りに生きてまいり
ました。今、心を語る時、本当にその通りだ、何も
変わっていない私を感じます。それでも、私は、お
母さん、あなたに今世肉体をいただき、真実のこと
を伝えてもらう学びに繋^{つな}がりました。

このことを喜ばずに、何を喜んでいくのか。今、
語りながら感じています。

***さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、苦しい、お母さん。苦しい、寂しい、お母さん。苦しい、お母さん。寂しい、お母さん。そんな思いを、いっぱい抱えてきた。でも、肉のお母さんは、私のことを何も分らないと、私は、恨む思い、憎む思いで、自分の心を閉ざしてきただけでございました。心をしっかりとかに向ける、自分を見つめてまいります。お母さんは、もうすでに伝えてくれました。後は、私が私を見ていくだけでございました。

「あなたの意識ではありませんか」のメールを送って頂いての今の自分を思いました。

十年前は学びに対する真剣さが足りなかったです。しかし今はこの学びに繋がったことを喜んでいくこと、母に本当に申し訳ありませんでしたと、そ

して、産んで頂いてこの学びに繋がったこと、ありがとうございましたという思いだけです。欲つたれの私はもつと、もつと不足の思いばかりを広げました。いま、目を閉じて母を思う時、心に広がるこの優しい思い、ずっとこの中にいたいと思います。こんなふうに見える今がうれしくて、ありがたくて、心の向け先をしっかりと確認してこれからも学んでいきたいと思えます。ありがとうございます。

193

***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。お母さん、寂しかったよ、お母さん、寂しかった。苦しかった私の心をお母さんは、受け入れてくれました。私は、今、自分の心を見ようとしています。苦しい心、寂しい心、自分では、目を背けたくなるような、恐ろしい自分

の心が出てきますが、それでもお母さんは、私を受
け入れてくれた。そのことを信じて私は、やってい
こうとしています。少し、心がくじけそうになる時
があります。その時は、私は、なるべく自分の心
を外に向けないようにして、瞑想を続けています。
私の過去世もみんな、それを望んでいることを、私
は感じています。素直になっていこうとすることを、
望んでいると思います。反逆、反発、抵抗、色々な
思いを抱えて、私は、何度も生まれてきたけれど、
今世の私を通して、私を受け入れていきたい、今、
そのように思います。お母さん、田池留吉、今、心
を語らせていただけることが、とても嬉しいです。
ありがとうございます。

異語。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

私は、***。はい、田池留吉、お母さん、間違っ

てまいりました。心を、もっとしっかりと見てま
います。己一番の心を見てまいります。ともに、と
もに、見てまいります。私は、間違つてまいりま
した。今、とても嬉しいです。お母さん、とても嬉し
いです。苦しかった私、寂しかった私、だけど、今
とても嬉しいです。この学びに繋がってよかったで
す。ありがとうございます。ありがとうございます。

田池留吉に思いを向けよう。アルバートを思つて
瞑想しよう。

勿論、母なる宇宙、私の中の宇宙を思つて瞑想し
よう。

思うことは喜びです。

しようと思わなくてもふつと思える今を喜んでい
くだけでよかった。

私の意識は素直に語っています。

何をするために生まれてきたのか。私を見つめ受
け入れていきかけたから。

己一番、少しずつ崩していく喜びを感じています。

私は私と語っていきます。

私は私を信じて学んでいきます。

田池留吉、アルバート、お母さん、今世の肉も本
当に幸せ者です。

ありがとうございます。



194

****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、****です。何度意識を聞かされても、

私の心は、アマテラス一色だと、今も語られるように
に思います。そうです、この心、アマテラスに心を
売ってきた私にとって、アマテラスと私は、一体化
しております。

それでも、私は、このアマテラスの心を見ていこ
うとしています。それが、過去からの私と、今の私
との違いでございます。今、はっきりと、そのよう
に感じています。

心の中のアマテラスに優しい思いを向けること
を、学ばせていただきました。アマテラスにひれ伏
してきた私ですが、心の中の優しさ、温もりを、ア
マテラスに伝えることを教えていただきました。

そうやって、日々の時間を過ごしてまいります。
肉体生命の時をいただいた私にとって、貴重な時間
だと思っております。

心を見てまいります。アマテラスと一体化した私
の心を見る、ということは、アマテラスを自分の中
から解き放つ、そこに繋がっていくんですね。アマ
テラスを嫌わずに、アマテラスとともに歩いていこ

う、生きていこう、過去からの私の思いとは別の全く違う思いで、アマテラスとともに歩いていこう、そんな思いが、心から湧いて出てきます。

この学びに集えてよかったです。ありがとうございます。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてください。

異語。

アルバート、アルバート、私は、***の意識、アルバート、アルバート、心の中のアルバート。

私は、アルバートを求めてまいりました。間違った方向に心を使ってきたけれど、やはり、私は、アルバートを心に求めてきた意識でございます。

今、感じている思いを信じて、信じて、信じて、信じて、心を繋いでいきたいと思えます。

二五〇年後の出会いを待っています、私は、そのようなあの時、伝えられました。必ず、私は、二五〇年後に心を繋いでまいります。***でございます。

アマテラスとともに。

過ぎて見れば、本当に人生ってアツと言う間なんですね。

まだ在職中の先生が帰宅の途中、あるお宅で良いお話をされるからと、お誘いを受けたのが始まりでした。右も左も何にも分からない私達を相手に先生は自ら作成された手書きのレジュメで、○の明るい心とは、1の暗い心とは1から説明してくださいました。当時、真実を伝える書籍は皆無、おまけに集う全員は子育て真っ最中で肉どっふりの面々です。

しかし、そんなことはお構いなく、優しく細かく噛み砕き、冗談も交えながら丁寧丁寧にお話くださったのでした。先生にお会いするたびに何故か心

躍り嬉しくなる。それにお話の内容もこれまでに全く知りえなかつた世界観にすっかり全員が心奪われた感じで、集つた友の殆どが現在もともに学んでいきます。今、当手を振り返りながら、「先生との出会いが全てでした」との思いが出てきます。

意識の世界で田池留吉に触れたから、自分の中の真つ黒の意識がうずき始めたのでしよう。自覚もないままに己を表し、人を支配する。過去は勿論、今世もアマテラスを神と崇め他力信仰してきた私の心は、アマテラスと一体化し、傲慢、支配欲、我一番、素晴らしい……闇のオンパレードです。そして一体化した私の学びの姿勢は肉は熱、心でも意識の世界は、面従腹背、看板を変えただけで中身は依然として他力のままが続きました。肉が基盤だと十年単位で学んでも何にも学んで無いに等しいとホームページにありました。が正に納得です。十年ひと昔……真つ暗な自業自得の世界が展開されゆくのは愛ゆえに今、こうしてアマテラスと一体化した自分の足跡をたどれるのも田池留吉の愛の中なればこそ、そ

の様に受け止められるようになりました。アマテラスとともに、アマテラスに真実をお伝えください。先生との約束はまだまだ道半ばです。意識の転回が出来てないので、手を変え品を変えて現象化するアマテラスのエネルギーを直ぐに肉で捉え形を掴んでしまいます。瞬時に出てくる凄まじいエネルギー、死ね〜死ね〜……でも嬉しいです。怒りに震えながらも一戦交えた後、心見ようとします、見れます。そしてそこにアマテラスの存在を見れば何とも申し訳なくて涙し、逆に愛されてる自分を感じ、救われべきは自分なんだと嬉しくなります。アマテラスの開放は喜び、深遠なる意識の広がる喜びを知りました。アマテラスとともに喜びでした。

肉はまだまだ道遠しの感がありますが、帰るべき道をはつきりと心に示していただいています。だからありがたく嬉しくて、そんな自分の世界を信じて歩んでいきます。

今日のホームページに、ただ思う、田池留吉、アルバート、お母さん……言葉は違つても波動の世界

です。肉をもって、肉でない自分の世界にある自分を思う、思えることが嬉しいとありました。私達はこんな愛の内に在るんですね、本当に幸せです。それに、私達は田池留吉、アルバート、母なる宇宙に帰る一つの意識集団、意識体とも言ってもらいました。この言葉を励みに、これからも自分の道を邁進していきます。

学びの関係者の方々、そして絶妙な時期にこんな企画を提示くださったUTAブックの皆様ありがとうございます。

195

****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。苦しい意識を何度も、心で感じてきました。身体にも出てきています。それを受け止めるだけの私自身に、大きな、大きな心の世

界があることを、まだ、全面的に信じられないです。でも、信じようという方向に行っています。少しずつですが、自分の中を見て、明るい自分も感じています。

すさまじいエネルギー、パワーを求めてきた。そのパワーを求めてきた私のこの中に、ほんの少しですが、明かりが灯っています。今世、この肉をいただいて、その明かりを灯しました。この明かりを消さないように、しっかりと心を見てまいります。お母さん、私は、本当に真っ黒な中から生まれてきたんですね。

はい、****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

****の意識。私は、****でございます。素お母さん、ごめんなさい。申し訳ございません。

直になって、心をもっと見てまいります。心を、大きく、大きく、広げていきます。お母さんが私を受け入れてくれたように、私も心を大きく開いてまいります。ごめんなさい。今感じている優しさ、温もり、信じてまいります。タイケトメキチ、アルバート、心からそのように思います。

十数年前、雄琴セミナーでこのメッセージを頂きました。

その時のことは、今も嬉しかった思い出と共に心に残っています。

田池先生から思いがけず名前を呼ばれて前に出ました。

新天地での様々な現象を通して、嘆き苦しみながらも逃げないで向かい合ってみようと思ひ始めた頃のことでした。

その後も、どこへ行っても苦しむ自分に「心を小さく落としてはいけない」



「心を大きく広げてください」と繰り返し伝わってきます。

根本にある「寂しい思い」がパワーを求め、凄まじいエネルギーで「我れを認めよ」と闘ってきました。その思いが苦しくて冷たかった。

まだまだ過去から培ってきた苦しい思いを受け入れられなくて、やっと灯した灯りも見失ってしまうような時もあるけれど……

今回、改めてメッセージを読ませていただいた時、あたたかい優しいぬくもりの波動が伝わってきました。

只ただ素直にタイケトメキチを思い、母を思う。

自分の心の叫びと向かい合っていく……それが今世、成すべきことでした。いつもいつもメッセージを伝えてもらっている。「意識の世界からのプレゼント」……本当にその通りです。

思えば通じる意識の世界へもっともっと心を開いて本当の自分を信じていきます。

再確認の機会をいただき、心から感謝です。
ありがとうございました。

196

***さん、あなたの思いを語ってみてください。
あなたは、今、精神科医として、色々な患者さんに接しておられます。

心の苦しさを感じていますね。どのように患者さんに接していけばいいのか、あなたの思いは変わりましたか。

はい、私は、**です。

私は、人の心が狂っていくのを肌身で感じています。どうして、このような事が起こるのだろうか、私は、長く疑問でした。

人それぞれの境遇きょうぐうが違います。もって生まれついた性格というのでしょうか、そのようなものにも原因があるかもしれません。そう思ってきました。
ですが、全く私は、何も分かっていないのと同じでした。

知識面では、私は、色々学んでまいりました。もちろん、実際に、医療の現場で、たくさん患者さん達と接してきた。しかし、私は、この学びつなに繋がって、自分の心を見る、そしてお母さんを思う、お母さんに使ってきた心を見る、そういったことを、自分なりに、実践していったときに、私は、私自身が何も分かっていないことを、知らされて、私は、何とも言えない思いになりました。こんな私が、人の心なを治す職業なに就いている、それが、末恐ろしくなりました。でも、私を頼ってくる患者さん達がたくさんいます。また、私にも家族があり、今の仕事を辞めるわけにはいきません。

でも、私は、今、本当にこれでいいのだろうか。私をもっと、本当のことを自分の心で分かって、そ

して、それを患者さん達に伝えることができたなら、
そのように思っております。

異語。

はい、沖繩というところは、意識の世界からすれば、とても暗いところでございます。かつて何度も島が沈み、そして、また、島がそこに出来上がり、そうやって、他力のエネルギーをまともに受けてきた土地でございます。

だから、沖繩というところは、すごいところなんです。沖繩の神々を根底から崩していくのには、まだもう少し時間が、かかりそうです。

それぞれの家に守り神が飾られています。神は、人類を守ってくれるもの、喜び幸せに導いてくれるもの。神よ、我らを救いたまえ。我らこそ、素晴らしい、神より選ばれた民である。

その思いが、沖繩の人達には、とても強いです。

そして、本土は、異国なのです。

沖繩返還がなされてから、年月が経ちますが、依然として、沖繩の人達の心にあるものは、異国。

本土から離れたところにある沖繩王国としての誇りが、それぞれの心の中に根付いています。

痛ましい事件も起こります。それらはみんな、天変地異を含めて、それらはみんな、沖繩の人の心に眠るブラックのエネルギーに気付いてくださいということですが、まだまだそのことに気付いている意識は、皆無と言っていいでしょう。その中で、何人かの人達がこの学びに繋がりました。

沖繩に、本当の光をということで、心を見ようとされている方が、ポツポツと出てまいりました。まだまだ、弱い光かもしれませんが、それが、これからの沖繩にとって、必ず、第一歩になるものだと思っています。

最近思うことー自分の現状把握ー

自分の中の思いに、真に耳を傾けてきませんでした。そんな心の状態でしたので、当然他人の中の思

いも、真に聴くことは出来なかったのだと思います。それは心と向き合うということと、心で分かるということや心を見るということを、軽く捉えていたということだと思えます。心を正しく見る方法を分かりませんでした。

「私は正しい、私の言うことを聴け、私に従え」の思いを、口にはしなくても流してきたと思えます。特に自分の肉体には冷たくて厳しい思いを強く向けてきました。そんなエゴと欲の思いを私の肉体細胞はただ受けてくれていました。自分の中の冷たいエネルギー、闘いのエネルギー、コントロールするエネルギー、そびえ立つエネルギー、救いのエネルギーを自覚していませんでした。自覚のないまま、そのようなエネルギーで自分の人生の状況に過剰適応してきました。

そのため、心の中は苦しかったです。今でも苦しいです。寂しいです。心の中に不安感、罪悪感を抱えています。空しさも心を過ぎります。心は葛藤しています。心の中は叫んでいます、真剣に聴いて

きませんでした。苦しみ、不安、罪悪感、空しさ、寂しさ、葛藤の原因が、自分の心の中にあることは感じていましたが、真剣に向き合ってきませんでした。身近な人間関係においても、真に理解しあうことの難しさを体験していました。そんな中で、この学びに繋がりました。

セミナーへの初参加は、二〇〇五年の「意識の流れ」出版記念セミナーでした。セミナーは岐阜県下呂温泉、水明館で行われました。そのセミナー会場の現象の場で、「私もやつと、やつとここまで来ることが出来た」と、心の中から思いが上がってきました。その時、目の前の田池留吉氏の間を見たとき、「よく来れましたね」という思いが、中から伝わってくるのを感じて、涙が流れたことを覚えています。「あなたの意識です」のメッセージを頂いたのは、この学びに繋がってから五年経った頃でした。

「あれから十年後の今」、どう思っていますか。私なりに心を見えてきました。

あの頃に比べると、心を見ることの嬉しさが分か

るようになったと思います。自分の心を見ていると、
ともにいる感覚があります。心が穏やかな時、動揺
しているとき、自分はダメだと思う時、不安、恐怖、
憂鬱、虚無感、怒り、攻撃、恨み、心配の時、とも
にいます。心を見て、自分の中の声や思いに耳を傾
け、心の中のエネルギーを受け止めることのできる
自分でありたいと思っています。

今は仕事から離れて、自分のための時間を多く持
てるようになりました。退屈感はなく、一日一日ゆっ
たりと過ごしています。

身近な人と真に理解しあうことの難しさを感じる
ことは、依然としてあります。肉の世界では、もの
の見方、考え方、受け止め方に、それぞれ違いがあ
ることが分かります。その違いが誘因となつて、お
互いのエネルギーがぶつかり合います。肉基盤の自
分から自分を解き放して、違いを超えたところにあ
る、対立、葛藤のない意識の世界を分かるようにな
るには、さらに時間が必要です。

田池留吉を思うと、涙も流れたりします。その涙

は、私の中の温もりを求める苦しい意識達が、温も
りに一瞬触れたからだと感じています。間違い続け
て、苦しんで、苦しんできました。その真の原因も
分からないまま、心は幸せを求めて闘い続けてきま
した。心は苦しいままです。それだけに、温もりを
求める思いは本当に強いと感じています。

心の底には重苦しい感覚があります。たくさんの
思いが詰まっていると感じていますが、語ることは
出来ません。自分の心の中に押し込められたものが
出てこようとすると、それに対抗して押し留めるパ
ワーも立ち現れます。出てこようとするとパワーと押
し留めるパワーの両方にただ耳を傾け、両方のエネ
ルギーをありのまま見ている意識を育てていきたい
と思っています。心の底には、帰りたい場所を見つ
けられないで、恐怖の中を、たくさんの内なる障害
物の中を、帰る家を探し回っている感覚があります。
今の意識状態のまま死んで、肉体を離れていけば、
暗い世界に入り、身動き出来なくなっていく感じが
あります。

そんな混沌こんとんとした意識状態ですが、最近は、そんな自分をいつも見つめている意識、ともにいる意識、肉体細胞を流れているエネルギーに溶け合とっている感覚を、体験しています。そんな意識に、ようやく微かすかに気づき始めている今です。

「あれから十年後の今」も、田池留吉の波動の世界からは遥はるか遥か遠いところにいます。それでも、田池留吉の磁場、愛、母なる宇宙を思う瞑想を続けていきます。ともにともに行きます。なんだか嬉しいです。

197

***さん、心を語ってみてください。

私は、***と言います。心の中の苦しみを、もっと、もっと、素直に出していきたい。ああでも、私のその出していきたいとする先にあるのは、素晴

らしい私を見据みすえてのことです。すべては欲でございました。ただただ私が私を知っていくために今があることを、私は、もっと自分の心で知らなければならぬと思います。

必死に、真剣に、素直に、そういう言葉を、私は、欲の思いで聞いてきました。素晴らしい私というよりも、本当の私、広がる私、そんな私と出会いたい、そのために瞑想をする、私の苦しい思いを見る、すべてが本末転倒だったことを感じます。

***さん、異語。異語。……。

二〇二〇年一月十八日、嬉しくなったので、ブツクさんあてに以下のメールを送りました。今の私の思いを書こうとすると、こんな感じです。

「自分の思いの世界に住んでいるということがささいな日常トラブル、夫婦喧嘩ふうふげんかをきっかけとして、最近気づき、とても嬉しくて、嬉しくて、なんだか

二五〇年後とか死後とか分からなくて落ち込んでいたけど、やっぱり心を見れる今の環境が嬉しくて、そうなんだ、自分の思いの世界の中に住んでいるんだって、苦しかったけど、嬉しくなって、やっぱり反転をするのに、ちゃんと環境とか、小さな出来事も用意されているんだと、今の状況の中にも愛を感じ、主人にありがとう、なんて変わるものだから、やっぱりすごい学びだと思えます。

私は、大阪も三重も遠いけれど、今の環境で、しっかりと自作自演をしながら学んでいることを感じ、なんだか、嬉しくなりました。私の役で、嬉しくなりました。ほんとに冴さえない環境、学びの真ん中ではない環境なんて、マイナスの思いばかり出ていたけれど、普通の今の環境、自分の役、もう当たり役なんだと思いがから生きていく



小学生の頃、はしかにかかって休んだ時に母と一緒に作ってくれた思い出の人形

たら最高です。ありがとうございます。」

夫婦喧嘩の元は夫のいびきで眠れなくなったのが発端はつたんでした。夫を責めることも出来ず、いびき防止グッズを買ったりしながら、でも私にとっては大変でした。ごく普通の波風だと一般的には笑えるのですが、心からある日、その事を通して出てきた思いは、小学校の頃に出した自分の思いそのものがポイントと出てきたのです。びっくりしました。私の心の中にたた置まれていた心のひだが広がったように思いました。

嬉しくて嬉しくて、それを境に、嬉しくて、その出来事がありがとうに変わりました。私の中にあつた思いの中に、自分が入ってしまったことがよく分かりました。こんなにして自分の思いの中に、シャボン玉の中に入っているかのように、まるで肉の世界を見ているんだと、よく分かりました。だから自分の思い、今の思いを見たいける事が、愛なんだなあと思った出来事でした。

翌日ホームページ1880の香世さんのメッセージにこうありました。

「学びを進めていてどうでしょうか。自分の物の見方、とらえ方、価値基準変わってきたと感じておられますか。それともその変化をまだまだ実感できませんか。

なぜ自分は生まれてきたのか、何をするために生まれてきたのというところから始まって、自分にとって仕事とは何か、家族とは何か、これからどう生きていけばいいのか、色々と思いをみていってください。

具体的な答えを自分の中で出してください。自分の中をはっきりとすることです。中途半端が一番困ります。今は肉に埋没まいぼつしてもいいではないですか。そのうち、自らみずかに警鐘けいしょうを鳴らし続けます。愛だからです。愛しかないからです。間違いは必ず正されます。間違いを間違いだと分かるまで時間がかかるかもしれません。痛みを伴ともないながらも、正しい方

向に自らをいざなっていく愛の力が自分の中にあることを知らしめていきます。

自ら地獄に突き落としてきた過去とは違うんだ、この痛みはそういう痛みなんだと心で感じられるようになっていけば、万々歳です。

過去と決別しなければ、新たな一歩は踏み出せません。過去と決別するといっても、切り捨てるのではなくありません。ともに方向を変える、そういうことです。」

メッセージを読んで

私は何かがあって、周りに起こって、色んな現象をもらって、やっとやっと気づく、本当に時間がかかります。でも本当に納得、ガッテンするのは、そんな痛みを伴った現象を通して出てきた、「自分の出した思い」にやっとやっと出会えたという、そんな時です。苦しい事はそういう自分の使った思いを回収出来る、すごいすごい愛の出来事なのだ、何度も思いました。

「極めつけは、家族間がボロボロになった時に、やつとやつと母に使った幼い頃の自分の思いが見えた時でした。」

夫が、いびきをかいて、私が右往左往してイライラして、その最中は、よもや、大切な大切な自分の苦しい思いがはつきりくつきり思い出されるなんて、思ってもいなかった。プログラム、シナリオ、本当にそうです。だからこの学びをやめられないのだと思います。夫がまぶしく見えたなんてものではありませんでした。その直後のセミナーは、行けただけで嬉しかったです。みんなに会えただけで嬉しかったです。

学びの方に「あなたにぴったりの旦那さんよ。なんでもっと大事にしないの」と言われました。本当に嬉しかった。ありがたかったです。意識してみんなとつながっているんだと思いました。

そのセミナーの朝の自主瞑想の時、目を開いたら、最初は数人の輪でやっていたのに、ものすごい大きな、広い会場いっぱい一つの輪になっていてびっ

くりしました。嬉しかったです。

今は、自分の立ち位置の中で、見えるものは見えるのだからと、欲張らず、そして、今分からなくても、必ず、私は時間がかかるけど、絶対に分かるタイプだからと思つてやっています。

現象という野球のボールが飛んでくるのが、前は怖かったけど、「よし、こい、飛んできな。きつと受け止める」、そんな心が、この約十年の間に色々な事を通して、今、少しずつ、なんとなく感じられるんです。とはいっても、実際は現象が起こるたびにつまらないことを気に病んでクヨクヨしたり、不安恐怖を膨らませてオタオタしながら、そして、まだまだつい人と比較してしまう心も出るけれど、それでもこの心を消さずに育てていけるように、「今」を見ていきます。自分の役を生きていきます。

この学びは若すぎても駄目、色んな肉の現象があつて、というようなことを香世さんが言われました。蒔いた種は刈り取れる今を用意して、ここまで来ました。これからもこの事を忘れずに、だけど今

はもう若くないから、もう少し自分の背中を自分で押していかないとなあと思う今日この頃です。



セミナー行き的車窓から。いつもの旅の友・富士山がこの日あんまりきれいだったので。

198

****さん、思いを語ってみてください。

異語。

私は、****でございます。私は、自分の心を、

一生懸命に見ております。はい、見ております、見ております、そのように、私は、自分に言い聞かせています。

己偉い私を崩すのは、並大抵なみたいていのことではございません。私の中には、たくさんの己偉いエネルギーが詰まっています。どれだけ頭こうべを垂たれ、懺悔ざんげを繰くり返しても、私の中からムクムクと沸わき起こってくる己高しのエネルギー、これこそ、私が自分の転生の中で、営々と築き上げてきた帝国でございます。

異語。

あなたは、治療師として、その道は熱心です。あなたは、それをそのパワーを誇こうてきましたね。

はい、そうです。私は、念を込めて治療に当たってまいりました。私から流れるエネルギーのすごさを、身体を病やんでくる人達に対して、向けてまいりました。私の配下に置おくとしてきました。

形は治療をする者として、しかし、心の世界は、私の配下に置くこととしたんです。

私を敬え、私を崇めよ。私は素晴らしい力の持ち主であるぞ。

このパワーにひざまずけ、かしずけ。

そのような心を、ずっとずっと使い続けてきました。少しばかりですが、その思いは、おそらく以前と比べると弱まっているでしょう。しかし、私の中では、依然やはり、高く、高くそびえ立っている私を感じざるを得ません。

田池留吉は、すごいエネルギーの持ち主だ。しかし、この私も、その田池留吉に負けず劣らず、すごいエネルギーの持ち主だ、そのように己を誇ってきました。

あなたは、ずっとずっと以前に、高橋信次さんのことについて、皆さんの前で、語られたと思います。が、そのあなたを憶えておられますか。

今、あなたは、その当時のあなたを振り返り、ど

のように、思われておりますか。

私は、とうとうと語らせていただきました。この心の中に、高橋信次こそ素晴らしい指導者、教祖、そのように、心に奉って来たからです。

私はしかし、だんだんやっていくうちに、高橋信次の上に行く自分を感じてきました。

そして、私は、その過程で、私は、自分が上に立って、高橋信次を自分の中で受け入れていつているとは思えなかつたです。

自分を上にして、高橋信次を受け入れている、そう、その通りです。受け入れるという優しさが、私にはありませんでした。

己を上にして、上から覆いかぶさるようにして、自分の配下に置いて、そして、これが、これこそ正しい道ですよ、高橋信次さん。あなたの道は、間違っておりませんでした。どうぞ、心を見て、頑張ってください。

そのように私は、言ってきたんです。とてもとて

も己偉い自分を、その時まで、私は気付いておりませんでした。

異語。

はい、あなたは、お母さんに対してどうでしたか。お母さんを、どのように見てこられましたか。

はい、母の反省を通して、私は、母に使った思いを、繰り返し、繰り返し見てまいりました。しかし、心の奥底に残る母への思い、母を見下げる思い、母を見下す思い、我こそ素晴らしい、我は素晴らしい、その思いで、母を見ていた自分、その自分を私の反省では、まだまだ、拭い切れていない部分があります。

だから、私は、本当の温もりを知りません。無条件に母が私を受け入れてくれたあの優しさ、温もりを私は、自分の心で切り捨ててきたんです。あんな母親からの温もりを受ける、この私が私を許せな

かったんです。

それほど、私は、己が偉かったです。

異語。

私は、桐生さんからのメールを頂いて、ビックリしました。

私はすっかり忘れ去っていました。読ませて頂いて直ぐに思い出しました。確かに頂きました。その通りです。その通りだと思いました。

けど、その反省は中々難しく、できませんでした。自分の心を掘り下げてみる反省など全くできなかったです。

今、改めて読ませて頂くとき、自分の心に響いてきます。ああ、こんなにもして頂いていたのに、何ということをしてきたことか。

本当に申し訳なかった、ごめんなさい、々、々、私の学びはなかなか^{はかど}捗りませんでした。

何時まで経っても己一番、我こそはと、どこまで

も、どこまでも、聳え立っていました。他力の反省がなかなかできませんでした。

自分が操り人形であることも、身も心も何もかも、全て操られていることなど全く分かりませんでした。

他力の神も自分で作って、自分で苦しんできたにすぎませんでした。私は余りにも無知でエゴで、欲の権化になり果てていました。極悪人を遣り通してきました。まだまだ、何も分かっていません。

けど、意識の流れ、統意識の流れ、沢山の本にかかれていて、自分の心で体験して、本当にその通りだと納得です。余りにも、自分の肉を本物とする心で、間違っていました。

お母さんの温もりなんか要らん。お前の愛なんかいるものかと切り捨ててきました。

私は、肉で出来ないことなど何もない。私は、肉でもやって見せてやると豪語してきました。

どんなに己が偉いか、我こそは己一番の宇宙の神なり。まだまだ聳え立っています。

お母さんの愛を切り捨て、愛に逆らって、逆らっ

てきました。

愛を拒絶、拒否、愛に真つ向から歯向かい、高い、高い上から見下げ、見下し、侮り、バカにして、愛を踏んづけてきました。まだまだお母さんの反省が確りとやり終わっていません。

改めて読ませて頂くと、これ程優しく手を引いてくれている、こっちだよ。こっちだよ。こんなに有難いことは何処にもありません。私にとって最高の贈り物。

ありがとうございます。本当に、本当にありがとうございます。これ以外の何物もありません。

田池留吉ありがとうございます!!、心からありがとうございます。

桐生さん、あなたの企画のお陰です。忘れ去ってきたものを掘り起こしてくださって、本当に、ありがとうございます。心から感謝です。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございませう。寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しいからパワーを求めてきた。そう私も、パワーを求めてきた。寂しいからパワーを求めてきた。ずっとずっとその心で生きてきました。ああお母さん、寂しかった。お母さん、私は寂しい心を抱えて、ずっとずっと存在してきました。

****さん、あなたは、過去から未来へ続くあなたご自身を、その心で信じていますか、感じられますか。今はまだ難しいと思います。

どうぞ、お母さんの反省をなさって、自分が過去から未来へと続く時間の中で存在していることを、心で感じていってください。

寂しい心、それは、ずっとずっとあなたが昔から、そう、ずっとずっと昔から、あなたが抱いていた思

いでございます。それがあなたでございませう。そのあなたを、喜びのあなたへ変えていくこれからの時間、どうぞ、心で感じていってください。

もう十年が過ぎたのかあ。

苦しくて、苦しくて、どうしようもない寂しさが吹き出して、今まではそれを確認することもせず、肉での楽しみを求めて生きてきた。誤魔化しながら、なんとなく生きてきた。苦しみ、寂しさ、己偉し、出てくる思いは、全て見て見ぬ振り。人のせい。そして、中の叫びが吹き出して、肉でも誤魔化しようがない時、すぎた。助けてください。なんとかこの苦しみを取り除いてください。幸せになりたい。神に貪欲に祈ってきた。パワーを求めた。外ばかり向いてきた。それしかもこの苦しみや寂しさを取り除く方法がないとまで、自分を落としていった。

神にすがってもダメなら、自分が一番に。誰よりも一番に。神よりも偉く。己偉い思いをさらに膨ら

ませ、負けてはなるものか。必ず必ず一番に。幸せになつてやると。誰も信じず、自分というものも信じず。ますます苦しみを募らせるだけの悪循環の中に自分をとことん追いやった。全て他人のせいにな



当の自分に会えたかった。色んな現象を自分に用意して、田池留吉との出会いがあった。

し、あいつが悪いから私が苦しむ、この素晴らしい私を認めないから、許せない。認める。私の存在に気付く。小さな世界から、さらに小さな世界へ。

苦しかった。寂しかった。助けてと悲鳴をあげていた。他力の思いでいっぱいだった。

今も日々出る思いは凄まじい。誤魔化す思いもすぐに出る。でも、地に落ちた意識は、出会った。田池留吉の波動の世界、愛に出会った。

今世の肉を通して、意識の世界に触れた時間をいただいた。それは肉では計り知れない意識の切なる思いだった。地に落ちた意識だから、何としても本

それは、すごい喜び。このメッセージをいただいた時は分からなかった。そして十年

たった今、その喜びを感じ始めている段階で、まだそのメッセージの深さは分かっていない。感じた、分かったでは、あなたの学びは進みません。喜びに触れた意識はどんどん喜びに帰りたいと叫んでいる。寂しかった思いが、どんどん心を見てとメッセージをくれる。外を向くことしか知らなかった自分が、中に思いを向けていくことの大切さを知った。帰りたい。帰りたい。帰ろう。帰ろう。帰るところがあるの？ 帰れるの？

お母さんの温もりを心の中にもっと広げていってください。愛はあなたの中に。今も昔もずっとあり

続けていました。愛を捨てたのはあなた自身です。けれど愛はいつもありました。これからもあります。

愛を感じれば、愛が膨らむように肉は思っていたけれど、自分が愛に気づいていなかっただけで、無限の愛は、自分の中にならずとあったこと、これからもあり続けていること。瞑想を通して、響いてきます。「帰ろう。帰りたい。共に帰りましょう」の呼びかけが嬉しいです。

今まで肉にとって不都合な現象は恐怖でしかなかった。だから、他力に走ったけれど、今は、「心の針を田池留吉にしっかり合わせていきなさい」という呼びかけと考える事が何よりも嬉しい。狂い続けてきた意識も、みんな共に同じ方向を向き、二五〇年後、次元移行に向けて、軌道修正を促してくれているように感じます。愛に帰る道筋を自分に伝えていると思える今が、喜びです。

十年前にいただいたメッセージが、今も喜びであ

り続けている事を再確認させて頂く機会を、ありがとうございました。

大切にします。

200

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。お母さん、申し訳ございません。

私は、間違つてまいりました。すべて、私が間違つてきました。己が、とても高かったです。母に教えていただいた温もり、優しさ、すべて、私は、蹴散らしてきました。自分のエネルギーのすごさを心で感じてきました。学びに繋がってよかったです。今、とても、私は幸せです。

自分の醜い心、愚かな心を見させていただきまし

た。お母さん、生んでくださってありがとうございます。ごめ
ます。***というこの肉体をいただいたことを、
私は、とても喜んでいきます。

十年たって、身体的にも又環境もいろいろと厳
しい状況になっていますがそれは想定内のことであ
り、今があることを私はとても喜んでいきます。エネ
ルギーの凄^{すご}さも年齢に關係なく現在進行形で見させ
ていただいでい
ます。ありがと
うございます。



201

***さん、心を語ってみてください。

すさまじいエネルギーを蓄^{たくわ}えてきた。私にとって、
心を見るということは、たやすいことではありませ
んでした。私は、昔、昔、ひとつの大きな仕事をし
てきたという思いがあります。ああでも、それを私
は、自分自身を見つめるということに活用してこな
かった、今、そのように思います。

私のためでございました。誰のためでもなかった。
私のために、私は、この肉体を動かしていたのです。
それが、私は、あの当時からありませんでした。ただ
ただ、仕事をしている、仕事をさせていたでいてい
る、その思いは確かにありました。そう、立派な仕
事をしているという自分を、それによって誇^{たか}ら
たこともありました。

下らない思いを流してきたものです。申し訳ござ
いません。私は、自分のエネルギーを知るために、

そのようなチャンスをいただいたのです。本当に申し訳ございません。

***さん、心の中にまだまだたくさんエネルギーを秘めています。たとえば、ご主人に使った心、あなたはあなたなりに見てこられたと思います。どうぞ、もっと深く、正直に、真正面から見ていてください。

すさまじいエネルギーで、ご主人に立ち向かってこられました。それがそのまま、田池留吉に対しての思いだと思います。田池留吉、すなわち、本当の自分に反逆してきた思い、それをご主人があなたに見てくださいと言ってきたのだと思います。

どうぞ、ご主人に使った思いを、今一度、しっかりと見ていってください。本当の自分を忘れ去った自分は、いったい何だろうか、そこにあなたの思いがくるとき、またあなたの道が開けると思います。

どうぞ、心をしっかりと見ていってください。

十年前に出していただいた意識への思い

十年前に出していただいた意識、(学びのポイントを外した学び方をしてきた) という思いを感じ始めてからいつも、その思いを心の中に抱えていました。ここから抜け出さなくてはと心を見ていましたが、己偉い自分が前に出てきて田池留吉の指し示してくる方向へ向くには時間がかかりました。途中で何回も挫折し、それでも試行錯誤しながら、日々の瞑想を続けていく中で三十二年間、田池留吉の意識の世界に反逆しながら欲でセミナーに参加していた、学びの動機が間違っていたと、心で分かったときはショックも大きかったです。じわじわと温もりが心で感じられるようになり、嬉しくなってきました。今では本当の自分の世界を思って瞑想をすると温かい優しい波動がフワッと感じられるのです。本当の自分が応えてくれたと思うと嬉しくなり、涙が出てきます。

私はこの波動に、本当の自分に反逆してきたんだ、

それでも本当の自分は私を導いてくれていたんだと思うともう懺悔ざんげです。

少しずつですが、本当の自分の波動を信じていくようになります。学びのポイントを忘れずに毎日の瞑想を続けていきます。

202

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。間違って存在してきたことは、私も同じです。どれだけそびえ立ってきたか、自分の心を見ていると、そればかりが感じられます。笑いで吹き飛ばしてきました。でも、その笑いが、心の底の底から笑えるような私自身に出会ったのは、今世が初めてでございます。

心の底から幸せだ、嬉しいと、私は、今、思っています。

目を開けて生活をしていけば、色々なことが目に見えて、耳に聞こえて、周りの人達は、私の心に波風を起こします。ああでも、この思いを私自身が受け止めていける、それが私なんだ、今、私はそのように感じる時、みんなにありがとうという思いが、自然と出てきます。まだまだ間違ってきた私自身を、しっかりと感じているわけではないけれど、ほんの少しでも、ああ、私は間違ってきた、今生生まれてきてよかった、お母さんありがとう、そう思える私があることが幸せです。

異語。

***さん、ご主人とともに歩いていってください。ご主人は、あなたにとって、ベストパートナーでございます。どうぞ、互いに心を見て、本当に夫婦となったことを喜びとしていってください。

もちろん、ご主人は、口ではあまり語らないと思います。どうぞ、心と心の中で、その思いを確認し

ていってください。そして、あなたがその思いを言葉に乗せて、多くは語らなくていいんです、何気ない時に、ポツ、ポツという言葉に、ご主人は、何とも言えない、喜び、幸せを感じられると思います。そうやって、夫婦仲良く、お茶を飲む、そんな何ていうこともない、そんな時間を過ごしていかれたらいいのではないでしょう。

十年前の私の意識、確かに真実を知った喜び、夫婦で学べる幸せ。肉的には本当に幸せでした。

それからです、アマテラス、心の底の底、凄^すいエネルギーを十年かけて徐々に見るようになって、本当に自分の中が真っ黒だった、全ての転生が間違ってきたと自分の中を確認出来ました。

主人は最高のパートナーです、どれほど私のアマテラスを引出し、奥底に眠る全てをのみ込んでいく凄^すいエネルギーを、引き出してくれました。ようやると今、少しずつ受け入れられ認められた分業になった今日この頃です。

三十年余り学んできたからこそ今がある、「継続は力なり」田池先生は喜んでセミナーに来てたらいんやとよく言われました。

最初は何も解らなかつたけど今学びを続けてきたからこそ、田池先生の言われたことが心で感じられる今があると思えます。

まだまだこれからです。二五〇、三〇〇年につなげられる様に自己供養していきます。

U T Aブックのスタッフ、またN P O法人の皆さん、いつも有難うございます。

何時もお世話をしてもらえるから学べます。本当に私たちは幸せ者です。

203

***さん、あなたも心を語ってみてください。

心をどこかに置き去りにしてきたような私があり

ます。何かをし残しているような気がします。そうです。私は、自分の心をまだまだ真正面からとらえていない、肉の時間の中で、私は、私としっかりと向き合っていきたい、そのように思います。

仕事の第一線を退きました。しかし、私の心はまだ、そちらのほうにあると思います。きっぱりと身を引いたわけではございません。

便宜上という、形はそうです。でも私の心、思いは、まだまだしっかりとそちらのほうに向いていると思います。これが、私が私を真正面からとらえられない大きなネックとなっていると思います。

* * *さん、もういいではないですか。すっぱりと決別してください。

あなたは何のために生まれてきましたか。あなたは、ご自分の会社を一応立派に興されました。その後、もういいのです。あなたは、そこで使ってきた心を、しっかりと見つめる、そしてお母さんに思いを向ける、そう、どんどんそういうふうな方向に

していただく。

あなたの肉の時間ももうあまりないと思います。会社のことを思う時間は、もうないのです。もういいのです。ただただあなたは、あなたを見つめて、しっかりと前を向いてこれからの二五〇年、三〇〇年を見つめて、あなたの心をしっかりとそちらのほうに、照準を合わせていただく。

何のために生まれてきたのか。あなたはあなたを知る、本当のあなたを知る、そのためにあなたは生まれてまいりました。

田池先生から十年前にメッセージをいただきました。

そのメッセージは私の意識そのもので、当時心にグサツときたことを覚えています。

そして今、この自分の心を覗いてみますと、何にも変わっていないように思いました。時々セミナーで塩川さんが「何となく参加だけしているような方が沢山います」と言われていますが、僕もその中の

一人ではと思います。田池先生が常におつしやつていた「心を見る」を怠り、自分自身に正直に向かい合つてこなかったこと、学びを軽視してきたこと、母の反省も肉的にしかとらえてこなかったこと、この原稿を依頼されて、今更ながらですが振り返るチャンスをいただきました。

田池先生とは肉的には沢山の思い出があります。学びの話では遠い存在でしたけれど、肉的には何も気を遣わせない身近な存在でした。病床でも色々なお話を聞かせていただきました。あの笑顔にもう一度会いたいです。



***さん、今あなたは、いかがおすごしでしょうか。お元気ですか。

私は***です。私の心は、寂しくてどうしようもありません。ホームページを見ています。ああでも、私の心の中の寂しさをどうすることもできない。ホームページでそれを紛らわせようとしています。ホームページをみて、田池先生を思って、セミナーの人たちを思って、でも、私の中の寂しさはどうすることもできません。

***さん、お母さんをどのように思ってきましたか。そして、お父さんについてはどうでしょうか。

私は母を、ああそう、母のことは、自分の中では、そんなに嫌っているとは思っていませんでした。で

も、母を思うと、とても苦しい思いを感じます。私のために、色々尽くしてくれた母親なのに、私は、その肉の母親が大嫌いでした。私は、そんなこと、あなたに望んでいないのにと、私は、いつも母親にたいして、その思いをぶつけてきました。私の求めてきたものはそんなものではなかった。

父に対しては、もっとすごい心を使いました。なんとわからずやの父親なのか。この父親がいるから、私は苦しいんだ。なにひとつ、自分でできないくせに、口が達者で、私のことを、何と思っているんだ。私は、父親が、疎ましくて疎ましくて、仕方ありませんでした。

ああ、自由になりたかった。何も干渉されずに、自分の生活を楽しみたかった。父親から逃げたかった。なぜ、お母さんは、こんな父親を置いて、なぜ、お母さんは、先になくなったのか。そんな思いで、父にぶつかっていきました。

私が、優しくしようとしても、お前の助けなど要らぬ。ピシヤリと断る父親に向かって、私は、それ

以上のことはしたくなかった。誰がするものか。誰が、お前の手助けなんかしてやるか。その思いで、私は、ずっとやってきたんです。

母を亡くしてから何年か経っていました。

母は私を良い人、人前に出して恥ずかしくないようにと育ててくれたと思います。あれこれ指摘されることがうるさかった。褒めてくれることがなかったのが寂しかった。だからいつの間にか母に逆らうようになり母に背を向けるようになりました。

「お母さんは私のいいところは何もみてくれてない。ダメ出しばかりする」「ちゃんと私を見てよ」そんな思いを出していました。背を向けることであえて気を引きたいということだったのでしょう。でも母に背を向けることで自分が寂しかった。

そうして母に素直になれないまま、母に心を開けないまま母が亡くなった。天変地異でした。真っ先

に出た思い。「お母さん、ごめん、お母さん、ごめん」
取り返しのつかないことをしてしまったと思いまし
た。寂しい、寂しい。底なしの暗闇に落ちていくよ
うな寂しさを味わいました。

そして何年も自分を責める思いが消えませんでした。
た。セミナーで、喜び現象の中でも「お母さん、ご
めん」でいっぱい、「お母さん、ありがとう」は
まだ出てきませんでした。

ワン、ツー、スリー、の現象の中で、やっと、「お
母さん、ありがとう」が思えるようになりました。
父は頑固^{がんこ}で、わがままで、自分勝手で、と思っ
ているが、私と似た性格でした。どちらも意地を張り
合って、一緒にいることが苦しかった。

母以上に私を思い通りにしたがつている。私の話
など聞く耳持たない。理不尽なことを言う、人の揚^あ
げ足^{あし}取りばかりする。私の心を揺らしてくれる一番
の人でした。



最後は入院先で亡くなりました。半年ほぼつきつ
きりでした。ベッドで寝たきりの父が、子供のよう
に私に接してくれました。私はこれほどのことがな
ければ父と和解できないのかと、心から後悔^{こうかい}し、反
省しました。あれだけ嫌った父と手を取り合って「ふ
るさと」を歌いました。父にも申し訳ない思いといっ
ぱいです。

自己供養、しっかりやっていきます。

****さん、あなたの心を聞かせてください。

私は、****です。頭を誇ってきた私は、頭を外しなさいと何度も言われてきました。知識をいっぱい詰め込んできたこの頭を誇ってきました。人間の心の世界を分析して、私は、頭でそれを分析して、解き明かす方向に心を、長い間、使ってきました。ようやく、自分の心に響いてくるのが、それだけが真実だ、そういうふうに見えるようになってきました。

僅かな私の心の変化を、私は嬉しく思っています。以前の私は、そうではありませんでした。心で感じていたことも、すぐに頭に持っていくって、頭で分析することが大好きでした。ああでも、今、心で感じる、ほんの僅かな優しさも、今は嬉しいと思います。

何気ない日々の中で幸せだ、ありがとう、そうやって、目を閉じて瞑想をする時間を持つることが、本

当に喜びなんです。私は、今そのように思っています。

異語。

****さん、どうぞ、あなたも心に入れてきた他力のエネルギー、他力のパワー、その思いをしつかりと見つめていってください。

優しいあなたになられているからこそ、あなたの中のすさまじいエネルギーを、少しずつ受け入れていけると思います。心で受け入れるということを心で知っていくてください。それを重ねていくうちに、あなたももっと優しくなっていくられると思います。周りの人達に、優しく、優しく、肉ではない優しさ、何気ない仕草の中、何気ない言葉の中、その中に本来の優しさが、にじんでくると思います。

どうぞ、二五〇年後、楽しみに待っています。私は、楽しみに待っています。

これを読んだとき、最後の一文「二五〇年後、樂しみに待っています」というところが心に響いてきたのを覚えています。今も「待っています」という言葉を聞くと、二五〇年後の再会を思い、涙が自然とあふれてきます。

このころ私は幾度となく、頭を外しなさいと田池先生に言われ続け、でもどうすればいいのかわかりませんでした。あるセミナーで、私は、反省文を書く時にも頭を使っていることに気が付き、それから、「自分を感じる」ということに重きをおこうと、書くという反省をほとんどやめました。自然に思いが上ってきたときにだけ書くことにし、後は瞑想だけに集中しました。

今回感想文を出すこともあきらめていました。自分の思いを言葉にした途端、なにかしっくりこない。そんな感じがして、文章を書くということに抵抗があります。会話をする時です。言葉を出すたびに

後悔する、そんなことを今でも繰り返しています。

私にとつて頭を使わずに書くことは難しいので、メッセージに思いを向けて瞑想してみました。異語が自然に生まれました。そうです。異語がありました。異語を書き写すことはできないけれど、これがあるということを書けばいいかなと思いました。

異語は、私にとつては、唯一安心して話せる言葉です。異語で語れることが自然でうれしい。自分もわからない言葉で、心の世界の言葉で語れることが本心にうれしい。のびのびと何も考えずに自分の心が語れる。過去の私とも未来の私とも語れる。

自分の出した言葉が批判されることもない。心のままに、素直に思いが語れることが安心です。言葉を出すことにおびえなくてもいい。批判されることにおびえなくてもいい。この学びに出会わなかったら、異語を知ることもなく、自分の心を押し込めたまままだ生きていたことでしょう。それを思うと、異語で語れることが本心にうれしいです。

私は小さいころから、自分は冷たい人間だと思っ
てきました。人にはにこにここと笑顔で接していても、
心の中では残酷ざんこくな思いを感じるが多々あったか
らです。自分が発する言葉や態度が、中の思いとは
全く違うという、その矛盾むじゆんが、そんな自分が恐ろし
かったです。ですから、このメツセージを読んだ
とき、えっと思いました。私と、優しいという言葉
は全く似つかわしくない。私は、本当に優しくなっ
てきているのですかと戸惑とまどいました。私の心の中は
冷たい思いでいっぱいです。それを小さい時に気づ
いてしまいました。優しい人になりたい。優しくあ
りたい、優しくなりたいたとずっとずっと願ってきま
した。これが私の願いでした。植物のように、動物
のように、そこにいるだけで、人が和むなごような優し
い人になりたいと願ってきました。だからこのメツ
セージは私に希望を与えてくれました。こんなに冷
たい私でも変わることができると、安心しまし
た。

それから長い間、自分の中のエネルギーを受け入
れるということをやってきましたが、なかなかでし
た。それが、セミナーの現象中に何度も何度も何度
も練習をさせていただいて、最近やっと、瞑想の中
で苦しい思いが出てきたら、一緒に帰ろうねと優し
く声をかけられるようになってきました。それが私
にとってはこの十年で一番の大きな変化です。

苦しいばかりだったアマテラスをいとしく思え
る、宇宙を思うと、宇宙の友とともに帰ろうと優し
い気持ちになる。それがうれしいです。瞑想の時間
が楽しい今です。

206

***さん、あなたは、ご主人のことをどのよ
うに思っておられますか。

私の心の中の苦しさを吐き出させてくれた人、私の心の中の醜^{みにく}さを見させてくれた人、そのように私はとらえてきました。今もなお、私の心を見させてくれています。主人の一言、主人の態度、ああ、私の心の中には、まだまだ主人を素直に受け入れる思いが、足り^たないように思います。

主人を本当に愛^{いと}しいと思っているか、そのように、問いかけられたように思います。ご主人のことをどのように思っていますかと言われた時に、そのように私は感じました。

はい、私は、主人を心の底から愛しいという思いには、まだ至っていません。心の苦しさを見させてくれた人、心の醜^{みにく}さを私に感じさせてくれた人、そういう意味では、私のいい教材でございました。私の心の中を、えぐってくれた人です。ああでも、そのところから、私がその人を通して、その意識を愛しいと思えるか、ああ私は、まだまだでございます。自分の中の苦しさは、まだまだ続いているなあ、

そういうふうに感じます。

ああでも、こうやって心を語らせていただいて、私は、少し自分の中に、思いを向ける喜びを感じさせていただきました。こうやって、私は、自分と対話すればいいんですね。心の中を見てまいります。私を見てまいります。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、私は、まだまだ自分がそびえ立っていることを感じます。自分では、少し、このそびえ立った自分を見てきたかなあと感じてきました。が、私はまだまだでございます。

苦しい、苦しい中を生まれてきた私でございます。どんなに苦しくても、私は、私に肉体を下さいと、そうやって、今世、私は肉体をいただいたのです。今、心にそのように響いてまいります。

異語。

夫は亡くなつて三年になる。

夫は平成十五年からセミナーに参加。七年間認知症パーキンソン症候群で、在宅介護。

二時間毎にトイレにリフト移動。手すりを持つ、立つ、は一時間から亡くなる前は二十分筋トレと全身マッサージ七年間。

余りに過酷かこくで聞いた。これって私の姿なん？お前の姿じゃ、厄介者やっかいものやった。言葉も出さないのに大きな声で。

こんな大変な事をする私は素晴らしい立派良い妻、そう思いながらだったのが、させていただきますに即思いが変わった。

疲れて、瞑想すると寝てしまうので、こんな私はどうしたら良いのかと……。

セミナーで癌がんで初めて来た女性に（私を思い続けてください）とおっしゃっただけ。きつと、命に係

わるその方は必死に思い続けることをしたと思う。

何をしていても、思い続けるなら、私も出来る。二年後、ミニセミナーのお水の実験で（喜びの思いが伝わってきた、肉の思いが薄らいでいる）との事。なんの理由もないのに毎日嬉しくて嬉しくて。途切れず田池留吉を連呼するだけでこんなに幸せな毎日があるなんてびっくり。

「夫婦の縁」の本を不調和の極きまみで死にたいと思う万策尽きた時、心を誤魔化ごまかす為の自叙伝をと本屋に行つて題名で買つて一年ほど毎日毎日読んだ。

それまでトライアスロンに明日出ても良い成績が取れる程の事をした。ゴロゴロしながら絶体絶命崖がけつぶちで読んだ。八尾センターの近くに行く機会があつて、ミニセミナーが近くにあつて、夫からとどめを刺された時（離婚）、意識の世界を選んだ。今までの苦しみが全く消えて、嬉しい嬉しいばかりになった。夫もどんどん良い方にころころ変わった。夫もセミナーに参加。

夫は学びに出会えるきつかけを、等々私のシナリオの協力者で、約束してきた人として感謝しかない。肉も二十八年大切に（命懸けて守る）と、母の思いで事有る毎に命を捨てても守ってくれる様子に私は夫とは格段の差。肉肉の薄皮一枚の表面だけの肉の愛で夫に接していた。まだまだです。意識の転回、母のぬくもり、課題が山積。肉肉の薄皮一枚の表面だけの肉の思いでまだまだです。意識の転回、母のぬくもり、課題が山積、この度のメッセージ、残りの時間を大切に精一杯励みたいとあらたに思った。ありがとうございます。

207

****さん、他力の反省は進んでいますか。

私は、****です。他力の反省、私の中で、今ひとつ捗はかどっていません。心を見てきました。他力に



向けてきたエネルギーを自分なりに感じてきました。でも、心の底から申し訳ありません、私は間違っていました、その思いが今ひとつ、私の中で響いてこない、それが私の現実でございます。

申し訳ございません、間違っていましたという上辺の思いは出てきます。しかし、心の底の底から、私は間違ってきた、何度自分を裏切ってきたことが、そういう反省には、私はまだ至っていないと思います。

他力の反省が進まないのは、お母さんの温もりを心感じていないからだ、私自身は思っています。

異語。

***さん、そうですね、あなたの中には、まだしっかりと他力のエネルギーを握る心があります。それは、あなた自身は、今世、その思いを確かに見てこられたでしょう。でも過去から、あなたは、その思いの中にずっと沈み込んできた、それは、ど

なたも同じですが、その思いを、あなた自身まだ甘くとらえていると思います。

そんなに容易く他力の反省はできません。ですから、真摯に焦らずに、と申しています。

できた、分かったという世界ではございません。どうぞ、心をお母さんに、田池留吉に向けて、日々の時間を過ごしてってください。

肉のことはもういいです。あなたの思いを真剣に、自分の中に向けてるようにしてください。

他力の心。自分の中で十年前とどれだけ供養できたであろうか？

底の底、もっともつと深い奥底の他力の思い。

浅い浅い上辺の他力の反省ではないのか？

自分に問うてみる。

五感を閉じる。

一向に治まらない、我が、俺がの世界が心を激しく揺り動かす。

唯一無二の我を認めよ！我が法、我が正義と田

池留吉に歯向かってきた。

田池留吉を下に下に見下してきた。

しかし一向に歯が立たない。なんと情けない、こんなはずじゃなかった。

何度挑もうが結果は同じだった。

田池留吉の目が私の心の奥まで突き刺さる。

厳しい厳しい目。

只々うろたえる、肉の置き場がない。

異語。

寂しかった、寂しかった、こっちを向いてほしかった。

お母さん、お母さん、お母さん……。

異語。

田池留吉から「待ってるで」「待ってるで」と誘われていたような気がします。

208

***さん、お久しぶりです。心をどこに向けていますか。心がこの学びから離れていませんか。

私は、***です。自分では、そんなつもりはないと思ってきました。でも、私の心の中は、そう、段々この学びから遠のいているような、そんな気がします。今、自分の心を語ろうとする時に、そんな気がします。

心の苦しさを、どうすることもできない自分に、ほとほとあきれているという状態です。どんなにしたらって、私は、意識の転回もできないし、苦しい中にある、それならば、いっそのこと……、そのような思いでいたのも事実だと思います。

しかし、自分の中を今、語ろうとする時に、やはり、私はこの学びから離れていけない自分を感じます。肉はバカですね。私は、今そのように思います。

異語。

***さん、あなたの心をしっかりと見つめて
いってください。

私は、以前に、あなたも己が偉いですねというふうなことを、あなたに向かつて言ったことがあると思います。憶おぼえておられますか。あの当時の思いのままです。あなたは、自分の己偉いという思いを、まだまだ、じっくりと見ていない、それほどそびえ立っているということです。自覚できないほど、そびえ立っている、そういうところからこの学びを、再び始めても、ほとんどどうにもできないということとを、知ってってください。

お母さんに向けてきた心、そして、あなたの肉体細胞に向けてきた心、もちろん、周りの人達に向けてきた心、すべて、そびえ立った自分のところから、見てきた、感じてきた、そんなあなたではないでしょうか。

「あなたの意識ではありませんか」を送って頂いて読み返してみると今と変わりないと思わずにおれませんか。

先生から、「己が偉い。聳そびえ立っていますよ」と言われました。ハイと答えたものの頭では分かっているても心はついていけませんでした。しかしながら、今身体が病やんでなかなか治なおらずにいる所に UTA ブックさんから送られてきた「あなたの意識ではありませんか」を読んで振り返ってみると出てくる出てくる。こんなんでは肉体細胞も変調をきたすわけやと思います。いつも私は間違っていないという思い相手が悪いと責任せきにん転嫁てんかと肉体にも不平不満の思いを垂たれ流たしていました。

私は幼い頃より根気こんきがないと言われました。結果を直すぐに求める癖があるので、この学びのコツコツと日々反省・瞑想が苦痛でした。最初は一生懸命勉強するのですが、なかなか結果が出ないでいると肉に逃げる癖が出てきます。その繰り返しで今まできています。セミナーに参加できている間は奮ふる立

たせ、参っているとセミナーに参加すると本末転倒な思いでやってきていました。こんな思いで学びをしていました。根本から見直していきたいと思いません。



209

****さん、どうでしょうか、パワーを求めてきた心を反省されましたでしょうか。

****です。はい、心の中にパワーを求める思

いが、これほど強かったとは、私自身、本当に知りませんでした。パワーを求める思いが、とても強いことを感じています。なぜ、これだけ強い思いで求めたのか、私の中は、それほど苦しかったのですね。苦しいから、その苦しさをどうにかしたいから、パワーを求めてきた、そのパワーで私の心をどうにかできると、私自身、思ってきました。その私の心の中を感じると、とてもいたたまれない思いです。こんなにも苦しかったのか、本当に苦しかったです。んだなあ、今、そのように思っています。

この思いを、私は、しっかりと見ることなく、ただ偽物にせもののパワーで何とかしようとしてきた浅はかさを、今、感じ、申し訳なく思っています。

****さん、どうぞ、心を田池留吉に向けてみてください。

田池留吉、心の中に温もりがあったのに、私は、それを忘れ去ってきました。お母さん、申し訳ござ

いません。私が私を苦しみの底に突き落としていたことを、今世、感じさせていたでいます。これが過去からの私でございました。苦しみの底に落ちていったのは、私自身でした。

お母さん、あなたではありませんでした。あなたは、そんな私に肉体をくれました。足蹴あしげにしてきた思いを、今、少しづつまた見てまいります。お母さん、待っていてください。申し訳ございません。申し訳ございません。

十年前、パワーを求める心を反省するということ
で意識を頂きました。

この時は、パワーを求めるということが、まだ自分の中でピンときていませんでした。

久しぶりに自分の意識を読んで、これや私の根深いところここやったと改めて実感しています。

ここを外はずしては自分の根底はなにも変わらないことに気付かせて頂きました。すぐに逃げてしまう自分。自分を信じる事が出来なかつた自分でした。

パワーに心を向け苦しかった自分を救うために外に外に心を向けた。幸せになりたいと神仏に祈ってきた自分。どうすれば幸せになれるのかとずつとずつと探してきました。

セミナーに集い田池先生と出会えたこと本当にすごいことだと思えます。中々素直になれない自分だけれど、瞑想すると反発の思いが出るけれど、出せることが嬉しいです。

タイケトメキチ、アルバート、お母さんありがとう。
課題ありがとうございます。

210

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。お母さん、私は、間違ってます。己偉い思いから、私は私の道が、全く見えなかつた。私自身が全く見えなかつ

たです。今、心を手探り状態てびやくで進んでいます。どんなに進んでいっても、私の中はまだまだ暗闇の中にあります。でも、こうやって手探り状態てびやくで進んでいこうと思えた今世、これが私の収穫とくわくでございました。今までは、私自身、それどころではありませんでした。私は、自分の中に、明るい出口を見つけようと、手探り状態てびやくで、今、自分の道を歩いていこうと思えること、それが私には、とても嬉しいです。

手探り状態てびやくですけど、私自身とても嬉しいです。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

***でございます。田池留吉、お母さん、ありがとうございます。申し訳わけございません。どんなに間違い続けてきても、私は、今ここに語らせていただ



ています。それがとても嬉しいです。暗闇の真っ暗な中で生き続けてきた私に、ほっと一息つかせてくれた今世でございます。

今世のこの安らぎ、ほんの僅わずかに心に感じている安らぎを、私は信じて、これからも歩き続けてまいります。私は、私の道を歩き続けていきます。お母さん、ありがとうございます。今まで私のことを、本当に、本当に、ありがとうございました。

勉強不足で未だ手探り状態てびやくで進みは遅いですが、ほんの少し心感じていた安らぎを信じて、タイケトメキチを信じて、この道を歩んできて良かったと、今心から思すえて凄すじくうれしいです。

今世、田池先生に出会えて私は本当に幸せ者です。何よりの宝物でした。ありがとうございました。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。どうしても自分を認めてほしい、自分を認めてください、私を認める、田池、私を認める、お母さん、私を認める、お母さんなんて……、私は、そういう思いを、広げていってしまいます。

苦しいことだって分かります。それがどれだけのすさまじいエネルギーかということは、私にも感じられますが、この心がどんどん次から次へと出てくるのです。

素晴らしい自分、そう、私も素晴らしい自分になりたかったです。

意識の世界をもっと自分の中で広げていきたい、反省をして、瞑想をして、そしてどんどん心が進化されていって、私は、意識の世界の奥深くを進んでいきたい、すべてそんな思いの中でやってきたよう

に、私は思います。

****さん、どうぞ、そんなに道を急がないでください。あなたは、まだまだこれから自分の肉の時間の中で、色々な体験をしていかなければなりません。人と人との中で、あなたご自身が自分の心を見るようになっていきます。ただ反省をして、瞑想をして、それで意識の世界の奥深くが分かる、アルバートが分かる、宇宙が分かる、そういうものではありません。私からすれば、あなたの学びのしていく方向が、やはり、ズれているような気がします。あなた自身は、自分の苦しい心を吐き出し、そして、それを自分で包んでいくんだ、そういうふうに理解されていると思いますが、そのあなた自身というのは、いったい何でしょうか。

そんなに急がなくてもいいんです。もっと、ゆったりと、自分を見つめていってください。

色々と思いが上がってくると思います。思いが上がってくれば、それをどんどん吐き出せばいいけれ

ど、まずは、しっかりと母の反省をしていってください。己の偉い心では、自分の苦しい思いを受け入れて包んでいくことはできません。ということをお分かっていくために、これからの時間があると思えます。つまり、己が偉いということをお、これからあなた自身、実践を通して知っていくのだと思います。

そうした時に、あなたのこれまでの勉強が功を奏していく、そのような道筋を歩いていかれるのではないのでしょうか。

送って頂いた内容を数年ぶりに読み返す。十年前の自分が自然と思い出されました。

ああ、そうだった。そうだった。あれから十年経過し私の歩みは一体どうなっているのだろうか。

家庭に入り仕事もこなし何もかも順風満帆に見える中、家の中、会社の中で聳え立ち、まわりに一体どんな思いをまき散らかしているのか。早速今日家の中で現象が起きる。

瞑想をしながら私がこの学びに集った頃の思いを

思い出す。

右も左もわからない中ただひたすらセミナーに参加し、音声を家で聞き、ノートを広げ筆を走らせ、なんか楽しくて汗かき涙する現象に参加して、動機は違えどただただセミナーが楽しかった頃を思い出す。

あの時の自分の思いを思い出そう、雲をつかむような内容の講話、それでもこの道を行こうとまっすぐな思いがあつたから、私は今まだこうしてこの勉強を続けている。間違つて間違つて間違いつづけてきた自分が田池留吉と出会っている。

「自分の苦しい心を吐き出し、そして、それを自分で包んでいくんだ、そういうふうには理解されていると思つていますが、そのあなた自身というのは、いったい何でしょうか。」

十年経つてやっとこの意味がわかる気がします。包んでいくのは肉の自分じゃない。たったそれだけ

のことがわからなかつた自分でした。

二五〇年後に向けた瞑想で今日初めてアメリカ、
ニュージャージー、ハドソン川が出てきました。

素直にうれしかったです。残された時間、肉の母
と娘、夫、息子みんなで心を見ていきたいです。こ
の学びに集えてよかつた。

田池留吉ありがとうございます。田池先生、あり
がとう。

212

***さん、苦しいあなたを、どんどん見ていっ
てください。

私は、***でございます。私のエネルギーは
すさまじいです。でも私は、そのエネルギーをまだ
まだ少ししか見ていません。自分のエネルギーをまだ
し込むエネルギーのほうが強いと思います。心を押
し隠してきました。心を押し殺してきました。自分

を殺してきた、そんな私を感じ、今、とても、辛い
というか、悲しいというか、そういうふうな思いを
感じています。

苦しい私を見捨て、見限ってきた私は、今世、生
まれてきて、その私の思いと出会うために、今、こ
こにあることを感じています。感じているけれども、
私の中は……。

私は強情つひだと思えます。私の中は、そういう思い
でいっぱいなのに、私は、まだこの肉をしっかりと
携たずさえています。

***さん、あなたは、ご主人に対して、どの
ような心を使ってこられましたか。

異語。

主人は、表向きには立派な人として通ってきました。
でも家の中では……、本当に私達に対して、ワ
ンマンというか、私達は、苦しい思いを広げてしま
した。

ああでも、それは私自身、自分を知らなかったからです。主人のエネルギーはすごい、私は、ずっとそのように思ってきました。でも、それは、私自身だったのです。私は、それをなかなか認めることができなかったし、今もまだまだ認めることが出来かねますが、確かに私です。

主人に従うことしか私はできなかったです。心の中では色々な思いを抱えてきたけれど、一応、形は主人に従っていくことしか、私はできなかったその苦しさを、私は、どうしても表に出すことができません。

主人には主人の考えや思いがある、だけど私にだって私の考えや思いがある、それを私は、しっかりとはっきりと出してこなかった。それなのに、私は、ぐずぐずぐずぐず、下らない思いを抱え持っていたのだなあ、今思えます。主人に私をもっとぶつけていけばよかった。思いは流れているのだから、もっと素直にぶつけていけばよかった、今、そのように思えます。

異語。

***さん、あなたが自分の思いを語る時、私に響いてくるのは、自分を自分で抑えるというか、抑圧する波動です。自分を自分で抑えているエネルギーを感じます。だから、あなたは、まだまだ自分を語っていないというか、語れないというか、そんな思いを感じます。

なぜなのでしょう。もっと、素直にそして気楽に自分の思いを出してみる、そういうふうにながけて、瞑想をしていってください。

あなたも異語で語っていますか。自分と自分の中で、異語で語っていますか。何かあなたの中が詰まっているような気がしてなりません。

異語で、どんどん自分の思いを出してみてください。心の蓋を開けるのは自分自身、そのことをあなたにも、私はお伝えしたいと思います。

今も私の心の中は十年前とほとんど変わっていない状態だと思えます。あの時出された意識は今もすっかり心に大きな越えがたい壁として存在しています。長い長い間苦しさ、寂しさ、辛さのすべてを心の奥底に押し込んで、表面を取り繕ってきました。自分の思いはしまい込む、押し殺す、私は常にとても簡単にやっています。何より肉の自分、肉の形が崩れることを恐れて、自分の思いはしまい込むしかなかったです。この苦しい思いに正面から出会い、気付いてゆくための今世をいただいたはずでした。

素直に、気楽に自分の思いを出したらいいだけなのに、それができない、形にとらわれる自分の愚かさが情けないです。とにかくもっともっと自分と語ってゆきます。この肉ある間に、少しでも心を開放してゆきます。ありがとうございました。

***さん、心を見えていますか。

私は、***です。寂しい心を抱えてきた私にとって、アマテラスは、私の心を癒す大きな、大きなものでした。私は、アマテラスに心を捧げてきました。アマテラスは、とても大きな、大きな、私の守り神でございました。私の心は、アマテラスに吸い寄せられるように、そう何度も転生を重ねるごとに、アマテラスを求めてまいりました。アマテラスの心を心として生きてきた者でございます。

***さん、あなたも今世、この学びに繋がりました。そして、あなたの周りには、苦しみ喘いでいる意識達があります。どうぞ、その人達と本気になって、自分を見つめていってください。

親子になったのも、夫婦になったのも、決して、偶然ではありません。あなたの中のアマテラスの心

を、今世こそは見てみよう、そうやって、自分で決意されたから、今の環境があります。どうぞ、自分の心から目を逸らさずに、アマテラスの心をもっとしっかりと見ていってください。

アマテラスはあなたにとって、大きな守り神だとおっしゃいましたが、どうでしょうか。アマテラスの心をもっと自分の心で感じていってください。アマテラスは冷たく、暗い、寂しい、そんな中に生き続けているあなたの心そのものでございます。どうぞ、ともに、心をお母さんに、本当の自分に向けてるように、日々心がけていってください。

「心を見えていますか」と聞かれ、
「はい、見えています」と答えられます。

今、ようやく、心を見ることをし始めています、という状態だと思えます。



アマテラスの心、と言われても、正直、ピン！と自分の中に響いてきません。

ただ、寂しい心を抱えてきた私。

アマテラスは私の心を癒す、捧げる、私の守り神、吸い寄せられる、というのは日々の勉強の中で、そうだ、そうだった、そうだった、と振り返る時間を持っています。

約一年半前からパートで働き、使っている心を見ていく中で、田池先生に二十年以上前、こういう反省をしていきなさい、と言われ、なかなか進まなかったのが進んできているように思います。

それがアマテラスの反省に繋がっていきように思います。

アマテラスの心をもっと自分の心で感じて、抱きしめていきます。

このメッセージをもらった十年前

は大宝で、これを読み、プリントして、ポロポロになつても持つていた記憶があります。

その頃も私なりに、真剣に学びと向き合っていました。が、メッセージの内容を心では、あまり理解できていなかったと思います。

あの頃の自分のことも思い出していきたいと思えます。

また、いちから、このメッセージと向かい合う時間を持つていきます。

UTAブックさん、この機会を作ってください、本当にありがとうございます。

214

***さん、他力の思いとは、どのような思いか、あなたには分かりますでしょうか。

私は、***でございます。他力の思いですか。いいえ、私は、まだ自分の使ってきた心をしっかりと見ていません。お母さんに対する思いもしっかりと見ていない。

他力の思いとはどういう思いなのかと、私に訊ねられますか。

他力とは何だろうか。他人に継すがる思いですか。何かに頼るとか、何かを求めるとか、自分以外の何かにそういう思いを求めていく、そういうことかなあと、今、思っています。

***さん、他力の思い、そうあなたの中にはその思いが、ぎっしりと詰まっています。あなたが自分をどのようにとらえているか、目に見えている、あなたの目の前に広がっている世界をどのようにとらえているか、その思いを、お母さんの反省をしながら、自分の中で確認してってください。

あなたは他人に継るとか、何かを求めるとか、自分以外の何かを頼るとか、そういうふうには答えたい

れども、そうです、心を外に向けること、それが他
力に繋がることでございます。

幸せにしてくれとか、幸せになりたいとか、喜び
や嬉しさを、何かに求めるとか、そういうふうな思
いを見ていただく。その思いの底は、どんな
思いでしょうか。人を求め、物を求めるその思いの
底にある思いはどのような思いでしょうか。なぜそ
ういうものがなければ、幸せを感じられないのか、
喜びを感じられないのか、そういうところから、あ
なたご自身の心を見てみてください。自分の心を見
る、自分の出している思いを見つめる、そういう
ことをしていかなければ、この学びについては、何
も理解できません。ここは、あなたの運勢を占うと
ころでもないし、あなたの生きていく方向を教える
ところでもございません。ただあなたは、あなたの
心を見て、あなたの中にすべてがあったことを心で
感じる、そういうところでございます。

今、向き合い感じたこと

十年の時を経て、いただいたメッセージに改めて
思いを向ける機会をいただきました。ありがとうございます。
ございます。

学び始めて二年目という時、どうしても頭で理解
しようと必死になっておりました。けれど、思い返
しても甘い甘い自分を感じています。他力がぎっし
り詰まっていると伝えられました。今の私にはまだ
分からないと甘くとらえていました。それよりも、
「ここはあなたの運勢を占うところでもない……」
と、はっきり伝えられたことに言葉を失い、心に蓋
をしてしまったように思います。ショックだったの
です。その言葉だけが、クローズアップされて、他
の言葉も思いも入ってこないというのが事実です。
今回改めて、メッセージを読み、その文章をキー
で打ち込んでいくうちに、自分の過ちをひしひしと
感じています。他力の思いが肉で生きる私のすべて
でした。真実に心に向けられなかったことが他力で
した。こうですよと伝えられても、都合の良いこと

るだけを探り入れる。否定されるのは嫌。そこですべてがストップしていました。すべて欲でした。欲一杯で、答えを求めました。

これが母親に使ってきた思いのすべてです。

求める心の中は何なのか。寂しい心でした。寂しさを満たしてくれるものを求めました。それは際限のない世界でした。ゆえに、思うとおりにならなければ許せなかつたのです。そんな自分をどうすることもできずに、形は一生懸命学ぼうとしました。教えてください、助けてください、認めてくださいという思いが、しつかり根底にありました。母親に使ってきた思いだけで、この肉を生かそうとしてきました。

肉で生きること、それが苦しみの根源とも知らずに。「あなたの中にすべてがある……」その思いのやさしさ、自分が間違えてきたこと、言葉にならない思いがこみ上げてきます。

十年前の私は、素直さも欠^かけ、欲しかありませんでした。今はどうだろうかと、また、自分を思います。

ああ、よかった。嬉しいです。こうして、十年を経て、間違い続けてきた自分を感じ、さあ、ともに学んでいこうと思います。

その自分が、あの時申し込み、メッセージをいただきました。

こうして学んでいきなさいというメッセージ、大切にしていきます。ありがとうございました。



ポンペイ遺跡（イタリア）
ベスビオ火山が二上山のようで、また、いまだに焦げた臭いに天変地異を思いました。

***さん、心を聞かせてください。

***でございます。苦しい中を私も生き続けてきました。己偉い私でした。どれだけ、どれだけこのエネルギーを流してきたことか、本当に申し訳ございません。田池留吉に対して、私は半端ではないエネルギーを流し続けてきました。本当の私を足蹴あしげにしてきた、それが、今、心に響いてまいります。瞑想を重ねていきます。お母さん、私は間違っ
てまいりました。

***さん、あなたも学びの年月は長いです。どうぞ、あなたが語られたように、瞑想を続けていってください。さあ、田池留吉に思いを向けてみましょう。

異語。

田池留吉、心の中の温もり、心の中の安らぎ、私

もきつと、きつと、この心の中に、思い出していきます。これからの時間を経て、心の中に、本当の安らぎと温もりがあったことを、しっかりと感じていきたい、今、そのように思います。

厳しい転生が待っています。でも、私も、二五〇年後に心を繋いでいこう、いきたい、そのように、今、私の中から思いが出てきます。

お母さん、申し訳ございません。できる限り瞑想を続けてまいります。心を見てまいります。

本当に本当に己が偉い私です。偉くてどうしようもなく聳そびえ立っています。自分でも呆あきれるほど妬ねたんで僻ひがんで恨うらんで呪のろって、これでもか、と自分を苦しめてきた。戦ってきた。戦う相手などいないのに一人で自分と戦い続けてきた。どれだけ戦っても気が済まず、自分を叩きのめし続けてきた、地獄に突き落としてきた。これでもかと言うくらいに奥底に突き落としてきたのに、瞑想をすれば出てきます。帰りたい帰りたいと出てきてくれる、すごいと思いま

す。共に帰ろう帰ろうと思います。帰りますお母さんの温もりの中へと心に感じられることが嬉しいです。今世生まれてくれたから感じられることです。お母さんに生んでもらったから、どうしようもなく愚かでくそつたれの私の全てをお母さんが受け入れてくれたから、私は肉を持つことができたんです。お母さん、ありがとうございます。今世生まれてくることができて嬉しい、沢山の私と共にあることが嬉しい。そして共に帰ろうと思えることが嬉しい。田池留吉ありがとうございます、本当の自分にありがとうです。



216

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***でございます。お母さんに使ってきた心を見ていくと、私は底なしに苦しいことが分かります。私の中は底なしに苦しい。お母さんをごれだけないがしろにしてきたか、お母さんを見下してきた私を感じます。

お母さんを思う瞑想がなかなかです。私は、心の中に母を思い浮かべる時、自分のすさまじいエネルギーで、自分が狂いそうになります。これすべて私でした。私の世界でした。

母を思う瞑想が続けていると、私の中のすさまじさを、もろに感じます。狂ってきた私をもろに感じます。それでも、私は、このように肉体を、今世もいただいたのですね。

しかし、このことを、自分の中でしっかりと知っていくためには、私には、まだまだ時間が必要だと

思います。

私は、素直になって喜べない。なぜ私を生んだのか、なぜ、私は、肉体をこのように今持っているのか、まだまだ素直に喜べない私があります。

どこまでも、どこまでも、苦しい、苦しい中を生き続けてきた私を、受け入れられない私があります。暗い、暗い、どん底の中で、苦しみ喘ぎ^{あえ}続けてきた私の世界です。

それでも、今、ようやく、このように、少し語りせていただいています。何度転生を繰り返しても、苦しみの底にあった私は、今少し心を開いて、自分の苦しさを語りさせていただけること、それが幸せでございます。

異語。

***さん、どうぞ、苦しい中でも、お母さんに向けて瞑想を続けていってください。苦しい中でも、ただただ母を思う瞑想を続けていってください。

それしか自分自身を明るい方向へ向ける手立てはないことを知ってください。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、心から田池留吉を呼べない私が、ずっと、ずっと、私の中にありました。心を素直に田池留吉に向けることが、私はできなかつたです。田池留吉、今、心に少し素直さを取り戻していけそうな気がします。

素直に田池留吉と呼ぶ時に、私の中は、苦しい、苦しい、苦しい、だけど私の中は、それを求めていることもまた感じます。

この課題をもらってははじめは、こんなだったかと、今の自分ももっと進んでいるような感覚で、苦しい自分を、少し嫌うような感じの思いが出た。そ

れから、半月過ぎて、私は、また苦しくなってきた。コロナのおかげで、セミナーがないので、自分の学びが浮き彫りになる。そろそろ、今までのセミナーで蓄えた^{たくわ}パワーが減り、きちんと、正しい瞑想をしない限り、苦しみは失^うせることはない。肉の感覚では、十年前程ではないが……やはり心の中が、苦しい。

私はこの苦しい自分を引っ提げて生まれてきて、必死でセミナーに集い、なんとかかようやく、肉の人生を続けることができた。そう、相当に苦しかった。私は相当に苦しかった。セミナーに集い続けなければ、息もできないほど苦しかった。十年経^たち、ようやく肉の自分は、息ができるようになってきた、その程度のことだった。セミナーでなんとかこのエネルギーを出し、ようやく息をし、肉を動かしてきた。自分のエネルギーが変わったところまではいけていないと思う。気づけば、すぐにほころびだらけ。中のエネルギーは、おそろく、そのまま……。

ただし、地獄の底の底で、這^はいずり回っていた私に、思いを向ければ、うれしい。思いを向けてもらえる事が、うれしい。セミナーは、瞑想は、その繰り返えし。お母さんのぬくもりに向け、タイケトメキチに向けると、ようやく感じてくる、おびただしい自分の苦しみに、ただ素直に心を向ける。だから私は生まれてきました。私は、本当の自分に出会いたかった。十年前と少し違うのは、底の底の底の本当の自分は、本当はぬくもりだと、信じている？ 嫌わずに、自分と出会ってはいかが、待っている自分と出会ってはいかが、思っている？

やっていこう、この道、人生の目的……。本当にこれからです。やっていきます。タイケ先生、やっていきます。十年経って、やっと、「いききたいです」から、「いきます」ということができる。この課題に感謝です。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。心の苦しさを、私は本当に私の中で感じているのだろうか、そんなことを思っています。

心を見ていない、一言で言えば、そうだと思いません。苦しい、苦しいって私は、自分では言っているけれど、自分の本当の苦しさを感じているのだろうか、そう自分に問うた時、私は、表面的な、つまり肉的な苦しきで、私は苦しい、苦しいって言うだけだと、今思っています。

心の苦しき、私の本当の苦しきは、こんなところではなかった、そういうふうに、今感じます。

心を見る、自分の心を掘り下げて見る、その難しさを、しみじみ感じます。

異語。

****さん、あなたは、あなたの生活の中で、焦らずに、じっくりと自分と向き合っていけばいいんです。まだまだ年齢的には若いし、家族もあり、色々なことがあると思います。この学びだけに集中しようと思っても、肉的には難しいかもしれません。人それぞれに学びをしていく道筋みちすじがあります。どうぞ、焦らずに、今のあなたの現実から目を逸そらさずに、しっかりと、まず肉の生活をして、自分のできるところから、心を見ていってください。

素直になってみてください。日々のほんのひと時でいいんです。本当に素直になって、お母さんとう呼べるあなたがあればいいんです。そして、また、日々の生活の中で、自分と向き合いながらやっつくことをおさなりにしなければいいと思います。

あなたには、何か一足飛いっしょくどびに行こうとしている思いがありませんか。

あなたの今の現実を通して、焦らずに一歩ずつ、たゆまずに、自分の本来の道を歩いていくこと、そ

れをしていってください。

あなたの奥さんも学ばれています。どうぞ、互いに互いの心を素直になって、さらけ出してください。怒りや苛^{いらだ}立ちやその他の肉色の色々な思いを感じながら、しかし、それらの思いに惑^{まど}わされずに、しっかりと自分達が本当にしていることとする思いを、互いに語り合ってください。

道を求めてきたはずです。真実への道を、あなた方お二人も、求めてきたはずです。今はまだ、互いに、しっかりとそれが分からないから、肉的な表面的な思いに苦しいだの、何だのと言っているだけです。

どうぞ、学びに対する真摯^{しんし}な思いだけは持ち続けてください。日々の生活を楽しみながら、しかし、基本は学びにある、その思いがあれば、互いに刺激し合いながら、いい学びの仲間になっていくと思います。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

***でございます。はい、私も欲しいばいで学びをしていこうと思ってきました。そうではなかったことを、今、感じています。一歩ずつ、たゆまずに、焦らずにやっています。自分の歩いていく道筋を、しっかりと、私も見極^{みきわ}めたいと思います。苦しい肉の時間の中で、苦しい私と出会い、そして、妻とともに道を歩いていきます。申し訳^{わけ}ございません。田池留吉、お母さん、まだまだ私達には、時間が必要だということを感^{かん}じさせていただきました。よかったです、ありがとうございます。

十年前というのを聞いて、受けていただいたのもっと前のことのように記憶していたので不思議な感じがありました。

課題をいただいてから読み直し、反省の途中で、「お母さん」と三回呼んでみたら、ノートに書く内容とは別に「ごめんなさい」というか「ありがと

う」という思いになり気持ちがよく、何かさわやかな感じがしました。その通りにやれば変わることをやってなかった。時効になっていました。もったいなくなりました。

今日（五月三十日）久しぶりに妻と二人で水の実験をやりました。とても楽しく素直に嬉しかった。いつもは相撲の仕切りのように息が合わないことが多いのに、「やろう」、「やろうやろう」となり実際にやって嬉しかった。

職場では周りに「ばかったれ、くそったれ、おまえらとは違う」と思っているので人間関係もうまくいかず、自分の周りから人がいなくなつて、いつの間にか独りぼっち、という感じですが、もうすぐ五六歳になりますが、相変わらずという意味では若いと思います。体が休めるのに時間がかかるようになってきており、焦りを感じます。



伊勢志摩ロイヤルホテルからの眺望

一年ぐらい前に、その職場で、立場の下の人からその周りの人たちと一緒に仕事上のことでバカにされたとき、怒りというか、興奮と身の置き場のなさに頭の中が真っ白になり、怒鳴ることもできず、どうしようもなくなつて、「ここで」と思い「田池留吉に思いを向けて反転」とやりました。怒りは消えて一度思いが空っぽになつた感じで、それから嬉しくなつてその馬鹿にしてくれた方に「ありがとう」という思いまで出しました。嬉しい体験でした。

今の「心の苦しさ、私の本当の苦しさ」とは、間違っていたと思えないことです。間違つたことを、「こうしてみたら」と人に伝えたことが自分の心の動きとして思い出せない。

自分が心に向けて心売った宇宙のパワーを温もりの中で思い出せないから、そこにどどまっていることができる。宇宙のパワーを求めたことも思い出せない。一足飛びに行

こうとしている。

「本当の苦しさ」とは間違ったことを、感じてもないのに、こうした方がいいよと言って、人にすすめたことです。こういうときに自分が使った思いが想像ではなく、見れば何か変わると思うのですが。「これはブツダが言ったことで本当のことらしいから伝えます。形でわかることだから伝えます。ただ、私を感じて言っていることではないから責任は持ちません。」

伝えた人から「いや、伝えてもらった通りやった心がどうかではなく、うまくいってからです、あなたもどうぞ。やってみてください」と言われて、「馬鹿野郎、私が始めたことでウソなのは、私が一番知ってるんだよ。まだそんなことやってるのか。私が伝えたことがばれて恥ずかしいから寄り付くんじゃないよ。あっち行け。」

大学に入學した年に創価学会に勧誘されて三週間夕方お経きょうを唱となえて、毎日読経が終わってから最後に一つ願ねがい事をする。願ねがう先はブツダとかの人ではな

いはず。

あなたは本当かも知れないけども、そこまでいくにも自分でいきたいのです。

感じるころまではやるつもりはないよ。そこまでやる気はない。何故なら守ってもらえなくなるから。狂うと自分がなくなるから。

藤本憲幸のヨガの本も読んだけど、ヨガは形を合わせるだけだから。形を合わせれば目的とするころに形が変わるといっただけだから、感じることに責任を持たなくてもいい。肉的な変化という結果だけ現れればいい。どこに意識を向けたかは考えなくてよい。

本当のことは母親の温もりがないとわからないと思います。

田池留吉、お母さん、待っている私の闇たち、申し訳ありません。意識を受けていただいても、ちゃんと聞いていない、いい加減に聞いている。傲慢ごうまんでした。喜んで妻とともに反省と瞑想をする時間をしっかり取ることからやっていきます。ありがとう

ございます。

今回この課題をいただいて、今の思いを書けました。自分の思いを書いてこうしてメールで送れることが嬉しいです。ありがとうございます。

218

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。己が一番、一番、一番、一番、私の心を見てきませんでした。自分の心の苦しさを、周りの人達にぶつけてきました。なぜ心が苦しいのか、自分自身何を間違ってきたのか、己の偉い私は、とても、とても高いところから、周りを見下ろしてきました。だから、自分の心の苦しさを、自分の心の間違いも、自分自身の存在の間違ったというものも、私は、心に感じておりません。

本当に私自身、どれだけそびえ立っているか、己

一番の自分を誇っているか、そういうところを、まだまだ全く自覚していないのと同じです。

己の偉いところから、自分の心を見てみよう、この学びを……という思いになっても、高くそびえ立った牙城がじょうを崩していくことは、並大抵なみたいていではありません。とても甘いと思います。自分を語らせていただき、私は、これを果たして、私のこれからに繋いでいけるかどうか、甚だ不透明はなはでございます。今、私は、そんな状態です。私の現実を、もっとしっかりと把握はあくしなければならぬ、今、自分を語って、そのように感じています。

さんのお母さんのさん、あなたも心を語ってみてください。

私は、***でございます。そう、私も、確かに学びに出会ってから、長く時間が経過しています。ああでも、私の中は、あの当時そのままでございます。田池留吉……、私の中で、全く何も分かってい

ないことを感じます。ただ、この学びを肉で触れた
……、この学びを肉で知った……、そこから、私は、
何ひとつ自分を進化させていない今、そう感じさせ
ていただいています。

さん、そして、さん、今世この
学びに繋がったあなた方親子でございます。どうぞ、
互いに、なぜ、自分達が今世、肉を持ち、そして、
田池留吉を知り、この学びに繋がったのか、その原
点をそれぞれにもっと、真剣に真摯な思いで見つめ
ていってください。

この学びは実践が第一でございます。どんなに心
が敏感でも、田池留吉の指し示す方向に心を向けな
い限り、全く何も変らないことを知っていってくだ
さい。他力の中に沈んできた自分達の意識の世界を、
もっと真剣に見つめていってください。己偉い心で
は、自分の間違いに心で気付くということは、不可
能でございます。

おふたりとも、セミナー参加はどうでしょうか。

特に、最近数年の間、セミナー会場に、足を運ばれ
ましたでしょうか。学びは、ホームページでご紹介
している通り、進化しています。ですが、あなた方
の意識の世界は、旧態依然のままです。私は、その
ようにお伝えしたいと思います。

十年前に言っていたことが今まさしくそうだなと
思います。

そびえたった、己高い私でした。肉主体で、意識
の入り口にも入っていませんでした。それでも心が
敏感で、不安という形で学びを手放せませんでした。

己高い私は自分に自信が無かったから、立派に見
せたい、飾る心、それが無い時は恐怖でした。慢心
と恐怖の狭間を彷徨っていました。言葉にすればこ
んな感じですが。でも敏感で恐怖に心が向いた時の苦
しさはものすごいもので、母の温もりをしつかり思
えないと自分が潰れてしまうと思います。

この学びに出会えて本当に嬉しかったです。まだ
まだ己高く、肉主体の私ですが残された時間、許さ

れた環境で心に思いを向けていきたいです。



219

***さん、あなたの心を語ってみてください。

田池留吉、お母さん、お母さんのほうに心を向けると、私の間違ってきた思いが、そっくりそのまま私に返ってきます。

お母さんの姿は、私の心の表れでございました。母と肉の母と生活をしていくこと、これは私が望んできたことだったのに、私は、その中で苦しい思い

を広げてきました。どうしても受け入れられない心がありました。ああでも、今、母に思いを向ける時、私は間違っていたんだなあ、私は、今ここにこうやってあることが幸せだった、それだけが幸せだった、その中で自分の苦しい心、自分のすごいエネルギー、それを感じさせてもらうために、今私は、ここにこうして肉体を持たせているんだ、母に思いを向けると、そのような、素直な思いが響いてきます。

本当に、形の世界で自分を見ていると、苦しい思いは、よりいっそう苦しく、嬉しい思いも、やがては苦しみに変わっていくことを感じます。

私は、この学びを、やはり頭でやってきたことを感じています。心に響いてくることはたくさんあるけれど、でも、その一步を踏み出せないのは、頭、すなわち、肉で理解しようとしてきたからです。心の中に素直に語る自分を今、感じる時、この今語っている自分をもっと、もっと、信じていこう、そのように思います。

262

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、くそつたれの思いが響いてくるけれど、このくそつたれが、私の中を、もっと、もっと、見てください、見てくれと叫んでいるような気がします。くそつたれをくそつたれの私でよかつたんですね。くそつたれを高く、高く積んできた私にとって、くそつたれが、本当に愛しいと感じることができると、ただただ、心を見てまいります。自分のエネルギーをしっかりと感じていきます。喜びの思いで、自分のエネルギーを見つめてまいります。お母さん、ありがとうございます。お母さん、本当にありがとうございます。

この私の意識を出していただいてから一年ほど後、母は肉の世界を去りました。あつという間の出来事でした。

母は亡くなる年、「もう私は十分に生きたから」と言うようになりました。

いつまでも母との生活が続くとは思っていません

でしたが、それは突然で、あまりにも母が日々口にしていたように肉を終えたので、改めて「すべて自分で決めてきたこと」という田池先生の言葉を、ずいぶん日が経つてからですが、自分の中で再度確認しました。

私は母と十一年ともにセミナーに参加し、日々の生活の中ではお互いの闇が競い合い大きな衝突もありました。

「ここは私の家だから出ていけ」と言われたこともあります。何も学んでいない頃の私であれば「こんな家出て行ってやる」と捨て台詞を残して同居を解消していたでしょう。でも、私は家を出ることもなくそのまま、何事もなかったかのように日々を暮らしました。

母が亡くなってから、母が日々のことを書いていた手帳にその日の母の思いがありました。「売り言葉に買い言葉で出て行けと言ってしまった。出て行きそうにもないが一人になりたい。その結果がどう

なろうと自業自得だから悔いはない」これを読んだとき、「ああ、本当に申し訳なかった」と懺悔の思いでいっぱいでした。母は当時自分の老いを自覚していて、一人で生活するのに不安があったのに、そんなことを言わせてしまった私の闇の深さに改めて気づきました。

「あなたとこんなに長く一緒に暮らすとは思わなかった」。母が時々口にしました。私はそれをいつでもも独身の私への嫌味ととるでもなく、またその意味を深く考えもせずに聞き流していました。

でも、その母の言葉が重く私の中へ響いてきたのは母が肉の世界を去った後です。

母を思う瞑想をするとき、母の言った言葉が浮かび私の中から母へ向けてのマイナスのエネルギーが吐き気を伴って出てきて、身の置き場もない後悔？懺悔？反省が始まりました。

私は過去、現在何度も母を捨てました。切り捨てました。「お前など私の母親にふさわしくない!!」

等々、母のぬくもりなど蹴散らして生きてきた結果、過去の末路はいつも悲惨でした。長生きというのをしたことがなかったという思いも出てきました。

今、私はここで出していただいた「私が望んでいた母との暮らし」という思いに、「はい、私の思いでした。」と答えます。

肉の日々の生活でお互いにマイナスのエネルギーがぶつかって、「出ていけ」と言われても今世の私は母を捨てなかった、捨てようとして何度か家を離れたけれど母のもとに戻り、母と暮らせたことが嬉しく、私にとって何にも代えがたい生き方でした。

この私の思いは肉の母が傍にいてくれたときのものです。この後一年ほどで母は亡くなりました。

そしてこの十年、自己供養と母親の反省の中で私はすさまじい自分のマイナスのエネルギーを感じ、受け入れ、少しでも「私は意識」ということを信じ、信じていこうという思いを広げたいと学んでいます。

今、田池留吉に思いを向けると「ありがとう」の思いであふれます。田池留吉の肉を散々馬鹿にして

下に見て、肉では傍に寄せませんでした。「くそつたれ、皆殺しだ」の思いを供養しながら、素直に田池留吉を呼んで、お母さんを呼んでアルバートに会える二五〇年後に繋げたいです。

来世の私は、何も持たず「母のぬくもり」だけが道しるべ、「お母さん」を呼び、求め続ける肉だと私の中から伝わってきます。

220

***さん、あなたは、ご自分のエネルギーを感じられて、どうでしょうか。

私は、***です。破壊、破滅のエネルギーを蓄えてきた心を感じます。自分のエネルギーを感じ、私は、本当にすごい中を生まれてきたんだなあとお思っています。お母さん、裏返して言えば、私は、お母さんをそれだけ求めてきたんだなあとも、感じ

ます。

すさまじいエネルギーも、お母さんを求める思いが強いからこそ、今ここにこうして、素直に出せる機会がありました。

間違ってきた私の中、他力のパワーをたくさん、たくさん蓄えて、そして、今、ここに私は、肉体を持たせていただいています。学びに繋がらなければ、私自身、とっくの昔に破滅でした。素晴らしい自分をどんどん表していこうとするエネルギーは、とても大きく大きなものでした。ああ、それが全部間違いだらけの自分でした。何もなくても幸せ、本当に何もなくても幸せだった、私自身が幸せだった、そんな私を、これからの私の転生の中で、きっと、きっと、心に感じていきます。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません、すごいエネルギーを蓄えてきたことを、心から感じさせ

ていただきました。私にとって、こういう学びの機会を与えられたことが、とても幸せです。自分を感じていきます。自分の中のエネルギーを感じていきます。もっと素直にお母さんと呼べるまで、自分を感^かじてまいります。

息子の発した一言で、私の中から怒りのエネルギーがドバババーつと噴き上がってきました。

無言でキッチンから出て、右手に持っていた猫用の茶碗を土間に叩きつけました。

茶碗は木^こっ端^はみじんに砕け、茶碗の中に残っていたマグロのフレークが壁に飛び散^ちりました。

「ああ、なんとということ……。二十数年学んできて、まだこんなお粗末な有様。いまだに自分の中から出てくるマイナスのエネルギーを、ただ垂^たれ流^たしてただけなのか！」

十年前と一ミリも変わっていない自



分に遭遇^{そうぐう}して愕然^{がくぜん}としました。

マグロのフレークがすごい匂いを放^{はな}っています。

反転する事も思いつかず、暗い心でそれを拭^ふいていると、無様で情けないこの惨状が、だんだん可笑しくなってきました。

「ああ、これが私。私のエネルギーなんだ。こんなにわかりやすく形に見せてくれてありがとう。毒舌息子、おればこそ！この肉、あればこそ！」

怒りは消えて、穏やかに晴れ晴れと、嬉しい思いだけが心に広がっていきます。

肉ある限り、私の中からマイナスのエネルギーは飛び出してくるけど、それを喜びに帰していける私でした。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。この学びに繋がったことを、私は嬉しく思っています。ああでも、正直申しまして、私には、なかなか難しい感じがしています。母の反省にしても、他力の反省にしても、私自身、やってきたつもりですが、私の中でもうひとつ、ピンとこない思いも出てきます。

それは、やはり、私は頭でやっているからなのでしょうか。それとも、中にもまだまだ、何かがあって、それが私に促しうながをしてくれているのでしょうか。そんな私の今でございませう。

真実というか、人間の本来に生きる道を、私は、探し続けてきたと自分自身思っています。だから、私の中には、他力のエネルギーがいっぱい詰まなみっていると、並大抵なみたいていではない。

今、私は、自分を語る時、そのように感じます。強固な壁を私の中で作ってきた、そういう固い、固い、自分の世界を、今、感じています。

****さん、そうですね。あなたの中には、ひとつの何か堅固な壁というか、他力の道を歩いてこられたあなた自身が作ってきた世界があります。その世界は、過去からずっと、あなたが作り上げてきたものです。だから、あなた自身が崩していくことができるし、また、あなたが崩していかなければ、崩れるものではありません。その難しさというか、そういうものはあります。並大抵のことではできません。

ですが、どうぞ、焦あせらずに、そして、田池留吉が伝えてくれたこの学びを信じて、一歩ずつやっていってください。

あなたには、大きな欲があります。欲というのは、あなた自身が何かを求めてきたその心を言います。あなたは人間の本来に生きる道を探し続けてきたと

語られました。が、真実の世界からすれば、それは全くの欲でございませぬ。そのところが、あなた自身、まだお分かりになっていない、そのように感じます。ただただ、お母さんに生んでいただいたあなたを思ってください。

素晴らしいあなたがあなたを導くのではないのです。愚かでもつしよもなかつたあなただからこそ、この学びに繋がり、そして、真実の方向へ心を開けることができるのです。素晴らしい自分が……という思いを見ていってください。この学びは、すごい学びですけど、母の温もり、母の優しさ、本当に地獄の奥底で苦しみ喘いでいた自分を、そこから救い出そうとする本当の優しさが、心から湧いて出てこなければ、難しいと感じるでしょう。素晴らしいあなたを引き出してくれる学びではございませぬ。どん底のあなた自身を感じていく学びでございませぬ。どうぞ、そのところを、お間違えのないようにしてってください。

***さん、田池留吉に心を開けてみてください。

異語。

田池留吉、私は、田池留吉の上を行く者である。お前などに私の心の気高さは分かるまい。そうやって、お前を見下してきた。ああ、この心がとても苦しい。母に歯向かってきた心でございませぬ。あんな母親から生まれてきた私……、過去からずっとその思いがありました。今世の私は、そうではないと、肉では思っていますが、私の心の中は、母を見下し、母をないがしろにしてきた思いがたくさん、たくさん、詰まっています。

この心を、自分自身を見てまいります。

異語。

この十年間を振り返って、ほとんど変わっていない自分がいます。

グソ田池、殺してやるも出てこない。グソばあ
消え失せろ”も出てきていない。

他力の反省、母親の反省が全く出来ていないこと
を、思い知りました。

瞑想をすれば、心が平穩へいおんになり嬉しい気持ちが多
湧いてきますが、目を開けてしばらくすると又もと
の肉に戻ってしまいます。

どこまでも己が偉く、聳そびえ立つ自分が出てきて、
うんざりすることも多いです。

肉の心はまだまだしつかりと堅固な壁に囲まれて
しつかりとガードされています。

悪臭あくしゅう漂ただようどす黒い闇にまみれている自分だと早
くから教えていただきながら、真剣にやっつてこなか
つた。

だらだらと楽な肉の生活に流され、もう一つ本気
で取り組めていなかった。

不思議なことに、今こうして愚かな、どうしよう
もない自分を見ていると、嬉しさがこみあげてきて、
瞑想したいという気持ちがあざん湧いてきました。

今となつてはかなり手遅れの感もありますが、残
りの人生、出来るところまでただ一途にやるしか
ない、という思いです。

222

***さん、あなたはご自分の波動を心で感じ
てこられましたでしょうか。

***です。はい、私も、自分のエネルギーを
自分の心で感じることをしてきたつもりです。

己偉い心、自分を誇る思い、そして、周りを見下
す思い、周りを見下しながら導いていこうとする思
い、すべて教祖の思い、その波動を感じてきたつも
りです。ああでもまだまだです、私の中には、まだ
まだまだその思いが詰まっています。この肉の時間
をすべて費ついやしても、私の中は、まだまだという感
じがします。それでも、私はやっていきます。私も、

お母さんに生んでいただきありがとうございます、その思いを心に感じています。その思いだけを信じて、私もやっていきたいと思っています。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、ああお前を、私は見下してきた。どれだけの思いで、お前を見下してきたか……、そびえ立っている自分を心で感じています。

申し訳ございません。こんな心でずっと、ずっと、自分を誇ってきた。下らない私を誇ってきた、今、そのことを感じ、とても、とても、申し訳ないと思っています。自分に対して申し訳ない、お母さ



んに申し訳ない思いでいっぱいでございます。お母さんの心を心で感じてまいります。

ああ、私は間違ってきました。田池留吉、どれだけ、どれだけ私は許されてきたことか。肉の時間をできる限り使って、私は、自分を見つめてまいります。お母さん、ごめんなさい、ありがとうございます。

UTAブックさん、ありがとうございます。

十年前の私の意識、私はその時とても嬉しかったです。

そして今回も読み直し、当時と同じように嬉しく思いました。

十年経って私は前を向き一歩ずつ学びを進められている気がします。

帰る場所がわからなかった私でしたが、今、母なる宇宙に帰ればいいんだと教えてもらい安堵あんどしました。

母なる宇宙、次元移行、永遠

に続く道を歩み続けていきます。

今世、田池留吉に出会うために生まれてきた。そして二五〇年後、アルバートに出会うために肉を持つ私を感じます。

それは喜びです。

気力・体力の衰えおとろを痛感するこの頃ですが、最後の力を振り絞りこの道を歩いていきたいと思いません。

223

***さん、今、あなたのお父さんやお母さんの心を聞かれてどうでしょうか。あなたも、セミナーに参加されてきたようですが、あなた自身、今どのような思いを持っていますか。

はい、私は、父や母の子供として、今ここにあることが、やはり幸せだと思います。私自身、色々な

苦しい心を抱かかえているけれど、それでも、私は、今、幸せです。もちろん、肉の幸せだけど、この中で私自身が、しっかりと心を見なさいと、そのように、父や母から伝えられていることを感じます。

本当の喜びや本当の幸せは、私自身まだ分からないけれど、肉の私として、その中にあることを喜んでいこうと思います。

***さん、これからの人生の時間の中で、どのように生きていくかは、あなたの自由です、あなたが選択していくことです。でも、今、あなたが語られたように、どうぞ、本当の喜びと本当の幸せを感じられるような生き方をなさってください。

肉としてのあなたが、ただ単に、嬉しい、幸せ、喜びと感ずることはどうでしょうか。時がくれば、それはやがて色褪しせてくるのではないのでしょうか。でも、不平や不満や愚痴ぐちを言って、暗い顔をして毎日を送るよりも、あなたのように、喜んで日々の時間を過ごしていけば、あなたのお父さんやお母さん

が、この学びに繋がっておられるから、あなた自身も自然とこちらのほうに心が向いていくでしょう。

間違ってきたあなた自身が、色々な形でこれから、あなたとの出会いを待っていると思います。肉のあなたは、それに脅えずに、驚かずに、どうぞ、自分の中の自分が出会っていつているんだなあと、優しい思いで見つめていつてください。そうやって、自分の中に思いを向けることをしていつてください。

あなたの中には、たくさんあなたが存在しています。

このことをしっかりと心に留め置いて、これから的人生を生きていつてください。

苦しい心を抱えていながら、肉は幸せですと矛盾したことを言つてのける。無知で呑気な冷たい自分を感じます。

家族三人で学びに繋がり、セミナーにも集うことができ、恵まれた環境にあることを喜びながらも、それらを軽く捉えていたと思います。聳え立ちの自

分に気づかず心を閉ざし、セミナーにはいつも救つてください、幸せにしてくださいと、縋る思いで参加してきたように思います。

こんなふうにごを知らなすぎる私に、「これからの人生の在り方」を示してくださいさつていたのに、当時は軽く聞き流してしまっていました。

間違ってきた私が出てきても驚くばかりで、一度も優しい思いで見つめれたことがありません。

最近になってやっと、自分の作つてきたエネルギーの確認ができるようになりました。そのおぞましいエネルギーを感じる度に、認めたくないと責任転嫁する自分が出てきます。そして慌てています。私は何もしてこなかった。だから未だにお母さんのぬくもりがわからない。闇を包んでやれない……。

これまで自分と真向かいになることを避けてきました。自分を崩すのがやるせないというか、悔しいというか。でもここを打破しないことには、いつまでも経つても過去と同じ。私は「本当の喜びと本当の

幸せ」を感じられるような生き方をしたい。いい加減素直になつて、お母さんの反省、ゼロ歳の瞑想をきちんとやっていきます。諦めずに少しでも前を向いていけるように努力していきたいと、思いを新たにしました。

224

***さん、**さん、夫婦となられてよかったですでしょうか。

すさまじいエネルギーを流し続けてきた私達にとって、この関係はとても苦しいものがあります。でも、自分のエネルギーを知るには、絶好のチャンスだと思っています。

他力のドロドロを互いに感じ合う、そんな設定を私達はしてまいりました。肉、肉の中では、本当に互いが互いを労わり合い、互いに愛し合う、そ

うことは、あり得なかったのです。

肉だから、最後は、相手を憎み呪い、そして、ともに不幸せになっていくんだと感じています。

そんな私達の過去を、今世、夫婦となって見てみよう、私達は計画してきたのです。肉の生活の中で、互いが互いのエネルギーを感じ、そして、それぞれに自分の心を見つめる、こんな時間を自分達は用意してきました。

この学びに沿って、自分達の生活をしていけば、いつの日か必ず、本当に幸せな夫婦になれる、私達は、そう信じています。

どちらか一方がいいのでも悪いのでもなく、互いに互いを見ているだけだ、今、そのように感じています。

どうぞ、ともに、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、心の中にすべてを忘れ去って来たように思います。

その心というものを思い出していきます。お母さん
を思う瞑想をして、自分の本当の心を思い出していき
ます。本当は、苦しい私達が私達ではなかった、その
ことを思い出すために今の時間がある、そのように感
じます。田池留吉、真実の自分へと心を向けることを、
私達は自分に約束してきた、今、心に向けることによ
り、そう感じさせていただいています。

この今感じている思いに、素直になっ
てまいります。

◇旦那さんからの原稿

十年、あつという間でした。

意識の変化はないのが実情ですが、
夫婦二人でほぼ毎朝十五分程度の瞑想
と、就寝前にふるさとの歌を私がスマ
ホで演奏し嫁さんが歌っています。



肉的には、昨年激動の一年でした。母親が亡くな
り、その数日前に葬式をして欲しいと頼まれました
が、それを断り、その事で妹と喧嘩になり、結局父
親から母親の死亡を聞いても帰省せずに葬儀に出ま
せんでした。しかし亡くなる三日前の最後にあつた
時に、母親から夫婦二人交互に握手を求められ、何
か歌を歌って欲しいと要望されました。そこでいつ
ものルーティーンのふるさと（歌詞は原曲）を枕元
で歌い別れを告げました。これが最後の会話となり
ました。

肉の母親ですが、消滅してしまうと
自分自身も消滅するような気もする反
面、吹っ切れた感もありました。
今後、意識も、少しでも変わるよう
にしていきます。

◇奥さんからの原稿

絶好のチャンスをいただいていたあつと
いう間の十年。苦しい、苦しい自分の

エネルギーを心を見、感じさせていただきました。

瞬時に飛び出す「くそつたれー」のエネルギー、「死ねー」。支配のエネルギーで相手を牛耳り、思い通りにならない事に腹を立て、相手も自分も地獄の底に突き落とさんとやり続け、自分の愚かさを教えにくれました。まだまだ心の中に出てこれない沢山の思いがあつて、それらが出てくるこれからが楽しみです。お母さんの温もりの中だから、お互いすごいエネルギーを出していることを確認できるんですね。それも嬉しく楽しく喜んで。肉では疲れるけれど、よろしくお願ひしますと心は喜んでいきます。愚かな自分たちの確認。そこから思うは田池留吉を学んでいこう。そして、お母さんのもとに帰っていこう。田池留吉、アルバート、本当の自分に帰る約束。目指すは次元移行。必ず果たしていきましょう。身近な学びの友パートナー、そしてすべてにありがとうございます。今、二人で学べるのがとても嬉しいです。

225

***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

***です。そびえ立ってきた私自身を振り返り、今、本当に自分の愚かさを感じています。母を見下し、見下げ、どうしようもない自分でした。あんな母親から私が生まれてきたこと自体が信じられなかった。どうして、私は、あんな母親から生まれてきたのか、こんなに素晴らしい私なのに、その思いが私のエネルギーとなって、今世、この肉を誇る方向に使ってまいりました。ああでも、私自身、とても心が苦しかったです。苦しみの中を生き続けてきました。

今は、年齢も重ね、自分自身、色々な体験を経て、少し心が軽くなっています。以前と同じ場面と出会い、同じ心を使っているようでも、私の中が軽くなっているように思うから、それをやはり嬉しさで受けていこうとしています。

お母さん、あなたにはすごいエネルギーを流して、本当に申し訳ございませんでした。すべて、私を見なさいと私に言ってくれていました。肉の私は、それが、なかなか素直に受け取れなかったです。

でもこうやって、私を語っている時、あなたの本当に大きな、大きな世界を感じます。肉ではなかったんですね。お母さん、私は、今、ふとそのように感じさせていただいています。私も、これから、二五〇年後の最終時期に^{しようじゆん}照準を合わせて、自分を転回してまいります。どれだけ厳しい転生が待っていても、私は、必ず自分を転回してまいります。そして、二五〇年後を迎えたいと思います。今、語らせていただけることが幸せでございます。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、間違っていました。間違っていました。

りました。何が間違ってきたかって、すべてが間違ってきた私を感じます。心を見てまいります。この中に蓄^{たくわ}えてきたエネルギーを、もっと、深く見つめてまいります。

田池留吉、そしてこの学びに出会わせていただいたこと、喜びでございます。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてください。

異語。

アルバート、アルバート、アルバート、二五〇年後にお出会いするアルバート、あなたを感じます。苦しい中を生まれてきます。私も、苦しい中を生まれてきます。二五〇年後までに、いくつかの転生を重ね、苦しい中を、私は肉体を持ちます。そして、

アルバート、あなたに出会います。心を繋いでまいります。アルバート、待っていてください。私は、心を繋いでまいります。

この頂いたメッセージを手帳やノートのあちこちに書き写し、何度も読み返しました。

肉の自分はこちらまで反省につながっていない感はありません。

嫌いまくった母から逃げようと海外に居を移しました。でもその母の病気をきっかけに、また日本に連れ戻してもらいました。九年ほどの同居、介護の時間を過ごし、またその母の死が志摩への移住という決断をさせてくれました。

今改めてこの意識を読み、この母というところに夫と入れると全く同じ自分であることに気がきます。自分の心癖というのは簡単に消えるものではないと感じています。

ただ死を迎えるその時まで、夫を相手に自分から出てくる思いを見ていけばいいのだと思ってい

ます。来世の私が語ってくれていることを信じ、この意識をプレゼントしてくれた自分の中の自分を信じ、最後までこの勉強を続けていきます。
ありがとうございます。

226

***さん、本を出版されて、今のあなたの思いを聞かせてください。

私は、***でございます。一生懸命に書かせていただきました。自分の中を、私自身、一生懸命見つめて、そして、文字にさせていただきました。しかしながら、本という形になって、今を振り返ると、私の心の見方は、浅い、浅かった、そのように、今、感じています。学びを真正面からとらえることをしてきませんでした。言葉を連ねても、私の心の中は正直です。自分は、どれほどこの学びを真剣にとら

えてきたか、私は、そのところを、自分の中で訊ねると、まだまだ肉の基準で、私は心を見てきました。やってきたつもりです。でも、それは肉を基盤としてやってきた、そのように、今、感じています。

私の意識の世界は正直です。肉は、一生懸命やってきた。私は、出来る限りのことをやってきた。私は、この学びをやってきた。そのように、思っています。本を出版したことによって、私は、自分の中の一区切りがつけたことで、満足していました。ああでも、今、自分をこのように語らせていただいて、私の学びは、本当に浅いものだった、まだまだ真正面から、学びをとらえていなかった、今、そのことを確認させていただいています。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、私の中に他力の思いが、まだまだ渦巻いています。他力の反省がまだまだ進んでいない。まだまだ私の中を押し隠している私があります。そ

らなどころではありませんでした。私は、もっと素晴らしい私を表したかった。それが他力のエネルギーを、まだまだ自分自身見つめていない証でもあります。心を見てまいります。他力の心をもっと、もっと、見てまいります。自分で培ってきた他力のエネルギーを、深く、深く、見てまいります。お母さんを思っていきます。自分のこの肉体時計がある限り、その方向に、心を向けてまいります。田池留吉、ありがとうございました。

あなたの意識ではありませんか？

U T Aブックさんよりメールが届きました。発行より十年、今あなたは……と。

正直、えっ、こんな凄い学びの中に私は居たのですか？と自分に問う気持ちになりました。

田池先生、塩川香世さん、桐生敏明さん達。一人一人に向けて、こんなに心を向けて、労力を使って、学びの奥へ奥へと誘い続けてくださっていたと知っ

た時、体が硬直したのです。

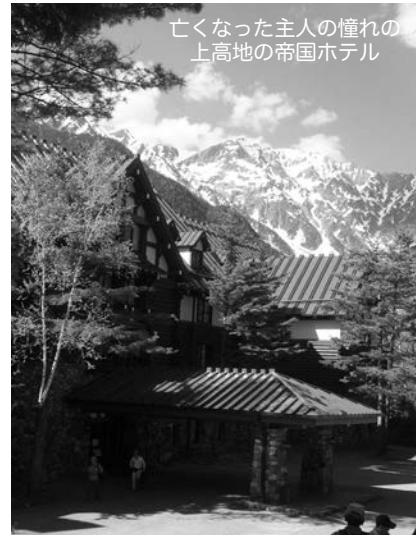
そして今、私の目には涙が
たまっています。

ありがとうございますの
思いが次から次と吹き上がっ
ています。

十年後の今、私は愛ですと言います。

「あなたの意識です」「あなたの意識ではありませんか？」の参考にしてくださいと、メールが届き、思い出せば、「アルコール依存症の詩」を本にして出した時、どんなにどんなに表には出ていませんが、桐生さん、田池先生、塩川さんに、娘も、力を貸してくれました。自分の事だけで、私は地に足が着いていませんでした。

何も知らない自分が本を出そうと、そして、出せたのは、桐生敏明さんにいっばい迷惑をおかけしたと、折にふれ、反省しています。



が、この本は自分のために
書いたのだと、ジワーッと思
い返しています。

真実は何か知りたかった。
自分の生き方が間違っている
と気付きのための生きにくさ
を、何故、何故ともがき、苦
しみ、考えたのは、学びに入り、田池留吉と出会わ
せてもらってからでした。

次から次と発生する肉の不具合や苦しみは、まさ
に、次から次でした。

愚かな肉、他力トプリの自分。分からない事だ
らけでした。

が、今、自分に、あなた今幸せですか？と問うと、
ハイ、幸せです、と返ってくる。日々、喜びの中に
居ります。

愚かな自分が愛しい。愚か故に出会ってきた地獄
の底の底のエネルギーと、どこかで区別していた。
このエネルギーがあつたからこそ、私は学びを一步、

一歩がでなければ、半歩と前へ前へと進めてこれたのでした。そのミリ単位の積み重ねがどこで変わったのかは全く分かりません。気が付いたら思いが変わっていたのです。

あなた今幸せですか？、ハイ、幸せですの自分を大切に、共に学んで参ります。

只、只、ありがとうございます。

227

***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。パワーを求めてきた心を、その心の向け先を、私は、自分の中でまだまだしっかりとして持っています。変えずに持っています。パワーを求めてきた、それが間違いだっただけという事は、分かりませんが、それ以上に、私の中は反発、反抗しています。

パワーを求める。もっと、もっとお前のすごいパワーを發揮せよ。我等がついている。パワーを發揮せよ。お前の中には、すごいエネルギーがある。そのパワーをもっと、もっと全開していくんだ。

そのような思いが私の中で渦巻いていきます。これは、私自身が闇のエネルギーを求めてきた結果だと思っています。転生を繰り返して、その思いを強くしてきました。パワーを求めてきました。今もパワーを求めています。

お母さん、私は、お母さんの思いに触れるたびに、母に歯向かうエネルギーを大きくしてきました。

こんなことでくじけてはならない。私は、もっと、もっとすごい存在なんだ。お前になんか、誰が負けるか。温もりで、私を説き伏せることなどできない。パワーはすごいんだ。パワーこそすべてだ。

この心で、ずっと、ずっと存在してきた私の過去からの歴史は、今も心の中に、たくさん、たくさん詰まっています。もちろん、この学びに繋がってからは、パワーを求める心、他力に繋がる心を、自分

なりに見つめてまいりました。

ああでも、その思いは、とても強いんです。自分に自分が冷たかった。本当に自分に申し訳なかった。ふっと母の温もりに触れる時、その思いが心によぎるけれど、それは一瞬です。また私の中に暗黒の世界が広がっていくことを、何度も体験してまいりました。

***さん、そうですね、他力の中に埋もれてきた私達です。特にパワーを求めてきたその心の世界を、一八〇度転回していくのは、並大抵なみたいていのことでありません。それでも私達はやっていかなければなりません。やっていくようになっていっています。どうぞ、諦めあきらずに焦あせらずに、いつも、いつも、真摯しんしんな思いで、自分を見つめていってください。

どうぞ、田池留吉に、あなたの心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に優しい思いが広がってきます。いつまでも、いつまでも待っていていた私自身を感じます。こんな私を待っていてくれた、その私自身の何とも言えない優しさ、思いの深さを、今、感じさせていただいています。

瞑想をしてまいります。何も持たないゼロ歳の時の私を思い浮かべて、母と真向かいになって、瞑想をしてまいります。求めることはいらなかった。自身がパワーそのものだった。そのことを、心でしっかりと感じられるまで、私は、私の時間が私の中で流れていくことを感じます。

田池留吉、田池留吉、ありがとうございます。

今回のUTAブックさんからのメールで十年前の思いから、今の私にどう変わった？ 変わってない？ って問う時間、自分の中では変わった！ 変わってない！ と自問自答を繰り返す。そんな時間をいただいた。

ずっとずっと自分の中のさめた思いを感じてきた私。肉でどんなに幸せなんだと恵まれているんだと思っても、一瞬で終わる。

何が本物で何が本当のことなのか？それをずっと私の心は求め続け探し続けてきたと、今、コロナで自粛自粛と騒がれ、テレビでコロナはどこから来たと!!

人災か天災かと、何処かへ責任を持っていく所を決めようとしている。

9・11を思い出す。あれは人災、人が事を起こした事であり、あの時もテレビをホーツと見ていて、いきなりあの場面、飛行機がビルに突っ込んでいった。

一瞬映画を見ていたのかと思つた瞬間だった事を思い出す。

東北地震の時の津波の映像を見ていて、逃げまどう人々、それを、私はまたテレビでただ見ているだ

けだった。

自分が果たしてその場にいたら、どうなっているんだろうか？自分のすべてを失いながら生きていけるのだろうか？、肉を守る思い肉を生かす思いを膨らませている自分を感じた。その時は天災なんだと怒りよりも、どうしようもない自然への恐怖が先に出ていた。

今またコロナというウイルスで自分と向き合う時間を与えられた。ずっとずっと与えられていたのに気付けなかった。

外へ外へ向けていた心が自分に問うているように優しく感じる。

私は自分から逃げるために生きてきたと思つた。本当の自分に帰りがかったのに、本当の自分から遠ざかる道を生きてきたとコロナが教えてくれていると思えた。

まだまだまだまだと自分の中は言っている。しか

し、私はうれしい、この学びに出会えたから、うれ
しいと!!

こんな機会をただけてありがとうございます。

228

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。美しきもの、気高きものを
追い求めてきた心、それは、イエスキリストに繋つなが
ります。私の中にイエスキリストが……。

ああ、ああ、高く、高く、私は、イエスキリス
トを奉たてまつっています。この心を私自身、まだまだ見て
おりません。なぜならば、私は、この心に気付いて
いないからです。キリストをこれだけ崇あがめ奉たてまつってき
たのか、私自身は、まだまだ気付いておりません。

私は、この思いを、しっかりと心に蓄たくわえてきまし

た。イエスを神として崇め奉ってきたこの心は、私
の中に、大きく、大きく、あります。大きく、大きく、
広がっています。

***さん、どうでしょうか。今、あなたが語
られた思い、あなた自身、思い当たるところがござ
いますか。信じられますか。それとも、まさか、ま
さかという思いがありますか。

私は、今、あなたが語った思い、イエスに対する
思い、あなたそのものだと思っています。感じてい
ます。

あなたは、この学びを真正面からとらえることが
できない大きな理由がここにあります。あなたの奥
さんもそうです。どうぞ、しっかりと心を見ていっ
てください。

奥さんの大病から、あなた自身、もう少し、この
学びに心を向けられるかと思ってきましたが、私か
らすれば、まだまだのような気がします。

どうぞ、あなたも、そして、奥さんも、今世の時間、

できる限り、心を見て、お母さんの反省をして、他力、特に、イエスに対する思いを、自分の中で確認されて……、そういう時間に使っていただく。

生活のことはあると思います。あなたの中には、まだまだ生活、すなわち、お金、それがあと思ひます。ですが、あなたの意識の世界は、あなた自身が語られた状態でございます。それを、引きずって、あなたは、次の転生へといかれると思ひますが、どうでしょうか。

二五〇年後、私達と出会うその道筋みちすじにあると自分自身が感じているならば、どうぞ、今世の時間を有効に使っていただく。

心をしっかりと、田池留吉、アルバートに向けていってください。

異語。

田池留吉に心を向けてみましょう。



異語。

私は、***です。田池留吉、私は、あなたの肉に対してそれほどの抵抗はございませんでした。しかし、今、自分の意識の世界を語り、私は、自分のことが本当に何も分かっていなかったことを感じています。

田池留吉、申し訳ございません。お母さん、お母さん……、今、お母さんと呼んでいます。お母さんの思いを、私自身、しっかりと感じていきたいと思ひます。

十年前夫婦共々イエスキリストを崇め奉あがたてまつつてきた心が、大きく、大きく、ありますと田池先生から意識の問いかけがありました。

その時には、否定もせずイエスキリストへの思いは好きでしたので、その心がそんなにこの学びの大きな壁になっていくとは

思いもしませんでした。

それから今回偶然ではないのでしようが、UTAブックさんが田池先生からの冊子への促しを感じて、十年前の意識の問いかけのメールを拝見した時、以前必死に学んでいる病床での家内に、田池先生から「まだマリアがしつかりあるな」と言われ自己嫌悪に陥っていた妻の事を思い出し、また私もこの二週間、自分の心が、いまだに清く正しく美しくをしつかり掴んでいる他力の思いの深さを思い知らされました。何回も何回も他力、イエスへの心の底の思いを見てきたつもりが、まだべったりとこびりついているのに気付かされたのには驚きと嬉しさと学びへの浅さに懺悔でした。そしていつまでもいつまでも自分の心と向き合うのを待っていてくれる、「私は愛、あなたは愛、みんなひとつ」このメッセージの重みと共に厳しくて険しいけれど、本当の優しさと温もりを知っていくには、肉の時間の終わる瞬間まで思うは田池留吉一筋へと真摯に再認識いたしました。お母さん産んでくれてありがとう。田池留吉あ

りがとう。学びの友UTAブックさん本当にありがとうございます。どうぞいませ。

229

***さん、どうぞ、あなたの思いを語ってください。

はい、私は、***と言います。私自身も長い間、学びをさせていただいてきました。私なりに、時間の許す限り、自分を振り返ろうとしてきましたが、心の中は、まだまだとても堅い、堅いです。

岩盤を心に抱えているような感じがします。これを私自身が溶かしていかなければならないのですね。

心を語ることが難しいと、何人かの方がおっしゃっていましたが、本当にその通りです。堅い、堅い殻の中に閉じ込めてきた心を解き放ち、心を語

ることは、本当に難しいと思います。

異語。

***さん、あなたを産んでくださったお母さんを思ってください。お母さんのお腹にいた頃、そしてお母さんから生まれたばかりのあなた、その頃のあなたに、思いを戻してみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん、お母さん……。お母さんが私を受け入れてくれました。優しい、優しい思いが伝わってきます。この優しさで、私は、私を見つめていけばいいんですね。頭ではなかった。自分を自分で解き放つのは、頭ではなかった。母の思いを心に感じて、優しいお母さんだけを見つめながら、その思いで自分を振り返る。ああだから、瞑想をしてください、瞑想でしか分からないと、田池留

言が語ってくれていたんですね。申し訳ございません。

異語。

***さん、どうぞ、異語を聞きながら、そして、瞑想をしながら、ふうっと、力を抜いた時、あなたの口から自然と異語が出てくると思います。何でもいいんです。あなたも、音を口から出してみてください。

奥さんとともに異語で語り合っていますか。そうすることによって、またあなた自身の心の中に何か変化が表れてくると思います。どうぞ、日本語ではない、異語を通して、奥さんと互いに心を通じ合わせていってください。意識の世界は通じています。異語で語り合うことによって、それが、それぞれの心の中で、はっきりと感じられるのではないのでしょうか。

十年前に出された自分の意識、申し訳ありませんが、正直なところあまり覚えていませんでした。今回、この様な形で、十年前の自分の意識を確認する事ができ感激です。

自分の思いを語るでは、「自分なりに、自分を振り返ろうとしてきましたが、心の中は、まだまだとても堅い、堅いです。岩盤を心に抱^かえているような感じがします」との意識でした。

十年前に既に「岩盤」が出ていました。驚きです。最近「岩盤」に思いを向ける機会が多くなり、自分でも感じるところがあり、この「岩盤」を自分自身で溶^とかしていかねければならないとの思いが強くなります。しかし状況はなかなか進展ができず、本当に申し訳ない思いでいっぱいです。

次に異語を挟んでの田池先生（意識の世界）から「あなたを産んでくれたお母さんをお母さんと思ってください。お母さんのお腹にいた頃、生まれたばかりの自分、その頃の思いを戻して」との促^{うなが}しでした。

そして、異語を挟んで「母を思う」自分の意識を

出していただきました。

「優しい、優しいお母さんの思いが伝わってきます。優しいお母さんだけを見つめながら、その思いで自分を振り返る。だから瞑想を、瞑想でしか分からないと、先生は語ってくれたんですね。申し訳ございません」の意識でした。

田池先生（意識の世界）からの促し「母親を思う瞑想」は、常にこの学びの原点に戻ることの大切さを指し示していただいていたんだと今も心にひしひしと感じています。

さらに、異語を挟んで田池先生（意識の世界）からの促し、「どうぞ、異語を聞きながら、そして瞑想をしながら、ふうつと、力を抜いた時、自然と異語が出てくる」と。また、「つれあいと異語で語り合う事を通して、互いに心を通じ合わせていってください」と「夫婦での異語で語り合う事が自分自身の心の中に変化が表れてくる」と。

現在、常にとまではいきませんが、無意識に異語を発している時があり何か嬉しい思いが感じられま

す。また、つれあいと異語での語り合いは、肉では感じる事が出来ない、何とも言えない意識の世界の素晴らしさを感じる事があります。

まだまだ、肉の思いが強く、分厚い岩盤も存在しており意識の転回には厳しい状態ですが、一歩でも半歩でも、いや数センチでも真実に近づく学びを、そして正しい瞑想をしていきたいと思えます。ありがとうございます。

230

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。苦しいエネルギーも寂しいエネルギーも、すごいエネルギーでした。自分の中で感じていきます。間違ってきたことを感じていきます。お母さん、ごめんなさい。苦しい私、寂しい私、全部、全部間違っていました。

私は、お母さんに愛されて、お母さんから生まれしてきた、優しい、優しい心の持ち主でした。それなのに、私は、自分を自分で汚してしまいました。誰かが私を汚したのではなかった。自分を自分で汚してしまいました。

心の中にお母さんの思いを感じる時、私は、そのように、自分自身が響いてきて、申し訳ないなあ、間違ってきたなあって、自然に思えます。

そして、目を開けて、今の生活をしていくと、また私の中には、段々トーンが落ちていきます。真っ暗な私を感じ、どうしようもない私を感じます。ああ、私は、こうやって、自分を見つめていけばいいんだなあ、今、そう思います。

****さん、ご主人とはどうでしょうか。今、あなた方は、幸せでしょうか。

異語。

何と言いましても、ふたりともこの学びに繋つながり
ました。その点で、私達はとても幸せだと思えます。
それぞれにエネルギーを感じ、すごいエネルギーを
感じ合いながらも、でも、ふたり互いに自分の心を
見させていただく相手として、私達は、ベストパー
トナーだと思っています。そういう意味で、私達は、
幸せな夫婦だと思っています。

間違ってきた私達が、今、ここにこうやってある
こと自体、それを私は、喜んでいこうと思っています。
苦しくて、苦しくて、苦しくて、苦しくて、苦し
い中を生き続けてきた心に、お母さんの温もりを、
少しずつでも伝えていきたい、伝えていこう、今、
そのように思います。そうやって、私達は、生まれ
てきたことを感じます。お母さん、ありがとうござ
います。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてくだ

さい。

異語。

アルバート、アルバート、アルバート、異語
……。

ああ、私は嬉しいです。アルバート、私は、嬉し
いです。

二五〇年後、私もあなたに出会うことを感じます。
苦しい、苦しい、苦しいって、私が言っているけれど、
でもあなたに出会うことが心に感じられて、その苦
しさがこれから、段々喜びの方向へ行くと思います。
私は、自分の中で、私自身を見つめてまいります。
数々の転生を繋げてきて、これからも、もう少し転
生を重ねます。

きっと、きっと、二五〇年後、喜びで、この心を
広げていきたいと思えます。ありがとうございま
した。

苦しいエネルギーも、寂しいエネルギーも、自分の中で感じています。凄^{すご}いエネルギーでした。

真つ黒真つ黒を垂^たれ流してきた自分を、私はずっと自分だと信じていました。真つ黒が私、私は寂しい私が私だと思ってきたんです。だから、沢山の神を作りました。救ってくれるもの、助けてくれるものを沢山沢山、私は作ってきました。

母の温もりを忘れた心は、真つ黒の中でのたうち回りながら、やさしさを愛を外へ外へ、求めてきました。ずっとその転生の繰^くり返しでした。

長い間ずっとずっと、温もりの中があった。愛の中があった。お母さんがいつも伝えてくれている。

あなたの中でいつも語っています。田池留吉を信じてください。あなたの中のやさしさを、温もりを信じてください。それがあなたです。



よ。あなた自身が、やさしいやさしい温かい温もりですよ。私はあなたを信じています。

そう、田池留吉の世界からも、田池先生からも、ずっと伝えて頂きました。

信じられなかった。信じてきませんでした。自分が信じられなかった。そこまで落ちてきた意識です。(抵抗勢力、こうやって戦ってきました)

待っていています。待っていています。自分の中にあるやさしさを、温もり、愛、本当の自分が待っていていたんです。ずっとずっと待っていていました。

帰っておいで、帰ってきなさいと伝えてもらっていました。その方向に、確^{しか}りと、焦^{あせ}らず、たゆまず進んでいきます。ありがとうございました。

やさしさがあなたですよ、温もりがあなたですよ。愛^{あふ}溢れるあなた

たが本当のあなたですよ。待っています。私達は一つ、愛の中に一つです。田池留吉、アルバート、共に次元を超えていきましよう。ありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございます。

231

***さん、あなたの心を聞かせてください。

私は、***です。田池留吉、申し訳ございません。この学びをしっかりとやっています。心の苦しさを、しっかりと見つめてまいります。金、金に狂ってきた私、寂しさを金で誤魔化してきました。私の中に、寂しい心が、たくさん、たくさんありました。お金を持てば、この寂しさは和らいでいくのではないか、お金で紛らわせてきた私がございました。

そうではなかった。自分の中の寂しさは、自分自

身で見つめて、そして、自分の中で包んでやらなければ、私自身、どうすることもできなかった。今、そのことを感じさせていただいています。

しっかりとお母さんの反省をしております。私もパワーを求めてきた、その他力の思いもしっかりと、見つめてまいります。申し訳ございません。田池留吉、お母さん、心を語らせていただきまして、ありがとうございます。周りの人達を通して、私の心を見ていきます。周りの人達の苦しさを、私も感じさせていただいています。苦しい、苦しいって訴えてきているけれど、それは、私自身の心でございます。そのことを、今、ようやく、自分の中で、少しずつ感じています。心を見てまいります。

***さん、どうぞ、田池留吉にあなたの心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心から田池留吉を思える今を、嬉しく
思います。苦しい私をこの中に帰してまいります。
心の中の私に、しっかりと意識を向けていきます。
お母さん、私を生んでくださってありがとう、その
思いを、しっかりと心に抱えながら、お母さんに思
いを向けてまいります。

ああ、私は、ああ、私は幸せでございました。こ
の思い、私が、今感じているこの思いを、そう、私
の言葉を通して、自分に関わる周りの人達に伝えて
いこうと、今、思います。何気ない言葉、何気ない
仕事で、私は、私の心で感じたものを伝えていき
たい。そこから、私は、自分の周りの人達と学びを進
めていきたい。今、そのように思っています。あり
がとうございます。

「あなたの意識ではありませんか」というUTA
ブックさんからの冊子が発刊される事、それに対し
ての十年後の自分が今どう思っているかを掲載され
る事をお聞きした時、正直なところ、私は自分が十

年前に田池先生より私の意識を出して頂いていたこ
とを全く覚えておりませんでした。

UTAブックさんがパソコンに載せていただいた
ていたのに、あー私はなかったなあ、でも二〇一〇
年十月に田池先生よりCDと私に対するメッセージ
を頂いていたことを思い出しておりました。大切に
大切にしまっておりました。その田池先生の想いに
その時は嬉しくて嬉しくて何回も何回も読み返して
しっかりとこの学びをしていこうと心に刻み込んでい
たのですが、それも時間がたつにつれその時の思い
がいつの間にか薄れていき、欲と肉の生活にうずも
れていきました。

そして、この思いがけない出来事(?)にショッ
クと自分の学びに対する姿勢の甘さに愕然としま
した。

ごめんなさい。申し訳なかった。本当にごめんな
さい。涙が止まりませんでした。本当にごめんなさ

い。こんなに優しく温かい心のこもったメッセージを頂いていたのにこんな宝物のプレゼントを頂いているのに、なんて私は愚かでバカだったんだろう。田池先生がどんな思いで伝えてくださったのかと思うと、只々申し訳なく懺悔ざんげしかありませんでした。これで終わったらおしまいだ。これからが一番大事だと思う。十年前から自分では学んでいたつもりでしたが、一歩も進んでいない自分がある。

まだ、十年前の私の方が素直で前向きだったように思う。この学びは欲とは絶対に合いませんといつもいつも教えて頂いているのに、偽物にせものの宝物を固く握りしめている私です。自分のこれからの人生は偽物を離して本当の自分の叫びを心から感じ取って、心を中心に向着て苦しんでいる自分を温もりで包んであげて喜びで心のふるさとへ帰れるようにしたいと思います。

忘れていた大切な忘れ物を届けてくださってありがとうございます。

232

***さん、あなたも思いを語ってみてください。

私は***でございます。お母さん、お母さん、こんな苦しい心を抱えて生まれてきた私でした。すさまじいエネルギーの塊かたまりの私を、今、感じています。自分は間違っていない、自分は正しいと私は生きてきました。でも、その間違っていない、正しいというエネルギーは、すごいものでございました。私は自分を全く知らずにきました。お母さん、あなたに生んでもらったから、その間違った自分、何も知らない自分を少し感じさせてください。破壊のエネルギーを蓄えたくわ続けてきた私の中に、ほんの少しだけ、安らぎも感じさせてくださいました。

でも、私の中には、まだまだ、まだまだまだでございます。他力の反省も、まだまだしつかりとやっています。他力の神々に絶すがつてきた思いを、私は見ることなしに、今までやってきたと思っっています。

すごいエネルギーです。今、自分を語りながら、そのエネルギーを感じています。

何も知らなかったとはいえ、すごいエネルギーを、この宇宙空間に垂れ流^たしてきたんだなあと、私は、今、感じています。

自分の中の宇宙を汚してしまった、そんな感じがします。お母さん、申し訳ございません。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

ああ、田池留吉、田池留吉。真っ向からお前にぶつけてきたエネルギーを感じる。自分に対してすさまじいエネルギーをぶつけてきた、そのことを感じます。申し訳ございません。申し訳ございません。しっかりと心を見てまいります。本当の自分に齒向かってきたエネルギーは、すごいものでございまして。自分を自分で地獄に突き落とす、まさしくその

通りでございます。このエネルギーこそ、私自身が、しっかりと見ていかなければならない、今、そのように思います。

十年後の今、改めてこのメッセージを読んで。

「え〜っ!!ほんまに私のことですか!?!」

いやいや、確かに私のことだと思えます。

その通りです。その通りです。

十年前にサラリと読んで、「ほんまにい?」と思うてそこから一步も進もうとしなかった。恥ずかしながら、このせつかくのメッセージを大切にしてこなかった。

『すごいエネルギー』そこだけは納得できる。母にぶつけてきたすごいエネルギー。

簡単にひと言で「すごい」と言うけれど、言葉では表せないくらいすごいエネルギーだと。それだけは自信を持って言える。

三歳の頃に初めてぶつけた恨^{うらみ}みつらみ。一生母を許さない、恨み続けると心の中で誓った自分を覚え

ている。

そして、そこから始まった数々の反抗。

いい子ぶりっことも演じてきたが、心の中の反逆は母を虐めて虐めて虐め倒し、なぶり殺しにしてしまう程のエネルギーだった。

今、自分が親になり、子供たちのことを思う自分をダブらせてみる時、肉は愚かで間違いだらけの母であったとしても、なぶり殺しにされても子供の幸せを願う母であったんだと思える。

肉だけを見て自分の怒りをつのらせていた。

肉の母の向こうに、優しい優しい波動の子供を包むだけの母があったことまで分かり得なかったし、信じ得なかった。

母を求める心を変えて、唯々殺しまくってきた自分をやっと今認めることができます。

その優しさが嫌いその温もりが嫌いと反逆しまくってきて、今もまだその優しさに素直になれない



自分がいます。

私が作ってきたグチャグチャの宇宙に、もうやめようねと呼びかけたい。

「もうやめようね。お母さんに素直になっていこうね」。自ら苦しい方を選んできた自分たちに「もういいよ」と。「もうやめようね」と。「お母さんに帰ろ。母なる宇宙に帰ろ。もう意地張るのやめていこうね」と伝えていくよ。

メッセージには「心を見ていきます」とあるが、見ていく勇氣もなかった。恥ずかしいけど、改めてこのメッセージに触れた今、またゼロからのスタートに立たせてもらった。

うんうん、やるよ。やっていく。こんな貴重なメッセージをもらっていたんだ。

無駄にしないよ。これからだ。遅いけどしっかり受け取っていききたい。心に刻んでいききたい。真向かいになっていきたい。ひとつも変わらない私への『喝!!』です。大切にします。

***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

***です。他力に沈んできた自分の心を語ることを、私もしてきませんでした。他力の神々に仕えてきたことを、私の中でしっかりと見ておりません。他力の神々を、私は崇拜しています。私は、本当の自分を感じていない、今、そのことを感じます。私の中にも、本当の自分が生きていることが、全然信じられませんでした。それよりも、他力の中にあつたほうが、自分を生かしてくれているような気がしてなりません。温もりを……、安らぎを……、幸せを……、そのように他力の神々に縋ってきた私の心癖、私の中に、まだしっかりとございます。

***さん、それでは、あなたが仕えてきた他力の神々に、あなた自身、心を向けてみてください。

異語。

私はお前を牛耳ってきた意識だ。私に心を向けよ。他力の私に心を向けよ。お前を幸せにしてやる。お前に本当の安らぎを伝えてやる。温もりもお前に伝えてやる。私を見放すな。私に心を向けよ。私を裏切るな。お前、私を裏切るな。私を裏切ればどうなるか分かるか。お前は、もっと、もっと、すごい、すごい転生を重ねていくぞ。私に心を向けないなら私を裏切って私を見捨てるぞ、お前の転生は、ますます厳しい転生になっていくぞ。どうだ、お前、私を見捨てる気なのか。お前、私を見捨てる気なのか。私を、私を、もっと、もっと、崇めよ。私を、もっと奉れ。お前のその思いが弱いから、お前の中で、私の力が活かし切れないのだ。どうだ、もっと、もっと、心を向けてみよ。私の本当のパワーをお前にくれてやる。お前、心を向けてみる。

異語。

あなたの中で、ずっと、ずっと、このように語ってきたその意識の世界を、あなたは、今、感じています。どうでしょうか。齎おぼしてくるかもしれません。強がっているかもしれません。でも、その心の底の底を感じていってください。とても、とても、寂しい、暗い、本当に暗い、寂しいものを感じませんか。彼らもまた、本当の温もりの世界へ帰りたいたいのです。だから、あなたに、縋すがっているんです。あなたが縋すがっていると思うのではないのでしょうか。違うんです。あなたが心を向けてきたその他力の神々があなたに縋すがっているんです。縋すがりながら、素直になれないから、裏腹なことを言っつてあなたを齎おぼしたり、強がったり、そうやってあなたに、圧力をかけているのです。あなたは、どうぞ、その他力の神々の思いを、しっかりと受け止めていってください。お母さんの思いで受け止めていってください。そうすれば、心を開いて、素直にもっと、素直になっつて語ってくると思います。実は、それがあなた自身です。

この意識の仕組みを、あなたの中で、しっかりと感じていってください。あなたであってあなたでない、あなたでなくてあなたである、そう、一体化しているあなた自身を、自分の中で見つめていってください。お母さんに心を向けていってください。

***さん、田池留吉を呼んでみましょうか。

異語。

田池留吉、田池留吉、私が唯一、心を向けていくのは、田池留吉という方向でございました。本来の私自身でございました。お母さんの反省をしてみります。お母さんが私を受け入れてくれた心を出し、私もゼロ歳の心に自分を戻してみります。その心で、私自身を見てまいります。申し訳ございません。私は、私を包んでまいります。

十年前、この文章を読んだ時はなかなか理解でき

なくて、何度も何度も読み返したものです。その後も先生からのワンポイントでも「あなたの中に神様、仏様がいらっしやいます。」と言われ、肉で分からない私は何度も他力の反省をしてきましたが、納得のいくものにはなりませんでした。瞑想をずーっとしてきたつもりだったので

すが、素晴らしい瞑想、愛を感じる瞑想をしていただけでした。そうではないと、先生にも指摘されていたけど、それでも分かりませんでした。

肉では十年前、主人の病気で生活が一変し、私の肉の努力で家族はどうにか生きてこれた、奇跡的に主人が生き延びている事も、私のおかげと捉え、偉い私は間違った瞑想をしているとはなかなか分かりませんでした。それでも瞑想はしていたつもりです。我を出す、我を表す瞑想でした。それから少しずつ、クソたれ主人の闇を出さざるを得なくなり、怒り狂いながらも出していけるようになりました。少しず



つ、暗い、暗い、底の底の苦しい、寂しい、決して口にできないような闇を表に出せるようになってきました。隠して、蓋をして、認められない思いをクソクソ、クソクソと罵りながら「死ね、田池死ね！」と出せるようになりました。十年前にどうにも受け止められなかった事が最近スルスルと心が柔らかく開いて、溶け始めているのが感じられます。ただただ自分を、本当の私が受け止めてあげれば良かったんだと、やっと素直に思います。出せば出すほど、嬉しくなる、これが不思議で仕方ないが、これが意識の世界なんだろう。肉をもって意識を学べる今があると実感しています。強い肉の思いと一緒に受け止めていきたいと感じます。十年間の学びの量が質を高めていったように感じます。UTAブックさん、すっかり忘れていた十年前と今を比較することができました。良い機会をありがとうございました。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。私は、何も分かっていないことを感じています。心に感じるものがございました。心に響くものがありました。ああでも、私は、何も分かっていないと思います。今、それを感じています。特に、この二月の勉強会に参加させていただき、私自身、自分の学びに対する姿勢が甘かったということを感じさせていただきました。本当にすごい場を集えている自分だなあ、今、そのように思います。

私が今世、体験してきたことを、私は、自分の中で本当に喜びとして、受け止めてきたらどうか、そう思う時、いやそうではありませんでした。私の中の苦しみ、それは、私自身が作ってきた世界だった。それなのに、私は、その中で、苦しい、苦しいと、もがき喚^{わめ}いてきただけのことだったんだ、今、その

ように思います。

過去からの私すべてが、今世の私に集約していた、そんな大切な時間と空間を、私は、本当に、軽く、軽く受け止めてきたように思います。

今回、勉強会に参加させていただき、今、自分の心を語らせていただき、もっと、自分の中で、真心^{まっしん}にこの学びをとらえ、自分自身をとらえ、しっかりと今世の時間を、使っているように思っています。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。お母さんの反省をやっていきます。もっと、もっと、自分の心を真剣に見つめてまいります。

私も、はい、転生を重ねて、二五〇年後に自分の中を爆発させていきたいと思えます。心で感じられる世界、素晴らしい世界を、私は、自分で黒い、黒

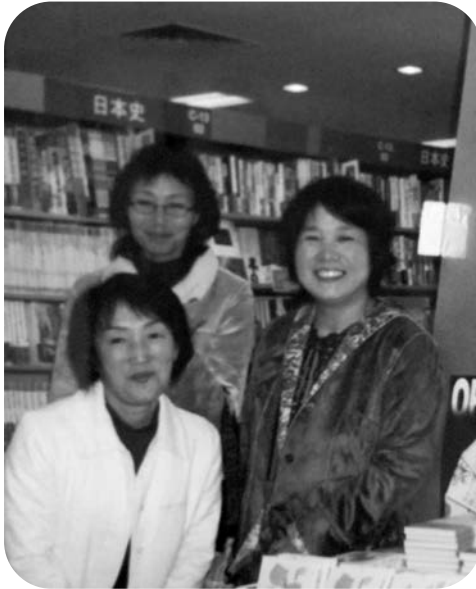
い真っ黒な世界に塗り替えてしまったことを、今、心に感じます。

他力の神々を、私の中で、しっかりと握^{にぎ}っている私です。今、田池留吉を思う時、その真っ黒な、真^{かたまり}っ黒な塊の自分を感じ、今、本当に心から、しっかりとやらなければならぬ、これが、私が今世、肉体をいただいた本当の意味だったんだ、今、少しだけ感じさせていただきました。ありがとうございました。

はい、「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」に、申し込んでました。

最初のお知らせメールを見た時は「私は違うな」って思いました。数日後、ブックさんからのメールを見てビックしました。「そうや、出した」って思ったとたん、涙が溢^{あふ}れました。

何だか、嬉しいのと、こんな大事なものを忘れてたど、申し訳ない思いでいっぱいになりました。何度も又、読みました。十年、何も変わっていないまま



大阪紀伊國屋でのUTAブックフェアにて

でした。気持ちは、「自分を変えたい、変わりたい、学んでいきたい」とやってきました。でも、結果が出ていないのはやってないと、最近、先生の講話で聞き、納得、納得の思いに心がざわめいていました。そんな中でのブックさんからのメールで、また、チャンスを得たのだと思っています。

今度こそは、しっかりと自分の心を見ていきたいと思いました。有難うございました。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***です。苦しい、苦しい、私の中の苦しみは、山ほどあります。そして、寂しさも募ります。寂しいです。寂しい私がいいます。私は、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、私の心が語ってきます。

苦しさも悲しさも寂しさも、自分の中でしっかりと抱いてやれなかった自分を感じます。ああ、私は、そんな自分を今、感じています。

苦しかったね、寂しかったね、辛かったね、悲しかったね、どうしようもなかったね。そんな私を抱きしめてやれなかった私を、今、感じさせていただいています。己が高いということは、こういうことでした。

この学びをしてきたつもりです。でも、私は頭でございました。自分の奥深くに進んでいかなかった。この心の中の苦しさも悲しさもやるせなさも、みんな

な、みんな、私は蓋ふたをしてきました。

どうしても、どうしても、肉の私が前面に出てきます。肉の私を幸せにしろ。肉の私を満たせ。肉の私の思いを通せ。そんな思いに従って、私は、ずっと、存在してきました。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。私の心の中を、今、語らせていただいています。肉の私は、啞然あぜんとしています。こんな、こんな私がいることを、つゆとも知らずに、私は、この学びをやってきた、ああ、私は、この学びをやってきた。素晴らしい私がいかにいる。私を認める。田池留吉、私を認める。そのような思いで、ずっと、ずっとやってきました。

ああ、認められるはずはありませんでした。いいえ、認められる、認められないもなかった。私自身が、

私を知らなかった。そういうことでした。田池留吉、申し訳ございません。お母さん、残り少ない私の肉の時間、精一杯、お母さんに心を向けてまいります。今、私を語らせていただいて、ありがとうございます。ただただお母さんに向けて、田池留吉に向けて、この時間を過ごしてまいります。



気が付きました。

「委ねる」ということが私の学びの課題でした。「崩れていくのが嬉しい」「田池留吉、おかあさん、本当にごめんなさい。ありがとうございます」の心でいっばいになります。

私の中の沢山の友とともに、心のふるさとへ帰っていきます。私に残された学びの時間を大切に過ごしていきたいです。

236

十年前に出していただいた意識、今も確かにこの暗いエネルギーを抱え持っていると思います。自分の闇に真向かいになる前に、見たくないという思いで、重い蓋をしていた私でした。私には全く素直さがありませんでした。

十年経って今、やっと、自分のどうしようもない闇のエネルギーと真正面になって、愚かな私を抱きしめて反省瞑想をする喜びを感じ始めています。嬉しいと思います。そして心が軽くなっていることに

(二〇〇八年十月二十八日。田池先生からメールで送られてきました) ***さん、他力信仰の時の心を振り返ってこられましたか。

私は***でございます。他力を求めてきた私の心の中は、へドロのような塊だけでございました。

全てが、欲、欲、欲びっしりとごびり付いた私の心の中。そのお掃除がとても大変でございます。

何処から始めていけばいいのか。だけど、私は、この掃除をするしかないのです。自分の中に溜めに溜め込んだ思いが、積もり積もって、腐り、そして、へドロの様になって、汚臭を放っていた、それが私の心でした。

今世の私の人生は、大変な苦勞を重ねてまいりました。主人に、手古摺りました。私の心の中のへドロを存分に出さしてくれた人、それが主人でございました。

私は、その様に、ずっと頭で理解してきました。そう、ずっと、その様に頭で理解してきました。だから、私の心は、ずっと、ずっと苦しみを引き摺ったままでした。へドロの臭いを嗅ぎながら、私はそれでも、自分は正しい、その様に言い放ってきたのです。今、ここにきて、ようやく、そのへドロの臭いを嗅いだ時に、ほんの少しばかり、自分の間違

に気がかけています。

私は、溜め込んで、溜め込んで、そして、腐りきったその中を、自分がお掃除しなければならぬ、そうはつきりと感じています。

それができるのは私。私だったんですね。自分で汚したものは、自分で掃除をする、こんな当たり前のことが、分かりませんでした。

異語。

***さん、お母さんの温もりを心に感じておられますか。

お母さんを思った時、あなたの心に響いてくる思いはどの様な思いですか。

はい、死んでしまえ、死んでしまえ、死んでしまえ。あんな母親、あんな母親、死んでしまえ。あんなお母さんなんか嫌い、大嫌い。そのような心で、私はずっときました。母の温もりを心に感じた事がない、私の勉強の心はそう叫んでいた。だから、ずっ

と、ずっと、他力の神々を求めてきた。温もりよりも、もっと凄^{すこ}いものを、自分の中に入れたかった。

今、母を思うと、自分の心の向け先の間違い、いえ、その凄^{すこ}さを感じます。母の温もりを蹴^け散^ちらしてきた自分のエネルギー、他力に向けてきたエネルギーを感じさせていただいています。

◇

(二〇〇九年十月) ***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

心の中には、まだまだ他力のエネルギーがしっかりと残っていると感じます。田池留吉、申し訳^わご^ごまいせん。しっかりと自分の使ってきた心を見てまいります。他力のエネルギーは、そう簡単には、お掃除はできないことを、今、感じます。

しかし、私の中で、ほんの少し、母を思うと嬉しい、田池留吉を思うと嬉しい、間違ってきた自分が嬉しいと心で感じる時がございします。瞑想をしていて、そう感じる時がございします。

それを励^{ほげ}みに、これからも自分なりに瞑想を続けてまいります。この年になって、自分を振り返ることができることが喜びです。田池留吉、ありがとうございます。

***さん、田池です。そうです、どうぞ、心をしっかりと見てみてください。お母さんに向けての瞑想、田池留吉に心を向ける瞑想、時間を見つけては、やってみてください。今世、学びに出会い、そうやって、あなたを振り返る時をいただけること、それが喜びです。

お母さん、ありがとう、心からそう思えるようなあなたになってみてください。いつまでも待っています。

メッセージを頂くまでの経過を振り返ってみました。「あなたの意識」は二〇〇八年、二〇〇九年、二〇一〇年と三回頂きました。

二〇〇八年十月二十八日、初めて先生からメール

を頂き吃驚仰天びつくりきょうてんでした。

まさか、私が先生からメールを頂くなんて思いもしないこと、何かの間違まちがいではないかと、素直に喜べなかつたです。

添付つけされていたメッセーじにまた吃驚きつこうでした。他力歴二十五年の私は、そのエネルギーに雁字搦がんじがらめ、一歩進んでも二歩も三歩も落ちてしまう繰くり返し、一向いっこうに捗はかどらないと嘆なげきながら、それでも、それでも思い直しては続けていました。

そんな頃、メッセーじを頂きました。

平成と共に始まつた私の学びも、丸々三十年。

子供の頃から、ずっと大事なことがある、学ぶぶ事があることと心に絶たえず上がってきた。長年見続けた夢は、学校へ行かなければと急かされ、学校へ行つても教室が分からない、時間割が分からない、長年休んで勉強についていけない、等々苦しい夢ばかりだつた。

人生も終盤五十歳も中半になつてやつと学びに出

会つた。

嬉いきしさの余り勢いきおい込んで学びに集つたが何となく居心地が悪かつた。額おでこに強烈なライトが当たり眩くらしかつた。神の子と聞く度に悪寒おかんが走つた。その上母の反省と聞き、今更そんな手間てまのかかることは出来ない、私の人生終わつてしまふと絶望。そんな時、チャネラーが目に飛び込んだ。ああこれだと心はチャネラーにすつ飛んだ。

他力のエネルギーは簡単に同通する。反対に、近道も、裏技もないと何度耳にしても右から左。他力の心は肝心かんじんなことは決して寄せ付けない。

待望の学びに出会つたのにチャネラーに躓つまずいてしまつた。

チャネラーに取り憑つかれて、いや呼び込んで十年。邪よこしまな心での参加セミナーは一向に心に響いてこない、なんの反応も起きず、苦しく虚むなしいだけだつた。失望落胆の毎回のセミナーでした。

九九年助走、二〇〇〇年安定飛行……に激震が走つた。乗り遅れたら大変とやつとチャネラーとい

う憑き物が落ちた。

ひたすら心の中に向けようと頑張った。阿修羅の様な形相で踏ん張った。荒れ狂った心にはちよつとやそつとでは歯が立たない。狂った心との対峙は格闘でした。

少しずつ心が落ち着き、瞑想らしきものが出来るようになるのに十年。学び始めて二十年。メールを頂いた頃と重なります。

あれから十年（二〇二〇年）。

学びはどんどん進化し、新人だけの勉強会を経て繋がった人達の目覚めは早く、羨ましくも妬ましくも思つたものでした。

他力の心癖が強い私は、上がっては落ち、落ちては何とか戻るを繰り返しながらもめげずに学びにへばり付いてきました。

藪ジャンから抜けられたか、スタートラインに立てたか、まだまだ、まだまだ覚束ない現状です。

本当に難しい学びでした。最近エルランティの頃

の講話を聞き、こんなに懇切丁寧に分かりやすく何度も、何度も囁んで含める様な講話に驚きました。

あの頃は、トータル的に聞いておらず、自分が理解できる所を拾い聞き、それを繋ぎ合わせて我流の理解でした。そんな自己創作の代物、全く別物を作り上げて分かつた積りでした。

心という事について同様。幼い頃から心の不思議を感じてきた。高校二三年頃、心の苦しさに悩んだ。色んな苦しい思いが飛び出してきた。私の心は壊れてしまったと思つた。心が破れてしまった、巨大な穴が開いてしまったと思つた。その穴蔵から不気味な叫び呻きが漏れてくる、おどろおどろしい声が聞こえてくる。私の心は魍魎魍魎の住処だと思つた。

こんな心を抱え、ずつと心、心、心とはなんぞや、とやってきたから、心は分かっていると侮つてしまった。私の苦しみは全部肉の次元なのに心という言葉に惑わされ気付くことが出来なかった。だから、何時もこれはどの心、どつちの心と戸惑つていた。動機の修正が捗らなかつたのもこのためでした。

いつも一から、ゼロから、従来の土台に積重ねては駄目。白紙に戻す。

これも難しい事でした。素直な心を忘れた肉どつぶりの心には何も浸透してこない。掴み所のない意識の世界を何とか分きたい欲心で、乏しい知識を掻き集め頭を回し我流の学び。同じ轍を何度踏んできたか。

こんなに間違い続けてきました。でも今は心が軽くなってきました。繋がってこられた事が嬉しいです。こんなに良い機会を頂き、本当に有難うございました。



皇帝ダリヤ

237

***さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。ぶっ殺してやる。ああ、苦しい、苦しい、苦しい。こんな心の私を、ああ、どのように語れというんだ。お母さん、苦しい、私は苦しい。

お母さん、苦しい、苦しい、苦しい。私は、そうやって自分のエネルギーを周りの人達にぶつけてきました。自分の中で、自分をしっかりと見つめて、包んでいくことを、私はしてきませんでした。

ただ、ただ、苦しい……、ああ、自分の中が狂っていくことがたまらなく苦しくて、恐怖でいっぱいでした。こんな私を、今、心に抱えながら、ああ、それでも、私は、心を語らせていただいています。

お母さん、お母さんを憎んできました。お母さんを、ああ、ないがしろにしてきました。お母さんを、

ぶっ殺してやりたいと、どれだけ思ってきたことが。周りの人達を、ああ、私は、亡き者にしてまいりました。

ああ、自分を自分で殺してきました。こんなすごいエネルギーを、私は抱^{かか}えて生まれてきたんですね。語れば語るほど、私が、今、ここにあることが不思議なくらいです。なぜ、私を生んだ。なぜ、こんな苦しい私を生んだ。そんな思いで、お母さんに詰め寄りました。ああ、しかし、私は、生まれてきました。私に、肉体をくれた母に対して、今、微^{かす}かながら、申し訳ないという思いを感じさせてください。います。

肉体をくださいと、私があなただけにお願いしたのですね。なぜ生まれてきたのか……、こんな苦しい私なら……という思いを、ずっと抱えてきたけれど、肉体をもらわなければ、私は、さらに地獄の奥底に沈んでいく、そんな意識だった。今、そのことを感じさせていただいています。

声も絶^たえ絶^だえに肉体をいただいた私、今、ようやく

く自分の中に、その思いが響いてまいります。

***さん、どうぞ心を落ち着けて、丹田呼吸をして、お母さんを思い、田池留吉を思ってください。

異語。

田池留吉、田池留吉。ああ、不思議なほど心が静まっています。心は荒れ狂っていました。意識の世界は、荒れ狂っていた私なのに、田池留吉、お母さんに心に向けた時、私の中は静かに、静かになっています。微かに優しい思いを感じます。この心を信じていってください、優しいあなたがいるんですよ、あなたの中にその優しさ、温もり、安らぎを思い出していってください、そのような思いが、微かに響いてきます。

しっかりと瞑想をしていきます。心が荒れ狂う時、丹田呼吸をして、なるべく、丹田呼吸をして、しっかりと、心に向けてまいります。ありがとうござい

ます。いい体験をさせていただき
ました。心の中に温もりを感じます。
ああ、私はこの温もりを知っている
ことを、感じています。お母さん
……、だから、お母さんの反省、お
母さんを思う瞑想、そうなんですね。

いつまでも、いつまでも、この中
にいたい。今、そのように感じさせて
いただきます。ありがとうございます。
ありがとうございます。

もしかしたら、という微かな記憶もありましたが、
実際にメールが届いてその文章を読んだ時、懐かし
くて、ただ懐かしくと前と離れ離れになっ
た大切な自分に会えた……。嬉しかったです。本
当に嬉しかったです。私はその自分をほったらかし
にして忘れ去り、蔑ろないがしにしていた、そんな思いも上
がってきました。内容は読んでああこれだった、と
思い出したお粗末そまつな自分でした。



肉体をもらわなければ、さらに
地獄の奥底に沈んでいく、ここを讀
むと最近見た夢が何度も映像のよう
に浮かんできました。私は一人、見
渡せば、墨絵すみえのような一面山、山、
梯子はしごに両手をかけ上を目指して、下
は底の見えない漆黒しつこくの闇、あと少し、
あと少しで、一段一段足をかけ、手を伸ばした。あ
あとこれですべてを手に入れられる。最後の梯子に手
をかけた途端とたん、私の身体から何枚もの羽が空へ舞っ
ていった。私は、私の存在っていったい何だったん
だ、叫んだ途端ドスンと落ちた衝撃で目が覚めた。
でも実際ベットからは落ちてはいなかった。朝四時
だった。あまりにもリアルでした。この文章に出会
い、書きたいと思いました。書きながら、肉、肉で
まだ右往左往うおうさおうしている自分へのメッセージだったの
だと、ありがとうございます。十年前の意識と同じ
所に住んでいる自分だと伝えていただきました。
UTAブック様、本当にありがとうございました。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。寂しい私を感じています。

心の中の寂しさ、心の中の空洞を感じています。これは私自身が、自分の心を見て、自分が自分の寂しさを抱きしめてやる以外にない、私は、そのことも感じています。

ああでも、私は、その前に、この寂しさを何とかしてください、この寂しさをどうにかしてください、そのように自分の中で祈ってきた私がたくさんいることを、今、感じています。

祈り続けてきました。願い続けてきました。幸せを求めてきました。幸せになりました。心の底からの幸せを私は求めてきました。

私の幸せとは、どういうことだったのだろうか、今、自分を語る時に、本当に儂い^{はかな}幸せと喜びを求めてきたなあ、今、そう思います。

****さん、あなたも沖縄で生活をされています。沖縄の生活風習、生活慣習、それが、あなたの中に染み付いています。沖縄の地を愛していると同時に、沖縄を憎んでいるあなたの思いも感じます。

どうぞ、そこに、今世転生をしてきたあなたを、もっと、もっと、しっかりと見ていってください。

あなたには、たくさんのお去世があります。その地で転生を繰り返してきたたくさんのお去世があります。言うなれば、沖縄の神々を祭ってきたあなたの過去世が、あなたに訴えているんです。苦しい、苦しい……、助けてください……、私達に真実を……、私達に安らぎを……、私達に本当の喜びと幸せを……。寂しい、寂しいと訴えてきているその意識の奥底には真実を求める思いが、しっかりとあります。どうぞ、心を見ていってください。

お母さんに思いを向け、ゼロ歳のあなたを思い出し、その思いで、あなたの中にあるたくさんのおあなた自身を、優しく、優しく、包んでいってあげてください。

***さん、田池留吉を心で呼んでみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。心を向けるなという思いと、心を、もっと、向けてくださいという思い、私は、そのふたつの中にあります。

私にとって、大切な今世の時間です。今、そう思っています。そのように感じます。大切な、大切なこの時間、田池留吉を呼ぶことを、素直に、真剣にやっています。お母さん、お母さん……、ありがとうございます。

何も変わりません……何も変わっていませんでした。

あの時の思いをそのままに、ずっと置き去りにして……肉の生活にかまけてきました。



内なる思い……真実から目を背け……向けるな……見るな……という思いに……グウーと引つ張られるがままにしてみました。

これが楽でした……見て見ぬふりが楽だったんです。

沖繩への思い、苦しいです……根深いです。

何度も何度も転生するたびに苦しい思いを積み重ねてきました。

本当に嫌でした……沖繩が大嫌いでした……でも……この環境、風習を作ってきたのは私だ……という思いがふつと……湧き上がってきました。

もう見て見ぬふりは出来ない……その思いに目を向けていかなくては……と思う……けど難しいです……根深いです。

まずは原点に戻り、お母さんを思う瞑想から、少しずつでも前へ中へと進めていきたいと思えます。

今回の「あなたの意識ではありませんか」のメールが届き、改めて忘れて

いた田池留吉からのメッセージを再確認する事が出来たのがとても嬉しいです。

このような機会を作ってくれたUTAブックの皆さんありがとうございます。

239

***さん、どうでしょう。アマテラスに浸透しんとうしているあなたの心、その後、変化はございましたでしょうか。

私は、***です。なかなか、しぶといものがありますね。私は、自分でつかんできたこのアマテラスの思い、本当に根深く残っていることを感じています。突き詰めて考えていけば、私は、私に冷たいということですね。私は私に冷たい。アマテラスに浸透する私は、私に冷たい。そのように私の中に響いてきます。

あなたのご主人に対する思いを語ってみてください。

あんな男、あんな男、私は、そうあんな男と足蹴あしげにしてきました。

形は、そうではございません。だから、私の中は矛盾だらけです。

心は、意識の世界は、あんな男です。でも肉では、きちんと体裁ていさいを整えている、それが、私の中で矛盾むじゆんを起こしています。

優しいところだってあるんですよ。そう、そんなんです。いいところはたくさんあります。でも、心の底はととても冷たい。私は、氷のような思いを感じるんです。これは、私の姿だと言えば、そうでしょうが、私は、そこが、まだまだ認められません。あの人の心の中は、なぜこんなに冷たいのか。私は、それを感じるたびに、私は、とても苦しい。

あなたは、ご主人に、この学びのことを伝えましたか。

はい、もちろんですよ。でも、あの人は見向きも
しない。私が何をやっても、あの人は無関心な
んです。私もそれでいいと思っていました。

邪魔されることなく、家を出してくれる。私は、
それでいいと思っていました。でも、それって、互
いに冷たかったんですね。

お互いに、いいように、行動して、無関心を装い
ながら、しかし、心の中で戦いを繰り広げている、
アマテラスの心のままですね。

***さん、あなたは、もちろん、お母さんの
反省もされていると思います。瞑想も続けておられ
ると思います。

ですが、本当のお母さんの温もり、本当の優しさ、
そういうものを、心に感じておられるかと言えば、
それは、そうではないと思います。

その思いを感じたならば、あなたの心から、波動

として、さしずめ、あなたのご主人に流れていくの
です。自然にあなたの態度は、心の中から出てきます。
体裁を整えるのではなく、心の中から出てきます。

何気ない仕草の中にも、ふっと優しさが伝わって
いきます。

それが波動の世界です。お母さんの温もりを心に
感じたならば、それが、自然に出てくるのです。だ
から、その思いを、ご主人は感じて、あなたへの態
度を和らげると思います。残念ながら、今のあなた
の状態では、少々難しいようですね。お母さんの温
もり、それが、唯一のカギでございます。

「本当の自分を知るために生まれてきました。イシ
さんお母さん有難う。

七十過ぎて、私の人生が始まりました。幸せです。
夫もいます。十年経ちました。姑を見送り、嫁の
役割を果たし、実母のお食事介助に近くのホームに
毎日通っていました。（母を見れて幸せでした。）そ
の後ドッグランにいき犬と遊びました。毎日大変で

したが仕事もやめ、幸せでした。

そんな時、先生からメッセージの入った茶封筒を頂きました。

裏を返すと、先生の住所と田池留吉という手書きの文字。そして私の文箱と同じ柄のスミレの花のシールが貼ってありました。

「え!! 同じだー。先生知ってるんだー。」と驚いた事覚えてます。

家の片付け、建て替えると、やる事は次々。更地になった時、最初の孫が生まれ、子供達の結婚は続き七才、二才二カ月、一才四カ月、七カ月、四カ月と五人の孫が生まれました。二〇一八年、二〇一九年と気持ちも軽くなり、肉、肉で走ってきた私は、コロナのお陰で忙しい生活が一変し、今迄がカゲロウの様に消えていきます。

マザコン他力男、母の声は神の声とうそごぶく夫、(悪魔の声と私は言い直し、悪気の無い夫は怒っていた) 家計は母上に貢ぎ、母親の良いように良いようにしていった夫。クソ、夫、死ねー! と一撃を

与えたつもりが、私の身体はドンドン悪くなり、それがきっかけで家計を分けてもらった。

良いかつこしの体裁づくめの私は、仮面は何度取つても仮面ばかり。自分の本音が分からない。アマテラスに浸透していると言われても、あまりに一体で冷たいと言われても分かりませんでした。

私は正しい。死んでも負けない。私の心は渡さない。心は身動きできない位にガチガチに固まって苦しいのに、クソー、クソーと死んでも負けないと頑張る事しか知らなかった。この学びを知る前の私は死んでいました。

飽きっぽい私がこの学びだけはいつも新鮮でいつも初心。

「先生、母親の役割は何ですか?」とお聞きすると「アルバートの心を伝えること……」

「先生うちは夫婦ではありません」と言うつと、しばらくして

「夫婦でんがなー」

「羊(姑)の威をかるウサギ(夫)かな」と呟い

ていた私にセミナーで「羊は人が良いから玄関に立たせるな」と先生が言われ、他の羊さんは頷けるがうちに限っては違うと思っていた。

今となると自分の気持ちに正直で、良いかつこしめるつもりで思った事は必ずやり、不言実行。「お姑さん今迄言ってた事は？」ときくと「当たり前だ。自分が一番大事だ。自分の言った事は忘れても人の言った事は覚えてる」と。私はビックリしてそれから（三人寄れば公衆の面前）大事な事は誰かのいる時に話す事にした。

「先に苦労した人は後で楽になる。」

「あなた、幸せな人やなー」とも。そういえば本当に大変な時、いつも無償で助けてくれる人がいた。子供が海外の実習で指先を機械に挟まれた時も、普段ノンビリしている私がイザという時はムツクリ起き上がり、虎ノ門病院に電話し、凄いスピードで病院の手配（学生という事で受け入れてくださった高名な先生）その後もドラマのように色んな事が解決されてった。これはアマテラスのエネルギーか？

この現象。田池先生は、「大変な事だよ。この事故は夫婦の不調和が半分。本人の責任半分」とおっしゃった。

私が自分を責めないように半分と言われたと思う。私は夫婦のたたかい一〇〇パーセントと思った。お金、嫁・姑（教材でした）。

「夫婦して、アルバート、アルバート言ったらいいんや」

私の夫は主人ではありません。

バトラー（執事）、母親みたいな人。

気がついたら、こちらが動きやすいように付かず離れず居ます。

うまく回っています。生活がしやすくなっています。自分を戒め（ほぼ夫が支えてくれてる）他力女にならない様、母親の反省をしていきます。Tちゃんより、電話を頂き、声を聞いているだけで嬉しくて、嬉しくて八尾センターを思い出し、Tちゃん！私達幸せだったよねーと心は叫びます。嬉しいと、先生、ありがとうございます。

スマイレといったら、芯の強い雑草やつてもらって
当たり前の私に、先生は「何でもできる」と言っ
てくれました。すぐシユンと諦める私が苦手なもの
何もないと前向きになっています。やっと始まった
私の人生。

夫と向き合います。ありがとうございました。



240

言い出しべえからのお詫びの一文

二〇一〇年二月十八日、

田池先生からのメッセージ

桐生敏明さん、田池です。

あなたが私に思いを向けてくれること、肉的に私
は、とても喜んでいきます。感謝しています。

あなたはよくやってくれていると思います。その
思いは間違いなく私に届いています。

しかし、この学びは……というと、私がすべてを
かけて伝えてきた学びについて、あなたはどの程度、
心で分かっているかというと、残念ながら、私はま
だまだと言わざるを得ません。

桐生敏明さん、どうぞ、しっかりと自分の心を見
ていってください。

お母さんに産んでいただいたことを、どれだけ、

あなたは心で感じていますか？ あなたの中のエネルギーを、どれだけ、自分の心の中で見つめてきましたか？

しっかりと自分の心を見ていってください。

私は、あなたにそのことをやっていってほしいのです。本当にやっていってほしいのです。この学び一筋にやっていってほしいのです。

あなたは、まだまだ真正面から学びをとらえていない。

それを、あなたは自分で語りました。

母に素直に思いを向けられない、田池留吉に素直に心を向けられない。

そうです、あなたの中は、しっかりと私、田池のほうに心を向けていない。

私は今、そのことを伝えます。

アルバートの思いは、まだまだ響いてこないはずです。

厳しいかもしれませんが、私はあなたに伝えたい、しっかりとこの学びをやっていってください。

あなたのこれからの時間すべてをにかけてやっていくのです。

私は、このことをあなたにお伝えします。

桐生敏明さん、あなたの心を田池留吉の世界に向けてください。

パーラヴィッシー、トトラヴァソ、トントントン
トン……異語（48秒）

皆さんに提案ばかりして、自分は「見ざる、聞かざる、言わざる」を決め込んで高みの見物。

一番ずぼらで、横着おうちやくで、皆さんの後ろからついていくばかりですが、こればかりは、そうもいきません。自分で言いだしておいて、皆さんの出された原稿に目を通してしていると、逆に、自分が、皆さんに尻を叩かれているようで、大慌てでCDから流れる田池先生の声に、あらためて心を向けてみる始末。

いきなり「桐生敏明さん……」と呼びかけられて、身もすくむ思い。

耳を傾かたむけるにつれ、何が何かまるつきりわからな

いのですが、自分がほつれていくような感じとなり、異語に至っては「ごめんなさい、ごめんなさい、お母さん、ごめんなさい」という思いしか出てきません。

……というわけで、これが私の現状。

皆さんに、あれやこれやと偉そうに提案できるような状態ではないのですが、「おもしろそう」と思うと、言い出さずにいられない性分^{しょうぶん}。

どうぞ、お許しをいただいで、最後まで学びの仲間においていただけますよう、よろしく願っています。

二〇二〇年七月九日 桐生敏明







あなたの意識です その後 vol.2

初版発行 2020年10月31日

編集 UTAブック編集部
発行 一般社団法人UTAブック
TEL 0745-55-8525 FAX 0745-55-8440

印刷・製本 モリモト印刷株式会社

© UTABOOK, Printed in Japan 2020

平

愛

平成三十年四月

田地留吉